2015 年度

自己点検・評価報告書

広島女学院大学

目　次

［基準１］　理念・目的　…… 1

［基準２］　教育研究組織 …… 5

［基準３］　教員・教員組織 …… 8

［基準４］　教育内容・方法・成果 …… 13

（１）教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 …… 13

（２）教育課程・教育内容 …… 19

（３）教育方法 …… 26

（４）成果 …… 35

［基準５］　学生の受け入れ …… 42

［基準６］　学生支援 …… 52

［基準７］　教育研究等環境 …… 60

［基準８］　社会連携・社会貢献 …… 66

［基準９］　管理運営・財務 …… 71

［基準 10］　内部質保証 …… 75

［基準１］ 理念・目的

１．現状の説明

（１）大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

広島女学院大学は、1886（明治 19）年に開かれた広島女学会にその淵源をもち、1932（昭和 7）年専門学校令によって認可された広島女学院専門学校英文科及び家事科を母体とする。戦後の学制改革により、1949（昭和 24）年英文科は広島女学院大学英文学部として、1950（昭和 25）年家事科は短期大学部としてそれぞれ発足した。その後、1967（昭和 42）年英文学部は文学部に改組され、日本文学科及び英米文学科の２学科となった。短期大学部は 1993（平成 5）年、４年制の生活科学部に改組転換され、生活文化学科及び生活科学科の２学科となった。さらに 1995（平成 7）年文学部を基礎学部とする大学院言語文化研究科（修士課程）を発足させ、1997（平成 9）年には博士後期課程が認可された。また、1999（平成 11）年生活科学部を基礎学部とする大学院人間生活学研究科（修士課程）を発足させた。2000（平成 12）年には文学部に人間･社会文化学科を設置し、2007（平成 19 年）には幼児教育心理学科を設置した。2012（平成 23）年には全学的改組を実施し、文学部・生活科学部を国際教養学部及び人間生活学部の２学部に再編し、現在に至っている。

本学は広島県における唯一のプロテスタント系キリスト教主義大学として､「基督教主義に基づいて教育を施し、女子の霊性、知性、徳性の円満な発達をはかり、専門的な学術の修得を努めさせると共に、広い教養と高い人格を育成すること」(『広島女学院大学学則』第１条）を目的とし、隣人愛の精神に基づく人格教育を行い、かつ女性の高等教育機関として広い教養と高度の専門的学術を修得させ、知性・徳性ともに優れた多くの卒業生を送り出してきた。また、本学は開学以来、欧米諸大学との人的交流を進めるとともに、近隣諸国からの留学生を多数受け入れるなど、国際交流に尽くしてきた。

本学の教育は、「リベラルアーツ教育」、「グローバル教育」、「キャリア教育」を３本の柱とし、リベラルアーツ教育においては、キリスト教に立脚した人間・全人格教育によりぶれない個の確立（＝自立）を育む。グローバル教育においては、教養ある人格者として積極的に討論できる論理的思考力、ツールとしての言語力の養成・鍛練により国際感覚を修得する。キャリア教育においては地域社会ならびに国際社会において活躍出来る人材の養成、また、生涯にわたって自己のキャリアを確立し活躍できる女性の育成を目指している。

大学が掲げた理念を受け、国際教養学部の理念・目的は、「多様な学問領域との対話を通して修得される幅広い教養と専門的な知識、グローバルな社会の変化に即応できるしなやかで鋭敏な視野と感性、客観的・論理的・批判的な思考力と問題解決能力、そして、建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間愛などを備えた、確固たる人格を有する女性を教育することを目的とする。すなわち、国際化・情報化社会に対応できる言語運用力や技量を有する人材、国内外の様々な社会場面における課題を総合的に調査・考究し問題を解決できる人材、異民族や異文化の共存・共栄に貢献するために自己のあり方を極めることのできる人材を育成することを使命とする」としている。

人間生活学部の理念・目的は、「多様な問題が存在する現代社会において、人々が健康

で豊かな生活を創造し、次の世代へ普遍的な価値を継承していくことで、生活の質を向上させ真の人間性を確立することができるよう支援し、家庭および地域社会において高度に貢献できる人材を育成する。自己と隣人の生活の質を高めるために、豊かな衣生活および住生活の実現に向けて創意工夫し社会で応用する力、科学的な視点で食や健康の諸問題を発見し改善策を見出し実践できる力、子どもの内面を深く洞察し子どもの主体的な人間形成を支援する力を身につけ、生活デザインと住居・建築、健康と食・栄養、幼児・児童教育と心理学の領域において女性としての感性と創造性を発揮し、強い倫理観と実践力、コミュニケーション力を備え自立した専門家を養成することを目的とする」としている。

研究科では、本学大学院学則第１章第１条第１項に「本大学院は、基督教主義に基づく学部の基礎教育の上に専門の学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を極めて、文化の進展に寄与することを目的とする」との目的に基づき、各研究科において理念・目的を定めている。言語文化研究科においては、「今日の教育機関・各種言語文化研究所・博物館などにおける問題に対処できる言語文化の基礎研究と応用研究を推し進める専門的な業務に従事できる高度な専門的職業人や研究者を養成するとともに、社会人への再教育や生涯学習の機会提供を通して、国際社会にも対応できる人材を育成する」とし、人間生活学研究科においては、「教育職員・学芸員・建築士・栄養士などを対象に、国際化・情報化・高齢化・価値観の多様化などで表象される現代社会で人間生活の諸問題に実践的に対処できる専門的職業人や研究者を養成するとともに、人間生活学分野における社会人への再教育や生涯学習の機会提供を通して、地域社会および国際社会に貢献できる人材を育成する」と定めている。

（２）大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

本学の教育理念は、学則第１条に「基督教主義に基づいて教育を施し、女子の霊性、知性、徳性の円満な発達をはかり、専門的な学術の修得を努めさせると共に、広い教養と高い人格を育成することを目的とする」ことが示されている。これらは、学部教授会や全学院研修会等において繰り返し確認することで教職員に共有されており、入学式・卒業式、オリエンテーション等の機会を通じて学生への周知もはかられている。また、大学案内の冒頭に記載することで社会への公表も行っている（『2017 年度大学案内』）。

教育目標についても、大学案内に記載するとともに、本学ホームページに学長挨拶として掲載することで公表している。「地域と世界に貢献できる女性の育成」を教育目標として時代のニーズに応える新しい教育の展開をめざすとしており、「冷静な判断力と決断力を備え、社会の中で責任ある行動を毅然として取り、しかも寛容の精神をもって他者を受容し、日本および世界に貢献できる女性を育てる」ことを目指すこととしている。

国際教養学部、人間生活学部においては、理念・目的を学則に明記するとともに、履修登録の指導に利用する「Curriculum Book 2015」にも掲載し在校生全員に配布し、オリエンテーションにおいて内容を説明している。また、大学案内、ホームページ上に公開し、オープンキャンパス、入試相談会など関連するあらゆる機会をとらえて公表し、周知するように努めている。

研究科では、大学院学則を全教職員、学生が学内ポータルサイト上から学則の pdf ファイルにアクセスし、閲覧することが可能である。また、新入生に配布する大学院要覧にも、大学院学則が掲載してある。また、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは、大学の公式ホームページ、大学要覧を通して、学内外に、広く、周知されている。さらに、言語文化研究科オリジナルサイトでは、大学院学則のうち、研究科の目的と関わる部分を抜粋している。本オリジナルサイトは、Google や Yahoo の検索システムを使って一般の人もアクセス可能となっている。

（３）大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

大学、及び学部・研究科の理念・目的の適切性については、大学将来計画委員会において今後の教育研究計画を策定する際に確認と見直しが行われ、これに基づいて計画についての検討が進められている。また、毎月開催する大学評議会において教育研究の重要事項について審議する際にも常に理念・目的を念頭に置きつつ議論が行われており、学長が召集する全学教授会においても同様に理念･目的に基づいた審議が行われている。このようにあらゆる意思決定の場において理念･目的を前提とした議論が行われており、必要に応じて随時見直しも実施されているが、理念・目的の適切性を検証するための定期的な議論の機会を特別に設けることは行っておらず、今後はそのための責任主体を明確にするとともに検証プロセスが機能するよう配慮することが必要であろう。

２．点検・評価

●基準１の充足状況

大学及び各学部の教育理念・目的は学則に明確に定められており、あらゆる機会を利用して教職員間で共有し、また学生に周知するよう努めている。また、大学案内、ホームページによって社会に公表している。

研究科においては、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を大学院学則に定めている。また、この目的は、本学の建学精神及び「大学基準の解説」基準１、学校教育法第 83 条、第 99 条等参照に準拠している。この大学院学則は、学内ポータルサイト上から閲覧可能である。また、一般公開している言語文化研究科オリジナルサイトからも閲覧可能である。また、学則の理念を踏まえて策定した、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーも、一般公開されている本学ホームページ上で閲覧可能であるほか、大学要覧にも記載している。

①効果が上がっている事項

学内外の行事、刊行物等のあらゆる機会を通じて理念・目的が共有され、周知されるよう努めている。2015 年 5 月 30 日には広島女学院大学公開講演会「女子教育のこれからと平和」を開催し、キリスト教主義女子大学という理念を共にする津田塾大学、東京女子大学の学長とともに、３大学の学長によるパネルディスカッションを行い、これからの女子教育に求められる使命について広く社会に公表することができた。

研究科においては、論文審査の際、ディプロマポリシーに記載されている審査規準を設けたことで、審査の客観性が増した。また、オリエンテーション時に、学生にディプ

ロマポリシーを確認させることにより、学生に到達目標を意識させることができるようになった。

②改善すべき事項

教育理念・目的の適切性を検証する責任主体が明確でなく、定期的に検証するプロセスが十分に機能しているとはいえないので、改善する必要がある。

3．将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

学長を中心として、講演会や各種広報媒体を活用した教育理念・目的の公表が促進されている。今後はさらに広く社会において本学の教育理念・目的が認知されるよう、全学の教職員が一体となって取り組んでいきたい。

②改善すべき事項

教育理念・目的の適切性を検証するための責任主体を明確にしたうえで、必要な規程改定を急ぎ、定期的に検証するプロセスが機能するよう改善する。

言語文化研究科では、オリジナルサイトを作成し、大学院の理念・目的を始め、学生たちが、大学院生として必要な情報をサイトから得られる環境を整えた。

人間生活学研究科では、学生指導、進路の相談など学内のポータルサイトを幅広く有効に活用することで、より小まめな指導・教育ができるようになってきた。

【根拠資料】

基準 1

1（2）	『広島女学院大学学則』	（規程集 p 221）
	2017 年度大学案内	p 3
	大学 HP 学長挨拶	https://www.hju.ac.jp/guide/greeting.php
	Curriculum Book 2015	p 1～ p 3
	言語文化研究科ｵﾘｼﾞﾅﾙｻｲﾄ	https://sites.google.com/a/gaines.hju.ac.jp/daigakuin-gengo/home
	広島女学院大学大学院学則	（規程集 p 201）
2	大学 HP ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝﾎﾟﾘｼｰ	https://www.hju.ac.jp/guide/admission-policy.php
	ｶﾘｷｭﾗﾑﾎﾟﾘｼｰ	https://www.hju.ac.jp/guide/curriculum-policy.php
	ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ	https://www.hju.ac.jp/guide/diploma-policy.php

［基準２］ 教育研究組織

１．現状の説明

（１）大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

本学は 1886 年の創設以来､キリスト教主義に基づくリベラルアーツ教育による女子の人格教育を理念としてきた。これまで、時代の要請に応じて学部・学科の増設や改組を実施してきたが、教育理念については変わることなく一貫して堅持している。2012（平成 23）年に実施した全学的改組において、国際教養学部（国際教養学科）及び人間生活学部（生活デザイン・建築学科、管理栄養学科、幼児教育心理学科）の２学部４学科を設置することで、幅広い教養と国際性の涵養を目的とした国際教養学部と、衣食住および育における生活の質向上に貢献する人間生活学部によって教育理念を具現化することをめざしている。また、大学院言語文化研究科（日本言語文化専攻、英米言語文化専攻）博士前期・後期課程、及び人間生活学研究科（生活文化学専攻、生活科学専攻）修士課程を設置し、さらに、教育研究を推進するための組織として、宗教センター、総合研究所、国際交流センター、アカデミック・サポート・センター、障がい学生高等教育支援室、ボランティアセンター、地域連携センターを附置することで教育研究組織を構成している。

国際教養学部は､「専門的知識・技術、他の専門との対話を通して修得される幅広い見識、国際的な視野、問題発見・解決能力、批判的思考力、判断力を含む幅広い教養の獲得と、建学の精神である基督教主義に基づく人間愛にあふれる豊かな人間性の涵養を目的とする。より具体的には、国際化・情報化時代に対応できる言語運用等の能力・技術をもった人材、社会の様々な場において課題を総合的に調査・考究し、解決する能力をもった人材、異文化間における真のコミュニケーション能力、および豊かさをもって人間形成を支援する能力を持った人材の養成」を目的としている。

人間生活学部は､「多様な問題が存在する現代社会において、人々が健康で豊かな生活を創造し、次の世代へ普遍的な価値を継承していくことで、生活の質を向上させ真の人間性を確立することができるよう支援し、家庭および地域社会において高度に貢献できる人材を育成する。自己と隣人の生活の質を高めるために、豊かな衣生活および住生活の実現に向けて創意工夫し社会で応用する力、科学的な視点で食や健康の諸問題を発見し改善策を見出し実践できる力、子どもの内面を深く洞察し子どもの主体的な人間形成を支援する力を身につけ、生活デザインと住居・建築、健康と食・栄養、幼児・児童教育と心理学の領域において女性としての感性と創造性を発揮し、強い倫理観と実践力、コミュニケーション力を備え自立した専門家を養成すること」を目的としている。

言語文化研究科は､「今日の教育機関・各種言語文化研究所・博物館などにおける問題に対処できる言語文化の基礎研究と応用研究を推し進める専門的な業務に従事できる高度な専門的職業人や研究者を養成するとともに、社会人への再教育や生涯学習の機会提供を通して、国際社会にも対応できる人材の育成」を目的としている。

人間生活学研究科は､「教育職員・学芸員・建築士・栄養士などを対象に、国際化・情報化・高齢化・価値観の多様化などで表象される現代社会で人間生活の諸問題に実践的

に対応できる専門的職業人や研究者を養成するとともに、人間生活学分野における社会人への再教育や生涯学習の機会提供を通して、地域社会および国際社会への貢献する人材の育成」を目的としている。

（２）教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

大学のグランドデザインについて検討する組織として大学将来計画委員会が設置されている。当委員会は、学長を委員長として、副学長、学部長、研究科長、総合学習支援センター長、事務局長、庶務課長、及び教務課長から構成されており、「将来計画に関して、本学の建学の理念を時代の要請に即応しつつ具体化すること」を目標として、本学の将来へ向けての教育及び研究全般の整備に関わる事項、その他を検討することになっている（広島女学院大学将来計画委員会規程）。教育研究組織の適切性についても当委員会において検討し、改善すべき提案があれば、学長が全学教授会の意見を徴して、大学評議会において決定することになっている。これまで当委員会は、学部改組や新学科設置等に際して教育研究組織のあり方を検討する中心的な役割を果たしてきた。しかし、教育研究組織の適切性について検証する目的のために定期的に開催するようには規定されていないので、この点は改善する必要があろう。

２．点検・評価

●基準２の充足状況

常に大学の教育理念・目的を念頭に置きつつ教育研究組織の構成を行うとともに、改善の必要が生じた場合には大学将来計画委員会において検討し改善に向けて取り組んできた。検討の主体は大学将来計画委員会であるが、必要に応じてワーキンググループや目的別の委員会（例えば、改組推進委員会など）を設置して改善案の策定を行い、大学評議会において審議したうえで、学長が決定することになっており、責任主体と手続きが明確にされている。

①効果が上がっている事項

今年度より、2018 年度改組に向けて改組推進委員会を設置し、新たな教育研究組織の構築に向けて検討が行われている。大学の教育理念を実現するために、どのような組織が適切かを検討したうえで、３つのポリシーの制定を進めている。

②改善すべき事項

大学将来計画委員会は解決すべき課題が生じた際に随時開催されており、教育研究組織の適切性を検証するために定期的に開催されるようにはなっていない。

３．将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

引き続き 2018 年度改組に向けての検討を実施し、教育研究組織のあり方について成案を得たうえで、それらが円滑に運用できる体制を構築していく。

②改善すべき事項

教育研究組織の適切性を検証するための主体となる部署を明確にし、定期的に開催したうえで点検・評価を実施して改善につなげていけるよう規程等に明記する。

［基準３］　教員・教員組織

１．現状の説明

（１）大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。

教員組織については、各学部・学科の教育課程に従って卒業に要する授業科目、及び資格取得に要する授業科目を担当する上で必要十分であり、また専門分野の研究を行う上で十分な資質を有する人員を確保している。求める教員像について特に明文化されたものはないが、広島女学院大学教育職員任用規程において各職位に求められる資格基準が明記されている。

2014 年度より全学人事委員会が設置され、学長を委員長として、学部長・研究科長・総合学習支援センター長で構成される委員会において、①大学の教育理念を明確に実現しうるための教員配置、②専攻分野、年齢、性別、出身大学等の点から、偏りのない教員構成の保持、③大学の健全財政に資する方向での選考、の３つの目的に沿って全学的見地から教員人事を検討する体制が整っている（広島女学院大学全学人事委員会規程）。

学部単独での教員像及び教員組織の編制方針を特に定めてはいないが、全学人事委員会で大学設置基準、専門領域、教員数、年齢構成、男女比などを考慮しつつ大学全体の方針が協議され、これに基づいて学部教員組織が編成されるしくみになっている。

研究科では、採用、昇格にあたっては、広島女学院大学大学院研究科委員会規程第 3 条 2 項に基づき定めた、広島女学院大学大学院研究科委員会教員審査小委員会内規に則って、審査小委員会を設置し、大学院設置基準に準じて定めた大学院担当教員に関する任用内規に基づき審査を行っている。任用内規には、求められる専門領域、教育歴、業績等が、科目担当教員、論文指導補助教員、論文指導教員ごとに定められている。また、年齢などのバランスを考慮した評価や判断は全学人事委員会においてなされるようになっている。

（２）学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

2012 年度に実施した届出による全学改組の際に、大学設置基準に定められた必要教員数を十分に満たす教員組織を編成した。その後、教員の退職に伴う後任の補充、不補充が生じているが､学部･学科においては大学設置基準を満たした教員数を確保している。

人間生活学部および学部内の 3 学科に属する教員数はいずれも大学設置基準を充足しており、学部・学科に所属する教員の募集・採用・昇格は後述のように学内規程に則り適正に行われている。3 学科にはそれぞれ学科主任を置き、学科主任が学科全般の統括を担っている。さらに建築士、管理栄養士、保育士、初等教職、中等教職、図書館司書、定心理士などの各課程には、それぞれ学科主任とは別に課程主任を配置し、学生指導、単位認定などの統括責務を担う体制を取っている。

言語文化研究科では、広島女学院大学大学院研究科委員会規程第 3 条 2 項に基づき定めた、広島女学院大学大学院研究科委員会教員審査小委員会内規に基づき設置した審査小委員会が、まず、大学院担当候補者の教育歴、業績等から、研究科の教育課程に適合する教員か否かについての審査報告書を作成し、次にその審査報告書及び審査報告に基づき、研究科委員会で候補者が本研究科の担当教員として相応しいか否かについての最

終的な判断を行っている。現時点では、これらのプロセスを通して大学院担当となった教員が本研究科の教育課程にある科目を担当している。

人間生活学研究科では、広島女学院大学大学院研究科委員会規定第 3 条 2 項に基づき定めた、広島女学院大学大学院研究科委員会教員審査小委員会内規に則って、必要に応じて、審査小委員会を設置し、研究科が大学院設置基準に照らし定めた大学院担当教員に関する任用内規に基づき審査を行っている。大学院担当教員に関する任用内規には、求められる専門領域、教育歴、業績等が、科目担当教員、論文指導補助教員、論文指導教員ごとに定められている。

（３）教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。

教員の募集・採用については広島女学院大学教育職員任用規程に定められた資格基準･手続きに従っている｡採用にあたっては全学人事委員会において採用方針を決定し、学部長が任用教授会に諮り候補者を選考し、候補者の教育研究業績審査の結果を全学人事委員会に諮り、学長が決定する。募集は公募を原則とし、規程に記載された採用手続きにもとづいて公正に行われている。

昇任についても教育職員任用規程に定められた手続きに従い、学部長が委嘱する審査委員会において昇任基準に基づき候補者を選考､任用教授会で教育研究業績審査を行い、昇任候補者として学長に提案し、学長は昇任候補者を決定し、理事長に提案する。教育研究業績審査に用いる資料は、全学共通の書式によって作成し、統一した基準で業績等を数値化することにより厳格かつ公正に行われるようにしている。

各学部では、上記のように、全学人事委員会で専門領域、教員数、年齢構成、男女比などを考慮して人事方針が示され、これに基づいて学部教員組織が編成されるしくみになっている。教員採用にあたっては、学部から出された人事採用の要請について全学人事委員会で採用の可否、人事内容が審議された後、学部の任用教授会において募集要項が作成され、公募が行われる。公募後、選考委員会において候補者の選考、任用教授会での教育研究業績等の審査を経て、最終結果が学長に報告される。そして、学長が候補者を決定した後、理事会において採用が決定される。また、教員の昇格については、任用教授会において昇任審査委員会が組織され、その審査結果にもとづいて学長から理事会に提案し決定されることになっており、いずれも公平かつ慎重に実施されている。

言語文化研究科では、広島女学院大学大学院研究科委員会規程第 3 条 2 項に基づき定めた、広島女学院大学大学院研究科委員会教員審査小委員会内規に基づき、必要に応じて、審査小委員会を設置し、研究科が大学院設置基準に照らし定めた大学院担当教員に関する任用内規に基づき審査を行っている。この小委員会での審査報告書及び審査報告に基づき、研究科委員会で担当教員としての任用の可否を検討している。

人間生活学研究科では、教員の募集、採用、昇格に際し、広島女学院大学大学院研究科委員会規定第 3 条 2 項に基づき定めた、広島女学院大学大学院研究科委員会教員審査小委員会内規に則って審査小委員会を設置し、大学院設置基準に準じて定めた大学院担当教員に関する任用内規に基づき審査を行っている。大学院担当教員に関する任用内規には、求められる専門領域、教育歴、業績等が、科目担当教員、論文指導補助教員、論文指導教員ごとに定められている。また、年齢などのバランスを考慮した評価や判断は

全学人事委員会においてなされるようになっている

（４）教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。

教員の研究業績は、事業報告として当該年度に公表した研究論文・著書等の一覧を教員別に掲載している。来年度は、国立情報学研究所の学術研究業績データベース researchmap に全教員が登録することにしており、これにより業績一覧を確認することが容易になる。

教育活動については、学生による授業評価アンケートを毎学期実施し、授業科目別に集計した結果を学内ホームページ上に公表している。各教員は集計結果と学生による自由記述の内容に基づいて次年度に向けての改善目標シートを作成しＦＤ委員会に提出することで、資質向上に向けての取り組みの方向性を教員一人一人が自覚できるようにした。

教員の資質向上を図るためのＦＤ研修会を開催している。本年度は７回のＦＤ研修会を実施し、「ICT を活用したアクティブ・ラーニングの実践例の紹介」「今、大学にもとめられているものとは」「教学改善に関するＦＤ研修会―ルーブリック評価の導入、シラバスの位置づけと運用について―」「模試から見える本学の現状と今後の教職員の役割」をテーマとした講習を行うとともに、今後の本学の方向性について議論する検討会がもたれた。

研究科では、ＦＤ委員会が実施している授業評価アンケートの結果に基づく改善努力は、各教員に委ねられている。新年度の授業計画については、研究科の運営委員がすべての開講授業についての授業計画の点検を行った。

２．点検・評価

●基準３の充足状況

学部における専任教員数は大学設置基準によって定められた必要数を満たしている。教員の採用・昇格にあたっては、教育職員任用規程に定められた資格基準に基づいて公正な手続きをとっている。

研究科では、大学院設置基準に照らし定めた大学院担当教員に関する任用内規に基づき審査を行っている。大学院担当教員に関する任用内規には、求められる専門領域、教育歴、業績等が、科目担当教員、論文指導補助教員、論文指導教員ごとに定められている。教育の資質向上への取り組みとしては、ＦＤ委員会が行う、研修会、授業評価アンケート等を通して、資質向上に向け取り組んでいる。

①効果が上がっている事項

教員採用人事については、2014 年度までは学部ごとに縦割りに行っていたが、2015 年度より全学人事委員会を組織し､そこで大学全体の方針や人事のバランスに配慮した、より客観的で適正な教員人事が行われるようになった。また、このことにより全学的な視点で教員の採用・配置が協議されるようになり、大学全体で協調のとれた教員組織を構築する発想が根付き始めている。

教員の採用・昇格にあたっては、全学人事委員会において専攻分野、年齢、性別等を

勘案し、適切な人材が得られるよう配慮している。年齢構成については、30 代 20%、40 代 30%、50 代 27%、60 代 21%、70 代 2%であり、性別では女性・男性ともに 50%となっており、バランスの取れた構成であると判断できる。

②改善すべき事項

教員の各職位における資格基準は明確に設けられているが、これらは学位、研究業績、教育経験年数を定めたものであり、大学の教育理念に即した求める教員像については明文化されていないので、早急に制定する必要がある。

急な退職者が出ることがあり、十分な準備期間をもたずに後任教員の募集、採用をせざるを得ないケースがある。また、教員の業績評価基準はあるが、専門分野によってはその評価基準で評価しづらいケースがある。より公正で公平な評価を実施するためにはこうした事情にも対応できるような評価基準を検討し、改善する必要がある。

ＦＤにおいては、学生に対して、教員が改善努力をしていることが伝わるシステム作りが必要であると考えている。

研究科においては、教育研究、その他の諸活動に関する教員の資質向上を図るために、ＦＤ委員会の提供する情報の活用方法を検討していく必要がある。

３．将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

全学人事委員会において引き続き教員構成の適切性について点検しながら、理想とする教員組織を構築できるようにする。

ＦＤに関しては、学内研修会の開催を通して、教育研究、その他の諸活動に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行ってきており、今後も継続して実施していく予定である。

研究科においては、年度末に、内規をもとに、新年度の大学院の担当者の資格の確認を行うことで、教員編成、指導体制の見直しを行う機会が増えた。また、全学人事委員会では、学部の新規教員を採用する際に、全学的見地から、年齢構成に加え、大学院担当の可能性等の検討を行うことで、年齢構成、専門分野に関して均衡のとれた人員配置を可能にしていく。

②改善すべき事項

求める教員像を定めて、本学の教育理念にふさわしい教員を採用し、教育効果を一層高めることができる教員組織を構成していく。

ＦＤに関しては、学内、全学研修会が中心であったが、今後は教育の方向性が類似ている集団向けや自由参加型の研修会も必要ではないかと考えられる。また研究科においては、全教員、主に学部生を対象とした学内研修が企画され、ほぼ全員の教員がこれに参加しているが、大学院生の教育活動に特化した研修の機会を企画する必要性がある。

【根拠資料】

基準 3

1（1）	広島女学院大学教育職員任用規程	（規程集 p 2111）
	広島女学院大学全学人事委員会規程	（規程集 p 2099）
	広島女学院代大学院研究科委員会	（規程集 p 3011）
1（4）	規程大学 HP 授業評価アンケート	https://www.hju.ac.jp/guide/questionnaire.php
	FD･SD 研修会実施一覧(2015 年度)	

［基準４］ 教育内容・方法・成果 （１） 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

１．現状の説明

（１）教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

【大学全体】

本学の教育理念・目的に基づいた教育目標として「地域と世界に貢献する女性の育成」をかかげており、本学ホームページの学長挨拶において次のように説明している。

広島女学院は創立 130 年を迎え、時代のニーズに応える新しい教育の展開をめざして、「地域と世界に貢献できる女子大学」に飛躍すべく努力いたしております。創立以来の教育の原点は人格教育・教養教育・リベラルアーツ教育ですが、現代風に一言で言い表すと、「ぶれない個・私」を確立する教育です。

国際的に交流し地域にも貢献するためには、相手の意見に引きずられない「出る杭を育てる・ぶれない個」が確立されていることが必要です。本学では冷静な判断力と決断力を備え、社会の中で責任ある行動を毅然として取り、しかも寛容の精神をもって他者を受容し地域および世界に貢献できる女性を育てることを目標としています。

大学全体としての学位授与方針は定めていないが、各学部・学科において方針を定めて履修指導要覧である「Curriculum Book」に明記するとともに、本学ホームページ上に公表している。

学位授与方針については、各学部・研究科において定め、同様に「Curriculum Book」、および本学ホームページ上に明示している。

【国際教養学部】

国際教養学部の教育目標は、「多様な学問領域との対話を通して修得される幅広い教養と専門的な知識、グローバルな社会の変化に即応できるしなやかで鋭敏な視野と感性、客観的・論理的・批判的な思考力と問題解決能力、そして、建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間愛などを備えた、確固たる人格を有する女性を教育することを目的とする。すなわち、国際化・情報化社会に対応できる言語運用力や技量を有する人材、国内外の様々な社会場面における課題を総合的に調査・考究し問題を解決できる人材、異民族や異文化の共存・共栄に貢献するために自己のあり方を極めることのできる人材を育成することを使命とする。」であり、この内容は、学生、教員全員に配布する『Curriculum Book』に明記するとともに、本学ホームページ等において公表されている。また、国際教養学部の学位授与方針は「①常に社会的公正を希求し、キリスト教主義に基づく人間愛にあふれる豊かな人間性と倫理観、②幅広い教養と国際感覚に裏打ちされた専門的な知識・技能、③国際的な視野と身の回りへの細やかな配慮に基づく問題発見・解決能力」の素養を身につけること」としている。これも同様に『Curriculum Book』およびホームページ上で公表されている。

【人間生活学部】

人間生活学部の教育目標は、「多様な問題が存在する現代社会において、人々が健康で豊かな生活を創造し、次の世代へ普遍的な価値を継承していくことで、生活の質を向上させ真の人間性を確立することができるよう支援し、家庭および地域社会において高度に貢献できる人材を育成する。自己と隣人の生活の質を高めるために、豊かな衣生活および住生活の実現に向けて創意工夫し社会で応用する力、科学的な視点で食や健康の諸問題を発見し改善策を見出し実践できる力、子どもの内面を深く洞察し子どもの主体的な人間形成を支援する力を身につけ、生活デザインと住居・建築、健康と食・栄養、幼児・児童教育と心理学の領域において女性としての感性と創造性を発揮し、強い倫理観と実践力､コミュニケーション力を備え自立した専門家を養成することを目的とする」であり、この内容は、学生、教員全員に配布する『Curriculum Book』に明記するとともに、本学ホームページ等において公表されている。また、人間生活学部の学位授与方針は「健康で豊かな人間生活を創造し支援していくことのできる専門家としての知識と技術を修得し、社会に貢献しようとする態度を身につけている。また、専門的な知識・技術にとどまらず幅広い教養を身につけるとともに、人間としての基本的な資質である社会性やコミュニケーション力等を身につけている」であり、これも同様に『Curriculum Book』およびホームページ上で公表されている。

【言語文化研究科】

理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を設定している。学位授与方針は、要覧や言語文化オリジナルサイトに明記し、オリエンテーションの機会等を通して学生たちに周知するように努めている。

【人間生活学研究科】

理念･目的を踏まえ､研究科ごとに､課程修了にあたって修得しておくべき学修成果、その達成のための諸要件や修了要件を明確にした学位授与方針を設定している。

（２）教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

【大学全体】

大学全体の教育課程の編成・実施方針は、カリキュラムを全学共通の「共通基礎科目（C1)」「共通教養科目（C2)」と各学科の「専門科目（C3)」、および「関連科目Ⅰ（C4)」「関連科目Ⅱ（C5)」という科目群によって体系的に構成したうえで、単に従来型の教養と専門という区分･順序ではなく､教養の力は個々の実践のプロセスにおいて発揮され、それを実践者が実感し、見直すプロセスにおいて重畳的に体得されるという考え方に基づいたカリキュラムとして具体化し、リベラルアーツを実現するものであり、これは『Curriculum Book』に明記するとともに、本学ホームページ等において公表している。

【国際教養学部】

教育課程の編成・実施方針は､「①14 の専攻プログラム（メジャー）と 10 の副専攻プログラム（サブメジャー）を置き、多様な学修を可能にする教育環境を整備している、

②メジャー選択を通じて、自発的な学習設計とその達成を体験できるカリキュラムとなっている、③ほとんどのメジャーにフィールドワーク系の科目を置き、国内外の研修地における実践的・体験的学修の機会を提供するとともに、できるだけ多くの学生がフィールドワークに参加することを奨励している」であり、この内容は『Curriculum Book』に明示してある。

【人間生活学部】
教育課程の編成・実施方針は、「幅広い教養と豊かな人間性を涵養するための科目を設けることで、人間生活に対して広い視野をもってかかわることができるようにする。」であり、この内容は『Curriculum Book』に明示してある。

【言語文化研究科】
学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定している。研究科オリジナルサイト、募集要項に記載。

【人間生活学研究科】
学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、研究科ごとに設定している。

（３）教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

【大学全体】
大学全体における教育目標、および教育課程の編成・実施方針は『Curriculum Book』に明記することで教職員および学生に周知されている。また、本学ホームページ等に掲載することで社会に公表している。

【国際教養学部】
教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を明記した『Curriculum Book』が教員、学生全員に配布され周知されている。特に学生に対しては、学期ごとに実施されるオリエンテーションにおいて繰り返し説明し、理解を深めるように促している。また、その概要をホームページに掲載し、社会に公表している。

【人間生活学部】
教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を明記した『Curriculum Book』が教員、学生全員に配布され周知されている。特に学生に対しては、学期ごとに実施されるオリエンテーションにおいて繰り返し説明し、理解を深めるように促している。また、その概要をホームページに掲載し、社会に公表している。

【言語文化研究科】

教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、大学の公式ホームページ、大学要覧、本研究科オリジナルサイトを通して、大学構成員（教職員および学生等に公表している。学期始めのオリエンテーションの機会を通して、学生たちに周知している。

【人間生活学研究科】

教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を明記した大学院要覧が全教員、全学生および関連職員に配布され周知されている。特に学生に対しては学期の当初に開かれるオリエンテーションでその内容の周知に努めている。また、その概要をホームページに掲載し、社会に公表している。

（４）教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

【大学全体】

教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を策定する部署は大学将来計画委員会であり、これらの適切性について検証する部署は自己点検・評価委員会である。この両者が連携しながら点検・評価を行い、改善に向けての検討を行うことになるが、現段階では定期的に検証を行う体制にはなっていないので、早急に整備をしていく必要がある。

【国際教養学部】

必要に応じて見直しを行ってきたが、定期的な検証は行われていない。

【人間生活学部】

必要に応じて見直しを行ってきたが、定期的な検証は行われていない。

【言語文化研究科】

毎年、前年度に新年度の教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を研修する予定である。

【人間生活学研究科】

必要に応じて随時見直しは行ってきたが、定期的な検証は行われていない。

２．点検・評価

【大学全体】

●基準４（１）の充足状況

大学全体の教育目標、および教育課程の編成・実施方針を定めたうえで公表している。学位授与方針については学位の専攻分野ごとに作成することになるので、各学部・研究科で定めることにしており、大学全体としては定めていない。しかし、教育目標と全学共通科目との関連性を吟味するうえでは、大学全体の学位授与方針を定めることも検討に値するであろう。

前項までに述べたとおり、大学の教育理念に基づいた学位授与方針（ディプロマポリシー）を設定し、これに基づき卒業要件も明確に示している。教育内容、教育方法などに関する考え方は、ディプロマポリシーと整合性が取れたカリキュラムポリシーに示してあり、その内容はセメスターごとに行われるオリエンテーションで学生に十分理解が行き届くように配慮している。オリエンテーションは非常に重要なものとして位置づけており、学生の出欠を確認し、欠席した学生があった場合はチューターから後日フォローしている。また、学位授与方針、教育課程の編成、実施方針は刊行物やホームページ等によって学内外に公表している。

理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を設定しており、学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定している。大学の公式ホームページ、大学要覧、本研究科オリジナルサイトを通して、大学構成員（教職員および学生等に公表している。

学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は連関している。ただし、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続は明確ではない。研究科委員会で、新年度を前年度に行うという提案がなされているが、継続性を伴う点検のしくみが整っていない。

①効果が上がっている事項

すべての学部・研究科において学位授与方針、および教育課程の編成・実施方針を定めて大学公式ホームページ、大学院要覧等で公表することにより、学位授与方針を教職員、学生が意識し、教育研究活動を進めることのできる体制が整ってきた。

②改善すべき事項

教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証する責任主体・組織については明確になっているが、定期的に検証を行う体制になっていないので改善する必要がある。

３．将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の連関について教育成果の状況をふまえながら常に改善していく。

在学生全員に対して学修や履修に関する必須の情報をまとめた冊子（「Curriculum Book」）を配布している。この冊子は年々改善が加えられ、わかりやすい表現・内容になっており、学生が履修登録や大学の教育内容全般の理解を助ける有効なツールになっているので、今後も改善を図りながら作成していく。

言語文化研究科では、大学公式ホームページ、大学要覧や本研究科オリジナルサイトで公開することにより、学位授与方針を教職員、学生が意識し、教育研究活動を進めることのできる体制が整ってきた。また、研究科委員会で、卒業生の進路調査を行うこと

を通して間接的に教育成果の確認を行っている。

人間生活学研究科では、1 年に 1 回、大学院修了者の進路や就業状況を調査し把握に努めているので、今後も継続する。

②改善すべき事項

適切性を検証する体制を早期に整えて、大学全体として統一性のとれた学位授与方針と教育課程の編成・実施方針になるよう検討を進めるとともに、これらの体系性を視覚的に表現できるようにしていく。

研究科では、学位授与方針を募集要項に記載していないので、募集要項にも記載するようにする。また、定期的に学生授与方針と３つのポリシーとの整合性を検討するしくみを整える必要がある。

［基準４］ 教育内容・方法・成果 （２）教育課程・教育内容

１．現状の説明

（１）教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

【大学全体】

各学部・学科で教育課程の編成・実施方針に基づいたカリキュラムマップを作成し、授業科目の体系性を分かりやすく明示するようにしている。こうすることで、カリキュラムの体系性を常に考慮しながら編成できるよう心がけている。全学共通科目では、共通基礎科目として「キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ」「初年次セミナー」「キャリアプランニング」「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」「基礎英語Ⅰ～Ⅳ」を設けて本学の教育理念、および大学教育のための基礎力を身につけたうえで、共通教養科目において幅広い教養を培うことができるようにしている。

【国際教養学部】

1，2年次は主に基礎的な教養と論理的思考を身に付ける、いわゆるリベラルアーツ科目として共通基礎科目（C1）と共通教養科目（C2）を学修する科目群を配置している。そして、学年が進むに従い、学部・学科の理念に沿って専門性を体系的に学ぶ科目群である専門科目（C3)、学科の専門性に関連ある資格取得に必要な科目（C4)、さらに特定の資格取得のために配置し卒業要件単位に含めない科目（C5）を学修していくカリキュラム大系になっている。このカリキュラム大系は大学の理念や教育方針との整合性も取れている。

【人間生活学部】

1，2年次は主に基礎的な教養と論理的思考を身に付ける、いわゆるリベラルアーツ科目として共通基礎科目（C1）と共通教養科目（C2）を学修する科目群を配置している。そして、学年が進むに従い、学部・学科の理念に沿って専門性を体系的に学ぶ科目群である専門科目（C3)、学科の専門性に関連ある資格取得に必要な科目（C4)、さらに特定の資格取得のために配置し卒業要件単位に含めない科目（C5）を学修していくカリキュラム大系になっている。このカリキュラム大系は大学の理念や教育方針との整合性も取れている。

【言語文化研究科】

学生の順次的・体系的履修へ配慮し、博士前期課程1年では、論文執筆研究の土台となる専門知識についての授業を置き、2 年はこれ加え、研究結果の報告、発表を中心とした演習科目を置いている。博士後期課程においては、博士論文の執筆のための研究に専念できるように、各学年に、演習科目を置いている。また、定期的に研究発表会を開催し、指導教員以外の教員が研究指導を行う機会も設けている。教育課程の適切性を検証するにあたり、毎年、研究科長を長とする研究科委員会で次年度の科目開講についての検討を行っている。次年度の授業シラバスの適切性については、研究科委員会で決め

た運営委員が点検を行っている。

【人間生活学研究科】

学生の順次的・体系的履修へ配慮し、修士課程 1 年では、論文執筆研究の土台となる専門知識についての授業を置き、2 年はこれ加え、研究結果の報告、発表を中心とした演習科目を置いている。また、2 年次には修士論文中間発表会を開催し、指導教員以外の教員が研究指導を行う機会も設けている。教育課程の適切性を検証するにあたり、毎年､研究科長を長とする研究科委員会で次年度の科目開講についての検討を行っている。次年度の授業シラバスの適切性については、研究科委員会で決めた運営委員が点検を行っている。

【共通教育部門】

共通教育は､「高校から大学へ。学びをつなぐ入学前プログラム、学びを刷新する共通基礎科目群（C1)」と「学びの視座を獲得する共通教養科目群（C2)」からなり、10 年後の自分を見据え、学びを学ぶ、学修のためのカリキュラムとなるように、授業科目の開設、教育課程の編成を行っている。

「共通基礎科目群（C1)」では、学ぶための姿勢、学ぶための体力をつけることを目標とした。本学では、高校からの切り替えと継続を大切にしている。入学決定後の「入学前プログラム」と入学後の「共通基礎科目」群とで構成される教育期間を通じて、本格的な大学教育の開始に備えた「知的基礎体力」を身に付ける。多彩なクラスサイズ、グループワークを重視した教育方法、ラーニング・アドバイザー（LA）による学修サポートなどによって、学びの土台を築く。

共通基礎科目群は、「基礎英語」「初年次セミナー」「キリスト教入門」「キャリアプランニング」「日本語表現技法」「情報リテラシー」からなり、全学必修科目である。「基礎英語」は、少人数、週 2 回開講、「初年次セミナー」は、少人数、グループワーク、「キャリアプランニング」は、グループワークを取り入れている。

「共通教養科目群（C2)」は、専門性を活かすための土台（C1）を築きながら、専門性を位置付けるための視座を獲得することを目標としている。総合知、人文科学知、社会科学知、自然科学知、言語知、スポーツ科学知といった科目群からなる「共通教養科目群（C2)」において、自らの進むべき専門性を探す、自らの選んだ専門の位置づけをすることになる。

（(資料［基準４］（２）－１）

（２）教育課程の編成･実施方針に基づき､各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

【大学全体】

本学は、教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を設定・配置することで、方針に則した教育内容を提供できるようにしている。

【国際教養学部】

国際教養学部は、C1 科目は 18 単位、C2 科目は 30 単位、C3 科目はメジャー科目群か

ら 40 単位とセミナー12 単位、C3 と C4 を合わせて 24 単位を取得し、卒業要件である 124 単位を満たす単位配置としている。各教育課程においては、課程主任を配置し、これらを学科主任が統括するような形で教育課程を運営・管理しており、さらに全学的な協議や意思決定が必要な事項については、学務委員会で取り扱う。全学的な最終意思決定は、学務委員会から評議会へ上程されて審議されるようなしくみをとっている。

【人間生活学部】

人間生活学部の 3 学科ともに、C1 科目は 18 単位、C2 科目は 30 単位、C3 と C4 を合わせて 76 単位を取得し、卒業要件である 124 単位を満たす単位配置としている。各教育課程においては、課程主任を配置し、これらを学科主任が統括するような形で教育課程を運営・管理しており、さらに全学的な協議や意思決定が必要な事項については、学務委員会で取り扱う。全学的な最終意思決定は、学務委員会から評議会へ上程されて審議されるようなしくみをとっている。

【言語文化研究科】

言語研究科の設置の趣旨、ディプロマポリシーにそった教育課程を置いている。ディプロマポリーは、要覧に明記してあり、半期に一度のオリエンテーション時に、毎回内容を学生に伝え、周知徹底するようにしている。研究成果の審査も、ディプロマ―ポリシー、学位授与基準に基づき、判定を行っている。

【人間生活学研究科】

人間生活学研究科の設置の趣旨、ディプロマポリシーにそった教育課程を置いている。ディプロマポリーは、要覧に明記してあり、半期に一度のオリエンテーション時に、毎回内容を学生に伝え、周知徹底するようにしている。研究成果の審査も、ディプロマ―ポリシー、学位授与基準に基づき、判定を行っている。

【共通教育部門】

共通基礎科目（C1）は、11 科目開講し、全科目（18 単位）必修である。留学生対応科目として、基礎日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを開講している。教養共通科目（C2）は、5 つの科目群からなり、2015 年度は、「総合知」科目群 12 科目（うち 4 科目は必要に応じて開講）中 7 科目開講、「人文科学知」科目群 28 科目中 21 科目開講、「社会科学知」科目群 28 科目中 20 科目開講、「自然科学知」科目群 24 科目中 17 科目開講、「言語知」科目群 20 科目中 20 科目開講、「スポーツ科学知」科目群 6 科目中 3 科目開講した。また、指定学科の学生のみ履修可とした「プロテクト科目」があり、「人文科学知」科目群に、幼児教育心理学科プロテクト科目 6 科目、「社会科学知」科目群に、幼児教育心理学科プロテクト科目 5 科目、「自然科学知」科目群に、管理栄養学科プロテクト科目 7 科目を開講している。

（資料［基準４］（２）－２　共通基礎科目・教養基礎科目一覧表）

２．点検・評価

【大学全体】

●基準４（２）の充足状況

全学共通科目として「共通基礎科目」「共通教養科目」の科目群を設けて、大学における学修に必要となる基礎力と幅広い教養を身につけるとともに、大学の教育理念であるキリスト教主義に基づく人格教育が実現できるよう教育課程を編成している。

①効果が上がっている事項

学科ごとにカリキュラムマップを作成し、教育課程を体系的に編成するよう配慮している。また、学務・就職管理システム（アクティブ・アカデミー）によってカリキュラムマップに対応させた学生の履修履歴を視覚的に表示できるようにしており、教育課程の進行状況を随時確認するとともに、学生との面接や個別指導に活用できる体制が整っている。

②改善すべき事項

教育課程が適切に機能しているかを検証するための組織としては、学務委員会と自己点検・評価委員会のもとに設置された教育・研究評価小委員会が責任主体となるが、これまでは定期的な点検が行われているとはいえないので、早急に対処することが必要である。

【国際教養学部】

●基準４（２）の充足状況

①効果が上がっている事項

大学全体のリベラルアーツ教育が基盤にあり、これと学部、学科で行う専門教育との間に整合性が取れており、かつ学生が４年間で履修していく科目配置も順次的、体系的になるように考慮されている。これらの内容をまとめ、全在校生に配布される「Curriculum Book」では、随所に図表を取り入れた工夫が施され、わかりやすく示されている。

②改善すべき事項

教育課程が適切に機能しているかを検証するための組織としては、学務委員会と自己点検・評価委員会のもとに設置された教育・研究評価小委員会が責任主体となるが、これまでは定期的な点検が行われているとはいえないので、早急に対処することが必要である。

【人間生活学部】

●基準４（２）の充足状況

①効果が上がっている事項

大学全体のリベラルアーツ教育が基盤にあり、これと学部、学科で行う専門教育との間に整合性が取れており、かつ学生が４年間で履修していく科目配置も順次的、体系的になるように考慮されている。これらの内容をまとめ、全在校生に配布される

「Curriculum Book」では、随所に図表を取り入れた工夫が施され、わかりやすく示されている。
②改善すべき事項
教育課程が適切に機能しているかを検証するための組織としては、学務委員会と自己点検・評価委員会のもとに設置された教育・研究評価小委員会が責任主体となるが、これまでは定期的な点検が行われているとはいえないので、早急に対処することが必要である。

【言語文化研究科】
●基準４（２）の充足状況
①効果が上がっている事項
学生が審査の基準を把握し、研究水準を意識しながら研究、論文執筆活動が行えるようになった。指導者の側も、指導の際、本規準を用いることによって、学生の研究や論文執筆に対する学生自身の目標設定を明確化することができるようになった。また、論文審査の客観性を示すことができるようになった。

②改善すべき事項
ディプロマポリシー、学位授与基準に対する認識がやや希薄な者もいるので、すべての学生、すべての教員が、これらを意識しできるような環境づくりが必要と考えられる。

【人間生活学研究科】
●基準４（２）の充足状況
①効果が上がっている事項
学生が審査の基準を把握し、研究水準を意識しながら研究、論文執筆活動が行えるようになった。指導者の側も、指導の際、本規準を用いることによって、学生の研究や論文執筆に対する学生自身の目標設定を明確化することができるようになった。また、論文審査の客観性を示すことができるようになった。

②改善すべき事項
ディプロマポリシー、学位授与基準に対する認識がやや希薄な者もいるので、すべての学生、すべての教員が、これらを意識しできるような環境づくりが必要と考えられる。

【共通教育部門】
●基準４（２）の充足状況
①効果が上がっている事項
C1 では、必要単位数 18 単位に対して、22 単位を用意した。４単位は留学生対応科目であった。C2 では、必要単位数 30 単位に対して、208 単位を用意し、管理栄養学科では、プロテクト科目 14 単位を、幼児教育心理学科では、プロテクト科目 22 単位（うち指定科目 6 単位必修）を用意した。この 2 学科においては、C2 が専門性を位置付ける視座を提供するという目標を達成していると言える。ただし、専門性に特化しすぎるあまり、

C2 でプロテクト科目以外の科目選択の幅が狭まり、幅広い教養の修得には弊害となっている可能性もある。特に、幼児教育心理学科では、C2 に必要な 30 単位のうち、プロテクト科目が 22 単位となっている。

②改善すべき事項

C2 の科目群の科目数で最多は「人文科学知」「社会科学知」の 28 科目、最少は「スポーツ科学知」の 6 科目という開きがあること、隔年開講している科目があることから、学生が体系的に履修できていない恐れがある。

３．将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

学務・就職管理システム（アクティブ・アカデミー）の履修データ等を有効に活用しながら、教育課程の適切性について検証をすすめていく。

共通教育では、全学必修科目である「初年次セミナー」と「キャリアプランニング」の授業が、連動して実施できるように、共通教育部門で教育内容・教育方法に関する検討を行い、授業担当者を含めて具体的な授業計画を立て実践することができたので、さらに効果的な連動の方法を検討していく。

言語文化研究科では、大学オリジナルサイトを作り、現在、教育課程、ディプロマポリシー等を、確認できるようにしているので、学生が必要に応じて、このサイトを通し、研究、論文執筆に関係する情報を共有できる環境が整えていく。

人間生活学研究科では、小規模大学院の特長を生かし、学生とのコミュニケーションを密にし、教育・研究に加え就職や進路相談にも応じるようなきめ細かな指導態勢を取っていく。

②改善すべき事項

教育課程の適切性について教育・研究評価小委員会が主体となって検証をすすめる。現時点では、特に評価、検証するための数値管理の仕組みがないので、明確な数値目標を掲げ、結果を検証し PDCA サイクルを回す仕組みづくりが必要である。

共通教育においては、C2 の単位数と科目群の見直しが必要である。C2 の単位数は 30 単位であるが、ここに管理栄養学科と幼児教育心理学科のプロテクト科目が置かれた背景について改めて振り返りたい。2012 年度改組の特徴は、C2 において、学生が自らの進むべき専門性を探す、自らの選んだ専門の位置づけをすることを目標としており、幅広い共通教養科目の中から自由に選択できるように多くの科目が用意された。前年度までのカリキュラムでは、全学共通科目（インダクション）25 科目（46 単位）（管理栄養学科のみ 21 科目 38 単位)、学科プログレス科目のうちの教養基礎科目 19 科目（38 単位）（管理栄養学科のみ教養基礎科目 23 科目 46 単位必要）が必要であった。2011 年度までは全学共通科目 46 単位、2012 年度からは、共通基礎科目 18 単位と共通教養科目 30 単位の計 48 単位であり、2 単位の増である。ただし、2011 年度までのカリキュラムでは、全学共通科目インダクションに、セミナー7 科目（20 単位）（管理栄養学科のみセミナー 3 科目１２単位）が必修として含まれており、2012 年度では、セミナー1 科目（2 単位）のみが、共通基礎科目に「初年次セミナー」として入り、3 年次・4 年次のセミナー（12

単位、管理栄養学科のみ 8 単位）を専門科目として置いた。すなわち、全学共通科目インダクション 46 単位のうち、セミナーを「初年次セミナー」（2 単位）のみ認めるという形で、それまで 1 年次後期、2 年次前期後期開講していたセミナー（3 科目 6 単位）を廃止し、3 年次（2 科目 4 単位）4 年次（1 科目 8 単位）を、3 年次（2 科目 4 単位、管理栄養学科はなし）、4 年次（3 科目 8 単位）として、専門科目においたということである。これは、単純に 2 単位の増ではなく、幼児教育心理学科では 20 単位の増、管理栄養学科では１２単位の増となり、これを調整するために、共通教養科目の中に、専門科目の一部を入れざるを得なくなった。なかでも、幼児教育心理学科は、教育目標達成のために、1 年次秋学期、2 年次春・秋学期のセミナーを置く必要があり、共通教養科目に 6 単位の必修科目（セミナー）を置くことになった。（資料［基準４］（２）－３　２０１１年度２０１２年度新旧対照表）

このような経緯で、プロテクト科目が設定されたのであるが、専門性に特化した視座を提供するという目標は達成できるものの、科目群の履修状況を学生個別に見ると、非常にいびつな形となっている。例えば、幼児教育心理学科学生では、「言語知」「自然科学知」の履修がほとんどなかったり、管理栄養学科学生で、「言語知」「スポーツ科学知」の履修がほとんどないなど、偏りが認められる。（参考資料　WEB　達成度評価　個人情報保護のため添付せず））

共通教育部門としては、C2 の単位数を見直し（単位数を減らす方向で）、科目群という分類方法を見直すことが必要であろう。社会人基礎力（３つの力）、３つのコンピテンスなどを参考に、３分類程度にして、C２の科目について見直しをする。

［基準４］ 教育内容・方法・成果 （３）教育方法

１．現状の説明

（１）教育方法および学習指導は適切か。

【大学全体】

学部・研究科ごとに教育目標にもとづいて授業科目を設定し、授業の目的に応じて講義・演習・実習の授業形態を適切に割り当てている。

１セメスターに履修できる単位数の上限を各学科において定めている。国際教養学科と生活デザイン・建築学科においては 22 単位とし、直前の学期の卒業要件科目の平均点が 7.5 以上であれば次学期に 26 単位まで履修することを可能としている。一方、管理栄養学科と幼児教育心理学科においては 26 単位を上限としているが、幼児教育心理学科については１年間に履修できる単位数が 50 単位以上となっていることから大学基準協会より努力課題との指摘を受けており、2018 年度のカリキュラム改編の際に改善することになっている。

【国際教養学部】

授業はシラバスに沿って行われる。シラバスの書式は統一されており、授業の形態、授業の目的、到達目標、成績評価の方法などが明示されている。これにより学生の履修時のミスマッチの回避、履修時の学びのポイントがわかるようになっている。一方、学習指導については、チューター制を敷いて、定期的な面談を実施し履修指導、授業の出席状況の確認、問題を抱えた学生への対応などが円滑にできる態勢を取っている。また、学習支援に関しては、アカデミック・サポート・センターに所属するラーニング・アドバイザーが個別の学習支援・相談を実施し、有効に機能している。

【人間生活学部】

授業はシラバスに沿って行われる。シラバスの書式は統一されており、授業の形態、授業の目的、到達目標、成績評価の方法などが明示されている。これにより学生の履修時のミスマッチの回避、履修時の学びのポイントがわかるようになっている。一方、学習指導については、チューター制を敷いて、定期的な面談を実施し履修指導、授業の出席状況の確認、問題を抱えた学生への対応などが円滑にできる態勢を取っている。また、学習支援に関しては、アカデミック・サポート・センターに所属するラーニング・アドバイザーが個別の学習支援・相談を実施し、有効に機能している。

【言語文化研究科】

研究指導計画書の作成提出は義務付けていない。ただし、修士論文実施細目おいて、2 年次の 4 月、指導教授に研究計画書を提出することを義務づけていおり、学生から指導教員に提出された計画書をもとに個々の教員と指導生とで研究計画の見直しを行なった上で、指導を行っている。

ポータルサイトを通して、授業の目的、到達目標、授業内容・方法、１年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学

生にあらかじめこれ公表している。授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定している。

既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施している。

教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会は、全学的な取り組みの中で、実施している。研究科独自では行っていない。

【人間生活学研究科】

研究指導計画書の提出は義務付けておらず、個々の教員と大学院生との間の相談のもとで指導を行っているが､論文題目は1年次の10月末までに届け出ることになっている。

ポータルサイトを通して、授業の目的、到達目標、授業内容・方法、１年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ学生にあらかじめこれを公表している。また、授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定しており、既修得単位の認定についても大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施している。なお、教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会は、全学的な取り組みの中で、実施している。研究科独自では行っていない。

【共通教育部門】

共通基礎科目群（C1）は、「基礎英語」「初年次セミナー」「キリスト教入門」「キャリアプランニング」「日本語表現技法」「情報リテラシー」からなり、全学必修科目である。各科目の学修目標達成のために、「基礎英語」は、少人数、週２回開講、「初年次セミナー」は、少人数、グループワーク、「キャリアプランニング」は、グループワークを取り入れている。

共通教養科目群（C2）では、学修目標に合わせた、多彩なクラスサイズ、授業形態が用意されている。

（２）シラバスに基づいて授業が展開されているか。

【大学全体】

すべての授業について、「授業の目的」「授業計画」「授業成果」「テキスト」「参考書」「成績評価の方法」「ベンチマーク/到達目標」「授業形態」「その他」の項目による統一した書式に基づいてシラバスを作成している。シラバスの入力は、シラバス登録システム上で行われ、入力後に確認担当者による第三者チェックが行われ、記入漏れがあれば修正を求めている。シラバスは学内 Web システムに掲載することであらかじめ学生に公表するとともに、ホームページ上で学外にも公開している。

授業はシラバスに従って行うことになっている。シラバスに基づいて授業が展開されているかは、学生による授業評価アンケートの評価項目として設けられており、授業担当者は学期の終了後に評価内容を確認し、改善目標を提出することで自己点検を行っている。ただし、改善目標の設定はシラバスに特化したものとはなっていないので、授業とシラバスの整合性を確認するための工夫を行うことが必要となろう。

【国際教養学部】
授業はすべてシラバスに基づいて展開されている。

【人間生活学部】
授業はすべてシラバスに基づいて展開されている。

【言語文化研究科】
単位制度の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、またシラバスに基づいた授業を展開するための責任体制は、研究科独自では作っていない。全学的な授業評価アンケート等を通して把握することはできる。アンケート結果を受けての組織的な改善体制は現在は存在しない。

【人間生活学研究科】
シラバスに基づいた授業が展開されている。

【共通教育部門】
シラバスに沿った授業内容となっている。以前の授業評価アンケートで、項目として「シラバス通りに授業が行われたか」が挙げられていたが、２０１５年度は項目として挙がっていなかった。
教育内容がシラバス通りに行われていたかどうかを確認する手段が今のところなく、今後、授業アンケートの項目に入れることが望まれる。

（３）成績評価と単位認定は適切に行われているか。
【大学全体】
全学で統一した成績の評価基準を設け、これに従って評価を行うことになっている。単位認定の適切性については、教務委員会において随時検証を行っているが、定期的に実施されているものではなく、適切性を判断するための明確な基準も定められていないので、今後早急に検討する必要がある。

【国際教養学部】
成績の評価方法は予めシラバスに明示してあり、これに従って成績を評価している。単位認定に際しては、最終認定に先立ち履修した学生全員に対して評価を暫定的に公表し、疑義のある場合は申し立ての機会を与え、確認を取ったうえで最終的に単位認定している。

【人間生活学部】
成績の評価方法は予めシラバスに明示してあり、これに従って成績を評価している。単位認定に際しては、最終認定に先立ち履修した学生全員に対して評価を暫定的に公表し、疑義のある場合は申し立ての機会を与え、確認を取ったうえで最終的に単位認定し

ている。

【言語文化研究科】
単位制度の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、またシラバスに基づいた授業を展開するための責任体制は、研究科独自では作っていない。全学的な授業評価アンケート等を通して把握することはできる。アンケート結果を受けての組織的な改善体制は現在のところは存在しない。

【人間生活学研究科】
全学的な授業評価アンケート等を通して把握することはできるが、単位制度の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、またシラバスに基づいた授業を展開するための責任体制は、研究科独自では作っていない。また、アンケート結果を受けての組織的な改善体制は現在のところは存在しない。

【共通教育部門】
成績評価について、資料を提示する。
（資料［基準４］（３）－１　2015 年度　C2 履修者（成績評価）数データ集計）
科目による評価のばらつきがみられる。C1 の「キャリアプランニング」で、国際教養学部と人間生活学部での各評価の割合が大きく異なっているので、評価基準について検討が必要である。

（４）教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
【大学全体】
教育成果については教務委員会において検証し、改善に必要な事項を大学評議会に提案して審議した後、学長の決定により実施されることになっている。ただし、教育成果を客観的に測定する方法はまだ十分に確立されているとはいえないので、教務委員会とＩＲ室等が連携して具体的な方法を検討する必要がある。また、教育成果を定期的に検証する体制も十分に整備されているとはいえない状況なので、早急に整えることが求められる。

【国際教養学部】
FD 委員会主導でセメスターごとに授業評価アンケートが実施され、その集計結果が全員に配布される。教員はその内容を確認後、各自が授業に関する課題とその改善案の提出を義務付けられている。これに加え、FD 研修会が実施され、授業の運営の仕方や学生の動向の事例とその対応について研修している。

【人間生活学部】
FD 委員会主導でセメスターごとに授業評価アンケートが実施され、その集計結果が全員に配布される。教員はその内容を確認後、各自が授業に関する課題とその改善案の提

出を義務付けられている。これに加え、FD 研修会が実施され、授業の運営の仕方や学生の動向の事例とその対応について研修している。

【言語文化研究科】
教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法のするため、大学院独自の枠組みは存在しない。全学的な取り組みに沿って行っている。

【人間生活学研究科】
学部を含む全学的な取り組みとして教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法のするための大学院独自の枠組みは存在しない。

【共通教育部門】
授業アンケート結果を参考に、次年度の授業改革に役立てている。

２．点検・評価
【大学全体】
●基準４（３）の充足状況
教育方法については、教育目標に基づいて授業形態を適切に設定し授業を実施している。１年間に履修登録できる単位数については、幼児教育心理学科を除いて適切に定められており､幼児教育心理学科についても 2018 年度に教育課程の改編に伴って改善することが決まっている。
授業は、全学で統一したシラバスに基づいて実施されているが、授業とシラバスの整合性の検証についてはさらなる検討を要する。成績評価も統一された基準に基づいて行われているが、評価が適切に行われているかを検証する体制については検討する必要がある。教育成果についても、定期的に検証する体制を構築することが求められる。

①効果が上がっている事項
シラバスの構成についてこれまで検討を重ねてきた結果、必要十分な項目を設定することができた。特に「授業計画」の欄には授業時間ごとに到達目標を明示するとともに予習・復習の内容を指示することで、学生が授業に取り組むうえでの指標が明確になった。また、シラバスの第三者チェックによって、全ての授業で遺漏なく項目が設定されるようになった。

②改善すべき事項
授業とシラバスの整合性、成績評価の適切性、教育成果の定期的な検証と、改善につなげるための体制を構築することが必要である

【国際教養学部】
●基準４（３）の充足状況
①効果が上がっている事項

授業や履修全般に関する事案については、総合学生支援センター長が委員長である学務委員会で、共通基礎科目と共通教養科目に関する事案については、共通教育部門長が委員長である共通教育委員会で取り扱われる。両委員会ともに学内規程があり委員会の構成、責任の所在等が明確になっており、いずれも定期的に開催され、問題点や課題の検証、対応が決められている。

②改善すべき事項

学期ごとに実施される授業アンケートは、集計された後、各教員に報告される。そしてその学生による授業評価結果を踏まえ、次学期への改善点を考えて報告することが義務付けられている。しかし、大学全体で問題の共有や解決策を協議するような取り組みには至っていない。検証のプロセスが明確になるようなしくみはまだ十分に確立されていないため、早期に確立する必要がある

【人間生活学部】

●基準４（３）の充足状況

①効果が上がっている事項

授業や履修全般に関する事案については、総合学生支援センター長が委員長である学務委員会で、共通基礎科目と共通教養科目に関する事案については、共通教育部門長が委員長である共通教育委員会で取り扱われる。両委員会ともに学内規程があり委員会の構成、責任の所在等が明確になっており、いずれも定期的に開催され、問題点や課題の検証、対応が決められている。

②改善すべき事項

学期ごとに実施される授業アンケートは、集計された後、各教員に報告される。そしてその学生による授業評価結果を踏まえ、次学期への改善点を考えて報告することが義務付けられている。しかし、大学全体で問題の共有や解決策を協議するような取り組みには至っていない。検証のプロセスが明確になるようなしくみはまだ十分に確立されていないため、早期に確立する必要がある

【言語文化研究科】

●基準４（３）の充足状況

研究指導計画書の作成は義務付けていない。ただし、修士論文実施細目おいて、2年次の4月、指導教授に研究計画書を提出することを義務づけており、学生から指導教員に提出された計画書をもとに個々の教員と指導生とで研究計画の見直しを行なった上で、指導を行っている。

①効果が上がっている事項

効果を検証するシステムがない。

②改善すべき事項

研究指導計画書の共通書式を整え、指導教員に指導計画を意識した指導を行ってもら

うようにする。また、研究計画書に基づき指導を行っていることが把握できるシステムをつくる。

【人間生活学研究科】
●基準４（３）の充足状況
研究指導計画書の作成は義務付けていない。演習授業のシラバスで代替している。
①効果が上がっている事項
効果を検証するシステムがない。

②改善すべき事項
研究指導計画書のフォーマットを作成し、より計画的に大学院生の指導ができるようなしくみを構築する必要がある。

【共通教育部門】
●基準４（３）の充足状況

①効果が上がっている事項
・少人数、レベル別クラス分けによる語学学習を行っており、語学の基礎が不十分な学生に対して、丁寧な指導が行われ、基礎学力の定着に貢献している。
・C1 において、履修者数による適正なクラス開講をすることで、学生に対する個人指導が可能となっている。
・「初年次セミナー」において、少人数教育、グループ学習を実施し、学生一人一人の特性に応じた指導が実践できている。

②改善すべき事項
・教育評価の見直し。
・C１科目である「キャリアプランニング」の授業形態について、グループ学習を行うには、人数が多すぎることが問題点として挙げられる。

３．将来に向けた発展方策
【大学全体】
①効果が上がっている事項
次年度からルーブリック評価を導入することが決まっており、シラバスに加えてルーブリック評価項目に基づく学生の自己評価が可能となり、また教員による成績評価の精度も高くなることが期待される。

②改善すべき事項
授業とシラバスの整合性、成績評価の適切性、教育成果の定期的な検証と、改善につなげるための体制の構築を検討する。

【国際教養学部】
①効果が上がっている事項
2013 年度からシラバスにベンチマーク／到達目標の項目を加え、授業ごとに目標を 3 点、明示するようにした。その後、効果を経時観察してきたが、導入前に比べて各授業の目的・目標を教員及び学生ともに改めて確認することができるようになった。今後はシラバスをさらに有効な教育ツールとして活用する方策を模索する必要がある。

②改善すべき事項
教育内容、方法等の改善を図るための責任の主体、権限、手続きが不明確なので、大学全体で早急に取り組む必要がある。

【人間生活学部】
①効果が上がっている事項
2013 年度からシラバスにベンチマーク／到達目標の項目を加え、授業ごとに目標を 3 点、明示するようにした。その後、効果を経時観察してきたが、導入前に比べて各授業の目的・目標を教員及び学生ともに改めて確認することができるようになった。今後はシラバスをさらに有効な教育ツールとして活用する方策を模索する必要がある。

②改善すべき事項
教育内容、方法等の改善を図るための責任の主体、権限、手続きが不明確なので、大学全体で早急に取り組む必要がある。

【言語文化研究科】
①効果が上がっている事項
2013 年度からシラバスにベンチマーク／到達目標の項目を加え、授業ごとに目標を 3 点、明示するようにした。その後、効果を経時観察してきたが、導入前に比べて各授業の目的・目標を教員及び学生ともに改めて確認することができるようになった。

②改善すべき事項
全学的な取り組みに沿って、改善していく。

【人間生活学研究科】
①効果が上がっている事項
2013 年度からシラバスにベンチマーク／到達目標の項目を加え、授業ごとに目標を 3 点、明示するようにした。その後、効果を経時観察してきたが、導入前に比べて各授業の目的・目標を教員及び学生ともに改めて確認することができるようになった。今後はシラバスをさらに有効な教育ツールとして活用する方策を模索する必要がある。

②改善すべき事項
教育内容、方法等の改善を図るための責任の主体、権限、手続きが不明確なので、大

学全体で早急に取り組む必要がある。

【共通教育部門】
①効果が上がっている事項
　シラバスの内容について、チェック体制ができており、授業担当者によるシラバスの記載方法が統一されている。

②改善すべき事項
　2016 年度に向けて、シラバスに授業形態を記入するように改善する。また、評価の適切性を高めるために、ルーブリック評価を導入する。

［基準４］ 教育内容・方法・成果 （４）成果

１．現状の説明

（１）教育目標に沿った成果が上がっているか。

【大学全体】

本学の教育目標は、「冷静な判断力と決断力を備え、社会の中で責任ある行動を毅然として取り、しかも寛容の精神をもって他者を受容し地域および世界に貢献できる女性を育てること」であり、これに基づいて卒業認定・学位授与方針、及び教育課程の編成・実施方針を定めたうえで教育課程を編成し授業を実施するとともに、課外活動を含めて様々な教育・支援を行っている。教育成果を測定するためには、学位授与の状況、資格取得状況、就職状況はもとより、学生による授業評価アンケートを始め在学生・卒業生を対象とした各種アンケートの結果、学外（企業、公共団体等）からの評価を総合して評価する必要がある。現在のところ、個別のデータについては収集・分析を行っているが、これらを総括し、総合的な評価を実施するところまでは至っていない。今後は、IR室等が学内情報を集約するとともに、教育成果を客観的に判断するための分析方法を定めたうえで、評価を実施することが必要である。また、これらの評価に基づいて教育内容を改善していくための体制構築も重要な課題となる。

【国際教養学部】

本学部の教育成果を評価するうえで卒業時の資格取得の状況を指標としてみた場合、国際教養学科 2016 年 3 月卒業生（162 名）のうち、免許・資格を取得した人数は次の通りであった。中学校教諭一種免許状（国語）12 名、高等学校教諭一種免許状（国語）11 名、中学校教諭一種免許状（英語）15 名、高等学校教諭一種免許状（英語）15 名、中学校教諭一種免許状（社会）4 名、高等学校教諭一種免許状（地歴）5 名、高等学校教諭一種免許状（情報）1 名、学芸員 15 名、日本語教員 6 名、社会教育主事 3 名、学校図書館司書教諭 13 名、図書館司書 26 名、上級情報処理士 9 名、情報処理士 11 名、上級ビジネス実務士 20 名、ビジネス実務士 11 名、プレゼンテーション実務士 14 名、フードコーディネーター3 級 7 名、フードスペシャリスト受験資格 2 名（内合格は 1 名）。

【人間生活学部】

本学部の各学科の教育成果を評価するうえでは卒業時の資格取得及び就職の状況が重要な指標となる。

生活デザイン・建築学科では、2015 年度卒業生が取得した資格・免許状は、中学校教諭家庭一種免許状 10 名、高校教諭家庭一種免許状 10 名、一級建築士受験資格 27 名、二級建築士受験資格 28 名、木造建築士受験資格 28 名であった。一方、就職状況は就職率 100%で、就職先の内訳が「生活デザイン」領域 39%、「被服・ファッション」領域 18%、「インテリア・住居・建築」領域 43%であり、各領域にわたり比較的バランスの取れた状況であった。これに加えて、学科所属の学生が広島デザインデイズ 2015 「Design League in HDD2015 大賞」を受賞、広島市内の商店街街路灯に学生のデザイン作品が採用され実用化、市内の医療法人施設の介護ユニフォームの実用化作品として採用決定な

ど、多方面で実績を上げている。

管理栄養学科では、2016 年 3 月に実施された第 30 回管理栄養士国家試験の合格率が 97.1%（受験者 68 名中 66 名が合格）で、これは広島県内の私立大学中で首位であり、全国の管理栄養士養成課程新卒者の平均合格率 85.1%を大きく上回っている。就職についても就職率が 100%であったことに加え、就職先が栄養士や管理栄養士の資格を活かした職場への就職率が高いことは、大学での学びを通して高い職業観を身に付けた一つの証と言ってよい。

幼児教育心理学科については、2015 年度卒業生が取得した資格・免許状は、保育士資格 62 名、幼稚園教諭一種免許状 84 名、小学校教諭一種免許状 51 名、認定心理士 4 名、カウンセリング実務士 18 名であった。また、就職状況としては、就職内定率は 98.8%と好調で、その内訳として、保育所 30 名、幼稚園 22 名、小学校 9 名、特別支援教育支援員 2 名一般企業 14 名、校務員 1 名、進学 2 名であった。このように、各学科ともに教育目標に符合した教育成果を十分に達成しているといえる。

【言語文化研究科】

学位授与にあたり論文（または特定の課題についての研究の成果）の審査を行う場合にあっては、学位審査基準を、オリエンテーション、要覧などを通して学生に周知している。課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標については、毎年、見直しをすることが検討されているが、時期、方法については未定である。学位授与にあたっては、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与している。

【人間生活学研究科】

学位授与にあたり論文審査を行う場合にあっては、広島女学院大学大学院学位規程、広島女学院大学大学院人間生活学研究科学位論文規程及び広島女学院大学大学院人間生活学研究科学位論文規程細則に審査の手順や責任体制が明記されている。併せて学位審査基準もあらかじめ学生に明示している。

【共通教育部門】

Web ポータル上に「達成度評価」システムがあり、「カリキュラムマップ」、「自己評価のグラフ」、「将来の夢・目標」の各項目で、履修計画の立案、自己評価、自己評価と成績の比較（客観的評価）のずれの確認、統括ができるようになっている。達成度評価は、C1・C2 科目と、専門科目に分けて表示される。このシステムにより、学生の主体的な学びを促進させている。

（２）学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

【大学全体】

学部・研究科とも、卒業認定・学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を定め、これに基づいた卒業要件を定めて学生に明示している（カリキュラムブック）。卒業・修了の認定は、取得単位を教務委員会において確認したうえで、学部教授会・研究科委員会において審議し、学長によって決定されており、適切に行われていると考えている。

【国際教養学部】
卒業要件を充足し、学位を授与するか否かはまず学務委員会で審議され、その結果が学部教授会に上程される。そして学部教授会において上程された内容を基に最終的な卒業判定が公正になされる。

【人間生活学部】
卒業要件を充足し、学位を授与するか否かはまず学務委員会で審議され、その結果が学部教授会に上程される。そして学部教授会において上程された内容を基に最終的な卒業判定が公正になされる。

【言語文化研究科】
学位授与にあたっては、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与している。具体的には、大学院設置基準を踏まえて作成された女学院大学大学院学位規定に定められた、条項に基づき、実施している。

【人間生活学研究科】
学位授与にあたり論文審査を行う場合にあっては、広島女学院大学大学院学位規程、広島女学院大学大学院人間生活学研究科学位論文規程及び広島女学院大学大学院人間生活学研究科学位論文規程細則に審査の手順や責任体制が明記されている。併せて学位審査基準もあらかじめ学生および社会に明示している。

【共通教育部門】
単位認定は適切である。

２．点検・評価
【大学全体】
●基準４（４）の充足状況
①効果が上がっている事項
就職状況を教育成果の評価指標としてみたとき、2014 年度卒業生の実就職率が 88.3%となり、東洋経済オンラインの「就職に強い女子大学」ランキングで広島県内女子大学第１位（全国 25 位）となったことが特筆される。本学が教養教育を重視するリベラルアーツ教育を柱とし、グローバル教育、女性のキャリア教育を推進していることの１つの成果として捉えることができる。
②改善すべき事項
教育成果を総合的に評価するための方針が確立されておらず、分野ごとの評価に留まっているので、改善を要する。

【国際教養学部】
●基準４（４）の充足状況

①効果が上がっている事項
（１）で述べたような成果が上がっている。学位授与における手続き、責任体制も明確である。

②改善すべき事項
現状では学習成果を測定するための確たる評価指標は確立していない。

【人間生活学部】
●基準４（４）の充足状況
①効果が上がっている事項
（１）で述べたような成果が上がっている。学位授与における手続き、責任体制も明確である。

②改善すべき事項
現状では学習成果を測定するための確たる評価指標は確立していない。

【言語文化研究科】
●基準４（４）の充足状況
学位授与にあたり論文（または特定の課題についての研究の成果）の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文（または特定の課題についての研究の成果）であるか否かを審査する基準を、要覧、オリジナルサイト、学期始めのオリエンテーションの機会を利用して、事前に学生に周知している。
①効果が上がっている事項
指導に当たり、特に意識するようになってきた。

②改善すべき事項
オリエンテーション時に、繰り返し注意を喚起しているが、学生自身の意識そのものには個人差がある。

【人間生活学研究科】
●基準４（４）の充足状況
学位授与にあたり論文審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準を、あらかじめ学生及び社会に明示している。
①効果が上がっている事項
教員が大学院生を指導に当たり、審査基準を意識するようになり、教員の指導力向上に一役買っている。

②改善すべき事項
オリエンテーション時に、繰り返し注意を喚起しているが、学生自身の意識そのものには個人差がある。

【共通教育部門】

●基準４（４）の充足状況

①効果が上がっている事項

学生は、WEB ポータル上で、自己の学修成果を確認することができている。

共通教育委員会で、2015 年度の「初年次セミナー」「キャリアプランニング」の授業改善について検討した（資料〔基準４〕（４）－１a,b,c　第７回共通教育委員会　2015 年 10 月 6 日配布資料)。

成果が上がっていることとしては、「初年次セミナー」では、パワーポイントで発表させることや、エクセルによる統計とグラフ作成は、1 年生に難易度が高く、苦労も多かったが、最終的には学生の技能と自信の向上につながった（生活デザイン建築学科)。「キャリアプランニング」では、いろいろなジャンルの講師の話が聞けて参考になり、自分の将来やキャリアについて考える機会を持つことができた。

②改善すべき事項

教員による WEB ポータルを使用した、授業成果の検討が行われていないので、教員が使用しやすいように、個人の成果検討だけでなく、クラス全員の平均的な成果の特徴を把握できるようにシステムを変更することが望まれる。

３．将来に向けた発展方策

【大学全体】

①効果が上がっている事項

授業担当者から提出されたシラバスを担当者以外の複数教員によるチェック体制を構築している。その結果、シラバスの改善につながり、単位の実質化への取組となった。

②改善すべき事項

学生の資格志向に従い、授業でいろいろな資格を取得できるようにカリキュラム構成をし、学生本人の意向に沿って履修指導を行っている。今後は、学生の適性を考慮した履修指導が必要である。

学生の学修や授業内容･方法と FD の結果をどのように関連付けるかの検討がなされておらず、FD の結果をシラバス改善に生かせる仕組みが必要である。

【国際教養学部】

①効果が上がっている事項

学生の適性に応じた履修指導がなされている。

②改善すべき事項

課程修了時における学習効果を測定するための評価指標を早急に開発する必要がある。

【人間生活学部】

①効果が上がっている事項

資格偏重志向を見直し、学生一人ひとりの適性や意思を十分に見極めつつ、学生自身の将来設計の中で本当に必要な学びを一緒に考えた形で履修指導に力を入れている。

②改善すべき事項

課程修了時における学習効果を測定するための評価指標を早急に開発する必要がある。

【言語文化研究科】

①効果が上がっている事項

特に、指導する上で、意識するようになった。

②改善すべき事項

全学的な取り組みの中で改善していく。

【人間生活学研究科】

①効果が上がっている事項

教員が大学院生を指導に当たり、審査基準を意識するようになり、教員の指導力向上に一役買っている。

②改善すべき事項

全学的な取り組みとして改善していく必要がある。

【共通教育部門】

①効果が上がっている事項

シラバスの改善により、単位の実質化に向けての取り組みを進めている。

②改善すべき事項

チューターやゼミ担当教員が、学生の学修成果について関心を持ち、学生の主体的な学びの姿勢を促進させるように働きかけることや、担当する授業科目における学生の自己評価に対するコメントを記入することなどにより、教員自身の授業の教育成果を振り返ることが必要である。そのためにも、シラバスの見直し、ルーブリック評価の検討、担当する科目のカリキュラムマップの位置づけ等､他の教員との協働作業が要求される。

【根拠資料】

基準 4

1（1）	大学 HP 学長挨拶	https://www.hju.ac.jp/guide/greeting.php
	『Curriculum Book 2015』	ｐ2～ｐ3
	大学 HP 教育目標	https://www.hju.ac.jp/guide/jinzaikyouikumokuteki.php
	言語文化研究科ｵﾘｼﾞﾅﾙｻｲﾄ	https://sites.google.com/a/gaines.hju.ac.jp/

		daigakuin-gengo/home
2（1）	『大学案内 2015』	p 94～ p 95
（2）	「C1C 科目一覧表」	
（3）	2011 年度 2012 年度新旧対照表	
3（1）	2015 年 C1科目成績評価データ集計	
4（1）a	「キャリアプランニング総括」	生活デザイン・建築学科
（1）b	初年次セミナー講義の目的	
（1）c	初年次セミナー学科別アンケート	

［基準５］　学生の受け入れ

１．現状の説明

（１）学生の受け入れ方針を明示しているか。

【大学全体】

学生の受け入れ方針に関しては、学生募集要項 ※1や入試ガイド ※2には「入学者受入れ方針（アドミッションポリシー）」として、「「キリスト教主義に基づく人間教育」という本学の建学の精神に理解のある女性、すなわち大学での学びは自分を幸せにするためだけではなく、広く他社の幸せを望む「隣人愛」の精神に共鳴できる女性、そして長い人生と広い世界を視野に入れながら学び続ける女性を迎え入れます。」と明示し、本学のホームページ ※3上では、①「キリスト教主義に基づく倫理観をもち、他者に対して思いやりを持つことのできる人」、②「いかなる状況にあっても、気品と応用力をもって自立することができる人」、③「専門的な知識と技能を身につけ、二十一世紀の社会の発展に貢献したい人」と具体的に記している。

大学全体における求める学生像は、「『キリスト教主義に基づく人間教育』という本学の建学の精神に理解ある女性、すなわち大学での学びは自分を幸せにするためだけではなく、広く他者の幸せを望む「隣人愛」の精神に共鳴できる女性、そして長い人生と広い世界を視野に入れながら学び続ける女性」であり、これに基づいて各学科において学生の受け入れ方針を定め、ホームページ上で公表するとともに、入試要項に記載することで受験生に対して明示している。ただし、現在定めている方針は、各学科がどのような人物を求めるかを示すにとどまっており、それらが入学者選抜方法とどのように関連しているかまでは示していない。今後、全学的な改組に合わせて３つのポリシーを一体的に策定するとともに、学生の受け入れ方針については「学力の３要素」との関連性を明確にしたうえで、それらが入学試験とどのように関連づけられているかを明示していく必要がある。

【国際教養学部】

アドミッションポリシーを本学ホームページ ※3上で公表するとともに、「学生募集要項」※1などに記載することで受験生に対して明示している。さらに、オープンキャンパス、高校訪問、学外で実施する進学説明会など様々な機会をとらえて受験生を含む社会一般に伝える努力をしている。

【人間生活学部】

アドミッションポリシーを本学ホームページ ※3上で公表するとともに、「学生募集要項」※1などに記載することで受験生に対して明示している。さらに、オープンキャンパス、高校訪問、学外で実施する進学説明会など様々な機会をとらえて受験生を含む社会一般に伝える努力をしている。

【言語文化研究科】

理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準

等を明らかにした学生の受け入れ方針を定めている。

これらの内容は「大学院学生募集要項」※5や公的な刊行物、本学ホームページ ※3等によって、学生の受け入れ方針について受験生を含む社会一般に公表している。

【人間生活学研究科】

理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を定めている。

これらの内容は「大学院学生募集要項」※5や公的な刊行物、本学ホームページ ※3等によって、学生の受け入れ方針について受験生を含む社会一般に公表している。

（２）学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【大学全体】

2015 年度入試においては、①AO 型入試として、オープンセミナー入試・AO 入試（管理栄養学科）、②推薦入試として、指定校制推薦入試・公募制推薦入試、③一般入試として、特待生入試・一般入試（前期 A 日程・B 日程・C 日程）・一般入試後期日程、④大学入試センター試験利用入試として、Ａ日程・B 日程・C 日程、⑤その他、社会人特別入試・2 年次転入試・3 年次転入試・編入試・GSE 外国人特別入試などの 5 系統に分け、それぞれの系統において各学科の特性に応じた入学者選抜を行なっている。

【国際教養学部】

2015 年度入試においては、オープンセミナー入試、指定校制推薦入試、公募制推薦入試、特待生入試、一般入試（前期 A 日程・B 日程・C 日程・後期日程）、大学入試センター試験利用入試の他、社会人特別入試、2 年次・3 年次転入試、編入試、GSE 外国人特別入試など学科の特性に応じた入学者選抜を行なっている。また、各入試はいずれも厳正に実施し、その結果を入試委員会で審議後、学部教授会に上程し公正に判定している。

【人間生活学部】

2015 年度の本学部の入試形態は、オープンセミナー入試、ＡＯ入試、指定校制推薦入試、公募制推薦入試、一般入試、センター試験利用入試の 6 種類である。それぞれの入試内容を「学生募集要項」※1「入試ガイド」※2やホームページ ※3などに明示するとともに、進学説明会やオープンキャンパスなどで詳しく説明し、質問や問い合わせにこまめに対応している。各入試はいずれも厳正に実施し、その結果を入試委員会で審議後、学部教授会に上程し公正に判定している。入試判定の内容は議事録として残している。

【言語文化研究科】

本研究科の学生募集、入学者選抜の方法は、受験生に対して公正な機会を保証し、かつ大学院教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものである。

開設当初から広く社会人にも門戸を開放していることから、社会人特別入試や外国人留学生特別入試を年２回（10 月と 3 月に）実施している。

本研究科における収容定員に対する在籍学生数の比率は、博士前期課程で定員 24 名のところ 8 名で、定員充足率は 0.33(日本言語文化専攻は 0.41、英米言語文化専攻は 0.25)であり、両専攻とも充足率 0.5 未満であるので努力課題である。また、博士後期課程の定員充足率は 18 名中 4 名で 0.22（日本言語文化専攻は、0.44、英米言語文化専攻は 0）と低くなっており、0.33 未満で努力課題となっている。

【人間生活学研究科】

「大学院学生募集要項」※5に、本研究科のアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを記載した上で学生募集を行っている。一方、入学者選抜においては、『大学院入学者選抜規程』※11に従って、受験生に対して公正な機会を保証し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定している。

（３）適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

【大学全体】

2015 年度入試においては、上記（２）の定員では大学全体で、①オープンセミナー入試定員 118 名（入学者数 111 名）、管理栄養学科ＡＯ入試定員 5 名（入学者数 10 名）②指定校制推薦入試定員 51 名（入学者数 23 名）・公募制推薦入試定員 58 名（入学者数 44 名）、③一般入試として、特待生入試定員 10 名（入学者数 2 名）・一般入試前期定員 151 名（入学者数 105 名）・一般入試後期定員 24 名（入学者数 12 名）、④大学入試センター試験利用入試定員 53 名（入学者数 30 名）、⑤その他、社会人特別入試・2 年次転入試・3 年次転入試・3 年次編入試・GSE 外国人特別入試募集枠はそれぞれ若干名（入学者数 3 名）となり、1 年次生の定員 470 名の募集に対して 340 名の入学者となった。また、収容定員に対する在籍学生数は 2015 年 5 月 1 日現在、収容定員 1,880 人に対して在籍者数が 1,509 人であった。※7

各学科の入学定員に基づいて入試形態ごとの募集定員を設定し、募集定員に従って合格者を決定することで、適切な入学定員となるよう配慮している。

【国際教養学部】

2015 年度の入学生は国際教養学科 126 名（入学定員 240 名）で定員割れとなった ※8。2015 年 5 月 1 日時点での各学科の収容定員に対する在籍学生数比率は学科収容定員 960 名に対し 595 名で 0.62 であり ※9、0.8 未満の改善勧告の状況である。

【人間生活学部】

入学志願者数、入学確定者数、入学定員充足状況は、教授会において報告、確認されている。2015 年度の入学生は生活デザイン・建築学科 54 名（入学定員 70 名）、管理栄養学科 78 名（同 70 名）、幼児教育心理学科 82 名（同 90 名）であり、３学科のうち 2 学科が定員を下回り、学部全体として 16 名の定員割れとなった ※8。2015 年 5 月 1 日時点での各学科の収容定員に対する在籍学生数比率は、生活デザイン・建築学科が 0.83(学

科収容定員 280 名に対し 231 名)、管理栄養学科が 1.05（同 280 名に対し 294 名)、幼児教育心理学科が 0.98（同 360 名に対し 351 名）であり、生活デザイン・建築学科のみが基盤評価未充足の努力課題のカテゴリーに該当しているが、人間生活学部全体の在籍学生数比率は、0.95（収容定員 920 名に対し 876 名）で概ね問題ない数値といえる ※9。

【言語文化研究科】

学生の受け入れ方針と学生募集、入学者選抜の実施方法は整合性がとれており、規定において、学生の受け入れの適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしている。具体的には『広島女学院大学大学院入試委員会規程』※10および『広島女学院大学大学院入学者選抜規程』※11において、これらを明示し、本規程に基づき実施を行っている。

【人間生活学研究科】

学生の受け入れ方針と学生募集、入学者選抜の実施方法は整合性がとれており、入学者の選抜に関しては『広島女学院大学大学院入試委員会規程』※10および『広島女学院大学大学院入学者選抜規程』※11において、責任主体・組織、権限、手続を明確にしている。しかしながら、定員の充足率は 0.5 未満であり、定員充足に向けた施策を講じる必要がある。

（４）学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

【大学全体】

上述の通り、学生の受け入れ方針に基づき学生募集および入学者選抜など実施方法については、その責任主体として入試委員会が定期的な検証を行なっている。入試委員会の構成員は学長、副学長（2015 年度入試から)、入試部長、国際教養学部長、人間生活学部長、国際教養学科主任、同学科副主任、生活デザイン・建築学科主任、管理栄養学科主任、幼児教育心理学科主任で、2015 年度入試に関しては 14 回の委員会 ※12を開催し、入学試験の大綱に関する事項や入学試験に関し学部教授会が必要と認めた事項などを審議することとなった。

各年度の入学試験が終了した時点で、入試委員会において入試結果の総括を行い、学生募集及び入学者選抜の適切性について検証し、次年度に向けての改善について検討を行っている。ただ、その検討内容は入学者数の確保に関することに限定されたものになっており、学生の受け入れ方針との整合性を検証するには至っていない。学生の受け入れ方針との整合性の検証は、自己点検・評価委員会のアドミッション評価小委員会において実施することになっているが、入試委員会との連携が明確でないため十分な検証が行われていないのが現状である。今後、早急に定期的に検証する体制を整備したうえで点検を実施していく必要がある。

【国際教養学部】

学部単位では定期的な検証は行っていないが、学生の受け入れ方針に基づき学生募集

および入学者選抜など実施方法については、その責任主体として上述の入試委員会が定期的な検証を行なっている。

【人間生活学部】
学部単位では定期的な検証は行っていないが、学生の受け入れ方針に基づき学生募集および入学者選抜など実施方法については、その責任主体として上述の入試委員会が定期的な検証を行なっている。

【言語文化研究科】
定期的な検証をするシステムがない。

【人間生活学研究科】
現状では定期的な検証をするシステムがない。

２．点検・評価
【大学全体】
●基準５の充足状況
上述の通り、収容定員に対する在籍学生数は 2015 年 5 月 1 日現在、収容定員 1,880 人に対して在籍者数が 1,509 人で定員充足率が 0.80 で定員未充足となり努力課題となった。
管理栄養学科を除いて学生定員を確保することができていないので、その原因を特定し早急に対処するとともに、全学的な改組も含めて根本的な改善策を検討し実施する必要がある。
学生募集及び入学者選抜と学生の受け入れ方針との整合性を検証する体制が整っているとはいえないので、早急に整備する必要がある。

①効果が上がっている事項
定員未充足での努力課題ではあるが、以下で記す通り、高校教員対象説明会、オープンキャンパス、高校訪問（2015 年度述べ校数 392 校）、進学説明会などを通して、2016 年度入試に向けてポイントを絞った入試広報活動を行っている。

②改善すべき事項
学科により差異は認められるが、全体的にＡＯ入試や指定校制推薦入試・公募制推薦入試などの前半型に依存しているため、いかに後半型の一般入試や大学入試センター試験利用入試（授業料減免のある入試制度を含む）に志願者を動員できるかが長年の課題となっている。
2015 年度入試においても定員確保には至らなかった。入学生は国際教養学科 126 名（入学定員 240 名）、生活デザイン・建築学科 54 名（同 70 名）、管理栄養学科 78 名（同 70 名）、幼児教育心理学科 82 名（同 90 名）であり、３学科において定員を割り、大学全体

として 130 名の定員減となった ※8。国際教養学部では改組以来継続している定員割れの状況を押しとどめることができず、さらに減少する傾向が顕著となったため、カリキュラム全体の見直しを含めた抜本的な改編を急ぐ必要がある。

人間生活学部では、管理栄養学科がＡＯ入試を導入したことによって＋10 名の入学者を確保し、全体で 78 名の入学者を得ることができ定員確保につながった。一方、生活デザイン・建築学科では前年度を 11 名上回ることはできたが、なお定員割れが解消されていない。さらに、幼児教育心理学科も定員を割る結果となった。学部全体の入学者は 214 名となり、学部としても 16 名の減となった。2016 年度入試においても近隣大学に幼児教育系の学科が新設されることが予想されるため一層厳しい状況が続くことになり、早急の対策が求められる。

【国際教養学部】

●基準５の充足状況

① 効果が上がっている事項

国際教養学科においては 13 のメジャーを、英語系（GSE、英語教育、英米文化）、国語系（国語教育、日本語・日本語教育、日本文学・日本文化）、社会系（アジア・アフリカ研究、環境学、都市文化、公共政策、平和学）、ビジネス情報系（ビジネスデザイン、情報科学）の 4 系統に整理して学生募集の広報活動を行なった。

②改善すべき事項

人間生活学部管理栄養学科が行なったＡＯ入試にならって、国際教養学科では上記の 4 系メジャーのアドミッションポリシーにもとづいたＡＯ入試の導入を検討していきたい。

【人間生活学部】

●基準５の充足状況

①効果が上がっている事項

学生の受け入れ方針は学内で十分に周知され、同時に受験生を含む一般社会に公表している。特にＡＯ入試、オープンセミナー入試、公募制推薦入試のように独自性の高い入試の実施内容については、学科会、入試委員会、教授会で検討され最終的に決定した内容を「学生募集要項」※1「ＡＯ入試リーフレット（管理栄養学科）」※4 に掲載し、高校訪問、オープンキャンパス、ホームページなどで入試の趣旨と内容を十分に広報し、かつ問い合わせに対しては小まめに対応している。一方、入学定員の充足に向けて入試制度、入試科目などの見直しを必ず行っており、2015 年度は管理栄養学科でＡＯ型入試を新規に導入した。この入試では調理実技を入試科目に入れ、従来の入試とは異なる個性を有する志願者の募集に一定の成果を上げている。

②改善すべき事項

定員充足率について、人間生活学部の３学科間で多少の格差がみられる。

【言語文化研究科】

●基準５の充足状況

定員充足状況については、努力課題である。毎年、大学院の進学を希望する学部研究生の受け入れを行っているが、こうした研究生の実力を大学院での研究が可能なレベルまで引き上げることが必要である。

①効果が上がっている事項

特になし。

②改善すべき事項

博士前期課程の定員充足率は 0.33（日本言語文化専攻は 0.41、英米言語文化専攻は 0.25）であり、両専攻とも充足率 0.5 未満である。また、博士後期課程の定員充足率は 0.22（日本言語文化専攻は 0.44、英米言語文化専攻は 0）と低くなっており、早期に会改善策を検討することが必要である。

【人間生活学研究科】

●基準５の充足状況

定員充足率が 0.5 未満であり努力課題である。

①効果が上がっている事項

学生の受け入れ方針と学生募集、入学者選抜の実施方法は整合性がとれており、入学者の選抜に関しては『広島女学院大学大学院入学者選抜規程』※11において、責任主体・組織、権限、手続を明確にしている。

②改善すべき事項

当面、充足率 0.5 を超えるように入試広報の在り方、奨学金給付制度の見直しなどを検討する必要がある。

３．将来に向けた発展方策

【大学全体】

①効果が上がっている事項

2015 年度の学生募集に向けた取組に関しては､2014 年度の学生募集の改善すべき事項をより効果的に実行するよう、以下の通り、教員対象説明会、オープンキャンパス、高校訪問、進学説明会など実務的な業務を行なった。

(1)教員対象説明会

2015 年度入試に向けた高校教員対象説明会を 6 月に行ない 33 名の来場者となった。国際教養学部国際教養学科、人間生活学部生活デザイン・建築学科、管理栄養学科、幼児教育心理学科の紹介に続き、入試説明や就職状況の説明をプログラムに取り入れた。

また、学科紹介の展示や学内の施設見学も同時に行なった。本年度に関しては、従来の説明会よりも学生のプレゼンテーションをできるだけ多く組み込み、本学における教育を通しての学生の成長ぶりをアピールできるように工夫した。

(2)オープンキャンパス

2014 年度のオープンキャンパスは広報委員会のもとにオープンキャンパス委員会を設け、例年通り年 5 回と、大学祭とクリスマスのミニオープンキャンパスを 2 回、また春のオープンキャンパスを 1 回開催する予定であったが、8 月のオープンキャンパスは台風のため、開催を見送ることとなった。

いずれの回も学部・学科の紹介、入試制度の説明、模擬授業、施設見学、学科個別相談、学生生活や入試に関しての個別相談などをプログラムに組み込んだが、6 月から 7 月のオープンキャンパスではオープンセミナー入試への導引、9 月のオープンキャンパスでは管理栄養学科のＡＯ入試や指定校制推薦入試、公募制推薦入試などの広報を中心とした。

なお、各回の来場者数は、別表「オープンキャンパス来場者数」※14に示す。

(3)高校訪問

高校訪問は通常入試課員が行なっているものと学科ごとに教員が行なっているものがあるが、前者は入試課員 5 名で延べ校数 559 校、後者は教員・入試課員 57 名で延べ校数 266 校ほど高校訪問を行なった。

また後者においては本年度に関しては前半型重点校、後半型重点校、英語系重点校に分類し、それぞれの高校に向けた特化した高校訪問を年 2 回行なった。全体に対しては 5 月～6 月にオープンキャンパス、オープンセミナー、指定校制推薦入試を、前半型重点校は多様進路高校とし 9 月～10 月に推薦入試を、後半型重点校・英語系重点校に対しては 11 月～12 月に一般入試やセンター利用入試を促進することを訴求要素とした。

具体的な日程や内容は、アクセスオンライン（情報管理システム）に記してある。

(4)進学説明会

進学説明会は、業者主催の会議場などで行われるものと、高校内で実施されるガイダンスを行った。前者は 60 件で 696 名の来場者を迎えた。また、後者に関しては入試課員 5 名によるものが延べ校数 51 校、教員 38 名によるものが延べ校数 85 校であり、参加者数はそれぞれ 493 名、1,057 名となった。

②改善すべき事項

上述１（３）にあるように、定員確保に向けた方策として、2016 年度入試に向け、以下の 5 点の入試制度の見直しや強化を行うこととした。㋐国際教養学科、幼児教育心理学科でＡＯ入試を導入し、定員はそれぞれ 10 名、5 名とする。㋑公募制推薦入試において評点平均値の要件を設けない。㋒一般入試前期Ａ日程において、試験会場に那覇会場を追加する。㋓授業料減免のある入試制度（特待生入試・大学入試センター試験成績優秀者優遇制度（センター試験利用入試Ａ日程））を強く広報する。㋔近隣大学の動向を

考慮し受験生が出願しやすくなることを期待しインターネット出願を導入する。

入試委員会とアドミッション評価小委員会が連携して学生募集・入学者選抜と学生の受け入れ方針との整合性を定期的に検証できるようにしていく。

2016 年度の学生募集に向けた取り組みに関しては、2015 年度の学生募集の改善すべき事項をより効果的に実行するよう、以下の通り、教員対象説明会、オープンキャンパス、高校訪問、進学説明会など実務的な業務を行った。

(1)教員対象説明会

2016 年度入試に向けた教員対象説明会を 6 月に行ない 44 名（2015 年度は 33 名）の来場者となった。プログラムは前年度と同様、国際教養学部 国際教養学科、人間生活学部 生活デザイン・建築学科、管理栄養学科、幼児教育心理学科の紹介、入試説明や就職状況、学科紹介の展示や施設見学とした。また、本年度も各学科の学生プレゼンテーションを通して、学生の成長ぶりをアピールできるように工夫した。

(2)オープンキャンパス

2015 年度のオープンキャンパスはオープンキャンパス委員会のもとに、例年通り年 5 回と、大学祭とクリスマスのミニオープンキャンパスを 2 回、また春のオープンキャンパスを 1 回開催することとした。いずれの回も学部・学科の紹介、入試制度の説明、模擬授業、施設見学、学科個別相談、学生生活や入試に関しての個別相談などを主なプログラムとした。6 月から 7 月のオープンキャンパスではオープンセミナー入試への動員、9 月のオープンキャンパスでは管理栄養学科に加え、国際教養学科や生活デザイン・建築学科のＡＯ入試や指定校制推薦入試や公募制推薦入試などの広報とした。

なお、各回の来場者数は、別表「オープンキャンパス来場者数」※14に示す。

(3)高校訪問

高校訪問は通常入試課員が行なっているものと学科独自に行なっているものがあるが、前者は入試課員 4 名で延べ校数 395 校、後者は教員・入試課員 57 名で延べ校数 228 校ほど高校訪問を行なった。

また後者においては本年度に関しては前半型重点校、後半型重点校、英語系重点校に分類し、それぞれの高校に向けた特化した高校訪問を年 2 回行なった。全体に対しては 5 月～6 月にオープンキャンパス、オープンセミナー、指定校推薦入試を、前半型重点校は多様進路高校とし 9 月～10 月に推薦入試を、後半型重点校・英語系重点校に対しては 11 月～12 月に一般入試やセンター利用入試を促進することを訴求要素とした。

具体的な日程や内容は、アクセスオンライン（情報管理システム）に記してある。

(4)進学説明会

進学説明会は業者主催の会議場などで行われるものと、高校内でのガイダンスを行なった。前者は 63 件で 450 名の来場者を迎えた。また、後者に関しては入試課員 4

名によるものが延べ校数 58 校、教員 38 名によるものが延べ校数 78 校であり、参加者数はそれぞれ 802 名、763 名となった。

【言語文化研究科】

①効果が上がっている事項

在籍する大学院生、学部研究生に対する熱心な指導を通して、これらの学生の知人が関心を寄せている

②改善すべき事項

毎年、大学院の進学を希望する学部研究生の受け入れを行っているが、こうした研究生の実力を大学院での研究が可能なレベルまで引き上げることが必要である。

【人間生活学研究科】

① 効果が上がっている事項

最終的に出願、入学には至っていないが、社会人からの問い合わせは毎年派生している。

② 改善すべき事項

少子化の影響で近隣の国公立大学の大学院入試が易化したこと、学部学生の就職求人状況が好調なことなどにより、本研究科への進学者が減っている。このような社会情勢を考慮した大学院教育内容の見直し、広報の改善が必要である。

【根拠資料】

※１　「2015 年度学生募集要項」Ｐ１

※２　「2015 入試ガイド」

※３　本学ＨＰアドミッションポリシー https://www.hju.ac.jp/guide/admission-policy.php

※４　「ＡＯ入試リーフレット（管理栄養学科）」

※５　「大学院学生募集要項」

（言語文化研究科博士前期課程・博士後期課程、人間生活学研究科修士課程）

※７　資料：2015 年度入試結果データ（入試形態別）

※８　資料：2015 年度入試結果データ（学科別・学部別）

※９　資料：在籍者数一覧表（2015 年 5 月 1 日現在）教授会資料

※10 『広島女学院大学大学院入試委員会規程』（規程集 p 3101）

※11 『広島女学院大学大学院入学者選抜規程』（規程集 p 3103～3104）

※12　2014 年度入試委員会議題一覧

※14　「オープンキャンパス来場者数」（2013 年度～2015 年度）

欠番　※6、※13

［基準６］　学生支援

１．現状の説明

（１）学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。

奨学金に関すること（⑦～⑯）、障がいのある学生支援に関すること（⑥）、心身の健康に関すること（⑰）、安心で安全なキャンパスライフに関すること（①～③）、学修・進路支援に関すること（④，⑤）について、学内規程または内規を定め、学生支援に関する方針を明確にしている。

（根拠資料①広島女学院大学人権問題委員会規程 2023、②広島女学院大学キャンパス・ハラスメント防止ガイドライン 2025、③広島女学院大学キャンパス・ハラスメント問題委員会規程 2027、④広島女学院大学キャリア支援委員会規程 2081、⑤広島女学院大学アカデミック･サポート･センター運営規程 2083、⑥障がい学生高等教育支援室規程 2181、⑦ゲーンス学術奨励賞規程 2301、⑧広島女学院大学・同大学院貸与奨学金規程 2303、⑨広島女学院大学貸与特別奨学金規程 2307、⑩ゲーンス奨学金給付規程 2309、⑪広島女学院大学在籍留学生奨学金規程 2609、⑫広島女学院大学外国人奨学金規程 2613、⑬広島女学院大学私費外国人留学生授業料減免規程 2617、⑭広島女学院大学特待生（給付特別奨学金）規程 2711，⑮広島女学院大学大学入試センター試験利用入試成績優秀者優遇制度規程 2721、⑯広島女学院大学国際教養学科 GSE メジャー選択学生特待生度規程 2731、⑰学生相談室運営内規）

奨学金に関しては、学内奨学金５種類（うち２種類が給付、他は貸与）、入試による授業料減免制度 4 種類、授業料徴収猶予制度を設けている。

（２）学生への修学支援は適切に行われているか。

2015 年度の留年者及び休・退学者数は、留年者数（改組前学部）38 名、休学者数（改組前学部）3 名、（新学部）14 名、除籍（新学部）1 名、退学者数（改組前学部）4 名、（新学部）13 名、大学院留年者 1 名、休学者 1 名であった。

教務課職員と各学科教員（主任・ゼミ担当教員・チューター）と連携し、留年者及び休学者への継続的な支援を実施した。やむを得ず退学となった者の中には、経済的困難さを理由とする者がおり、奨学金制度についての見直しが必要である。今後、退学を避けるために、退学理由として勉学に対する意欲の喪失や、進路変更があげられていることから、学修サポート体制や、転学科、転学部等進路変更に対する助言指導を充実させる必要がある。（資料［基準６］－１　２０１５年度退学者数等）

学生の能力に応じた補修・補充教育については、アカデミック・サポート・センターが主としてかかわった（資料［基準６］－２　2015 年度　アカデミック・サポート・センター活動報告）。

「2015 年度アカデミック・サポート・センター年次報告（抜粋）」に示されたように、講習会・セミナーの開催、ラーニング・アドバイザーによる個別学修相談、特別なニーズを持つ学生への学修支援（聴覚障害学生のためのノートテイカー・パソコンテイカーの訓練、情報交換、授業支援の実施）を行った。ラーニング・アドバイザーによる個別

学修相談においては、2015 年 10 月から図書館のラーニング・アドバイザーをアカデミック・サポート・センターに統合し、4 名のアドバイザーによる学修支援を実施した。「ラーニング・アドバイザー個別学修相談利用学生内訳」によると、のべ利用学生数が多いのは、国際教養学科 179 名と管理栄養学科 200 名であり、生活デザイン・建築学科（11 名）、幼児教育心理学科（27 名）は少なかった。これは、アドバイザーの専門が、日本語日本文学系、英語英文学系、管理栄養学系であったことと関係していると推測される。学年別にみると、国際教養学科では学年差はないが、管理栄養学科では 3 年生が 170 名と突出していた。レポートの書き方や、プレゼンテーション資料の作り方など、1・2 年生のうちに習得しておきたい内容であり、今後、1・2 年生の利用を積極的に進めたい。内容別には、学修相談（国家試験対策等）184 件、パソコン等使用方法 131 件、レポート・論文作成 126 件が多かった。パソコン等使用方法については、情報リテラシーの授業だけでは扱えない内容を補完している可能性もある。

障がいのある学生に対する修学支援については、「障がい学生高等教育支援室」を中心に行った（資料[基準６]－３　JASSO 提出調査票「平成 27 年度（2015 年度）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査（大学・大学院用）」）。

障がい学生支援に関する専門委員会等として、障がい高等教育支援室運営委員会を置き、障害学生支援担当部署として、専門部署である「障がい学生高等教育支援室」を設置している。専任スタッフとして、障害学生支援を専門にする職員 2 名（アルバイト）、兼任スタッフとして、室長 1 名（総合学生支援センター長兼務）で支援を実施した。2014 年度は、兼任スタッフとして副室長 1 名が加わっていたが、学内事情により 2015 年度はスタッフ 1 名減で運営となった。障害学生支援は、障がい学生高等教育支援室が中心となり、健康管理センター、カウンセリングルーム、アカデミック・サポート・センター、教務課、学生課と連携して支援に当たった。支援室のリーフレットの作成や、ホームページ等で学内外に広報したこともあり、2015 年度は、入学前相談事例が 2 事例あった。2015 年度の障害のある学生の入学者数は、聴覚障害 1 名、発達障害（診断書有）2 名、精神障害 2 名、その他の障害 3 名であった。2015 年度の障害学生数は、視覚障害 3 名、聴覚・言語障害 2 名、肢体不自由 2 名、病弱・虚弱 1 名、発達障害（診断書有）5 名、精神障害 15 名（うち支援障害学生 11 名）、その他の障害 3 名の計 31 名（要支援障害学生 27 名）であった。支援内容は、授業支援としては、点訳・墨訳、教材のテキストデータ化、教材の拡大、ガイドヘルプ、ノートテイク、パソコンテイク、試験時間延長・別室受験、解答方法配慮、パソコンの持ち込み使用許可、注意事項等文書伝達、使用教室配慮、教室内座席配慮、FM 補聴器/マイク使用、専用机・椅子・スペース確保、読み上げソフト・音声認識ソフト使用、講義に関する配慮（録音許可、板書撮影許可等）、配慮依頼文書の配布、出席に関する配慮（遅刻、欠席、途中退室等）、学外実習・フィールドワーク配慮、その他（授業時のイヤホン装着許可）であった。授業以外の支援としては、学生生活支援において、居場所の確保（占有スペース、仲間づくり等）、個別支援情報の収集（出身校との連携等）、情報取得支援（行事案内、休講情報等）、社会的スキル指導において、自己管理指導（スケジュール管理等）、保健管理・生活支援において、専門家によるカウンセリング、休憩室・治療室の確保等、進路・就職指導において、障害学生

向け求人情報の提供、就職先の開拓、就職活動支援であった。

発達障害が疑われ、何らかの支援を行っている学生数は7名であった。支援内容は、授業以外の支援において、居場所の確保（占有スペース、仲間づくり等）、対人関係配慮（対人スキル、トラブル対応等）、専門家によるカウンセリング、休憩室・治療室の確保等であった。

奨学金等の経済的支援については、学内奨学金制度、授業料減免制度、授業料徴収猶予制度を設けているものの、これら学内の制度だけでは十分でなく、多くの学生がJASSOの奨学金（貸与）を利用している。2015年度JASSO第1種奨学金利用者数は179名、第2種奨学金利用者数は439名であり、第1種と第2種の併用者が39名であった。2015年5月1日学生数が1524名であり、そのうち579名がJASSOの奨学金を利用していることになる。これは、全学生の38%に当たる。2015年度までの第1種奨学金利用者数を見ると、学生数減少にもかかわらず、2013年度までと比較し、2014年度、2015年度の利用者数が多くなっており、学生の経済生活は厳しいことがうかがえる。

一方、留学生に対する奨学金制度は、学内奨学金6種類（大学院4種類、学部2種類）、文部科学省による奨学金1種類、公益財団による奨学金4種類、JASSOによる奨学金1種類あり、すべて給付型であり、一般学生に比べると、かなり恵まれた制度になっている（資料[基準６]－４a,b,c　奨学金受給状況一覧）。

学生の通学支援として、JR広島駅と大学、アストラムライン白島駅と大学間のスクールバスを運行している。2015年度の実施状況を示す。学生の利用が多いJR広島駅からの路線バスの本数が十分でなく、特に朝の始業時間に合わせた運行ダイヤとなっていないことから、多くの学生が利用している。有料のスクールバスであるが、運営上差額を大学が負担しており、朝夕の利用者数の多い時間帯に、スクールバスの便を見直すなどが必要である。また、アストラムライン牛田駅からの利用者数が少ないことから、2015年度で牛田駅と大学間のスクールバス（実際はタクシー利用）を一時中断した（資料[基準６]－５　通学支援状況）。

（３）学生の生活支援は適切に行われているか。

新入生の大学適応を促進させるために、4月オリエンテーション期間中に、心理検査を実施する時間を設け、入学1か月後のフィードバックをすることで、適応支援を行えるように、オリエンテーションの一つのプログラムとして恒例化している。また、秋学期に、職員による1年生全員面接を行っている。

4月オリエンテーション期間に、新入生全員を対象に心理検査を実施すると同時に、カウンセリングルームと健康管理センターの利用について広報を行っている。心理検査の結果については、学内専任カウンセラーにより、学生個人にフィードバックし、カウンセリングルームや健康管理センターにつなげることができるようにすると同時に、教授会に学科、学部ごとの集計結果を報告している。（資料[基準６]－６　２０１５年度心理検査結果報告）

カウンセリングルームでは、専任カウンセラー1名、非常勤カウンセラー1名（週1回勤務）で、学生のメンタル問題に対応した。2015年度新規来談者数136名、のべ来談者数274名、のべ面接回数580回であった。（資料[基準６]－７　学生相談専任カウンセ

ラー集計結果)、(資料[基準６]－８　学生相談非常勤カウンセラー集計結果)

年度初めの４月から６月にかけて新規来談者数が多く、その理由として、心理検査結果のフィードバックを目的とした来談が主であるが、入学や進級に伴う心理的不安定による来談理由もあると想像される。

健康管理センターは、常勤保健師１名が、学生の心身の健康問題に対応している。2015年度の健康管理センター利用者数は、1285人であり、内訳は、応急手当626名(48.7%)、健康相談326名（25.4%)、居場所333名（25.9%）であった（資料[基準６]－９　2015年度健康管理センター利用状況)。また、月１回、精神科医師（学校医：精神科病院勤務の女医）による心の健康相談を実施しており、2015年度は８回実施し学生６名が利用した（資料[基準６]－１０　こころの相談日（精神科医師による相談）利用状況)。

2015年度各種ハラスメント防止に向けた取り組みとしては、障害者差別解消法施行に向けて、障がい学生高等教育支援室のスタッフによる講演会を行った。本学における障がい学生に対する支援は、2011年度から３年間文部科学省「私立大学戦略的研究形成支援事業」に採択された研究プロジェクト「障がい者のための高等教育支援開発研究」を全学的に実施した経緯もあり、障害者差別の禁止と合理的配慮の不提供の禁止に関する学内の理解は円滑に進んだと考えられる。

（４）学生の進路支援は適切に行われているか。

全学共通科目として、「キャリアプランニング」を必修科目として開講した。2015年度のキャリアプランニングのシラバスによると、授業の目的は「①就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。②初年次セミナーと連携しつつ、広島女学院大学の学生として必要な知識や技能を習得する。③講義と並行してグループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してのグループの一員として書していく力を養成する。」であった。受講者の授業評価アンケートでは、国際教養学部における授業満足度で、「１強くそう思う」26.3%、「２そう思う」43%、人間生活学部で「１そう思う」30.0%、「２そう思う」43.5%であった。両学部とも、７割前後の学生の授業満足度が高かったが、１年生全員必修科目であり、満足度をさらに上げるためのプログラム内容の検討も必要であろう。

本年度の就職状況は、卒業者数386名のうち求職者数365名、就職者数355名、大学院進学者２名であり、内定率は97.3%（就職者数／求職者数）となり2014年度(95.2%)を上回った。また、実就職率は92.4%（就職者数／（卒業者数-大学院進学者)）であり、この指標でも2014年度（88.3%）を上回る実績を残すことができた。

本年度に実施した就職支援は次のとおりである。

①学生のニーズをとらえたきめ細かい就職支援メニューの実施

（4年生対象）

・学内企業単独説明会　　17社56名参加（11名就職決定）
・2015卒向け学内企業合同説明会　　２回49社参加（32名就職決定）
・就職ガイダンス(年間14回)の実施、内容の充実（3年生対象）（内容については別記）
・志望業界・職種別研究セミナーの充実（3年生対象）

・内定者による就職活動報告　10 回 105 名参加（平均 11 名）
・業界セミナー　16 回 272 名参加（平均 17 名）
・就職情報サイトより各種セミナー　14 回　334 名参加（平均 24 名）（3 年生対象）
・教職・公務員志望者への課外講座による支援（3・4 年生対象）
・教職模擬テスト及び解説会　2 回開催　72 名参加
・教員採用試験 2 次試験対策(学外)1 回開催　9 名参加（5 名合格）
・公務員模擬テスト及び解説会　2 回開催　32 名参加
・筆記、面接試験対策支援強化（3 年生対象）
・マナー講座　18 回 179 名参加（平均 10 名）
・ＳＰＩ試験対策　16 回 261 名参加（平均 17 名）
・面接対策講座　4 回 146 名参加（ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ 171 名）
（3 年生対象）
・2 月に合同企業セミナーを開催し 2 日 48 社参加（3 年生対象）　学生 201 名の参加

②保護者への就職サポート情報提供
・保護者懇談会での教職員を交えての就職サポート情報の提供、支援強化
教育懇談会を 10 月 24 日(土)13：30～17：00 にアセンブリーホールにて開催。キャリアセンター事務課長から「本学における就職支援の取り組み」、内定者 2 名の「私の就職活動報告」、株式会社マイナビ中国支店長土山氏より「就活生への保護者のかかわり方」の講演を行った。プログラム終了後学科別懇談会及び就職相談会を開催し、参加申込 160 名に対して 140 名の出席があった。就職サポートの観点では、保護者との懇談を「就職相談会」として地方でも開催していければと考えている。

③キャリアアップのための資格取得支援
・課外講座開催による支援
簿記検定対策講座（定員に満たず不開講）
秘書検定対策講座（定員に満たず不開講）
宅地建物取引主任者試験対策講座（定員に満たず不開講）

・学内検定試験による支援
日本語検定試験（6 月、11 月学内実施）
2 級受験者 16 名、合格者 2 名
3 級受験者　9 名、合格者 9 名
秘書検定試験（6 月実施）
準 1 級受験者 1 名、合格者 0 名
2 級受験者 12 名、合格者 9 名
3 級受験者 3 名、合格者 3 名

２．点検・評価
【総合学生支援センター】

●基準６の充足状況
一人ひとりの学生の特性に応じた支援が丁寧に行われている。

①効果が上がっている事項
アカデミック・サポート・センターにおける学生支援活動。
障がい学生高等教育支援室を中核とした障がいのある学生の修学支援。
健康管理センター・カウンセリングルームによる学生の心身の健康増進のための活動。
新入生の大学生活への適応促進のための支援活動。

②改善すべき事項
アカデミック・サポート・センターの学生利用者数の増加
障がい学生高等教育支援室の専任スタッフの配置。

【キャリアセンター】
●基準６の充足状況
〔点検・評価〕
学生の就職活動は、売り手市場といわれるが企業の厳選採用は継続中である。エントリーシートでは、自分について経験をもとに文章で表現しなければならない。経験値が足らない学生や経験を意味づけ（肯定化）できない学生にとっては、とてもハードルの高い選考となる。キャリアセンター事務課では、次の選考に進めるよう学生及び企業にあわせて面接を想定した添削を行った。第２次選考である筆記試験もパスできれば本学の学生の魅力を面接で伝えられるので内定率は格段と高まると感じられた。その理由に数年来内定を得られなかった地元企業でも筆記試験を通過した学生のほとんどが内定までこぎつけることができた印象がある。
３年次から開始の就職ガイダンスは、4 月のオリエンテーションより開始。就職活動の時期が２か月前倒しとなるためインターンシップが重要となることを想定し、例年より１か月前倒しでガイダンスを開始した。春期はインターンシップを前提とした内容のプログラムを構成。しかし、売り手市場といわれる状況からかガイダンス（平均 108 名参加）及びセミナーへの出席者は、昨年度と比較して激減となった。インターンシップ参加者も同様に減少となった。1 月 20 日に開催のガイダンス（湊学長応援メッセージ）では、188 名が参加し、今年のガイダンスでは最大の参加者となった。
３年次の業界研究及び各種セミナーは、賛同いただける企業の協力を得て実施した。学生の企業理解及び職業理解を行うことができたと実感している。ただ、本学学生の特徴として「素直」なので「話をよく聞く、メモを取る」は比較的できるのであるが、「疑問（探究）」に思うことがないので質問することができない状況が多々見られた。1 年次からの授業等で訓練していく必要を感じた。
３月から学生の自己理解強化のためキャリアカウンセラー（ＣＤＡ）１名を増員（週１日、10 月より週２日）し、学生の就職活動の支援を行った。在学生へのキャリアカウンセリング（のべ 181 名）及び自己肯定感をあげるためのセミナー（15 回開催、145 名参加）を開催した。

課外講座に関しては、参加者が減少のため取りやめる講座が増えた。秘書検定対策講座は、マナー講座として座学から実践的な講座へと変化させて開催し、直前の模擬テスト及び解説会を開催した。一方で教職員試験対策講座は、定員の 10 名に満たないため 1 年限り取りやめとなった。

①効果が上がっている事項

2015 年 3 月卒業生は、就職率（2.1%）及び実就職率（4.1%）が上昇。実就職率においては過去最高値となったことなど就職支援活動

① 改善すべき事項

就職ガイダンス及びセミナーへの学生参加者数の増加。

３．将来に向けた発展方策

【総合学生支援センター】

①効果が上がっている事項

ラーニングコモンズを全学的な取組としたい。

障がいのある学生に対する修学支援に全学的に取り組んでいることを内外に示すために、本学の対応要領を作成し、ホームページ等で公表する。

②改善すべき事項

障がい学生高等教育支援室に専任スタッフを置く。現在の雇用形態は、アルバイト 2 名であり、今後、発達障害のある学生の入学が増える可能性があることを考慮すると、ぜひとも専門職としてのスタッフの配置が望まれる。

奨学金については、給付型の奨学金を増やしたい。全国的な傾向でもあるが、本学においても、貸与型の奨学金を利用するだけでは不足する、学費や生活費を稼ぐために、多くの学生が長時間のアルバイトをしている。いわゆる「ブラックバイト」に従事する者もおり、学業に支障をきたしている例も見受けられる。このような状況を少しでも改善するために、大学が学内でできるアルバイトを提供する、学修に必要なパソコンの貸与やなど、学内学修環境整備が必要である。

【キャリアセンター】

①効果が上がっている事項

実就職率の向上を目指して、各学科及びゼミと共同で早期のキャリアセンター来室について学生に周知することなど全学的な取組をしていきたい。

②改善すべき事項

来年度も積極的に学内企業単独説明会を誘致していこうと考えている。また、CDA による「自己理解のセミナー」を 3 年次から取り入れ、インターンシップ先の企業選びから計画的に行い、学生のニーズをとらえたきめ細かい就職支援を展開していきたい。

就職ガイダンス（3 年生対象）においては、昨年同様春期オリエンテーション時から始動することとした。来年度は各ガイダンス後にセミナーを実施し、学生の理解度を深

めていく取り組みを行う予定である。

業界・企業・職種研究などを通して幅広い情報を学生に提供し、学生の視野を広げていく取り組みも引き続き行い、企業とのパイプも太いものにしていきたいと考えている。

就職活動への直接的な取り組みとして、筆記対策（ＳＰＩ等）も 6 月のガイダンス（筆記対策について）終了後から開始する予定である。

昨年度から開始した東京合説ツアーは、現地集合現地解散での形で継続。10 名（職員 1 名引率）が参加した。広島に居ては知りえない企業の説明を多数聞くことができた。また、完全アウェイ（学生の多さ）のなかでやっていける精神力を身に着け、ＯＧとの懇談で自信と勇気を与えてもらったことなど収穫の多いものとなった。なお、昨年参加した学生が自費にて同行してくれ、サポートしてもらえた。学生にとっては、とても心強かったはずである。

【根拠資料】

基準 6

1　2015 年度退学者数等

2　2015 年度アカデミック・サポートセンター年次報告(抜粋)

3　JASSO 提出調査票「平成 27 年度(2015 年度)大学、短期大学及び高等専門学校における障がいのある学生の修学支援に関する実態調査（大学・大学院用)」

4a　広島女学院大学奨学金制度一覧

4b　日本人学生が関係する奨学金（留学関係）

4c　留学生が関係する学内・学外奨学金一覧

5　2015 年度通学支援状況

6　2015 年度心身健康調査（GHQ）結果報告

7　学生相談専任カウンセラー集計結果

8　学生相談非常勤カウンセラー集計結果

9　2015 年度健康管理センター利用状況

10　こころの相談日（精神科医師による相談）利用状況

11　2015 年度就職ガイダンス

［基準７］　教育研究等環境

１．現状の説明

（１）教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

施設・設備の整備については、2013（平成 25）年 3 月に策定した第 1 次中期計画に「施設、設備の補修計画」及び再投資計画について触れているほか、毎年策定する事業計画の中でも、安全性等緊急性を勘案し、必要なものから実施することとしている。

授業等で使用する施設や図書館、学生会館的な施設は、集中的に整備したため、比較的新しいものが多いが、計画的な補修や学生ニーズに沿った改修、設備整備、更には将来的な財源の保有については、不十分である。

（２）十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

本学は、広島駅からバスで約１５分の距離にあり、きわめて閑静な住宅地に位置している。キャンパスは自然林に囲まれ、緑深い環境の地にあるので、隣接する民家には自然環境の保持に理解を求めながら隣接地の樹木、草木の伐採、除草を定期的に行っている。キャンパス内は平坦地が少なく、移動時には多少の困難が生じる。特に、車椅子での移動は単独では容易ではないので、行動補助要員が必要である。

2016(平成 28)年 4 月 1 日現在、本学校地面積は、202,472.33 ㎡、校舎延床面積は 40,220.34 ㎡である。校地については、設置基準上必要とされる面積 18,800 ㎡を 183,672.33 ㎡上回り、校舎面積についても同様に必要面積 12,264 ㎡を 27,956.34 ㎡上回っている。講義室及び実験実習室の延床面積は 8,350.43 ㎡。講義室 22 室、実験実習室 29 室、LL 1 室、コンピュータルーム 6 室、セミナールーム 14 室他を設置している。また、専任教員研究室は、全室個室で研究室面積は 1 室約 30 ㎡である。

言語文化研究科の教育研究施設として、講義室 4 室、共同研究室 1 室、院生研究室 1 室他がある。また、必要に応じて学部と共有施設も教育研究活動のために使用している。

人間生活学研究科も講義室 1 室、院生研究室 1 室、図書情報コーナー1 室、演習室 3 室他があり、言語文化研究科と同様に、学部との共有施設を教育研究活動のために使用している。

また、運動場や図書館等必要な施設・設備についても十分に整備している。

学内に点在する、教室棟、研究棟、管理棟、図書館などの全ての棟は、1Gbps の速度でネットワークを完備し、情報管理課がその管理、および運用にあたっている。インターネットとは、50Mbps と 25Mbps と 100Mbps の３回線で接続し、プロキシ―サーバを５台設置して負荷分散を行い、ストリーミング等のコンテンツにも耐え得る安定した回線速度を保っている。情報コンセントは、教室、準備室はもちろんのこと、学生集会室等を含み全てに設置、必要な情報機器は研究室、準備室等にほぼ 100%配備している。Wifi 環境は、学生会館においても整備し多くの学生が利用している。

情報設備を完備した教室等は、午後８時まで学生が自由に使用できる８教室を設け、合計 454 台のパソコンとプリンターを常設、午後７時までは学生 SCA(スチューデント・コンピュータ・アシスタント)若干名が、それぞれ分散して管理、指導助言にあた

っている。

また、情報管理課においては、貸し出し用パソコンを配備し、ゼミや卒論研究、フィールドワーク、教育実習等で利用されている。教員研究室においては１台以上のパソコンと iPad１台を配備し学生の指導に利用している。

ファイルサーバに関しては、学生用、教職員用と２つのサーバが稼働しており、全てのユーザに個人用のフォルダーを作成し、データの保管等、課題の提出、教材の提示、事後学習ができるよう動画等の授業用コンテンツの公開にも利用している。

授業支援システムが付加されたポータルサイトシステムを導入し、学生が自宅からインターネットに接続されたパソコンから自己の ID、パスワードにより授業毎（１５回）の問題提示の確認、課題の提出等を行い自宅等からユビキタスな環境で自己学習ができる環境を整備し活用している。

施設の維持・管理、安全・衛生の確保については、限られた予算の中で、緊急性の高いものを中心に、学生の学修と教員の教育研究環境の整備に努めているが、老朽化しているものもあり、計画的な整備が必要である。

（３）図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

2015 年度の図書予算は 2400 万円であった。内、図書購入は 2931 冊、14、455、584 円であった。また、各学科教具による特別予算からの図書購入は 20 冊、345、020 円であった。特別予算からのＤＶＤは 2 点、87、210 円、寄贈は 466 冊、539、909 円、移籍が３冊、14、700 円、個人研究費から 12 冊、119、244 円であった。本学の蔵書数は 284、510 冊、視聴覚 1498 点、ＣＤ―ＲＯＭ102 点、ＤＶＤ―ＲＯＭ３点となった。

情報検索に関して、外部情報データベースとして、CiiNii、メディカルオンライン、G-serch、Summom、RefWorks、電子ジャーナルとして、電子ジャーナル GALE INFOTRAC、電子ジャーナル ProQuest、JSTOR(Art&Science Ⅰ、Language&Literature)、ジャパンナレッジ Lib、データベースとして、朝日新聞記事データベース聞蔵Ⅱビジュアル、Britannica Online Japan、医中誌を契約した。

学術雑誌に関して、1150 万円の予算のもと、今年度も各学科の要求通りの逐次刊行の雑誌を購入した。以上、図書の質・量、学術雑誌、電子媒体ともに、本学の規模としては適切であると言える。

図書館の専任職員は５名、派遣１名、全員司書資格を有している。業務分担を記すと、１．総務・企画　麻尾課長　　２．情報管理受入　田尾　　３．情報管理目録　久保　４．情報管理逐次刊行物・会計　加納　　５．情報管理個人研究費・公的研究費　関谷　６．情報サービス参考　應本　　７．情報サービス閲覧　関谷　である。なお、夜間は派遣１名が対応した。

（４）教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

学生数約 1,500 名と小規模校であることを生かして、チューター制を設け、学生一人ひとりを大切にした教育方法を実践している。また、2010（平成 22）年度より、本学図書館には、２階に研究個室 12 室、グループ演習室１室を設け、３・４階にはグループ演習室７室及びプレゼンテーションルーム１室を設け、個々の学生のニーズに応える形で

教育支援を行っている。

パソコン技能向上のため、コンピュータルーム６室（ノートパソコン 192 台、デスクトップパソコン 180 台）と e-ラーニングルーム１室（デスクトップパソコン 36 台）がある。

体育施設としては、2007（平成 19）年３月に竣工したクックホールの最上階に体育館がある。体育館にはバスケットコート１面、バレーコート１面、バトミントンコート４面があり、体育実技及びクラブ活動で使用している。また、運動場には 200ｍトラック、テニスコート４面、エスキーコート３面、弓道場が整備されている。

実験実習助手や学生コンピュータ・アシスタント（SCA）等、職員、学部生が、授業の補助業務に携わり、担当教員が円滑な授業を行うための助けを行っている。

2016（平成２８）年に学術研究等への一層の取組みの推進とその研究成果の明確化を図るため、個人研究費の一律助成を見直し、専任教員への一律助成 15 万円以外に、学内の学術研究助成制度（一般部門、学会発表部門、作品発表部門）を設け、公募を行うこととしている。

専任職員にも、個人研修費という形で一律助成が行われていたが、2016（平成 28）年度から、SD 研修の拡充強化及び効果的な研修制度への取組の観点から、一律助成を廃止した。学内研修会の拡充や各種研修会への派遣等体系的な人材育成を主眼とする制度へ移行することとしている。

【総合研究所】

総合研究所の予算として、「広島女学院大学学術研究助成」がある。但し、「個人研究」と「共同研究」は予算削減の折、学生収容定員が充足され、経営が安定するまでの間、研究所委員会によって中止とした。そのため、今年度は、継続２年の２年目の共同研究が１件、590，336 円を助成した。また、「学術図書出版」１件、「特別助成（学会特別助成）」１件は、予算削減の状況下においても助成することとし、それぞれ、100 万円、84，000 円を助成した。

科学研究費は、１件が新規に採択され、４件が継続であった。また、他大学からの転入として１件あった。公益財団法人による助成が１件、継続が１件あった。今後は研究費は外部資金の獲得が必要となる。そのための支援を強化して行くことが求められる。科研費の説明会を経て、本学での説明会を 9 月 16 日（水）、9 月 18 日（金）の２回開催した。

（５）研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

2015 年 3 月 30 日に、学長の名において、「公的研究費の不正防止計画」を策定した。加えて、「公的研究費等の管理・運営体制」を定め、本学において想定される不正の要因・及び兆候、並びにそれらを解消するための具体策を一覧として明らかにした。また、2016 年２月９日に、学長の名において、「公的研究費の管理・監査の基本方針」を策定した。６月２日（火）12：20～12：50　公的資金使用説明会において、近年の不正使用の具体例を示し、不正使用に関与しない旨の説明を行なった。不正防止計画を実施し、研究活動費の不正使用、研究論文に係わる不正防止に努めている。さらに、「不正行為に係る告

発の処理に関する規程」（本学院規程第 442 号）により、相談窓口を設け、相談に応じるとともに、不正使用に関する通報の窓口を設け、通報に基づき調査を行なうこととしている。加えて、法人内部監査室による徹底した監査がなされ、不正防止体制は確立されている。

２．点検・評価

【大学全体】

●基準７の充足状況

①効果が上がっている事項

情報化設備、特にコンピュータ設備に関しては、８教室体制で IT 環境は充実した。このうち２教室では､学生が自由に利用できるヘッドホン､個人ブース等を完備しており、動画コンテンツの教材が利用できる環境が整備され、学生の利用率は高い。各教室にはプロジェクター、スクリーンを整備し、教員はパソコン、DVD 等のデジタル教材をスクリーンへ映写し、分りやすい授業にすべく配慮している。

②改善すべき事項

大学全体の予算が縮小する中で、教育研究等環境を整える予算も削減されている。

教育研究等施設については、比較的新しい施設が多いが、管理部門の施設を中心に 1981 年以前の施設もある。現時点では、計画的な実施に至ってはいないが、施設整備の補修については、学生等の安全を第一に、経営状況を勘案しながら、優先度の高いものから実施する必要がある。バリアフリーへの対応等については、一定の対応はなされているものの、今後道路改修等が必要となっている。

また、設備については、IT 機器を含め劣化しつつあるものがあり、段階的な更新が必要である。

こうしたことから、中期計画の見直しの中で、新たに年次ごとの設備整備・修繕計画を整理し、財政状況にも配慮しつつ、着実に実施していく。

【図書館】

●基準７の充足状況

①効果が上がっている事項

学習支援は総合学習支援センターにおいて行なわれているが、図書館においてもラーニング･アドバイザーが常駐して行なっている｡学生からの様々な質問に対応している。初年次セミナーの授業の１回分を図書館利用の説明としている。１年生でもあり、説明の全ては理解できないとしても、今後の図書館利用への契機となる。３・４年生に対しては、ゼミ単位で教員の希望により、ガイダンスを行なっている。

②改善すべき事項

ラーニング・アドバイザーの存在が全学生に周知されているとは言えず、また、年２回行なう、ブックハンティングも参加者も６名で多いとは言えない。広報のあり方を検討すべきと思われる。また、ラーニングコモンズとしての場はあり、学生の活用はあるものの、全学的な動きとはなっていない。他大学での活用例を紹介して、活性化の必用

がある。情報検索に関して、電子ジャーナルやデータベースの活用も多いとは言えない。新規導入した時、活用のための説明会を開くが、参加者は多くはない。広報のあり方を考える。

【総合研究所】

●基準７の充足状況

①効果が上がっている事項

公的資金使用説明会の開催、アルバイトではあるが、総合研究所職員の事務担当による相談、および徹底した監査が効果をあげている。さらに、最高責任者として学長を置き、統括管理責任者の研究所長とコンプライアンス推進責任者である学科主任が担当する管理により、問題に思える公的資金の使用はなくなった。2016 年度からは、個人研究費も公的資金使用と同基準の使用方法とするため、不正使用の根絶が期待できる。

②改善すべき事項

科学研究費の受給者は少ない。文科省の科研費の説明会を受けて、その後、１週間後を目処に説明会を開いている。今年はこの説明会で効果的な申請書の書き方のビデオを視聴した。有効な説明であったと思うが、説明会から申請までの時間は短い。文科省の説明会が遅く、仕方のないことであるので、採択されなかった研究について、次回の申請の対策として、事務担当者との間で検討の時間を持つことを考えている。

３．将来に向けた発展方策

【図書館】

①効果が上がっている事項

栗原貞子平和記念文庫のうち、「栗原貞子創作詩ノート」が原民喜、峠三吉とともに、「原爆文学」として、ユネスコの世界記憶遺産への申請を広島文学保全の会と広島市とが共同で行なったが、国内での選考から漏れた。次回の申請も考えており、貴重な資料の活用が期待される。

②改善すべき事項

2014 年度の図書予算、4600 万円が 2400 万へと減額となった。このままの状態が恒常化すると、必用な図書等が維持できなくなる。

【総合研究所】

①効果が上がっている事項

総合研究所は庶務課に属しており、庶務課職員の兼任であるが、アルバイトとして専任事務担当者がいることで、公的資金の不正使用は防止され、事務処理が円滑に行なわれている。科研費について、単なる事務処理だけでなく、申請についての知識に知悉し、採択に効果的な申請への助言ができる専任事務職員が、将来的には望まれるが、そのステップとして現状は機能している。

②改善すべき事項

総合研究所は独立した部署ではないことで、本来果たすべき機能を十分に発揮しているとは言えない。独立した部署とし、年間を通じて、科研費採択研究の動向を調査し、適切な情報を捉え、教員に助言できるような体制を構築する。

［基準８］　社会連携・社会貢献

１．現状の説明

（１）社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

ボランティアセンターは、「広島女学院大学ボランティアセンター委員会規程」にあるように、「広島女学院大学学則第１条に定める教育目的の達成のため、キリスト教精神に基づく学生のボランティア活動支援を通し、活動に関わる者の『隣人愛』『奉仕の精神』を養い地域貢献を果たすとともにボランティア関連科目の授業支援を行う」ことを目的としている。

本学ボランティアセンター傘下で行われる学生のボランティア活動は、①学生が主体となって企画・運営するボランティア活動（通称「プロジェクト型ボランティア」）、②外部団体と連携し、通年で行うボランティア活動（通称「通年型ボランティア」）、③外部からの依頼によって学生を派遣するボランティア活動（通称「支援型ボランティア」）の三種類に分類しているが、このうち②と③についてはガイドラインを策定し、学生ボランティアが対応できるボランティアワークの種類や活動時間などを明文化することにより、学外からの依頼をしやすくするとともに、ワークに従事する学生をトラブルから守ることを意図している。また、外部からの依頼については、募集にあたって事前に団体登録をしていただく手続きを整備することによっても、ミスマッチや学生の不利益を防止している。

学外から依頼されるボランティアの中で、ボランティアセンターが扱わないものとしては、地域連携協定に関するもの（地域連携センターが窓口となる）や、学科が主体となって行うもの（各学科が窓口および運営主体となる）、国際協力に特化したもの（国際交流センターが窓口となる）が挙げられる（これらについても、各部署から協力要請があれば学生募集や運営の支援は行う）。

地域連携センターは、２０１４年度から総合学生支援センターの組織として設置されたが、地域連携センター規程の制定を待っている状態である。組織の位置づけも不明確なため、明確な方針等を立てるまでには至っていない。それがすべての原因ではないが、教職員には地域連携センターの認知度は低く、連携が始まってから（場合によっては終わってから）実施について通知（報告）されることがほとんどであった。現状は学科等で取り組んでいる地域連携事例を後追いでも収集し把握することに努めている。

社会連携についての明確な方針は立てていないが、地域や企業、行政からの要請を受けて、学科等それぞれの特徴を生かした地域連携・社会貢献を行っている。

社会連携・社会貢献の適切性を検証するための責任主体・組織、権限、手続は明文化されておらず、ＰＤＣＡサイクルの構築までには至っていない。

（２）教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

ボランティアワークそのものが社会還元であるが、活動状況については随時大学ホームページやキャンパスブログで発信するほか、ボランティアセンターホームページでも発信している。また、ボランティアセンター活動報告書をまとめ、学内外に配布している。その他特に、公益財団法人 24 時間テレビチャリティー委員会の支援を受けて、

学生実行委員会が企画・運営を行う「環境保全プロジェクト」については、報告書を作成し、関係各所への成果の還元を試みている。

さらには、広島県主催の NPO、企業、大学がそれぞれの社会課題解決の取り組みについて紹介するイベントへの出展を通じて成果を社会に広く発信している（広島県 web サイト『「たちまち全員集合～参加したくなる社会貢献活動を発見～」を開催しました！』https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/43/27tachimachi-houkoku.html 2016 年 9 月 2 日 閲覧)。

地域社会への教育研究成果の還元については、公開セミナー、早稲田アカデミー、シティカレッジを毎年実施し、現代社会のニーズに即したテーマを設定することで、多くの参加者を得ている。2015 年度の実施内容は次のとおりである。

〔公開セミナー（第 33 回)〕
テーマ：身近な情報科学
担　当：国際教養学科（中田、橋本、西口、篠原教授）
日　時：10 月 3，10，17，24 日（土）14：00～16：00

〔早稲田アカデミー（早稲田公民館主催)〕
５～11 月に６名の教員がそれぞれの専門分野について一般市民向けに講演をおこなった。

〔シティカレッジ（教育ネットワーク中国生涯学習事業)〕
５月　生活デザイン建築学科の教員４名が一般市民向けの講座を担当した。

また、地域社会と連携しながら学生・教職員が種々の活動に参加し、地域の活性化、福祉の向上に寄与している。2015 年度の活動は次のとおりであった。

・エキキタ街づくり会議（復建調査設計・東区役所）６月～随時　昨年から引き続き、国際教養学科永野講師がアドバイザーとして出席
・牛田小学校で遊ぼう（牛田学区社会福祉協議会主催）12 月 12 日
・かうちゃん祭防災フェア（牛田学区社会福祉協議会主催）３月　副学長、ボランティアセンター、管理栄養学科・幼児教育心理学科の教員・学生が協力
・ザ・食育元気フェスタ（公益財団法人広島県教育事業団主催）８月　管理栄養学科の教員と学生が協力
・コラボ弁当（㈱ウオクニと本学）２月　管理栄養学科が㈱ウオクニが運営する食堂のメニュー開発に協力
・レシピカード（島根県飯南町作成）２月　管理栄養学科妻木ゼミがレシピの栄養カロリー計算で協力

地域及び企業との提携・連携を推進し、学生・教職員が教育研究の成果を還元し社会貢献できる体制作りを行っている。

・平成 27 年度東区役所・比治山大学・本学連絡調整会議（東区役所）5 月 15 日　地域連

携センター入江出席
・牛田学区社会福祉協議会「福祉のまちづくり部会」10 月　副学長、全学科代表教員、学生有志が委員会に参加
・牛田早稲田学区社会福祉協議会常任理事会　月１回第２木曜日　学生課長が出席
・㈱ハーストーリープラス・・・包括的連携・協力に関する協定書（主管：キャリアセンター事務課）
・ウオクニ株式会社・・・産学連携覚書（主管：管理栄養学科）
・牛田商店街振興組合・・・街路灯デザイン覚書（主管：生活デザイン建築学科）
・医療法人社団恵正会・・・介護ユニフォームデザイン覚書（主管：生活デザイン建築学科）
・カゴメ株式会社・安芸太田町・・・産官学連携協定書（主管：管理栄養学科）

２．点検・評価

●基準８の充足状況

ボランティアセンターでの社会連携・社会貢献に関する方針については前項において記したとおり、ボランティアセンター委員会規定およびガイドラインにおいて明確に定められており、この方針に従って、社会連携・社会貢献となる学生のボランティアワークを適切に推進ならびに支援している。

地域連携センターは教務課の中に位置づけられており、教務課長が兼務で業務を行っている。また、センター規程並びに委員会が整備されていないこと、ガイドラインも策定されていないこと等の理由により、年度方針立案や外部に発信するための企画立案ができていない。同じ理由により、1 年間の振り返りや改善の検討も行っていない状況である。これからの大学は今まで以上に、いかに地域に密着できるか、いかに地元や広く社会に貢献できるかが問われ、そのことを意識した施策を立案し実行し改善し続け、さらに社会（地域・産官等）の評価を得ることが求められる。

①効果が上がっている事項

学外からの依頼によって行うボランティアについては、ガイドライン・団体登録・募集依頼書が一体となって十分に機能している。細部において実態に合わない点が生じた場合にはその都度改善をはかっている。また、本学ボランティアセンターでは、学生のボランティア参加に際し、4 月以降複数回の研修会を実施し、ボランティアの心構えなどをレクチャーした後にボランティアリーダーとして登録、ボランティア活動保険の加入を義務付けている。2015 年度の登録学生は 553 名（2014 年度は 456 名）であった。学外に派遣した学生ボランティアは延べ約 940 名（2014 年度は 829 名）であった。2014 年度よりボランティア登録の際には、2 年生以上からはボランティア活動保険料に相当する 300 円を徴収している（1 年生は応援・啓発の意味から保険料 300 円を経費負担とし、2 年生以上は自己負担としている）。2014 年度と 2015 年度を比較して登録学生数が半減している一方で、活動延べ実数が増加しているのは、このシステムが学生の間に浸透してきたためと考えられるが、この仮説の検証については次年度以降の統計の分析を待って行いたい。

②改善すべき事項

ボランティアセンターについては、他部門との所掌範囲の切り分けを実態に即して判断しているため大きな不都合は生じていない。しかし今後は、担当部署が曖昧なことによって依頼元や学生に不利益が及ぶことを防止するため、関係部署の組織化を行うとともに､これらを明文化したうえで常に制度点検を実施していくことが必要と考えられる。

地域連携の在り方については、全学的な方針が策定されておらず、早急に検討する必要がある。また、地域連携センター自身が個々の地域連携案件についての内容把握が不十分であった。案件がスタートする前に地域連携センターが把握する方法を模索するとともに、それぞれの内容と進行状況を把握し、終了後の振り返りまでの流れを作る必要があると思われる。

３．将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

ボランティアセンター傘下のプロジェクト型ボランティアの中でも、5 月のフラワーフェスティバルにおいてブース出展する「折りづるひろば」、小中学生の朗読発表会である「朗読フェスティバル」については、学外からの評価も高く、学生の参加意識も高い企画であり、さらなる内容の充実をはかって継続していきたい。

本学の学生ボランティアの伝統は、貧しい人たちのところへ自費で暖かい食事をつくって運んだという校母ゲーンスの精神を受け継ぎ、建学の精神に根差す隣人愛を理屈ではなく肌で感じながら積極的に実践してきた学生たちのあたたかい心と行動力によって自然に生まれてきたものである｡その気風の受け皿として 2011 年に設置されたボランティアセンターは 5 年間にわたり、試行錯誤を繰り返しながら、よりよい学生ボランティアの機会の提供を目指してきた。その働きは県下でも最先端のものとして注目を浴びてきた。他大学の例と大きく異なる点は、学生関連部局の傘下ではなく、独立した部署として機能している点にある。このことがボランティアセンターを起点とした学生たちの多彩で独創的な活動を生み出すにあたって、非常に大きい意味を持ってきたと考える。

地域連携については、成果の測定、振り返りを十分に行っていないため効果に関する情報が得られていない。学内において、地域連携・社会貢献が大学の使命であることの意識醸成はできているとおもわれる。

②改善すべき事項

ボランティアセンターでは、学生世代間における活動の継承が目下の課題である。環境保全プロジェクトで取り掛かっている牛田山の環境保全は、参加者および学生ボランティアの満足度が高く、社会的な注目度も高いが、今後も継続して本格的に行うのであればボランティアの枠を超えた全学的な取り組みにならざるを得ない。これは、ボランティアセンター単独で判断できることがらではないので、2015 年度実施内容を受けて、全学的な判断を仰ぎたいと考える。

本学のボランティアセンターの設置形態および活動内容は、前述のとおり独自性に富んだものであり、それゆえの成果も多く生んできた一方で、大学全体の財政的困難のも

とでの維持の限界、また、人員配置上の課題も見えてきており、岐路に差し掛かっている。本学の特色としての学生ボランティア活動とその支援を、学内にどのように位置づけるか、全学的な判断を仰ぎたいと考える。その判断については、ボランティアセンターの機能や組織についての評価・点検を十分に踏まえてなされる必要があるため、そのための仕組みの構築が必要となる。また、評価・点検については学外の関係者（ボランティア依頼元の諸団体、NPO、企業、行政など）による第三者評価もなされることが望ましい。

地域連携センターにおいては、全学的な方針を策定したうえで、年間計画を定めて活動を行い、その成果・効果を客観的に把握したうえで、しかるべき組織において点検・評価を実施できるよう整備を進める。そのためには、現行の兼務体制ではなく、人員の配置を含めた明確な組織体制を構築し主体的な運営が可能になるよう検討する。

社会連携・社会貢献を推進するには次の業務・体制が必要であると考える。つまり、①本学教員の教育研究分野に関する最新情報の把握：外部からの問い合わせや協力依頼・講演講師依頼等に応えるとともに、産官学連携（女学院ブランド立ち上げ（商品化）も含む）の企画と実施のため、②本学各学科の特徴や科目内容の把握：学生の学びと外部からの要請のマッチングのため、③外部からの問い合わせや依頼を受身で待つだけでなく、本学が外部に向けて特徴ある専門性を持つ教員や学生を売り込むための企画・実施が可能な組織（人員）の整備、④中長期と当該年度プランの策定・実施・検証・改善の PDCA サイクル構築と予算執行であるが、現在のところ全く実現していない。

これらを効率よく実施していくためには、現在「総合研究所」「ボランティアセンター」「地域連携センター」に分かれて行われている次の業務を１つの部署に統合する必要がある。

・総合研究所（現庶務課）：教員の研究分野の把握と情報管理、科研費業務など。
・ボランティアセンター（現学生課）：ボランティア事業の企画・運営、外部からの要請による派遣可否の決定、ボランティア登録学生の情報管理、学生のサポートなど。
・地域連携センター（現教務課）：生涯学習事業の実施、産官学連携に関する業務、外部からの問い合わせ・依頼を学科や他部署に橋渡しする窓口、協定書・覚書等の文書作成など。

［基準９］　管理運営・財務

１．現状の説明

【管理運営】

（１）大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。

毎週開催される主要な執行部を構成員とする学長室会議において、大きな方向性、方針を検討し、その内容によって、大学評議会や大学将来計画委員会、全学人事委員会等において、大学の理念・目的の実現に向けて、その設置目的に応じた検討や様々な見直しが行われている。

管理運営方針としては、2017 年を最終年度とする第１期中期計画があるが、現在、2018 年度からの学部学科の見直しを行っていることから、それに合わせ次期計画の策定を行うこととしている。

（２）明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。

人事・給与・経理・調達に至る管理・運営に必要とされる規定は、「学校教育法」、「私立学校法」はもとより、関係諸法令に基づき整備している。

規程は、法人全体に関するもの、大学に関するもの等に分類し、改正は、規程に基づき大学にあっては大学評議会に諮る等の手続きを経て行っている。

また、学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律及び学校教育法施行規則及び国立大学法人法施行規則の一部を改正する省令の公布、施行に伴い、学長のリーダーシップの下で，戦略的に大学を運営できるガバナンス体制を構築するため、関連の学内規程を 2014（平成 26）年度に改正した。

学長は、法人理事（充て職）であり、月１回開催される理事会や経営会議（構成員：学内理事）などにおいて、情報の共有化を図るとともに、大学の方針等について審議・検討、報告に努めている。

大学評議会の構成員は、学長、副学長、学部長、研究科長、図書館長、総合学生支援センター長等である。

学長、副学長、学部長は、理事会において決定され任命される。それ以外については、学長が大学評議会に諮るなどして決定している。

（３）大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。

各課・室が大学構内の様々な施設に分散化して配置されている状況にあり、また少人数職場が多いなどの課題があった。課・室の集約化については、施設面等課題も多いことから全体的にはたちまちの実施は困難であるが、職員の集約的配置及び兼務によって、当面の対策を図っている。組織変更等の具体的な内容を示すと次のとおりである。

2015 年度　秘書課→秘書・広報課（広報の一元化及び強化）
教学課→教務課と学生課に分離(幅広い学生支援に対応)連携を図るため、場所は隣接とした。
庶務課と総合研究所事務課事務職員を兼務

2016 年度　教務課と学部事務室職員を兼務

学生課とボランティアセンター事務課の職員を兼務

2016 年度における体制は、次のとおりである。

局長（１名<１名>)、秘書・広報課（５名<５名>庶務課（８名<６名>)・総合研究所事務課（４名兼務)、会計課（３名<３名>)、情報管理課（２名<２名>)、キャリア支援課（３名<２名>)、宗教センター事務課（２名<２名>)、図書課（６名<４名>)、入試課（６名<５名>)、学生課・ボランティアセンター事務課（８名<７名>）教務課・学部事務室（１５名<８名>）　計５９名<うち専任職員４５名>

（）には、常勤嘱託職員（事務、技術職員、実験実習助手）を含む。<>は、そのうち専任職員。

（４）事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。

現在、人事考課は行っていないが、一般職員の昇任や人事異動については、所属の上司の意見も参考にしながら実施している。

専任職員については、個人研究費が認められていたが、2016 年度から SD 研修の強化、拡充とより効果的な執行の観点から、職員一律の助成ではなく、学内研修、学外各種研修への派遣を計画的に行うこととした。こうしたことにより、意欲、資質の向上を図っている。

【財務】

（１）教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。

法人全体の事業活動収入計（旧帰属収入）の推移をみると、2015（平成 27）年度決算実績において 3,225 百万円であり、そのうち学生生徒等納付金収入は 2,462 百万円（事業活動収入計に占める割合 76.3%）となっている。これを 5 年前の 2010（平成 22）年度実績との比較でみると、事業活動収入計で△553 百万円（△14.6%）の減少となっている。そのうち学生生徒等納付金収入は△330 百万円（△11.8%）の減少となっており、大学部門でみると事業活動収入計で△577 百万円（△23.1%)、学生生徒等納付金は△343 百万円（△16.9%）と大学部門において財政的に厳しい状況になっている。

一方、事業活動支出についても、収入の減少に伴って減少している。

こうした状況の下、2015（平成 27）年度に学外理事、学内理事、教職員で構成する財務改善検討委員会を設け、12 月には財務改善方策や中期的なシミュレーションなどを取りまとめた最終報告書の答申を受け、これに基づいた予算編成におけるｼｰﾘﾝｸﾞや経費の見直しなどを行ったところである。

なお、補助金について、維持会問題により 2014（平成 26）年度において経常費補助金の２５％減額措置を受けたが、改善方策の策定と実施により、2015 年度には減額措置は解除された。ただし、私立大学等改革総合支援事業や経営強化集中支援事業については、2015（平成 27）年度までは対象外となるため、2016 年度に向けて、学内協議の下、採択に向けて取組んでいくこととしている。

（２）予算編成および予算執行を適切に行っているか。

予算執行に当たっては、2015（平成 27）年度においては、年度当初から大学における

入学者数の減少による学生生徒等納付金の減少が予想されたため、年度中途に補正予算を行い、重要性、緊急度等を勘案した予算執行や教職員の原則、退職者不補充等の措置を講じた。

結果として、法人全体として資金収支計算書上は単年度黒字となったが、事業活動収支計算書上でいえば、基本金組入前当年度収支は179百万円のマイナスとなっており、大学部門だけでは234百万円のマイナスと厳しい状況にある。

また、理事及び予算委員会メンバーを構成員とする財務改善検討委員会を設置し、検討を行い、教職員に対して、随時財務状況や財務検討委員会報告書の説明会等を行った。

2016年（平成28）年度予算の編成に当たっては、法人全体で予算委員会を組織している。財務改善検討委員会報告書をベースに、2014（平成27）年度決算額を下回るようｼｰﾘﾝｸﾞの指示を行い、一層の支出縮減を行った。ただ、大学において、一部の学部において定員充足率の低下から、学納金等収入の減少が見込まれること、また、人件費率が高いことから、給与体系の見直しや教職員数の見直し等が必要だが、一部を除きできていないことから、2016（平成28）年度の資金収支の当初予算において△137百万余の単年度赤字予算、事業活動収支の当初予算の基本金組入前当年度収支差額で△542百万円余、当年度収支差額で△969百万円余となった。

２．点検・評価

●基準９の充足状況

独立監査人である監査法人による会計監査への対応を適正かつ誠実に行い、当該法人より、監査意見として「上記の計算書類が、学校法人会計基準（昭和 46 年文部省令第18号）に準拠して、学校法人広島女学院の平成28年3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。」との監査報告書を受けている。

また、元大学教授及び公認会計士の2名監事による会計及び教学面の監査を受けるほか、理事長直轄の内部監査室を設け、三様監査による適正な学校法人運営に努めている。

①効果が上がっている事項

維持会問題を契機として、法人会計だけでなく関係団体についても、会計処理の適正化や現金管理について問題がないか確認を行っている。

②改善すべき事項

財政基盤の強化のため、収支バランスの改善が急務である。

３．将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

入学定員の確保に向けて大学の学部学科の再編等に取り組むほか、第2期中期計画の策定や2016年に迎える創立130周年記念の寄附募集の準備を進めているところである。また、各種補助金の獲得に向けて、学内の関係者で協議等を行い、改善すべきところの抽出なども行っている。

②改善すべき事項

2017 年度を最終年度とする第 1 次中期計画や 2009 年に策定した財政基本方針と現状には乖離があることから、2018 年度から予定している定員の見直しを含めた改組に合わせ、第 2 次中期計画の策定が必要である。

この中で、収入確保対策、支出の抑制方策、施設・設備の整備等について学内で十分議論していく。

特に、全体的に人件費率が高い状況にあり、学納金等収入の減少に伴い、年々率が上昇している。このようなことから、大学における教職員の定年退職者の原則不補充や年齢や勤続年数による特別昇給制度の廃止、臨時的な昇給延伸などを行ったが、今後、教職員の理解を得ながら、法人全体の臨時的な措置や抜本的な給与体系の見直しが必要である。

［基準 10］　内部質保証

１．現状の説明

（１）大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。

大学教育の質を保証するための組織を整備することに着手している。まず、すでに設置されている「自己点検・評価委員会」の規程を改正し、大学基準協会の評価基準に沿って点検・評価を行うために「教育・研究評価」「アドミッション評価」「学生支援評価」「教育研究等環境・財務評価」「社会連携・社会貢献評価」「管理運営・内部質保証評価」の６つの小委員会を設け、包括的な点検・評価を恒常的に実施することのできる体制に再編した。そして、2011（平成 23）年度に大学基準協会による大学評価（認証評価）を受けて以来開催されていなかった同委員会を昨年度より再開するとともに､「広島女学院大学自己点検・評価報告書」を毎年作成し、公表することとした。

（２）内部質保証に関するシステムを整備しているか。

自己点検・評価委員会でとりまとめる報告書にもとづいて各小委員会において教育研究上の問題点、改善すべき点を指摘することになっており、指摘された事項を学長室会議等で取りまとめた上で大学将来計画委員会において改善策を検討し、さらに大学評議会・学部教授会での意見をふまえて学長が速やかに実施することでＰＤＣＡサイクルが機能する体制を構築するよう整備を進めている。

（３）内部質保証システムを適切に機能させているか。

（２）で記載したＰＤＣＡサイクルを機能させることで内部質保証を担保していくことが可能であると考えるが、現段階では教職員間での共通認識が十分に確保されているとはいえず、点検・評価を具体的な改善につなげていける状況とはなっていない。

２．点検・評価

●基準１０の充足状況

自己点検・評価委員会の組織編成は整っているが、定期的に点検・評価を実施し問題点を抽出したうえで、それらを改善していくためのＰＤＣＡサイクルが十分に機能しているとはいえない状況である。

①効果が上がっている事項

特になし。

②改善すべき事項

自己点検・評価委員会を機能させることを含めて、全学的に内部質保証を担保していくための組織を整備するとともに、これらを円滑に機能させていくための体制づくりと教職員間での共通認識の醸成が急務である。

３．将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

特になし。

②改善すべき事項

点検・評価結果を活用するための組織的な体制と責任の所在が確立されているとはいえない状況である。現状では大学評議会において「自己点検・評価報告書」に基づく改善策を検討した上で実施することになっている。しかし、これまでは年度毎の事業計画の策定、事業（教育研究活動）の実施、自己点検・評価の実施、さらに評価結果に基づく改善に至るＰＤＣＡサイクルが組織として明確に位置づけられていなかったため、必ずしも十分に機能していたとはいえなかった。そこで、今後の課題として内部質保証を担保するためのＰＤＣＡの中核となる組織を設置し、それらが十分に機能していくようにすることが重要である。例えば、内部質保証委員会（仮称）を設置し、本委員会を中心として次のようなＰＤＣＡサイクルを確立することが考えられる。つまり、学長室会議において作成された当該年度の事業計画（Ｐ）が評議員会、理事会で承認された後に各部局に指示して事業を実施し(Ｄ)､年度の中間で執行状況のとりまとめと評価を行い、必要に応じて各部局に再度指示する。年度末には、自己点検・評価委員会が「自己点検・評価報告書」をとりまとめて内部質保証委員会に提出する（Ｃ)。そして、内部質保証委員会は同報告書に基づき必要な改善策を検討し、大学評議会に提案する。大学評議会は改善策の提案を受けて、改善計画を策定し実施する（Ａ)。このようにして、自己点検・評価の結果が活用される体制の整備が急がれる。

根 拠 資 料

２０１６ 年度　　広島女学院大学現況報告資料

（1） 大学教職員数　　（2016年5月1日現在）

区　分	国際教養学部			人間生活学部			計	内訳	
	男	女	計	男	女	計		男	女
学　長	0	1	1	0	0	0	1	0	1
副学長	0	0	0	1	0	1	1	1	0
教　授	8	4	12	7	7	14	26	15	11
准教授	5	2	7	4	9	13	20	9	11
専任講師	2	2	4	0	3	3	7	2	5
助教・実験実習助手	3	2 (1)	5 (1)	0	0 (7)	0 (7)	5 (8)	3	2 (8)
特別専任研究員	0	1	1	0	0	0	1	0	1
教員計(学長、特別研究員含む)	18	12	30	12	19	31	61	30	31
事務職員	5 (2)	16 (5)	21 (7)	5	16	21	42 (7)	10 (2)	32 (5)
衛生技術職員	0	1	1	0	0	0	1	0	1
技術職員	2	0	2	0 (1)	0 (1)	0 (2)	2 (2)	2 (1)	0 (1)
専任職員計	7	17	24	5	16	21	45	12	33
専任教職員計	25	29	54	17	35	52	106	42	64

【備考】（　）は常勤嘱託職員で外数である。

（2） 2016年度入学志願者及び2016年度在籍者数　　（2016年5月1日現在）

区　分		定員	入学志願者		在籍者数 1年	2年	3年	4年	小計	総計
大学 国際教養学部	国際教養学科	240	335	335	110	127 (1)	154 (2)〔6〕	146 (4)	537 (7)〔6〕	537 (7)〔6〕
大学 人間生活学部	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ・建築学科	70	148	626	56	54	40 (1)	68 (1)	218 (2)	864 (2)
	管理栄養学科	70	296		80	78	63	79	300	
	幼児教育心理学科	90	182		82	81	89	94	346	
大学 文学部	日本語日本文学科							6 (1)	6 (1)	9 (1)
	英米言語文化学科							2	2	
	幼児教育心理学科							1	1	
大学 生活科学部	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ・情報学科							1	1	1
	管理栄養学科							0	0	
計		470	961		328	340 (1)	346 (3)〔6〕	397 (6)		1,411 (10)〔6〕

【備考】広島女学院高校よりの入学者は国際－1、生活－1、栄養－0、幼心－2　計4
（　）内は休学者内数、〔　〕内は在籍留学者内数

（3） 2015年度　卒業者数及び免許状等取得者数

区　分		卒業者数	教職免許状取得者数	学芸員資格単位修得者	上級情報処理士課程修了者	プレゼンテーション実務士課程修了者	フードスペシャリスト課程修了者	図書館司書課程修了者	日本語教員課程修了者	学校図書館司書教諭課程修了者	ビジネス実務士課程修了者
国際教養学部	国際教養学科	162	15　中学(英語) 15　高校(英語) 12　中学(国語) 11　高校(国語) 1　高校(情報) 4　中学(社会) 5　高校(地理)	15	12	23	2	26	6	13	33
				社会教育主事課程修了者	情報処理士課程修了者	上級ビジネス実務士課程修了者	フードコーディネーター課程修了者				
				3	21	26	8				
人間生活学部	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ・建築学科	66	10　中学(家庭) 10　高校(家庭)	建築士課程修了者							4
				27							
	管理栄養学科	73	2　中学(家庭) 3　高校(家庭) 9　栄養教諭	栄養士養成課程修了者	管理栄養士養成課程修了者	食品衛生管理者課程修了者					
				73	73	73					
	幼児教育心理学科	85	84　幼稚園 51　小学校	認定心理士資格科目修了者	カウンセリング実務士課程修了者	保育士課程修了者				3	
				4	18	62					
文学部	日本語日本文学科	6	1　高校(国語)					2	1（二級）		
	英米言語文化学科	1									
	幼児教育心理学科	0									
生活科学部	生活ﾃﾞｻﾞｲﾝ・情報学科	5									

2015年度就職状況　　2016/5/1現在

	学部改組後					旧学部				総計
	国際	生活	管理	幼心	計	日文	英文	幼心	生活	
卒業者数	162	66	73	85	386	10	4	2	7	409
大学院進学者数	0	0	2	0	2	1	0	0	0	3
就職希望者数	151	61	71	82	365	8	4	2	7	386
就職者数	141	61	71	82	355	4	4	1	4	368
就職率	93.4%	100.0%	100.0%	100.0%	97.3%	50.0%	100.0%	50.0%	57.1%	95.3%
実就職率	87.0%	92.4%	100.0%	96.5%	92.4%	44.4%	100.0%	50.0%	57.1%	90.6%
求職中	10	0	0	0	10	4	0	1	3	18

※実就職率…決定率÷（卒業者数−大学院進学者数）

就職以外	国際	生活	管理	幼心	計	日文	英文	幼心	生活	総計
家事従事	2	2	0	1	4	1	0	0	0	5
次年度公務員希望	4	1	0	1	5	0	0	0	0	5
就職しない	0	2	0	0	2	0	0	0	0	2
留学	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
留学希望	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
帰国	2	0	0	0	2	0	0	0	0	2
計	10	5	0	2	17	1	0	0	0	18

進学	国際	生活	管理	幼心	計	日文	英文	幼心	生活	総計
広島大学大学院文学研究科	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
愛媛大学大学院農学研究科	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
広島女学院大学大学院	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
UTB映像アカデミー	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
ヒューマンアカデミー	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1
計	1	0	2	1	4	1	0	0	0	5

業種	学部改組後					旧学部				総計
	国際	生活	管理	幼心	計	日文	英文	幼心	生活	
建設業	3	15	0	0	18	0	0	0	0	18
製造業	14	2	9	0	25	0	0	0	0	25
電気・ガス・熱　供給・水道業	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
情報通信業	4	1	0	0	5	0	0	0	0	5
運輸業・郵便業	4	1	0	0	5	0	0	0	0	5
卸売業・小売業	37	16	38	5	96	0	1	1	1	99
金融業・保険業	20	6	2	2	30	0	1	0	0	31
不動産業・物品賃貸業	10	4	1	1	16	0	0	0	1	17
学術研究、専門・技術サービス業	1	1	0	1	3	0	0	0	0	3
宿泊業、飲食サービス業、娯楽業	7	1	3	1	12	0	0	0	0	12
生活関連サービス、娯楽業	12	3	2	1	18	0	0	0	0	18
教育、学習支援業	12	3	0	36	51	1	1	0	0	53
医療、社会福祉業	4	4	14	25	47	2	0	0	2	51
複合サービス事業	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
サービス業	8	3	0	2	13	0	1	0	0	14
公務	4	0	2	8	14	1	0	0	0	15
計	141	61	71	82	355	4	4	1	4	368

職種	学部改組後					旧学部				総計
	国際	生活	管理	幼心	計	日文	英文	幼心	生活	
その他の技術者・土木・建築	0	13	0	0	13	0	0	0	0	13
その他の技術者・情報処理（SE等）	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
技術系アシスタント（CAD他）	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
その他（含記者・通訳・編集等）	2	1	0	10	13	0	0	0	0	13
保険医療従事者・栄養士	0	0	62	0	62	0	0	0	0	62
保険医療従事者・その他	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
保育士	0	0	0	23	23	0	0	0	0	23
幼稚園・教員	0	0	0	25	25	0	0	0	0	25
小学校・教員	0	0	0	10	10	0	0	0	0	10
中学校・教員	5	1	0	0	6	0	0	0	0	6
高等学校・教員	3	1	0	0	4	0	0	0	0	4
その他・教員	2	1	0	0	3	1	0	0	0	4
美術・写真家・デザイナー・音楽・舞台芸術	1	1	0	0	2	0	0	0	0	2
事務従事者	45	11	2	4	62	2	1	0	3	68
販売従事者	62	25	5	9	101	0	3	1	1	106
サービス職業従事者（接客等）	18	6	1	1	26	0	0	0	0	26
保安職業従事者	1	0	0	0	1	1	0	0	0	2
栄養教諭	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1
計	141	61	71	82	355	4	4	1	4	368

【ＦＤ・ＳＤ研修会　実施一覧】

（2015年度）

実施年月日		区分	テーマ	講師・進行	担当部署	出席 教員	出席 職員
２０１５年度	9月17日(木) 14:00～16:00	F/S	アクティブ・ラーニングの実践例と可能性	理研産業企画 ﾊﾟﾜｰﾌﾟﾚｽ ｼﾆｱﾃﾞｻﾞｲﾅｰ 小出暢氏	FD委員会 秘書・広報課	57	27
	10月1日（木） 9:30～13:30	F/S	広島女学院全学院研修会 広島女学院の危機感の共有と今後の対策	各校部担当	全学院研修会企画委員	238 （中高・幼含む）	
	10月23日（金） 17:15～19:00	F/S	高大接続入試改革により、 「今、大学にもとめられているものとは」 ～進学ブランド力調査2015　報告＜中国エリア版＞～	ﾘｸﾙｰﾄ ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞﾊﾟｰﾄﾅｰｽﾞ 河野一朗氏 寺井真二氏 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽﾞ 金井隆氏	FD委員会 入試課 秘書・広報課	42	36
	10月29日（木） 17:15～19:00	F/S	「進研模試から見える本学の現状と今後の教職員の役割」	進研アド 営業局営業本部 中四国支社 延原範昭氏 平島克数氏	FD委員会 入試課 秘書・広報課	34	38
	11月18日（水） 15:15～18:00	F/S	全学教職員ワークショップⅠ 「広島女学院大学の強みと弱み」	桐木副学長 各部会ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	副学長 学部事務室 FD委員会 秘書・広報課	56	59
	12月16日（水） 15:15～17:00	F/S	全学教職員ワークショップⅡ 「広島女学院大学再建に向けての検討会」	湊晶子学長	副学長 学部事務室 FD委員会 秘書・広報課	63	58
	1月7日（木） 10:00～11:30	F	「2016年度教学改善に関するFD研修会」	講師：利島保教学担当監事 進行：山下京子総合学生支援センター長	総合学生支援センター 教務課	47	―

■ 総合学生支援センター Total Student Support Center

「環境が人を育てる」──ユニバーサルデザインの教育実現へ──

平成23年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業により、光風館を「総合学生支援センター」としてリニューアルしました。全館をキリスト教主義の「隣人愛」に基づき、人にやさしい空間としています。

住環境ソムリエによる、体に影響を及ぼす空気や光の存在を勘案した設計デザインを採用し、室内の空気を汚さない建材を使用しています。赤土色が特徴の「京の赤壁」を主とし、床には籐や麻、コルク、オーガニッククロスの天井など、それぞれの部屋の用途に応じて色、光、空気の種類、匂い、触感の違いが感じられます。また、壁や天井に反射させる間接照明は各部屋をほのぼのとした空間へと変化させ、そこに憩う人をやさしく包んでくれます。

TSSCは、からだとこころにやさしい、この真綿のような空間の中で、すべての学生たちがお互いに助け合い、ともに成長できるよう願いのこもったサポートセンターです。

1 階・総合案内（コンシェルジュ）

学生を対象とした相談窓口で、コンシェルジュが対応します。1階には、学生が自由に利用できる多目的スペースや個室を備えています。個室では、学修支援を希望する学生に、授業配信も行っていますので、個室で授業を受けることも可能です。

1F

2 階・障がい学生高等教育支援室

障がいのある学生のための学修支援を行っています。教育における情報保障の観点から、授業に使用される資料の点訳や拡大コピー、多地点接続システムによる授業配信や、音声認識装置システムによる字幕付き授業配信をします。また、2階には、リラクゼーションのための空間として、「ウーム」と呼ばれる個室を用意しております。学生は、希望すれば、「ウーム」を利用することができます。

2F

3 階・ボランティアセンター／アカデミック・サポート・センター

ボランティアセンターでは、学生が安心してボランティア活動を行えるようにサポートしています。ボランティア活動に関する情報の提供や、活動に必要な専門的スキルを身に付けるための研修会も行っています。3階には、アカデミック・サポート・センターもあります。

3F

4 階・健康管理センター・障がい学生高等教育支援室（学生相談室）

健康管理センターは、学生の心と身体の健康をサポートします。保健師が常駐し、学生の健康問題に対応しています。
障がい学生高等教育支援室（学生相談室）では、障がいのある学生や、修学上困難を抱える学生を対象に、相談支援を行っています。相談内容は、学修・就労・生活に関することなど、修学にかかわることなら特に限定はしませんので、気軽に利用してください。学生の保護者からの支援の相談や申し込みも受け付けています。

4F

■ 共通教育センター Common Learning Center

CLCは、学生の学びや活動を支援し、積極的な学生生活を応援します。

共通教育センター
Common Learning Center

◉ 学修を支える共通教育センター(CLC)

大学は10年後の社会のビジョンをもって教育を行うべきである、と私たちは考えています。「国際化」し多様化・多層化し続ける社会。不確実・不透明な将来に向かって、大学は確固とした理念をもって、学生を包括的にサポートするための仕組みを構築していかなければなりません。そうした思いを込めて生まれたのが共通教育センター（CLC）です。CLCはワンストップ型というユニークな仕組みをもつ組織です。学修や課外活動など学生生活全般にわたって、多彩なサービスを提供し、きめ細かいサポートを行います。

▼例えば　こういうコトで困ったら CLCへ行こう！

- ◉ 留学の種類と留学の方法
- ◉ 進路、就職を見すえた履修計画に関する相談
- ◉ サブメジャーと資格についての確認
- ◉ 教職課程・資格認定取得科目とその必修・選択科目の相談
- ◉ 奨学金の申請方法について
  - ・予約申込み者の手続き（高校3年で予約申請済み）
  - ・大学入学による新規申込み
  - ・奨学金の返還、停止の相談
  - ・奨学金増額の相談
  - ・編入学による学生支援機構奨学金の継続手続きについて
- ◉ アパート探しについて
- ◉ 障がい学生のための相談と支援
- ◉ 自家用車通学の相談
- ◉ 大学施設の利用方法について（クラブ活動、ゼミ活動などで利用したい など）
- ◉ 自治会やオープンキャンパスの手伝いについて
- ◉ その他

■ アカデミック・サポート・センター Academic Support Center: ASC

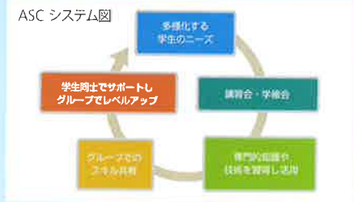
ASCは、「学生同士でサポートする力を培う場」です。

◉ アカデミック・サポート・センターの役割

広島女学院大学の学生たちはさまざまな団体に所属し、日々活動の場を広げています。同時に、質の高い行動や応用力を求められています。アカデミック・サポート・センターでは、必要なスキルを講義や実習だけでなく、学生のニーズに応えた講習会や学修会を通して、専門的な知識や技術習得のサポートを行っています。また、身に付けた力は個人にとどめるのではなく、学生同士で共有します。そして、それぞれのもつ多様な専門知識とリンクさせ、互いにサポートする力を培い、グループでレベルアップをはかっています。

◀ 会計管理講習会の風景

ASC システム図



学生のニーズに応じた様々な講習会

<主な講習会・勉強会の例>

- ・英検、TOEIC受験対策講座
- ・メンタルヘルス・マネジメント講座
- ・学生サポーター入門講習会
- ・プレゼンテーション講座
- ・コーチング講座
- ・グループ・ディスカッション講座
- ・ビジネス・マネジメント講座
- ・その他

特別なニーズを持つ学生への学修支援体制

本学では、ノートテイクが困難な学生を支援するためのノートテイカー制度を導入しています。ノートテイカーとして活躍している学生が、定期的にミーティングを行い、実施状況を報告し、問題点や改善方法について情報を共有する場を設けています。

ノートテイカー・ミーティングの風景 ▶

学生同士で知識や技術を共有しグループでレベルアップ

各学科で専門的な知識や技術を勉強する中で生まれる質問や疑問を解決する糸口の発見をサポートしています。また、学生同士が、学修方法や知識を共有することで、個人としてのレベルアップだけでなくグループで学問に対する専門性を深めています。

学生同士での学修の風景 ▶

資料(基準4)(2)-2 C1C2科目一覧表

開講:1閉講:2	C区分	知	新カリ科目名(分級込)	新カリ年次	単位	学期
1	C1		キリスト教学入門Ⅰa(GSE)	1	②	春
1	C1		キリスト教学入門Ⅰb	1	②	春
1	C1		キリスト教学入門Ⅰc	1	②	春
1	C1		キリスト教学入門Ⅰd	1	②	春
1	C1		キリスト教学入門Ⅰe	1	②	春
1	C1		キリスト教学入門Ⅰf	1	②	春
1	C1		キリスト教学入門Ⅰg	1	②	春
1	C1		キリスト教学入門Ⅱa(GSE)	1	②	秋
1	C1		キリスト教学入門Ⅱb	1	②	秋
1	C1		キリスト教学入門Ⅱc	1	②	秋
1	C1		キリスト教学入門Ⅱd	1	②	秋
1	C1		キリスト教学入門Ⅱe	1	②	秋
1	C1		キリスト教学入門Ⅱf	1	②	秋
1	C1		キリスト教学入門Ⅱg	1	②	秋
1	C1		キャリアプランニング(国際教養)a	1	②	春
1	C1		キャリアプランニング(人間生活)b	1	②	春
1	C1		初年次セミナーLa(GSE)	1	②	春
1	C1		初年次セミナーLb	1	②	春
1	C1		初年次セミナーLc	1	②	春
1	C1		初年次セミナーLd	1	②	春
1	C1		初年次セミナーLe	1	②	春
1	C1		初年次セミナーLf	1	②	春
1	C1		初年次セミナーLg	1	②	春
1	C1		初年次セミナーLh	1	②	春
1	C1		初年次セミナーLi	1	②	春
2	C1		初年次セミナーLj	1	②	春
2	C1		初年次セミナーLk	1	②	春
1	C1		初年次セミナーLy(GSE秋)	1	②	秋
1	C1		初年次セミナーDa	1	②	春
1	C1		初年次セミナーDb	1	②	春
1	C1		初年次セミナーNa	1	②	春
1	C1		初年次セミナーNb	1	②	春
1	C1		初年次セミナーNc	1	②	春
1	C1		初年次セミナーNd	1	②	春
1	C1		初年次セミナーCa	1	②	春
1	C1		初年次セミナーCb	1	②	春
1	C1		初年次セミナーCc	1	②	春
1	C1		初年次セミナーCd	1	②	春
1	C1		日本語表現技法a(GSE留)	1	②	春
1	C1		日本語表現技法b	1	②	春
1	C1		日本語表現技法c	1	②	春
1	C1		日本語表現技法d	1	②	春
1	C1		日本語表現技法e	1	②	春
1	C1		日本語表現技法f	1	②	春
1	C1		日本語表現技法g	1	②	春
1	C1		日本語表現技法h	1	②	春
1	C1		日本語表現技法i	1	②	春
1	C1		日本語表現技法j	1	②	春
1	C1		日本語表現技法k	1	②	春
1	C1		日本語表現技法l	1	②	春
1	C1		日本語表現技法y(GSE秋留)	1	②	秋
1	C1		日本語表現技法z(GSE秋日)	1	②	秋
1	C1		情報リテラシⅠa(GSE)	1	②	春
1	C1		情報リテラシⅠb	1	②	春
1	C1		情報リテラシⅠc	1	②	春
1	C1		情報リテラシⅠd	1	②	春
1	C1		情報リテラシⅠe	1	②	春
1	C1		情報リテラシⅠf	1	②	春
1	C1		情報リテラシⅠg	1	②	春
1	C1		情報リテラシⅠh	1	②	春
1	C1		情報リテラシⅠi	1	②	春
1	C1		情報リテラシⅠj	1	②	春
1	C1		情報リテラシⅠy(GSE秋)	1	②	秋
1	C1		情報リテラシⅡa(GSE)	1	②	秋
1	C1		情報リテラシⅡb	1	②	秋

1	C1		情報リテラシⅡc	1	②	秋
1	C1		情報リテラシⅡd	1	②	秋
1	C1		情報リテラシⅡe	1	②	秋
1	C1		情報リテラシⅡf	1	②	秋
1	C1		情報リテラシⅡg	1	②	秋
1	C1		情報リテラシⅡh	1	②	秋
1	C1		情報リテラシⅡi	1	②	秋
1	C1		情報リテラシⅡj	1	②	秋
1	C1		情報リテラシⅡy(GSE秋)	1	②	春
1	C1		基礎英語Ⅰa(GSE)	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰb	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰc	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰd	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰe	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰf	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰg	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰh	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰi	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰj	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰk	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰl	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰm	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰn	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰo	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰp	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰq	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰr	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰs	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰt	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰu	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰv	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰw	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅰx	1	①	春
2	C1		基礎英語Ⅰz(GSE秋)	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱa(GSE)	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱb	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱc	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱd	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱe	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱf	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱg	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱh	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱi	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱj	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱk	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱl	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱm	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱn	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱo	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱp	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱq	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱr	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱs	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱt	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱu	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱv	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱw	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅱx	1	①	秋
2	C1		基礎英語Ⅱz(GSE秋)	1	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲa(GSE)	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲb	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲc	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲd	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲe	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲf	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲg	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲh	2	①	春
2	C1		基礎英語Ⅲi	2	①	春

2	C1		基礎英語Ⅲj	2	①	春
2	C1		基礎英語Ⅲk	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲl	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲm	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲn	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲo	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲp	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲq	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲr	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲs	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲt	2	①	春
1	C1		基礎英語Ⅲu	2	①	春
2	C1		基礎英語Ⅲz(GSE秋)	1	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳa(GSE)	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳb	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳc	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳd	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳe	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳf	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳg	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳh	2	①	秋
2	C1		基礎英語Ⅳi	2	①	秋
2	C1		基礎英語Ⅳj	2	①	秋
2	C1		基礎英語Ⅳk	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳl	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳm	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳn	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳo	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳp	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳq	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳr	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳs	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳt	2	①	秋
1	C1		基礎英語Ⅳu	2	①	秋
2	C1		基礎英語Ⅳz(GSE秋)	2	①	春
1	C1		基礎日本語Ⅰa(GSE留)	1	①	春
1	C1		基礎日本語Ⅰy(GSE秋留)	1	①	秋
1	C1		基礎日本語Ⅱa(GSE留)	1	①	秋
2	C1		基礎日本語Ⅱy(GSE秋留)	1	①	春
1	C1		基礎日本語Ⅲa(GSE留)	2	①	春
2	C1		基礎日本語Ⅲy(GSE秋留)	2	①	秋
1	C1		基礎日本語Ⅳa(GSE留・留)	2	①	秋
2	C1		基礎日本語Ⅳy(GSE秋留)	2	①	春
2	C2	総合	環境と人間	2	2	秋
1	C2	総合	現代女性と身体	2	2	秋
1	C2	総合	現代ジェンダー考	2	2	秋
1	C2	総合	ヒロシマ	2	2	春
2	C2	総合	ボランティア論Ⅰ	1	2	春
2	C2	総合	ボランティア論Ⅱ	1	2	秋
1	C2	総合	キリスト教の時間Ⅰ	2	1	春
1	C2	総合	キリスト教の時間Ⅱ	2	1	秋
1	C2	総合	特別講義Ⅰ	1	2	春
1	C2	総合	特別講義Ⅱ	1	2	秋
1	C2	総合	特別セミナーⅠb	1	2	春
1	C2	総合	特別セミナーⅡa	1	2	秋
1	C2	人文	教育学入門	1	2	春
2	C2	人文	心理学入門	1	2	春
1	C2	人文	哲学入門	1	2	秋
2	C2	人文	キリスト教学Ⅰa(キリスト教と倫理)	2	2	春
1	C2	人文	キリスト教学Ⅰb(キリスト教教育学)	2	2	春
1	C2	人文	キリスト教学Ⅱa(キリスト教と文化)	2	2	秋
2	C2	人文	キリスト教学Ⅱb(キリスト教幼児教育学)	2	2	秋
1	C2	人文	生命倫理	1	2	秋
2	C2	人文	アメリカの文化と歴史	2	2	秋
1	C2	人文	イギリスの文化と歴史	2	2	春
1	C2	人文	ヨーロッパと文化	1	2	秋
1	C2	人文	歴史学のみかたⅠ	1	2	春
1	C2	人文	歴史学のみかたⅡ	1	2	秋

2	C2	人文	歴史学のみかたⅢ	2	2	春
1	C2	人文	色彩情報論	1	2	秋
1	C2	人文	音楽の世界	1	2	秋
2	C2	人文	日本美術史	1	2	春
1	C2	人文	西洋美術史	1	2	秋
1	C2	人文	American Culture and History a(GSE)	1	2	春
1	C2	人文	American Culture and History b	1	2	春
1	C2	人文	British Culture and History a(GSE)	1	2	春
2	C2	人文	British Culture and History b	1	2	春
1	C2	人文	European Culture and History a(GSE)	1	2	春
1	C2	人文	European Culture and History b	1	2	春
1	C2	人文	American Literature and Thought a(GSE)	2	2	春
2	C2	人文	American Literature and Thought b	2	2	春
1	C2	人文	Asian and African Literature and Thought a(GSE)	2	2	春
1	C2	人文	Asian and African Literature and Thought b	2	2	春
1	C2	人文	European Literature and Thought a(GSE)	2	2	秋
2	C2	人文	European Literature and Thought b	2	2	秋
2	C2	人文	日本文学入門	1	2	春
1	C2	人文	アメリカ文学史	2	2	春
1	C2	人文	イギリス文学史	2	2	秋
2	C2	人文	日本語学の視点	1	2	春
1	C2	人文	英語学の視点	1	2	春
2	C2	人文	比較言語	1	2	秋
1	C2	人文	心理学基礎論	1	2	春
1	C2	人文	教育原理Ⅰ	1	2	秋
1	C2	人文	音楽Ⅰa	1	2	春
1	C2	人文	音楽Ⅰb	1	2	春
1	C2	人文	心理学概論	1	2	秋
1	C2	人文	図画工作Ⅰa	1	2	秋
1	C2	人文	図画工作Ⅰb	1	2	秋
1	C2	人文	体育Ⅰa	2	2	春
1	C2	人文	体育Ⅰb	2	2	春
1	C2	社会	女性学入門	1	2	秋
2	C2	社会	平和学入門	1	2	春
1	C2	社会	社会学入門	1	2	春
1	C2	社会	現代社会と人権	1	2	春
2	C2	社会	地理学概論	1	2	春
2	C2	社会	開発と文化	2	2	春
2	C2	社会	民俗学	1	2	秋
2	C2	社会	経済学入門	1	2	春
1	C2	社会	経営学総論	1	2	春
1	C2	社会	Area Studies 1(America) a(GSE)	1	2	秋
1	C2	社会	Area Studies 1(America) b	1	2	秋
1	C2	社会	Area Studies 2(Asia and Africa) a(GSE)	1	2	秋
2	C2	社会	Area Studies 2(Asia and Africa) b	1	2	秋
1	C2	社会	Area Studies 3(Europe) a(GSE)	1	2	秋
1	C2	社会	Area Studies 3(Europe) b	1	2	秋
2	C2	社会	金融論	2	2	春
1	C2	社会	国際金融論	3	2	秋
1	C2	社会	経理実務	3	2	春
1	C2	社会	ビジネス実務演習Ⅰ	2	2	春
1	C2	社会	プレゼンテーション概論	1	2	秋
1	C2	社会	インターンシップⅠ	2	2	春
1	C2	社会	Social Anthropology a(GSE)	2	2	秋
2	C2	社会	Social Anthropology b	2	2	秋
1	C2	社会	Social Psychology a(GSE)	2	2	秋
1	C2	社会	Social Psychology b	2	2	秋
1	C2	社会	World Economy a(GSE)	2	2	春
2	C2	社会	World Economy b	2	2	春
1	C2	社会	日本国憲法a	1	2	秋
1	C2	社会	日本国憲法b	1	2	秋
1	C2	社会	ビジネス法務	3	2	秋
1	C2	社会	公共性と権力	1	2	秋
2	C2	社会	政治学入門	1	2	秋
1	C2	社会	国際関係論	2	2	春
2	C2	社会	ポストコロニアリズム/ナショナリズム	2	2	秋
1	C2	社会	グローバル化と地域	2	2	秋
1	C2	社会	子どもと遊びⅠa	1	②	秋

1	C2	社会	子どもと遊びⅠb	1	②	秋
1	C2	社会	子どもと遊びⅠc	1	②	秋
1	C2	社会	子どもと遊びⅠd	1	②	秋
1	C2	社会	子どもと遊びⅡa	2	②	春
1	C2	社会	子どもと遊びⅡb	2	②	春
1	C2	社会	子どもと遊びⅡc	2	②	春
1	C2	社会	子どもと遊びⅡd	2	②	春
1	C2	社会	子どもと遊びⅢa	2	②	秋
1	C2	社会	子どもと遊びⅢb	2	②	秋
1	C2	社会	子どもと遊びⅢc	2	②	秋
1	C2	社会	子どもと遊びⅢd	2	②	秋
1	C2	社会	保育原理	1	2	春
1	C2	社会	保育内容総論a	1	2	春
1	C2	社会	保育内容総論b	1	2	春
2	C2	自然	数学入門	1	2	秋
1	C2	自然	生活の中の数学	1	2	春
2	C2	自然	物理学入門	1	2	秋
1	C2	自然	情報科学入門	1	2	春
1	C2	自然	統計学入門	1	2	秋
1	C2	自然	情報管理論(含情報処理)	2	2	春
1	C2	自然	家庭電気・機械	2	2	春
1	C2	自然	バイオサイエンス入門	1	2	秋
2	C2	自然	自然と環境	1	2	春
1	C2	自然	生物学入門	1	2	春
1	C2	自然	健康科学(含栄養学概論)	1	2	秋
2	C2	自然	衛生と安全	1	2	秋
1	C2	自然	Computer Science a(GSE)	1	2	春
1	C2	自然	Computer Science b	1	2	春
1	C2	自然	Nature and Environment a(GSE)	1	2	春
2	C2	自然	Nature and Environment b	1	2	春
1	C2	自然	Health Science a(GSE)	1	2	秋
2	C2	自然	Health Science b	1	2	秋
1	C2	自然	化学	1	2	春
2	C2	自然	科学と技術	2	2	秋
1	C2	自然	都市と環境	2	2	春
1	C2	自然	生活空間デザイン論	1	2	春
1	C2	自然	感性デザイン論Ⅰ(ポップカルチャー)	1	2	春
2	C2	自然	感性デザイン論Ⅱ(ファッション文化史)	1	2	秋
2	C2	自然	生活とファッション	1	2	秋
1	C2	自然	食品加工・商品学	2	2	春
1	C2	自然	調理学概論(含厨房機器・設備)	2	2	秋
1	C2	自然	調理科学Ⅰa	1	2	秋
1	C2	自然	調理科学Ⅰb	1	2	秋
1	C2	自然	生化学Ⅰa	1	2	春
1	C2	自然	生化学Ⅰb	1	2	春
1	C2	自然	解剖生理学Ⅰa	1	2	春
1	C2	自然	解剖生理学Ⅰb	1	2	春
1	C2	自然	解剖生理学Ⅱa	1	2	秋
1	C2	自然	解剖生理学Ⅱb	1	2	秋
1	C2	自然	ライフステージ別栄養学Ⅰa	2	2	春
1	C2	自然	ライフステージ別栄養学Ⅰb	2	2	春
1	C2	自然	健康管理概論a	2	2	春
1	C2	自然	健康管理概論b	2	2	春
1	C2	自然	社会福祉概論a	2	2	秋
1	C2	自然	社会福祉概論b	2	2	秋
1	C2	言語	外国語(初級英語Ⅰ)a(GSE)	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級英語Ⅰ)b	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級英語Ⅰ)c	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級英語Ⅰ)d	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級英語Ⅰ)e	1	1	春
2	C2	言語	外国語(初級英語Ⅰ)f	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級英語Ⅰ)y(GSE秋)	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級英語Ⅱ)a(GSE)	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級英語Ⅱ)b	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級英語Ⅱ)c	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級英語Ⅱ)d	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級英語Ⅱ)e	1	1	秋
2	C2	言語	外国語(初級英語Ⅱ)f	1	1	秋

1	C2	言語	外国語(初級英語Ⅱ)y(GSE秋)	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級独語Ⅰ)a	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級独語Ⅰ)b	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級独語Ⅱ)a	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級独語Ⅱ)b	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級仏語Ⅰ)a	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級仏語Ⅰ)b	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級仏語Ⅱ)a	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級仏語Ⅱ)b	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級中国語Ⅰ)a	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級中国語Ⅰ)b	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級中国語Ⅰ)c	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級中国語Ⅱ)a	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級中国語Ⅱ)b	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級中国語Ⅱ)c	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級韓国語Ⅰ)a	1	1	春
2	C2	言語	外国語(初級韓国語Ⅰ)b	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級韓国語Ⅰ)c	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級韓国語Ⅱ)a	1	1	秋
2	C2	言語	外国語(初級韓国語Ⅱ)b	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級韓国語Ⅱ)c	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(中級英語Ⅰ)a(GSE)	2	1	春
1	C2	言語	外国語(中級英語Ⅰ)b	2	1	春
1	C2	言語	外国語(中級英語Ⅰ)c	2	1	春
2	C2	言語	外国語(中級英語Ⅰ)y(GSE秋)	2	1	秋
1	C2	言語	外国語(中級英語Ⅱ)a(GSE)	2	1	秋
1	C2	言語	外国語(中級英語Ⅱ)b	2	1	秋
1	C2	言語	外国語(中級英語Ⅱ)c	2	1	秋
2	C2	言語	外国語(中級英語Ⅱ)y(GSE秋)	2	1	春
1	C2	言語	外国語(中級中国語Ⅰ)	2	1	春
1	C2	言語	外国語(中級中国語Ⅱ)	2	1	秋
1	C2	言語	外国語(中級韓国語Ⅰ)	2	1	春
1	C2	言語	外国語(中級韓国語Ⅱ)	2	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級日本語Ⅰ)a(GSE留・留)	1	1	春
1	C2	言語	外国語(初級日本語Ⅰ)y(GSE秋留)	1	1	秋
1	C2	言語	外国語(初級日本語Ⅱ)a(GSE留・留)	1	1	秋
2	C2	言語	外国語(初級日本語Ⅱ)y(GSE秋留)	1	1	春
1	C2	言語	外国語(中級日本語Ⅰ)a(GSE留・留)	2	1	春
2	C2	言語	外国語(中級日本語Ⅰ)y(GSE秋留)	2	1	秋
1	C2	言語	外国語(中級日本語Ⅱ)a(GSE留・留)	2	1	秋
2	C2	言語	外国語(中級日本語Ⅱ)y(GSE秋留)	2	1	春
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅰa	1	1	春
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅰb	1	1	春
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅰc	1	1	春
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅰd	1	1	春
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅰe	1	1	春
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅰf	1	1	春
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅱa	1	1	秋
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅱb	1	1	秋
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅱc	1	1	秋
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅱd	1	1	秋
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅱe	1	1	秋
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅱf	1	1	秋
2	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅲ(野外活動等)	2	1	春
2	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅳ(スキー・スケート等)	2	1	秋
2	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅴ(水泳等)	2	1	春
1	C2	スポーツ	スポーツ科学Ⅵ(フィットネス)	2	1	秋

2011年度入学生用科目

資料（基準4）（2）-3　2011年度2012年度カリキュラム新旧対照表											
2012年度カリキュラム						2011年度カリキュラム					
主管学科	区分（C1～C5）	2012科目名	年次	開講学期	単位	201	区分	2011科目名	年次	単位	主管以外の区分
						1	インダ	キリスト教学入門Ⅰ	1	2	
						1	インダ	キリスト教学入門Ⅱ	1	2	
		キャリアプランニング	1	前	2	1	インダ	キャリアプランニングⅠ	1	1	
						1	インダ	キャリアプランニングⅡ	2	1	
						1	インダ	ボランティア論	2	2	
CLC	C2	キリスト教学Ⅰ	2	前	2	1	インダ	キリスト教と人間	2･3	2	
						1	インダ	現代ジェンダー考	2･3	2	
生活デザイン・建築学科	C2	環境と人間	2	後	2	1	インダ	環境と人間	2･3	2	
国際教養学科	C2	自然と環境	1	前	2	1	インダ	自然の科学	2･3	2	
						1	インダ	ヒロシマ	2･3	2	
						1	インダ	ボランティア活動	2後～	1	
CLC	C1	初年次セミナー（国際教養学科）	1	前	2	1	インダ	基礎セミナーⅠ（文学部）	1	2	
CLC	C1	初年次セミナー（幼児教育心理学科）	1	前	2	1	インダ	基礎セミナーⅠ（生活科学部）	1	2	
CLC	C1	初年次セミナー（建築・デザイン学科）	1	前	2						
CLC	C1	初年次セミナー（管理栄養学科）	1	前	2						
1	C2	こどもと遊びⅠ（※幼心の基礎セミナーⅡのみ対応）	1	後	2	1	インダ	基礎セミナーⅡ（文学部）	1	2	
						1	インダ	基礎セミナーⅡ（生活科学部）	1	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅠ（日本語学分野）	2	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅠ（日本文学分野）	2	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅠ（英米言語文化学科）	2	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅠ（生活デザイン・情報）	2	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅡ（日本語学分野）	2	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅡ（日本文学分野）	2	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅡ（英米言語文化学科）	2	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅡ（生活デザイン・情報）	2	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅢ（日本語学分野）	3	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅢ（日本文学分野）	3	2	
		卒業研究プレセミナーⅠ				1	インダ	主専攻セミナーⅢ（言語文化分野）	3	2	
		卒業研究プレセミナーⅠ				1	インダ	主専攻セミナーⅢ（文学文化分野）	3	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅢ（芸術文化分野）	3	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅢ（生活デザイン分野）	3	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅢ（環境デザイン分野）	3	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅢ（情報マネジメント分野）	3	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅣ（日本語学分野）	3	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅣ（日本文学分野）	3	2	
		卒業研究プレセミナーⅡ				1	インダ	主専攻セミナーⅣ（言語文化分野）	3	2	
		卒業研究プレセミナーⅡ				1	インダ	主専攻セミナーⅣ（文学文化分野）	3	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅣ（芸術文化分野）	3	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅣ（生活デザイン分野）	3	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅣ（環境デザイン分野）	3	2	
						1	インダ	主専攻セミナーⅣ（情報マネジメント分野）	3	2	
						1	インダ	副専攻セミナーⅠ	2	2	
						1	インダ	副専攻セミナーⅡ	2	2	
						1	インダ	副専攻セミナーⅢ	3	2	
						1	インダ	副専攻セミナーⅣ	3	2	
						1	インダ	日本語表現技法	1	2	
						1	インダ	卒業研究セミナー（日文）	4	8	
		卒業研究セミナーⅠ・Ⅱ・卒業論文				1	インダ	卒業研究セミナー（英文）	4	8	
						1	インダ	卒業研究セミナー（生活）	4	8	
	C3	卒業研究セミナーⅠ・Ⅱ・卒業論文	4		8	1	インダ	卒業研究セミナー（栄養）	4	8	
						1	インダ	英語コンプリヘンションⅠ	1	1	
						1	インダ	英語コンプリヘンションⅡ	1	1	
						1	インダ	英語プレゼンテーションⅠ	2	1	
						1	インダ	英語プレゼンテーションⅡ	2	1	
						1	インダ	TOEIC演習Ⅰ	1	1	
						1	インダ	TOEIC演習Ⅱ	1	1	
						1	インダ	TOEIC演習Ⅲ	2	1	
						1	インダ	TOEIC演習Ⅳ	2	1	
CLC	C1	情報リテラシ1	1		2	1	インダ	CPコミュニケーションⅠ	1	2	
CLC	C1	情報リテラシ2	1		2	1	インダ	CPコミュニケーションⅡ	1	2	
						1	インダ	CPプレゼンテーションⅠ	2	2	
						1	インダ	CPプレゼンテーションⅡ	2	2	
1	C2	こどもと遊びⅡ	2	前	2	1	インダ	主専攻セミナーⅠ（幼心）	2	2	
1	C2	こどもと遊びⅢ	2	後	2	1	インダ	主専攻セミナーⅡ（幼心）	2	2	
	C3	卒業研究プレセミナーⅠ	3	前	2	1	インダ	主専攻セミナーⅢ（幼心）	3	2	
	C3	卒業研究プレセミナーⅡ	3	後	2	1	インダ	主専攻セミナーⅣ（幼心）	3	2	
	C3	卒業研究セミナーⅠ	4	前	2						
	C3	卒業研究セミナーⅡ	4	後	2	1	ダクシ	卒業研究セミナー（幼心）	4	8	
	C3	卒業論文	4	後	4						
国際	c2	日本語学の視点	1	前	2	21	教養	日本語学入門		2	
国際	c3	談話の構造	2	後	2	21	教養	日本語学基礎研究	1	2	
						21	教養	日本古典文学基礎研究	1	2	
						21	教養	日本語力向上講座Ⅰ		2	
						21	教養	日本語力向上講座Ⅱ		2	
国際	c3	日本語の文字と語彙	1	後	2	21	教養	日本語の文字と語彙		2	
国際	c3	漢文学概論Ⅰ	2	前	2	21	教養	漢文講読Ⅰ		2	
国際	c3	漢文学概論Ⅱ	2	後	2	21	教養	漢文講読Ⅱ		2	
国際	c3	古典日本語基礎文法	2	前	2	21	焦点	古典日本語基礎文法		2	
国際	c3	現代日本語基礎文法	2	後	2	21	焦点	現代日本語基礎文法		2	英/関連
国際	c3	日本語音声学	2	前	2	21	焦点	日本語音声学		2	英/関連
						21	焦点	CP日本語分析法		2	
国際	c3	日本語フィールドワークⅠ	2	前	2	21	焦点	FW日本語分析法Ⅰ		2	
国際	c3	日本語フィールドワークⅡ	2	後	2	21	焦点	FW日本語分析法Ⅱ		2	
国際	c3	比較言語学Ⅲ	2	前	2	21	焦点	対照言語学Ⅰ		2	
国際	c3	比較言語学Ⅳ	2	後	2	21	焦点	対照言語学Ⅱ		2	
国際	c3	日本語教育概論Ⅰ	2	前	2	21	焦点	日本語教育概論Ⅰ		2	英/関連
国際	c3	日本語教育概論Ⅱ	2	後	2	21	焦点	日本語教育概論Ⅱ		2	英/関連
国際	c3	日本文化史Ⅰ	2	前	2	21	焦点	日本文化史Ⅰ		2	英幼/関連,生活/焦点
国際	c3	日本文化史Ⅱ	2	後	2	21	焦点	日本文化史Ⅱ		2	英幼/関連
国際	c3	日本語学概論Ⅰ	2	前	2	21	焦点	日本語の歴史Ⅰ		2	
国際	c3	日本語学概論Ⅱ	2	後	2	21	焦点	日本語の歴史Ⅱ		2	
国際	c3	社会言語学	2	前	2	21	展開	社会言語学Ⅰ		2	
国際	c3	社会言語学の諸問題	2	前	2	21	展開	社会言語学Ⅱ		2	
国際	c3	心と言語表現	2	前	2	21	展開	心と言語表現		2	
国際	c3	認知言語学概論	2	後	2	21	展開	認知言語学概論		2	
国際	c3	言語とコミュニケーション	2	後	2	21	展開	言語とコミュニケーションⅠ		2	
国際	c3	比較言語コミュニケーション研究	2	後	2	21	展開	言語とコミュニケーションⅡ		2	
国際	c3	日本文学概論Ⅰ	2	前	2	21	展開	日本文学概論Ⅰ		2	
国際	c3	日本文学概論Ⅱ	2	後	2	21	展開	日本文学概論Ⅱ		2	
国際	c3	日本語文章表現法	3	前	2	21	展開	日本語文章表現法		2	
						21	展開	日本上代文学史		2	
						21	展開	日本中古文学史		2	
国際	c3	日本古典文学史	2	後	2	21	展開	日本中世文学史		2	
						21	展開	日本近世文学史		2	

2011年度入学生用科目

主管学科	区分(C1～C5)	2012科目名	年次	開講学期	単位	201	区分	2011科目名	年次	単位	主管以外の区分
国際	c3	日本近現代文学史	2	前	2	21	展開	日本近代文学史		2	
						21	展開	日本現代文学史		2	
国際	c4	国語科教育法Ⅰ(学習指導要領)	3	前	2	21	展開	国語科教育法Ⅰ	3	2	
国際	c4	国語科教育法Ⅱ(模擬授業)	3	後	2	21	展開	国語科教育法Ⅱ	3	2	
国際	c4	国語科教育法Ⅲ(指導技術)	3	前	2	21	関連	国語科教育法Ⅲ		2	
国際	c4	国語科教育法Ⅳ(授業評価)	3	後	2	21	関連	国語科教育法Ⅳ		2	
国際	c3	書道Ⅰ	4	前	2	21	展開	書道Ⅰ	4	2	
国際	c3	書道Ⅱ	4	後	2	21	展開	書道Ⅱ	4	2	
						21	展開	中国文学Ⅰ		2	
						21	展開	中国文学Ⅱ		2	
国際	c2	日本文学入門	1	前	2	21	教養	日本古典文学入門		2	
国際	c3	女性文学の世界Ⅱ(近現代編)	2	後	2	21	教養	日本近代文学入門		2	
国際	c3	日本現代文学の世界	2	後	2	21	教養	日本現代文学入門		2	
国際	c3	変体仮名入門	2	後	2	21	教養	変体仮名入門		2	
国際	c3	昔話・童話の世界	1	後	2	21	教養	日本昔話・童話入門		2	
国際	c3	日本語話し言葉講座Ⅰ	2	前	2	21	教養	日本文学特別講義Ⅰ		2	
						21	焦点	日本上代文学作品研究Ⅰ		2	
						21	焦点	日本上代文学作品研究Ⅱ		2	
国際	c3	日本王朝文化の世界	2	前	2	21	焦点	日本中古文学作品研究Ⅰ		2	
国際	c3	日本の芸道	3	前	2	21	焦点	日本中古文学作品研究Ⅱ		2	
国際	c3	日本中世文化の世界	2	後	2	21	焦点	日本中世文学作品研究Ⅰ		2	
国際	c3	女性文学の世界Ⅰ(古典編)	2	前	2	21	焦点	日本中世文学作品研究Ⅱ		2	
国際	c3	日本江戸文化の世界	2	前	2	21	焦点	日本近世文学作品研究Ⅰ		2	
国際	c3	演劇論	3	後	2	21	焦点	日本近世文学作品研究Ⅱ		2	
国際	c3	日本近代文学の世界	2	前	2	21	焦点	日本近代文学作品研究Ⅰ		2	
国際	c3	キリスト教文学	3	前	2	21	焦点	日本近代文学作品研究Ⅱ		2	
国際	c3	比較文学	2	前	2	21	焦点	日本現代文学作品研究Ⅰ		2	
国際	c3	文芸創作	2	後	2	21	焦点	日本現代文学作品研究Ⅱ		2	
国際	c3	フィールドワーク文学地踏査	2	前	2	21	焦点	日本文学特別講義Ⅱ		2	
国際	c3		2	前	2	21	展開	日本古典文学特殊講義		2	
国際	c3	ジャーナリズムの研究	3	前	2	21	展開	日本近代・現代文学特殊講義		2	
		なし				22	教養	英文法Ⅰ	1	1	
		なし				22	教養	英文法Ⅱ	1	1	
		なし				22	教養	英語の音声	1	1	
		なし				22	教養	スピーチ・クリニック	1	1	
国際教養	C2	British Culture and History	1		2	22	教養	オーラル・コミュニケーションⅠ	1	1	
国際教養	C2	Area Studies 3 (Europe)	1		2	22	教養	オーラル・コミュニケーションⅡ	1	1	
国際教養	C2	Nature and Environment	1		2	22	教養	ベイシック・ライティングⅠ	1	1	
国際教養	C2	Health Science	1		2	22	教養	ベイシック・ライティングⅡ	1	1	
国際教養	C2	American Culture and History	1		2	22	教養	リーディングⅠ	1	1	
国際教養	C2	Area Studies 1 (America)	1		2	22	教養	リーディングⅡ	1	1	
国際教養	C2	英語学の視点	1		2	22	教養	英語学入門	1	2	
国際教養	C3	英米文学文化の学び方	1		2	22	教養	英米文学入門	1	2	
国際教養	C2	American Literature and Thought	2		2	22	焦点	オーラル・コミュニケーションⅢ	2	1	
国際教養	C2	Social Anthropology	2		2	22	焦点	オーラル・コミュニケーションⅣ	2	1	
		なし				22	焦点	オーラル・コミュニケーションⅤ	3	1	
		なし				22	焦点	オーラル・コミュニケーションⅥ	3	1	
		なし				22	焦点	アドヴァンスト・オーラル・コミュニケーションⅠ	3・4	2	
		なし				22	焦点	アドヴァンスト・オーラル・コミュニケーションⅡ	3・4	2	
国際教養	C2	Asian and African Literature and Thought	2		2	22	焦点	パラグラフ・ライティングⅠ	2	1	
国際教養	C2	European Literature and Thought	2		2	22	焦点	パラグラフ・ライティングⅡ	2	1	
		なし				22	焦点	エッセイ・ライティングⅠ	3	1	
		なし				22	焦点	エッセイ・ライティングⅡ	3	1	
		なし				22	焦点	アドヴァンスト・リーディングⅠ	3	2	
		なし				22	焦点	アドヴァンスト・リーディングⅡ	3	2	
		なし				22	焦点	アドヴァンスト・リーディングⅢ	3・4	2	
		なし				22	焦点	アドヴァンスト・リーディングⅣ	3・4	2	
		なし				22	焦点	TOEIC特別演習Ⅰ	3	2	
		なし				22	焦点	TOEIC特別演習Ⅱ	3	2	
		なし				22	焦点	TOEIC特別演習Ⅲ	3・4	2	
		なし				22	焦点	TOEIC特別演習Ⅳ	3・4	2	
国際教養	C2	Social Psychology	2		2	22	焦点	ホームステイ・イングリッシュ	2	1	
国際教養	C2	アメリカの文化と歴史	2		2	22	焦点	アメリカ社会文化研究	2	2	
国際教養	C2	イギリスの文化と歴史	2		2	22	焦点	イギリス社会文化研究	2	2	
国際教養	C2	World Economy	2		2	22	焦点	ビジネス・イングリッシュ	2	2	
		なし				22	焦点	ビジネス・コミュニケーションⅠ	3	1	
		なし				22	焦点	ビジネス・コミュニケーションⅡ	3	1	
国際教養	C3	英語学Ⅲ	2		2	22	焦点	英語学概論	2	2	
		なし				22	展開	パブリック・スピーキングⅠ	4	2	
		なし				22	展開	パブリック・スピーキングⅡ	4	2	
		なし				22	展開	ディベイト＆ディスカッションⅠ	4	2	
		なし				22	展開	ディベイト＆ディスカッションⅡ	4	2	
		なし				22	展開	アドヴァンスト・ライティングⅠ	4	2	
		なし				22	展開	アドヴァンスト・ライティングⅡ	4	2	
		なし				22	展開	アドヴァンスト・ビジネス・コミュニケーションⅠ	4	2	
		なし				22	展開	アドヴァンスト・ビジネス・コミュニケーションⅡ	4	2	
国際教養	C3	英語学Ⅰ	2		2	22	展開	英語学研究Ⅰ	2	2	
国際教養	C3	英語学Ⅱ	2		2	22	展開	英語学研究Ⅱ	2	2	
国際教養	C3	比較言語学Ⅰ	2		2	22	展開	英語学研究Ⅲ	2	2	
国際教養	C3	比較言語学Ⅱ	2		2	22	展開	英語学研究Ⅳ	2	2	
国際教養	C3	現代英語Ⅰ	3		2	22	展開	英語学研究Ⅴ	2	2	
国際教養	C3	現代英語Ⅱ	3		2	22	展開	英語学研究Ⅵ	2	2	
国際教養	C3	言語学研究Ⅰ	3		2	22	展開	英語学研究Ⅶ	2	2	
国際教養	C3	言語学研究Ⅱ	3		2	22	展開	英語学研究Ⅷ	2	2	
国際教養	C3	第二言語習得研究	2		2	22	展開	社会言語学研究Ⅰ	2	2	
国際教養	C3	言語教育政策論	2		2	22	展開	社会言語学研究Ⅱ	2	2	
国際教養	C3	外国語教授法	3		2	22	展開	英語教育研究Ⅰ	2	2	
国際教養	C3	外国語評価論	3		2	22	展開	英語教育研究Ⅱ	2	2	
国際教養	C3	比較文化学Ⅰ	2		2	22	展開	異文化間コミュニケーション研究Ⅰ	2	2	
国際教養	C3	比較文化学Ⅱ	2		2	22	展開	異文化間コミュニケーション研究Ⅱ	2	2	
国際教養	C3	英語学Ⅳ	2		2	22	展開	言語学講義	2	2	
国際教養	C3	幼児英語研究	3		2	22	展開	児童英語教育研究	2	2	
国際教養	C3	19世紀アメリカ文学研究	3		2	22	展開	比較文化研究	2	2	
国際教養	C3	通訳の理論と実践3	3		2	22	展開	通訳法Ⅰ	2	2	
国際教養	C3	通訳の理論と実践4	3		2	22	展開	通訳法Ⅱ	2	2	
国際教養	C4	英語科教育法Ⅰ	3		2	22	展開	英語科教育法Ⅰ	3	2	
国際教養	C4	英語科教育法Ⅱ	3		2	22	展開	英語科教育法Ⅱ	3	2	
国際教養	C4	英語科教育法Ⅲ	3		2	22	関連	英語科教育法Ⅲ	3	2	
国際教養	C4	英語科教育法Ⅳ	3		2	22	関連	英語科教育法Ⅳ	3	2	
国際教養	C3	イギリス文学文化の比較的アプローチ	2		2	22	焦点	英米文学概論	2	2	
国際教養	C3	アメリカ文学史	2		2	22	焦点	アメリカ文学史Ⅰ	2	2	
		なし(旧カリ開講せず)				22	焦点	アメリカ文学史Ⅱ	2	2	
国際教養	C3	イギリス文学史	2		2	22	焦点	イギリス文学史Ⅰ	2	2	
		なし(旧カリ開講せず)				22	焦点	イギリス文学史Ⅱ	2	2	
国際教養	C3	20世紀アメリカ文学研究	3・4		2	22	展開	アメリカ文学研究Ⅰ	2	2	
国際教養	C3	ユダヤ系アメリカ人の歴史と文化	3・4		2	22	展開	アメリカ文学研究Ⅱ	2	2	

2011年度入学生用科目

主管学科	区分（C1～C5）	2012科目名	年次	開講学期	単位	201	区分	2011科目名	年次	単位	主管以外の区分
国際教養	C3	アメリカ黒人の歴史と文化	3・4		2	22	展開	アメリカ文学研究Ⅲ	2	2	
国際教養	C3	20世紀アメリカン・スタディーズ	3・4		2	22	展開	アメリカ文学研究Ⅳ	2	2	
国際教養	C3	イギリスの女性	3・4		2	22	展開	イギリス文学研究Ⅰ	2	2	
国際教養	C3	イギリスの都市と田園	3・4		2	22	展開	イギリス文学研究Ⅱ	2	2	
国際教養	C3	イギリス演劇と社会	3・4		2	22	展開	イギリス文学研究Ⅲ	2	2	
国際教養	C3	レズビアン・ゲイ・スタディーズ	3・4		2	22	展開	イギリス文学研究Ⅳ	2	2	
国際教養	C3	現代のイギリス文学	3・4		2	22	展開	イギリス文学研究Ⅴ	2	2	
国際教養	C3	イギリス短編小説	3・4		2	22	展開	イギリス文学研究Ⅵ	2	2	
国際教養	C3	現代の批評と理論	3・4		2	22	展開	イギリス文学研究Ⅶ	2	2	
国際教養	C3	英米詩の世界	3・4		2	22	展開	イギリス文学研究Ⅷ	2	2	
国際教養	C3	アメリカ文化とジェンダー	3・4		2	22	展開	世界の英語文学研究	2	2	
国際教養	C3	カルチュラル・スタディーズ	3・4		2	22	展開	カルチュラル・スタディーズ	2	2	
国際教養	C3	19世紀のイギリス文学	3・4		2	22	展開	国際社会文化研究	2	2	
国際教養	C3	海外英語研修Ⅱ	2		4	22	関連	アメリカ短期英語研修	2	4	
国際教養	C3	海外英語研修Ⅱ	2		4	22	関連	イギリス短期英語研修	2	4	
		なし（旧カリ開講せず）				22	関連	アメリカ長期英語研修	2	16	
		なし（旧カリ開講せず）				22	関連	イギリス長期英語研修	2	16	
		なし（旧カリ開講せず）				22	関連	ビジネスインターンシップ・インUK	2	16	
		なし（旧カリ開講せず）				22	関連	日本語インターンシップ・インUK	2	16	
国際教養	C3	国内英語研修	2		2	22	関連	英語集中トレーニング・インJAPAN	2	4	
						43	教養	民衆文化	1	2	
国際教養学科	C2	音楽の世界	1	後	2	43	教養	生活芸術論	1	2	
国際教養学科	C2	西洋美術史	1	後	2	43	教養	美術史Ⅰ	1	2	日英幼/関連
国際教養学科	C2	民俗学	1	後	2	43	教養	民俗学Ⅰ	1	2	日英幼/関連
国際教養学科	C3	都市文化入門	1	後	2	43	教養	芸術文化史概論	1	2	
国際教養学科	C3	観光概論	2	前	2	43	教養	イタリアの言語と文化Ⅰ	1	2	
国際教養学科	C3	キリスト教図像学	2	前	2	43	教養	イタリアの言語と文化Ⅱ	1	2	
						43	焦点	日本表象文化史	2・3	2	
						43	焦点	東洋表象文化史	2・3	2	
国際教養学科	C2	歴史学のみかたⅢ	2	前	2	43	焦点	西洋表象文化史	2・3	2	
国際教養学科	C3	造形の基礎Ⅰ	2	前	2	43	焦点	文化情報リテラシー	2・3	2	
						43	焦点	国際コミュニケーション研究	2・3	6	
国際教養学科	C3	芸術文化フィールドワーク	2・3	前	4	43	焦点	芸術文化フィールドワーク	2・3	4	
国際教養学科	C3	市民社会とNGO・NPO	3	前	2	43	焦点	地域文化とNPO	1～3	2	
国際教養学科	C3	世界遺産学	2	前	2	43	焦点	世界遺産論	2・3	2	
国際教養学科	C3	芸術史研究	2	前	2	43	焦点	美術史学	3	2	
国際教養学科	C2	日本美術史	1	前	2	43	焦点	美術史Ⅱ	2	2	日英幼/関連
国際教養学科	C3	地域と食文化	2	後	2	43	焦点	民俗学Ⅱ	2・3	2	日英幼/関連
国際教養学科	C3	コミュニティーとまちづくり	2	前	2	43	焦点	芸術文化研究Ⅰ	2・3	2	
国際教養学科	C3	映画史	2	後	2	43	焦点	芸術文化研究Ⅱ	2・3	2	
国際教養学科	C3	現代美術論	2	後	2	43	焦点	芸術文化研究Ⅲ	2・3	2	
国際教養学科	C3	演劇実技Ⅰ	2	前	2	43	焦点	芸術文化研究Ⅳ	2～4	2	
国際教養学科	C3	文化プロデュース論	2	前	2	43	展開	アート・プロデュース論	3・4	2	
国際教養学科	C3	パフォーミング・アーツ論	2	前	2	43	展開	異文化交流論	2～4	2	
						43	展開	人間発達論	3	2	
その他	C4	生涯学習論Ⅱ	2	前	2	43	展開	生涯学習論	2	2	日英幼/関連
国際教養学科	C3	日本史	2	前	2	43	展開	日本史	2	2	
国際教養学科	C3	外国史Ⅲ	2	前	2	43	展開	外国史Ⅰ	2	2	
国際教養学科	C3	外国史Ⅳ	2	後	2	43	展開	外国史Ⅱ	3・4	2	
その他	C4	社会教育計画Ⅰ	2	後	2	43	展開	社会教育計画Ⅰ	2	2	日英幼/関連
その他	C4	社会教育計画Ⅱ	3	前	2	43	展開	社会教育計画Ⅱ	3	2	日英幼/関連
国際教養学科	C3	社会教育演習Ⅰ	3	前	1	43	展開	社会教育演習Ⅰ	3	1	日英幼/関連
国際教養学科	C3	社会教育演習Ⅱ	3	後	1	43	展開	社会教育演習Ⅱ	3	1	日英幼/関連
生活デザイン・建築学科	C2	感性デザイン論Ⅰ（ポップカルチャー）	1・2	前	2	43	焦点	感性デザイン論Ⅰ	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	西洋服装史	1・2	前	2	43	焦点	服装史学	2	2	
43	C3	衣生活論（被服学概論）	1	前	2	43	教養	衣生活論（被服学概論）	1	2	栄/関連
43	C3	住生活論（含住居学概論）	1	後	2	43	教養	住生活論（含住居学概論）	1	2	栄/関連
生活デザイン・建築学科	C3	造園表現（ガーデニング）技術論	2	前	2	43	焦点	植生環境学（建築・都市の植生）	3	2	
生活デザイン・建築学科	C2	生活空間デザイン論	1	前	2	43	教養	生活空間デザイン論	1	2	
生活デザイン・建築学科	C3	日本建築史（含住居史）	2	前	2	43	焦点	日本建築史（含住居史）	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	住居・建築設計実習Ⅰ（含製図）	1	後	2	43	焦点	住居・建築設計実習Ⅰ（含製図）	1	2	
生活デザイン・建築学科	C3	住居・建築設計実習Ⅱ	2	前	2	43	焦点	住居・建築設計実習Ⅱ	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	住居・建築設計実習Ⅲ	2	後	2	43	焦点	住居・建築設計実習Ⅲ	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	生活造形論（工芸とデザイン）	1	後	2	43	焦点	生活造形論（工芸とデザイン）	1	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築材料学	3	前	2	43	焦点	建築材料学	3	2	
生活デザイン・建築学科	C2	感性デザイン論Ⅱ（ファッション文化史）	1・2	後	2	43	焦点	感性デザイン論Ⅱ	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	住環境工学	2	後	2	43	焦点	住環境工学Ⅰ（建築と熱・光・空気のデザイン）	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	造形実習	3	前	2	43	焦点	造形実習	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築CADⅠ（実習）	2	前	2	43	焦点	建築CAD（実習）Ⅰ	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築意匠論Ⅰ	2	後	2	43	焦点	建築意匠論Ⅰ	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	住居・建築計画学Ⅰ（独立住宅デザイン）	2	前	2	43	焦点	住居・建築計画学Ⅰ（独立住宅デザイン）	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	住居・建築計画学Ⅱ（生活デザイン他）	2	前	2	43	焦点	住居・建築計画学Ⅱ（ケア・デザイン他）	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	住居・建築計画学Ⅲ（集合住宅デザイン他）	2	後	2	43	焦点	住居・建築計画学Ⅲ（集合住宅デザイン他）	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	住居・建築計画学Ⅳ（複合建築デザイン他）	3	前	2	43	焦点	住居・建築計画学Ⅳ（複合建築デザイン他）	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築意匠論Ⅱ	3	前	2	43	展開	建築意匠論Ⅱ	3	2	
						43	焦点	環境物理Ⅱ	2	2	栄/関連
43	C3	ファッション・デザイン実習Ⅰ	2	前	2	43	焦点	ファッション・デザイン実習Ⅰ	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	被服構成学（含実習）	2	前	2	43	焦点	被服構成学（含実習）	2	2	
国際教養学科	C3	コンピュータグラフィックス	2	前	2	43	焦点	コンピュータ・デザイン（含実習）	2	2	
国際教養学科	C3	画像情報処理	2	後	2	43	焦点	画像処理（含実習）	2	2	
						43	焦点	環境衛生学Ⅰ	2	2	
国際教養学科	C2	色彩情報論	1	後	2	43	焦点	色彩情報論（含実習）	1	2	
国際教養学科	C3	データ解析	2	後	2	43	焦点	多変量解析入門	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築CADⅡ（実習）	2	後	2	43	展開	建築CAD（実習）Ⅱ	2	2	
						43	展開	住環境工学Ⅱ（住環境デザイン）	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	被服心理学	2	後	2	43	展開	造形心理学（ファッション・インテリア）	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築設備	3	前	2	43	展開	建築設備	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築積算	3	前	2	43	展開	建築積算	3	2	
43	C4	ファッション・デザイン実習Ⅱ	2	後	2	43	展開	ファッション・デザイン実習Ⅱ	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	ファッション・デザイン実習Ⅲ	3	前	2	43	展開	ファッション・デザイン実習Ⅲ	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	生活デザイン論（和の心）	2・3	前	2	43	展開	生活デザイン史	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	住居・建築設計実習Ⅳ	3	前	2	43	展開	住居・建築設計実習Ⅳ	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	住居・建築計画学Ⅴ（建築・都市デザイン）	3	後	2	43	展開	住居・建築計画学Ⅴ（建築・都市デザイン）	3	2	
						43	展開	住環境実験	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	住居・建築設計実習Ⅴ（含測量）	3	後	2	43	展開	住居・建築設計実習Ⅴ（含測量）	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築倫理（含建築職能論）	3	後	2	43	展開	建築倫理（含建築職能論）	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築プレゼンテーション実習	3	後	2	43	展開	建築プレゼンテーション実習	3	2	
国際教養学科	C3	環境科学概説	2	前	2	43	教養	環境科学概論Ⅰ	1	2	
						43	焦点	分析化学Ⅰ	2	2	
						43	焦点	環境物理Ⅰ	2	2	
						43	教養	自然環境学Ⅰ（植物）	1	2	
国際教養学科	C3	環境保全学	2	後	2	43	教養	自然環境学Ⅱ（動物）	1	2	
						43	焦点	動物生態学	3	2	
						44	焦点	有機化学	2	2	
						43	焦点	環境科学概論Ⅱ	2	2	
						44	焦点	分析化学Ⅱ	2	2	

2011年度入学生用科目

主管学科	区分（C1～C5）	2012科目名	年次	開講学期	単位	201	区分	2011科目名	年次	単位	主管以外の区分
						43	焦点	環境衛生学Ⅱ	3	2	
						43	焦点	バイオサイエンスⅠ	3	2	
国際教養学科	C3	自然環境学実験	2	前	2	43	展開	自然環境学実験	3	2	
						43	展開	環境化学実験	3	2	
国際教養学科	C3	植物バイオテクノロジー	2	後	2	43	展開	バイオサイエンスⅡ	3	2	
						43	展開	園芸植物学	3	2	
						43	展開	ビオトープ緑化論	3	2	
国際教養学科	C2	数学入門	1	後	2	43	教養	情報数学Ⅰ	1	2	
国際教養学科	C3	情報数学	2	前	2	43	教養	情報数学Ⅱ	1	2	
CLC	C2	経営学総論	1	前	2	43	教養	経営学総論	1	2	
	C2	情報管理論Ⅰ（含情報処理）	2	前	2	43	焦点	情報管理論Ⅰ（含情報処理）	2	2	栄/教養
						43	焦点	生活経済学Ⅰ	2･3	2	
国際教養学科	C3	情報社会論	2	後	2	43	教養	情報社会論	1	2	
国際教養学科	C3	現代社会論（男女共同参画社会）	2	後	2	43	焦点	現代社会論Ⅰ	2	2	
国際教養学科	C3	プレゼンテーション演習Ⅰ（アサーティブ・コミュニケー	2	前	2	43	焦点	プレゼンテーション演習Ⅰ	2	2	
国際教養学科	C3	プレゼンテーション演習Ⅱ	2	後	2	43	焦点	プレゼンテーション演習Ⅱ	2	2	
						43	焦点	生活経済学Ⅱ	2･3	2	
国際教養学科	C3	プログラミングⅡ（応用）	2･3	後	2	43	焦点	ウェブプログラミング演習	2･3	2	
						43	焦点	ウェブデザインⅠ	1	2	
						43	焦点	ウェブデザインⅡ（含HTMLとウエブ実習）	3･4	2	
						43	焦点	3Dモデリング（含実習）	2	2	
						43	焦点	情報管理論Ⅱ	2･3	2	
国際教養学科	C3	データベース概論	2･3	後	2	43	焦点	データベース（含実習）	2･3	2	
国際教養学科	C3	プログラミングⅠ（基礎）	2･3	前	2	43	焦点	アルゴリズム・プログラミング（含実習）	2･3	2	
CLC	C2	ビジネス実務総論Ⅰ	1	後	2	43	焦点	ビジネス実務総論	2	2	
国際教養学科	C2	情報科学入門	1	前	2	43	教養	情報科学概論Ⅰ	1	2	
国際教養学科	C3	オペレーティングシステム入門	1	後	2	43	焦点	情報科学概論Ⅱ（含実習）	1	2	
CLC	C2	プレゼンテーション概論	1	後	2	43	焦点	プレゼンテーション概論	1	2	
国際教養学科	C3	情報社会の職業観・職業倫理	3	後	2	43	焦点	情報社会の職業観・職業倫理	3	2	
国際教養学科	C3	平和学フィールドワークⅡ（平和運動論演習）	2	後	2	43	展開	現代社会論Ⅱ	2	2	
国際教養学科	C3	情報と問題解決	2	後	2	43	展開	モデル化とシミュレーション	2	2	
国際教養学科	C3	情報科学とテクノロジー	3	前	2	43	展開	情報工学（含実習）	3	2	
国際教養学科	C3	情報産業論	3	前	2	43	展開	情報産業論	3	2	
国際教養学科	C3	システム設計	2･3	後	2	43	展開	システム設計（含実習）	2･3	2	
国際教養学科	C3	アニメーション作成	3	前	2	43	展開	マルチメディア制作（含実習）	3	2	
国際教養学科	C3	生活情報論	3	前	2	43	展開	消費生活情報論	3	2	
国際教養学科	C3	ネットワーク概論	3	前	2	43	展開	通信ネットワークと情報セキュリティ（含実習）	3	2	
国際教養学科	C3	情報総合プレゼテーション演習	3･4	前	2	43	展開	情報総合プレゼテーション演習	3･4	2	
						43	展開	情報総合ウェブデザイン演習	3･4	2	
国際教養学科	C3	女性労働論	3	後	2	43	展開	女性労働論	3･4	2	
CLC	C2	女性学入門	1	後	2	43	展開	女性学	3	2	
CLC	C2	ビジネス実務演習Ⅰ	2	前	2	43	展開	ビジネス実務演習	2･3	2	
国際教養学科	C3	アメリカ・ビジネス研修Ⅰ	3･4	前	2	43	展開	海外ビジネス研修	3	4	
国際教養学科	C3	アメリカ・ビジネス研修Ⅱ	3･4	後	2						
44	C3	微生物学	1		2	44	教養	微生物学	1	2	
44	C3	食品衛生学	1		2	44	教養	食品衛生学	1	2	
44	C3	食品学Ⅰ	1		2	44	教養	食品学Ⅰ	1	2	
44	C2	生化学Ⅰ	1		2	44	教養	生化学Ⅰ	1	2	
44	C3	生化学Ⅱ	1		2	44	教養	生化学Ⅱ	1	2	
44	C2	解剖生理学Ⅰ	1		2	44	教養	解剖生理学Ⅰ	1	2	
44	C2	解剖生理学Ⅱ	1		2	44	教養	解剖生理学Ⅱ	1	2	
44	C2	社会福祉概論	2		2	44	焦点	社会福祉概論	2	2	
44	C2	健康管理概論	2		2	44	教養	健康管理概論	2	2	
44	C3	食品学実験Ⅰ	2		1	44	焦点	食品学実験Ⅰ	2	1	
44	C3	調理科学実習Ⅰ	2		1	44	焦点	調理科学実習Ⅰ	2	1	
44	C3	調理科学実習Ⅱ	2		1	44	焦点	調理科学実習Ⅱ	2	1	
44	C3	解剖生理学実験Ⅰ	2		1	44	焦点	解剖生理学実験Ⅰ	2	1	
44	C3	解剖生理学実験Ⅱ	2		1	44	焦点	解剖生理学実験Ⅱ	2	1	
						44		生命科学	2	2	生活/焦点
44	C3	給食経営管理実習Ⅰ	3		1	44	展開	給食経営管理実習Ⅰ	2	1	
44	C5	調理科学実習Ⅲ	3		1	44	展開	調理科学実習Ⅲ	3	1	
44	C3	臨床栄養学Ⅰ	3		2	44	展開	臨床栄養学Ⅰ	3	2	
44	C3	臨床栄養学Ⅱ	3		2	44	展開	臨床栄養学Ⅱ	3	2	
44	C3	臨床栄養学実習Ⅰ	3		1	44	展開	臨床栄養学実習Ⅰ	3	1	
44	C3	臨床栄養学実習Ⅱ	3		1	44	展開	臨床栄養学実習Ⅱ	3	1	
44	C3	公衆栄養学Ⅰ	2		2	44	展開	公衆栄養学Ⅰ	2	2	
						44	展開	外書講読	3	2	
44	C2	化学	1		2	44	関連	化学入門Ⅰ	1	2	
						44	関連	化学入門Ⅱ	1	2	
44	C2	生物学入門	1		2	44	関連	生理学入門	1	2	
						44	関連	健康科学Ⅰ	1	2	
生活デザイン・建築学科	C2	健康科学（含栄養学概論）	1		2	44	関連	健康科学Ⅱ（含栄養学概論）	1	2	
44	C3	食品学Ⅱ（含食品加工学）	1		2	44	教養	食品学Ⅱ（含食品加工学）	1	2	
44	C3	ライフステージ別栄養学Ⅰ	2		2	44	教養	ライフステージ別栄養学Ⅰ	2	2	
44	C3	基礎栄養学	1		2	44	教養	基礎栄養学	1	2	
44	C3	栄養教育論Ⅰ	2		2	44	教養	栄養教育論Ⅰ	2	2	
44	C3	給食経営管理論Ⅰ	2		2	44	教養	給食経営管理論Ⅰ	2	2	
44	C3	調理科学Ⅰ	1		2	44	教養	調理科学Ⅰ	1	2	
44	C3	調理科学Ⅱ	2		2	44	教養	調理科学Ⅱ	2	2	
44	C3	公衆衛生学	2		2	44	焦点	公衆衛生学	2	2	
44	C3	病態生理学Ⅰ	3		2	44	焦点	病態生理学Ⅰ	3	2	
44	C3	調理科学実験	1		1	44	焦点	調理科学実験	1	1	
44	C3	生化学実験	1		1	44	焦点	生化学実験	1	1	
44	C3	食品衛生学実験	2		1	44	焦点	食品衛生学実験	2	1	
44	C3	食品学実験Ⅱ（含食品加工学実験）	2		1	44	焦点	食品学実験Ⅱ（含食品加工学実験）	2	1	
44	C3	ライフステージ別栄養学Ⅱ	2		2	44	焦点	ライフステージ別栄養学Ⅱ	2	2	
44	C3	基礎栄養学実験	2		1	44	焦点	基礎栄養学実験	2	1	
44	C3	給食経営管理論Ⅱ	2		2	44	焦点	給食経営管理論Ⅱ	2	2	
44	C3	栄養教育論Ⅱ	2		2	44	焦点	栄養教育論Ⅱ	2	2	
44	C3	病態生理学Ⅱ	3		2	44	展開	病態生理学Ⅱ	3	2	
44	C3	スポーツ栄養学	2		2	44	展開	スポーツ栄養学	2	2	
44	C3	ライフステージ別栄養学実習	2		1	44	展開	ライフステージ別栄養学実習	2	1	
44	C3	栄養マネジメント実習	3		1	44	展開	栄養マネジメント実習	3	1	
44	C3	カウンセリング演習	3		1	44	展開	カウンセリング演習	3	1	
44	C3	栄養指導実習	2		1	44	展開	栄養指導実習	2	1	
44	C3	栄養統計演習	3		1	44	展開	栄養統計演習	3	1	
44	C3	公衆栄養学実習	3		1	44	展開	公衆栄養学実習	3	1	
44	C3	給食経営管理実習Ⅱ	3		1	44	展開	給食経営管理実習Ⅱ	3	1	
24	C4	教育原理	2		2	24	関連	教育原理	2	2	全学科/関連
24	C3	教育社会学	3	前	2	24	焦点	教育社会学	3	2	日英生活栄/関連
24	C2	日本国憲法	1～4	後	2	24	関連	日本国憲法	1～4	2	日英幼/関連
24	C4	教職実践演習（栄養教諭）	4	後	2	24	関連	教職実践演習	4	2	日英生活栄/関連
24	C4	教職実践演習（中・高）	4	後	2						
24	C3	保育・教職実践演習	4	後	2	24	展開	保育・教職実践演習（幼稚園・小学校）	4	2	
24	C4	教育史	3		2	24	関連	教育史	3	2	日英生活栄/関連
24	C4	教育と法	3		2	24	関連	教育と法	3	2	日英生活栄/関連

2011年度入学生用科目

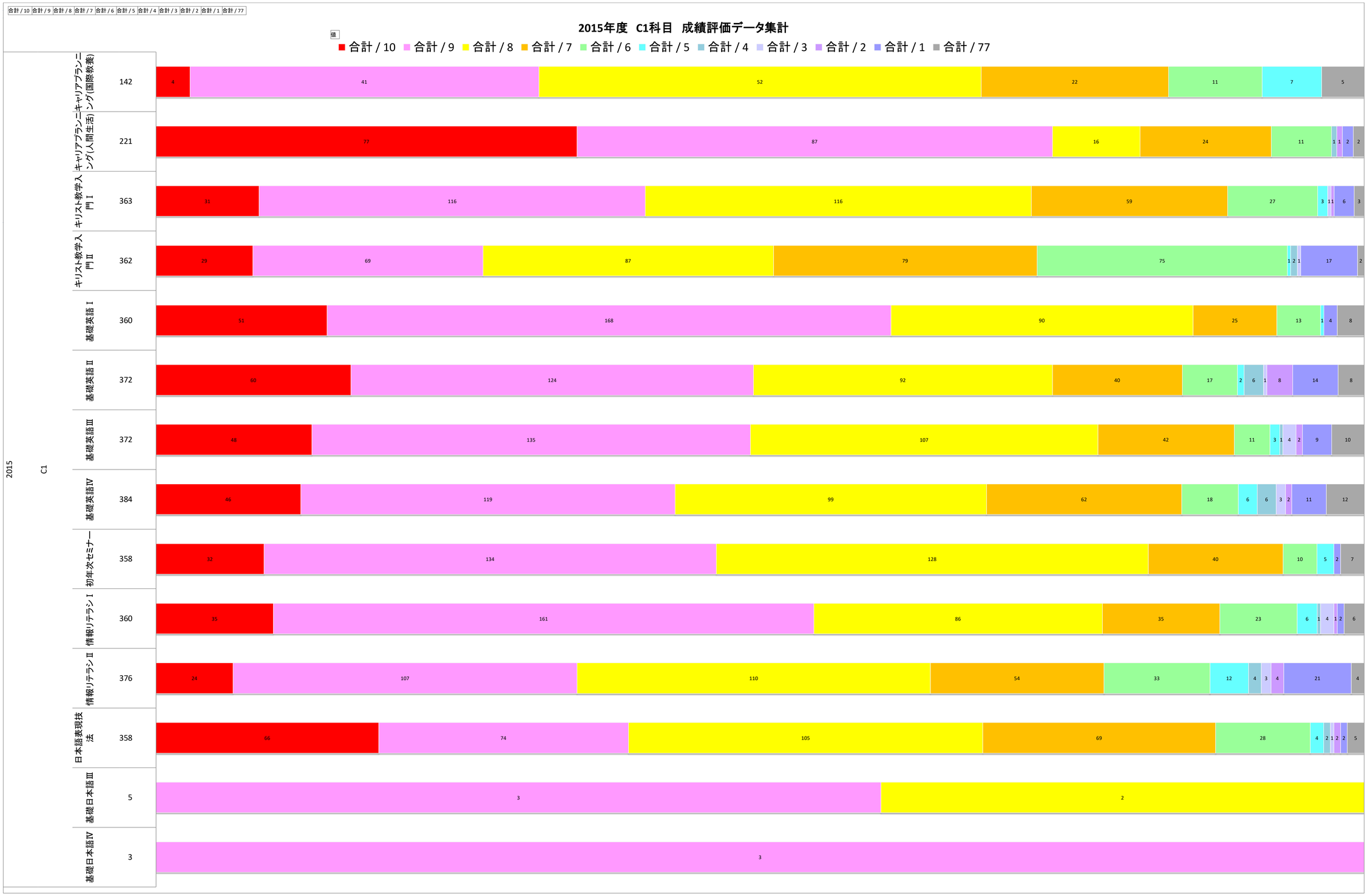
主管学科	区分(C1～C5)	2012科目名	年次	開講学期	単位	201	区分	2011科目名	年次	単位	主管以外の区分
24	C2	スポーツ科学Ⅰ	1	前	1	24	関連	スポーツ科学Ⅰ	1～4	1	
24	C2	スポーツ科学Ⅱ	1	後	1	24	関連	スポーツ科学Ⅱ	1～4	1	
24	C2	スポーツ科学Ⅲ(課外活動等)	2	前	1						
24	C2	スポーツ科学Ⅳ(スキー・スケート等)	2	後	1						
24	C2	スポーツ科学Ⅴ(水泳等)	2	前	1						
24	C2	スポーツ科学Ⅵ(フィットネス)	2	後	1						
CLC	C2	インターンシップⅠ	2	前	2	43	関連	インターンシップ	2～4	2	
						99	関連	オープンセミナー	1	2	
99	C2	特別セミナーⅠ	2	前・後	2	99	関連	特別セミナーⅠ		2	
99	C2	特別セミナーⅡ	2	前・後	2	99	関連	特別セミナーⅡ		2	
99	C2	特別講義Ⅰ	2	前・後	2	99	関連	特別講義Ⅰ		2	
99	C2	特別講義Ⅱ	2	前・後	2	99	関連	特別講義Ⅱ		2	
生活デザイン・建築学科	C4	生活経営学(含家庭経営学・家庭経済学)	1	前	2	43	関連	生活経営学(含家庭経営学・家庭経済学)	1	2	栄/関連
生活デザイン・建築学科	C3	被服材料学	1	後	2	43	関連	被服材料学	1	2	栄/関連
生活デザイン・建築学科	C4	人間関係論Ⅰ(含家族関係論)	3	前	2	43	関連	人間関係論Ⅰ(含家族関係学)	3･4	2	幼/焦点,栄/展開
生活デザイン・建築学科	C4	人間関係論Ⅱ	3	後	2	43	関連	人間関係論Ⅱ	3･4	2	幼栄/展開
生活デザイン・建築学科	C3	被服管理学	2	前	2	43	関連	生活管理学(被服管理学)	3	2	
生活デザイン・建築学科	C4	食品学概論	2		2	43	関連	食品学概論	1	2	
生活デザイン・建築学科	C3	調理科学実習	3		2	43	関連	調理科学実習	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	住居設計実習(含製図)	3	後	2	43	関連	住居設計実習(含製図)	2	2	栄/関連
生活デザイン・建築学科	C4	保育学(含実習・家庭看護)	2		2	43	関連	保育学	2	2	栄/焦点
国際教養学科	C2	家庭電気・機械	2	前	2	43	関連	家庭電気・機械	2	2	栄/関連
						43	関連	情報倫理	2	2	
生活デザイン・建築学科	C4	家庭科教育法Ⅰ	3	前	2	43	関連	家庭科教育法Ⅰ	3	2	栄/関連
生活デザイン・建築学科	C4	家庭科教育法Ⅱ	3	後	2	43	関連	家庭科教育法Ⅱ	3	2	栄/関連
生活デザイン・建築学科	C4	家庭科教育法Ⅲ	3	前	2	43	関連	家庭科教育法Ⅲ	3	2	栄/関連
生活デザイン・建築学科	C4	家庭科教育法Ⅳ	3	後	2	43	関連	家庭科教育法Ⅳ	3	2	栄/関連
その他	C4	情報科教育法Ⅰ	3	前	2	43	関連	情報科教育法Ⅰ	3	2	
その他	C4	情報科教育法Ⅱ	3	後	2	43	関連	情報科教育法Ⅱ	3	2	
24	C3	初等国語科教育法	3	前	2	24	関連	初等国語科教育法	3	2	
24	C3	初等社会科教育法	3	前	2	24	関連	初等社会科教育法	3	2	
24	C3	初等算数科教育法	3	後	2	24	関連	初等算数科教育法	3	2	
24	C3	初等理科教育法	3	前	2	24	関連	初等理科教育法	3	2	
24	C3	初等生活科教育法	3	後	2	24	関連	初等生活科教育法	3	2	
24	C3	初等音楽科教育法	3	後	2	24	関連	初等音楽科教育法	3	2	
24	C3	初等家庭科教育法	3	前	2	24	関連	初等家庭科教育法	3	2	
24	C3	初等図画工作科教育法	3	前	2	24	関連	初等図画工作科教育法	3	2	
24	C3	初等体育科教育法	3	後	2	24	関連	初等体育科教育法	3	2	
24	C3	初等英語科教育法	4	前	2	24	関連	初等英語科教育法	4	2	
CLC	C2	初級仏語Ⅰ	1	前	2	1	言語	フランス語Ⅰ	1	1	
CLC	C2	初級仏語Ⅱ	1	後	2	1	言語	フランス語Ⅱ	1	1	
CLC	C2	初級日本語Ⅰ	1	前	2	1	言語	日本語Ⅰ1	1	1	
CLC	C2	初級日本語Ⅱ	1	後	2	1	言語	日本語Ⅱ1	1	1	
						1	言語	日本語Ⅰ2	1	1	
						1	言語	日本語Ⅱ2	1	1	
CLC	C2	初級独語Ⅰ	1	前	2	1	言語	ドイツ語Ⅰ	1	1	
CLC	C2	初級独語Ⅱ	1	後	2	1	言語	ドイツ語Ⅱ	1	1	
CLC	C2	初級中国語Ⅰ	1	前	2	1	言語	中国語Ⅰ	1	1	
CLC	C2	初級中国語Ⅱ	1	後	2	1	言語	中国語Ⅱ	1	1	
CLC	C2	初級韓国語Ⅰ	1	前	2	1	言語	朝鮮語Ⅰ	1	1	
CLC	C2	初級韓国語Ⅱ	1	後	2	1	言語	朝鮮語Ⅱ	1	1	
CLC	C2	中級日本語Ⅰ	2	前	2	1	言語	日本語Ⅲ1	2	1	
CLC	C2	中級日本語Ⅱ	2	後	2	1	言語	日本語Ⅲ2	2	1	
						1	言語	日本語Ⅳ1	2	1	
						1	言語	日本語Ⅳ2	2	1	
						1	言語	フランス語Ⅲ	2	1	
						1	言語	フランス語Ⅳ	2	1	
						1	言語	ドイツ語Ⅲ	2	1	
						1	言語	ドイツ語Ⅳ	2	1	
CLC	C2	中級中国語Ⅰ	2	前	2	1	言語	中国語Ⅲ	2	1	
CLC	C2	中級中国語Ⅱ	2	後	2	1	言語	中国語Ⅳ	2	1	
CLC	C2	中級韓国語Ⅰ	2	前	2	1	言語	朝鮮語Ⅲ	2	1	
CLC	C2	中級韓国語Ⅱ	2	後	2	1	言語	朝鮮語Ⅳ	2	1	
						1	言語	フランス語研究Ⅰ	3	2	
						1	言語	フランス語研究Ⅱ	3	2	
						1	言語	ドイツ語研究Ⅰ	3	2	
						1	言語	ドイツ語研究Ⅱ	3	2	
						1	言語	中国語研究Ⅰ	3	2	
						1	言語	中国語研究Ⅱ	3	2	
						1	言語	朝鮮語研究Ⅰ	3	2	
						1	言語	朝鮮語研究Ⅱ	3	2	
24	C2	心理学概論	1	後	2	24	教養	心理学概論	1	2	
24	C2	心理学基礎論	1	前	2	24	教養	心理学基礎論	1	2	
24	C3	カウンセリング概論Ⅰ	2	前	2	24	教養	カウンセリング概論Ⅰ	2	2	
24	C2	教育原理Ⅰ	1	後	2	24	教養	教育原理Ⅰ	1	2	
24	C2	保育原理	1	前	2	24	教養	保育原理	1	2	
24	C2	音楽Ⅰ	1	前	2	24	教養	音楽Ⅰ	1	2	
24	C2	図画工作Ⅰ	1	後	2	24	教養	図画工作Ⅰ	1	2	
24	C2	体育Ⅰ	2	前	2	24	教養	体育Ⅰ	2	2	
24	C2	保育内容総論	1	後	2	24	教養	保育内容総論	1	2	
24	C3	保育内容演習(表現Ⅰ)	2	前	2	24	教養	保育内容演習(表現Ⅰ)	2	2	
24	C3	保育内容演習(環境)	1	後	2	24	教養	保育内容演習(環境)	1	2	
24	C3	保育内容演習(健康)	3	前	2	24	教養	保育内容演習(健康)	3	2	
24	C3	保育内容演習(言葉)	3	後	2	24	教養	保育内容演習(言葉)	3	2	
24	C3	保育内容演習(人間関係)	1	後	2	24	教養	保育内容演習(人間関係)	1	2	
24	C3	保育の心理学Ⅰ	1	前	2	24	教養	保育の心理学Ⅰ	1	2	
24	C3	教育心理学	2	後	2	24	焦点	教育心理学	2	2	日英生活栄/関連
24	C3	心理学実験演習	3	前	2	24	焦点	心理学実験演習	3	2	
24	C3	心理学研究法	2	前	2	24	焦点	心理学研究法	2	2	
24	C3	心理データ解析法	2	後	2	24	焦点	心理データ解析法	2	2	
24	C3	臨床心理学	2	後	2	24	焦点	臨床心理学	2	2	
24	C3	心理検査法Ⅰ	3	前	2	24	焦点	心理検査法Ⅰ	3	2	
24	C3	学習心理学	3	前	2	24	焦点	学習心理学	3	2	日英/関連
24	C3	カウンセリング概論Ⅱ	2	後	2	24	焦点	カウンセリング概論Ⅱ	2	2	
24	C3	心理学史	3	後	2	24	展開	心理学史	3	2	
24	C3	人格形成論	3	後	2	24	展開	人格形成論	3	2	
24	C3	心理学特殊実験演習	3	後	2	24	展開	心理学特殊実験演習	3	2	
24	C3	認知心理学	3	後	2	24	展開	認知心理学	3	2	
24	C3	臨床心理学演習	3	前	2	24	展開	臨床心理学演習	3	2	
24	C3	心理検査法Ⅱ	3	後	2	24	展開	心理検査法Ⅱ	3	2	
24	C3	生理心理学	3	後	2	24	展開	生理心理学	3	2	
24	C3	社会心理学	3	後	2	24	展開	社会心理学	3	2	
24	C3	産業心理学	3	前	2	24	展開	産業心理学	3	2	
24	C3	発達心理学	3	後	2	24	展開	発達心理学	3	2	
24	C3	保育の心理学Ⅱ	3	前	2	24	焦点	保育の心理学Ⅱ	3	2	
24	C3	社会的養護	2	前	2	24	焦点	社会的養護	2	2	

2011年度入学生用科目

主管学科	区分(C1～C5)	2012科目名	年次	開講学期	単位	201	区分	2011科目名	年次	単位	主管以外の区分
24	C3	保育内容演習(表現Ⅱ)	2	後	2	24	焦点	保育内容演習(表現Ⅱ)	2	2	
24	C3	社会福祉	2	前	2	24	焦点	社会福祉	2	2	
24	C3	相談援助	3	前	2	24	焦点	相談援助	3	2	
24	C3	児童家庭福祉	2	後	2	24	焦点	児童家庭福祉	2	2	
24	C3	子どもの保健Ⅰ	2	後	4	24	焦点	子どもの保健Ⅰ	2	4	
24	C3	子どもの食と栄養	2	前	2	24	焦点	子どもの食と栄養	2	2	
24	C3	家庭支援論	4	前	2	24	焦点	家庭支援論	4	2	
24	C3	社会的養護内容	2	後	1	24	焦点	社会的養護内容	2	1	
24	C3	教育原理Ⅱ	2	前	2	24	焦点	教育原理Ⅱ	2	2	
24	C3	音楽Ⅱ	1	後	2	24	焦点	音楽Ⅱ	1	2	
24	C3	図画工作Ⅱ	2	前	2	24	焦点	図画工作Ⅱ	2	2	
24	C3	体育Ⅱ	2	後	2	24	焦点	体育Ⅱ	2	2	
24	C3	乳児保育	3	前	2	24	焦点	乳児保育	3	2	
24	C3	国語	2	前	2	24	焦点	国語	2	2	
24	C3	算数	3	前	2	24	焦点	算数	3	2	
24	C3	理科	2	前	2	24	焦点	理科	2	2	
24	C3	社会	2	前	2	24	焦点	社会	2	2	
24	C3	生活	2	後	2	24	焦点	生活	2	2	
24	C3	家庭	2	後	2	24	焦点	家庭	2	2	
24	C3	初等英語	4	前	2	24	焦点	初等英語	4	2	
24	C3	幼児教育相談	2	後	2	24	展開	幼児教育相談	2	2	
24	C3	障害児保育	3	後	2	24	展開	障害児保育	3	2	
24	C3	比較子育て文化論	3	後	2	24	展開	比較子育て文化論	3	2	
24	C3	教育と共生	3	前	2	24	展開	教育と共生	3	2	
24	C3	子育て創造設計	3	後	2	24	展開	子育て創造設計	3	2	
24	C3	幼児と環境	3	前	2	24	展開	幼児と環境	3	2	
24	C3	児童文化	3	後	2	24	展開	児童文化	3	2	
24	C3	保育内容演習(表現Ⅲ)	3	前	2	24	展開	保育内容演習(表現Ⅲ)	3	2	
24	C3	子どもの保健Ⅱ	3	前	1	24	展開	子どもの保健Ⅱ	3	1	
24	C3	保育相談支援	3	後	2	24	展開	保育相談支援	3	2	
81	C5	教職論	1	後	2	81	教職	教職論	1	2	
81	C5	保育者論	1	後	2	81	教職	保育者論	1	2	
81	C5	教育課程論	2	前	2	81	教職	教育課程論	2	2	
81	C5	保育課程論	2	前	2	81	教職	保育課程論	2	2	
81	C5	道徳教育指導論	3	後	2	81	教職	道徳教育の研究	3	2	中等・初等
81	C5	特別活動論	3	後	2	81	教職	特別活動の研究	3	2	中等・初等
81	C5	教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)	3		2	81	教職	教育方法の研究(情報機器及び教材の活用を含む)	3	2	中等
81	C5	初等教育方法論(情報機器及び教材の活用を含む)	2	前	2	81	教職	初等教育方法の研究(情報機器及び教材の活用を含む)	2	2	初等
81	C5	生徒・進路指導論(進路指導の理論及び方法を含む)	3	前	2	81	教職	生徒指導の研究(進路指導の理論及び方法を含む)	3	2	中等・初等
81	C5	教育実習Ⅰ	4		2	81	教職	教育実習Ⅰ	4	2	中等
81	C5	教育実習Ⅱ	4		2	81	教職	教育実習Ⅱ	4	2	中等
81	C5	教育実習Ⅲ(事前・事後指導)	4		1	81	教職	教育実習Ⅲ(事前・事後指導)	4	1	中等
81	C5	初等教育実習Ⅰ	2	前	2	81	教職	初等教育実習Ⅰ	2	2	初等
81	C5	初等教育実習Ⅱ	4	前	2	81	教職	初等教育実習Ⅱ	4	2	初等
81	C5	初等教育実習Ⅲ	4	前	2	81	教職	初等教育実習Ⅲ	4	2	初等
81	C5	初等教育実習Ⅳ(事前・事後指導)	2	前	1	81	教職	初等教育実習Ⅳ(事前・事後指導)	2	1	初等
81	C5	教育相談	3	後	2	81	教職	教育相談	3	2	
81	C5	介護等体験Ⅰ	3	通	1	81	教職	介護等体験Ⅰ	3	1	
81	C5	介護等体験Ⅱ(事前・事後指導)	3	通	1	81	教職	介護等体験Ⅱ(事前・事後指導)	3	1	
81	C5	学校カウンセリング	3	前	2	81	教職	学校カウンセリング	3	2	
81	C5	教育課程及び方法論(含情報機器・教材活用)	3		2	81	教職	教育課程及び方法論(含情報機器・教材活用)	3	2	栄養教諭
81	C5	道徳及び特別活動の研究	3		2	81	教職	道徳及び特別活動の研究	3	2	栄養教諭
81	C5	生徒指導論	3		2	81	教職	生徒指導論	3	2	栄養教諭
81	C5	栄養教育実習Ⅰ	4		1	81	教職	栄養教育実習Ⅰ	4	1	栄養教諭
81	C5	栄養教育実習Ⅱ(事前・事後指導)	4		1	81	教職	栄養教育実習Ⅱ(事前・事後指導)	4	1	栄養教諭
その他	C5	博物館概論	2	前	2	83	学芸	博物館概論	3	2	
その他	C5	博物館経営論	2	後	2	83	学芸	博物館学各論Ⅰ	3	2	
その他	C5	博物館資料論	2	前	2	83	学芸	博物館学各論Ⅱ	3	2	
その他	C5	生涯学習論Ⅰ	2	前	2	83	学芸	生涯学習概論	2	2	
その他	C5	博物館情報・メディア論	2	前	2	83	学芸	視聴覚教育メディア論	3	2	
その他	C5	博物館実習Ⅰ	4	前	1	83	学芸	博物館実習Ⅰ	1	1	
その他	C5	博物館実習Ⅱ	4	後	2	83	学芸	博物館実習Ⅱ	1	1	
その他	C5	博物館実習Ⅲ	4	後	1	83	学芸	博物館実習Ⅲ	1	1	
日教	C5	日本語教授法Ⅰ	3	前	2	86	日教	日本語教授法Ⅰ	3	2	
日教	C5	日本語教授法Ⅱ	3	後	2	86	日教	日本語教授法Ⅱ	3	2	
日教	C5	日本語教育実習	4	前	3	86	日教	日本語教育実習	4	3	
44	C3	公衆栄養学Ⅱ	3		2	88	栄養	公衆栄養学Ⅱ	3	2	
44	C3	臨床栄養管理学	3		2	88	栄養	臨床栄養管理学	3	2	
44	C3	臨床栄養活動論	3		2	88	栄養	臨床栄養活動論	3	2	
44	C3	総合演習Ⅰ	3		1	88	栄養	総合演習Ⅰ	3	1	
44	C3	総合演習Ⅱ	4		1	88	栄養	総合演習Ⅱ	4	1	
88	C5	公衆栄養学臨地実習	3		1	88	栄養	公衆栄養学臨地実習	3	1	
88	C5	給食経営管理臨地実習Ⅰ	3		1	88	栄養	給食経営管理臨地実習Ⅰ	3	1	
88	C5	給食経営管理臨地実習Ⅱ	3		1	88	栄養	給食経営管理臨地実習Ⅱ	3	1	
88	C5	臨床栄養学臨地実習	4		2	88	栄養	臨床栄養学臨地実習	4	2	
44	C3	実践栄養学演習Ⅰ	4		1	88	栄養	実践栄養学演習Ⅰ	4	1	
44	C3	実践栄養学演習Ⅱ	4		1	88	栄養	実践栄養学演習Ⅱ	4	1	
44	C5	栄養教諭概論	3		2	44	栄教	栄養教諭概論	3	2	
44	C5	栄養教諭活動論	3		2	44	栄教	栄養教諭活動論	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築構造Ⅰ(構造計画、木造・RC造・鉄骨造他)	2	前	2	89	建築	建築構造Ⅰ(構造計画、木造・RC造・鉄骨造他)	1	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築構造Ⅱ(建築構法、耐震構造)	2	後	2	89	建築	建築構造Ⅱ(建築構法、耐震構造)	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築材料実験	3	後	2	89	建築	建築材料実験	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築施工	3	前	2	89	建築	建築施工	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	建築法規	3	前	2	89	建築	建築法規	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	構造力学Ⅰ(静定構造)	3	前	2	89	建築	構造力学Ⅰ(静定構造)	1	2	
生活デザイン・建築学科	C3	構造力学Ⅱ(不静定構造、断面設計)	3	後	2	89	建築	構造力学Ⅱ(不静定構造、断面設計)	2	2	
生活デザイン・建築学科	C3	西洋建築史	2	後	2	89	建築	西洋建築史	2	2	
司書	c5	生涯学習概論(司書)	2	前	2	85	司書	生涯学習概論(司書)	2	2	
司書	c5	図書館概論	1	後	2	85	司書	図書館概論	1	2	
司書	c5	図書館制度・経営論	3	前	2	85	司書	図書館経営論	3	2	
司書	c5	図書館サービス概論	2	前	2	85	司書	図書館サービス論	2	2	
司書	c4	情報サービス論	3	前	2	85	司書	情報サービス概論	3	2	
司書	c5	情報サービス演習Ⅰ	3	前	1	85	司書	レファレンスサービス演習	3	1	
司書	c4	情報サービス演習Ⅱ	3	後	1	85	司書	情報検索演習	3	1	
司書	c5	図書館情報資源概論	2	後	2	85	司書	図書館資料論	2	2	
司書	司書	図書館情報資源特論/図書館基礎特論	3	前	1	85	司書	専門資料論	3	2	
司書	c5	情報資源組織論	2	前	2	85	司書	資料組織概説	2	2	
司書	c5	情報資源組織演習	2	後	2	85	司書	資料組織演習	2	2	
司書	c5	児童サービス論	2	前	2	85	司書	児童サービス論	2	2	
司書	c5	図書・図書館史	3	後	1	85	司書	図書及び図書館史	3	1	
司書	c5	図書館サービス特論	3	後	1	85	司書	図書館特論	3	1	
司教	c5	学校経営と学校図書館	2～4		2	84	司教	学校経営と学校図書館	2～4	2	
司教	c5	学校図書館メディアの構成	2～4		2	84	司教	学校図書館メディアの構成	2～4	2	
司教	c5	学習指導と学校図書館	2～4		2	84	司教	学習指導と学校図書館	2～4	2	
司教	c5	読書と豊かな人間性	2～4		2	84	司教	読書と豊かな人間性	2～4	2	
司教	c4	情報メディアの活用	2	前	2	84	司教	情報メディアの活用	2～4	2	

2011年度入学生用科目

主管学科	区分（C1～C5）	2012科目名	年次	開講学期	単位	201	区分	2011科目名	年次	単位	主管以外の区分
						82	社教	社会教育課題研究Ⅰ	3	1	
						82	社教	社会教育課題研究Ⅱ	3	1	
90	C5	カウンセリング演習Ⅰ	3	前	2	90	カウン	カウンセリング演習Ⅰ	3	2	
90	C5	カウンセリング演習Ⅱ	3	後	2	90	カウン	カウンセリング演習Ⅱ	3	2	
90	C5	カウンセリング実習	4	前	2	90	カウン	カウンセリング実習	4	2	
87	C5	保育実習Ⅰ	3	通	4	87	保育	保育実習Ⅰ	3	4	
87	C5	保育実習Ⅱ	4	前	2	87	保育	保育実習Ⅱ	4	2	
87	C5	保育実習Ⅲ	4	前	2	87	保育	保育実習Ⅲ	4	2	
87	C5	保育実習指導Ⅰ	3	通	2	87	保育	保育実習指導Ⅰ	3	2	
87	C5	保育実習指導Ⅱ	4	前	1	87	保育	保育実習指導Ⅱ	4	1	
87	C5	保育実習指導Ⅲ	4	前	1	87	保育	保育実習指導Ⅲ	4	1	
	C2	教育学入門									
	C2	心理学入門									
国際教養学科	C2	統計学入門	1後		2						
国際教養学科	C3	ネットワーク演習	3後		2						
国際教養学科	C2	物理学入門	1		2						
生活デザイン・建築学科	C2	生活とファッション	1・2		2						
生活デザイン・建築学科	C3	日本服装史	1・2		2						
生活デザイン・建築学科	C3	ファッションデザイン演習（カラーコーディネート）	2		2						
生活デザイン・建築学科	C3	服飾美学	2・3		2						
生活デザイン・建築学科	C3	テキスタイルデザイン実習（手工芸）	3		2						
生活デザイン・建築学科	C3	服飾史学・美学演習Ⅰ	3		2	43	インイ	主専攻セミナーⅢ	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	服飾史学・美学演習Ⅱ	3		2	43	インイ	主専攻セミナーⅣ	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	生活デザイン・建築セミナーⅠ	3		2	1	インイ	主専攻セミナーⅢ	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	生活デザイン・建築セミナーⅡ	3		2	1	インイ	主専攻セミナーⅣ	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	ファッションデザイン論	1・2		2						
生活デザイン・建築学科	C3	ファッション・ビジネス	2・3		2						
生活デザイン・建築学科	C3	アパレル企画演習	2・3		2						
生活デザイン・建築学科	C3	アパレル・コーディネート演習	2・3		2						
生活デザイン・建築学科	C3	服装社会学	2		2						
生活デザイン・建築学科	C3	ファッション・プレゼンテーション演習	3		2						
生活デザイン・建築学科	C3	ファッション・プレゼンテーション実習	3		2						
生活デザイン・建築学科	C3	画像デザイン演習	2・3		2						
生活デザイン・建築学科	C3	オープンセミナー	1		2	99	関連	オープンセミナー	1	2	
生活デザイン・建築学科	C3	被服心理学演習Ⅰ	3		2	1	インイ	主専攻セミナーⅢ	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	被服心理学演習Ⅱ	3		2	1	インイ	主専攻セミナーⅣ	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	アパレル・デザイン演習Ⅰ	3		2	1	インイ	主専攻セミナーⅢ	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	アパレル・デザイン演習Ⅱ	3		2	1	インイ	主専攻セミナーⅣ	3	2	
生活デザイン・建築学科	C3	卒業研究セミナーⅠ	4		2	1	インイ	卒業研究セミナー（生活）	4	8	
生活デザイン・建築学科	C3	卒業研究セミナーⅡ	4		2	1	インイ	卒業研究セミナー（生活）	4	8	
生活デザイン・建築学科	C3	卒業論文等	4		4	1	インイ	卒業研究セミナー（生活）	4	8	
生活デザイン・建築学科	C3	女性と生活	1・2		2						
生活デザイン・建築学科	C3	インテリアデザイン論	1	後	2						
生活デザイン・建築学科	C3	福祉環境計画学	3	前	2						
生活デザイン・建築学科	C3	造園表現（ガーデニング）技術論	2	前	2	43	必	植生環境学（建築・都市の植生）	3前	2	
生活デザイン・建築学科	C3	造園表現（ガーデニング）設計実習	2	後	2						
国際教養学科	C3	環境学概論	1		2						
国際教養学科	C3	人文地理学（含地誌）	2		2						
国際教養学科	C3	環境経済学	2		2						
国際教養学科	C3	自然地理学I	1	後	2						
国際教養学科	C3	自然地理学II	2		2						
国際教養学科	C3	環境教育概論	2		2						
国際教養学科	C3	比較環境政策	2		2						
国際教養学科	C3	比較環境史	2		2						
国際教養学科	C3	比較環境法	2		2						
国際教養学科	C3	地域資源管理論	2		2						
国際教養学科	C3	エコツーリズム実習	2		2						
国際教養学科	C3	環境計画実習	2		2						
国際教養学科	C3	動態地誌学	2		2						
国際教養学科	C3	環境学基礎演習	2		2						
国際教養学科	C3	環境科学演習	2		2						
国際教養学科	C3	環境フィールドワークI	2		2						
国際教養学科	C3	環境フィールドワークII	2		2						
国際教養学科	C3	宗教学Ⅰ	2		2						
国際教養学科	C3	宗教学Ⅱ	2		2						
国際教養学科	C3	倫理学Ⅰ	2		2						
国際教養学科	C3	倫理学Ⅱ	2		2						
国際教養学科	C3	哲学Ⅰ	2		2						
国際教養学科	C3	哲学Ⅱ	2		2						
国際教養学科	C3	思想史Ⅰ	2		2						
国際教養学科	C3	思想史Ⅱ	2		2						
国際教養学科	C3	哲学・神学・宗教学講読Ⅰ（英書講読）	2		2						
国際教養学科	C3	哲学・神学・宗教学講読Ⅱ（英書講読）	2		2						
CLC	C1	キリスト教学入門Ⅰ	1	前	2						
CLC	C1	キリスト教学入門Ⅱ	1	後	2						
CLC	C1	日本語表現技法	1	前	2						
CLC	C2	キリスト教学Ⅱ	2		2						
CLC	C2	キリスト教の時間Ⅰ	2		1						
CLC	C2	キリスト教の時間Ⅱ							2	1	
CLC	C2	哲学入門	1		2						
CLC	C2	生命倫理	1		2						
CLC	C2	ポストコロニアル／ナショナリズム	2		2						
CLC	C2	現代社会と人権	1		2						
CLC	C2	経済学入門	1		2						
CLC	C2	公共性と権力	1		2						
CLC	C2	グローバル化と地域	2		2						
CLC	C2	政治学入門	1		2						
CLC	C2	生活の中の数学	1	前	2						
国際教養学科	C2	歴史学のみかたⅠ	1	前	2						
国際教養学科	C2	歴史学のみかたⅡ	1	後	2						
CLC	C2	バイオサイエンス入門	1	後	2						
国際教養学科	C3	Webデザイン演習	1	後	2						
国際教養学科	C3	情報倫理	1	後	2						


合計 / 10 合計 / 9 合計 / 8 合計 / 7 合計 / 6 合計 / 5 合計 / 4 合計 / 3 合計 / 2 合計 / 1 合計 / 77
2015年度 C1科目 成績評価データ集計
値
合計 / 10 合計 / 9 合計 / 8 合計 / 7 合計 / 6 合計 / 5 合計 / 4 合計 / 3 合計 / 2 合計 / 1 合計 / 77
2015
C1
キャリアプランニング(国際教養) 142 4 41 52 22 11 7 5
キャリアプランニング(人間生活) 221 77 87 16 24 11 1 1 2 2
キリスト教学入門Ⅰ 363 31 116 116 59 27 3 1 1 6 3
キリスト教学入門Ⅱ 362 29 69 87 79 75 1 2 1 17 2
基礎英語Ⅰ 360 51 168 90 25 13 1 4 8
基礎英語Ⅱ 372 60 124 92 40 17 2 6 1 8 14 8
基礎英語Ⅲ 372 48 135 107 42 11 3 1 4 2 9 10
基礎英語Ⅳ 384 46 119 99 62 18 6 6 3 2 11 12
初年次セミナー 358 32 134 128 40 10 5 2 7
情報リテラシⅠ 360 35 161 86 35 23 6 1 4 1 2 6
情報リテラシⅡ 376 24 107 110 54 33 12 4 3 4 21 4
日本語表現技法 358 66 74 105 69 28 4 2 1 2 2 5
基礎日本語Ⅲ 5 3 2
基礎日本語Ⅳ 3 3

「キャリアプランニング」総括
生活デザイン・建築学科

1．始業時の態勢

＜問題点＞：移動の関係もあるが、時間厳守の重要性についての認識

・2015 年度は１コマ目が初年次セミナーで、２コマ目がキャリアプランニング（人間生活）だったため、初年次セミナー終了後にソフィア館５階から、人文３０３教室に移動するのに時間を要した。国際教養学科の学生が入れ替わりに人文館からソフィア館５階に移動するため、エレベーターや教室入口が混雑し、移動が容易ではなかった。

＜改善策＞：時間厳守の徹底

・2016 年度以降、キャリアプランニングが学部単位ではなく、学科単位で開講するのであれば、キャリアプランニングと初年次セミナーは同じ建物内での移動が可能な教室を割り当てて欲しい（例：キャリプラ：ソフィア館１・２階　→　初年次セミナー：ソフィア館 PC 教室　など）

2．授業への取り組み

＜問題点＞：提出物の有無によって、授業への取り組みに差が見られた

＜改善策＞：授業の必要性について認識させる

・授業の内容によって、学生の関心の強さに差が生じている（授業態度により判断）。より学生の進路やキャリアに影響を与える授業に改善したい（例：生活の学生は、高校生の時にオープンキャンパスなどで学科説明を聞いた人が多いので、学科主任による各学科の紹介は不要）

・ポスター制作の場合、グループ内で仕事量の偏りが見られ、負担が多い学生から不満の声が聞かれる。公平な評価をする工夫が必要である。

3．提出物

＜問題点＞：遅延提出が多く見られた。

＜改善策＞：期限厳守の徹底、意識向上を促す

・生活デザイン・建築学科の場合、レポートはチューター教員が採点を行っているため、

教員によって評価に差が生じてしまう。

・レポートの回数が多く、レポートの添削と指導が次のレポートに反映する時間が足りない。レポートは隔週か３週に１度の提出にした方が指導効果が高くなる。

・キャリプラの最初のレポート課題は、初年次セミナーである程度文章の書き方をレクチャーした後の方が教育効果が高い。

４．その他

・年度によっては、集団の中で授業を受けることができない学生がいることがある。その際は教室後方に席を設けるなど対応している。

・学科別のプログラムでは、３・４年生の在学生に体験談（留学、学会活動、就活など）を話してもらっているが、１年生には刺激になり、大学生活を有意義に過ごそうという意欲が高まっていると思われる。

・成績評価の基準を全学で統一して欲しい（レポート〇点、ポスター〇点、授業態度〇点、平均〇点程度、等）。生活デザイン・建築学科はＣ１必修授業（キャリプラ、初年次セミナー）は 7.5 点平均を基準と考えているが、他の学科と比較して点数にかなりの差が生じているのではと危惧する。

５．授業効果

「キャリアプランニング（人間生活）」の授業評価アンケートより、学生の自由記述欄の一例を以下に示す（学科特定不可）。

「さまざまな職種の先生方のお話を聞くことができた」など、いろんなジャンルの講師のお話が聞けて勉強になったという意見が多数あった。

「自分の将来について考えることができた」「キャリアについて学べた」「働くことの大切さを知ることができた」など、将来やキャリアについての認識を深めたという意見。

「ポスター展では、協調することの大切さや、調べた情報の伝え方、描き方を学べた」

「考え方を少し変えることができ、気持ちが楽になった」

＊また、批判的な意見で目立った内容は以下の通り

「クーラーが寒かった」など、空調の問題について数件。

「レポートが多くて大変だった」「レポートが手書きなのが手間」など、レポート課題についての意見。

「寝ている人が多い」「授業中のスマホ利用や私語の改善」など、学生の授業態度についての意見。

「講師の声が聞こえない」「画面が見えにくいことがあった」など、大教室（人文 303）であることによる問題。

「他学科の授業課題返却に時間を取られることに納得できない。学科のことは学科のみでしてほしい」「プリントが足りなかったりして、時間がもったいないと感じた」「質問している人を無視するのはどうかと思います」「先生が質問に耳を傾けてくれない」など、３学科合同の大人数授業であるがため、個別に対応できないという問題。

６．まとめ（担当者総括）

・全体的に意欲的に授業に取り組んでいる学生が多く、グループワークや初年次セミナーとの連動など、基礎学力の向上に繋がった。

・授業への取り組み態勢およびレポートを書く習慣付けとして有効であった。

７．今後の課題

①学生の基礎学力と意識向上を目指し、たとえばポスター展示発表会 *は、プレゼン発表や反省会などによりフィードバックさせることも重要である。また、グループディスカッションなど、話し合うことから他者の意見を受け入れ、さらなる基礎学力と意識の向上に繋げることができればと考える。

＊現在は投票結果発表のみで終了しているが、投票数を見ると、投票に参加していない学生やポスター展を見に行っていない学生もいたと考えられる。

②　各学科で、育てたい学生像や、伸ばしたい能力が異なるので、学科ごとに学生のキャリア形成に役立つような独自の授業内容を工夫することも有効だと思われる。

「初年次セミナー」2015 年度総括
生活デザイン・建築学科

＜分級・担当教員＞

生活デザイン・建築学科は、初年次セミナーを２分級で開講し、各クラス３名ずつの１年チューター教員（計６名）がオムニバスで担当している。講義形式の授業は各クラス教員１名が担当し、個別に指導が必要な内容（文献検索、コンピュータ演習、プレゼンテーション指導など）の時は複数の教員で担当しているため、指導効果や教員の負担軽減等に関してうまく運用できていると考える。

＜教科書・テキスト＞

- 2015 年度から使用している『大学生学びのハンドブック』は内容の割に価格が高い（1300 円）。他のテキストに比べて、広島女学院のオリジナリティ（特色）があるわけでもない。
- ワークシートが付いていないので、各章について、全学で統一したワークシートが欲しい（ワークシートを使用することで理解力が高まる）。
- テキストの内容を解説したスライド CD-R があると、視覚的にわかりやすい。
- 以前使用していた『知へのステップ』は、ワークシート、スライド CD-R、教授資料が付いていたので、教員の誰が授業を担当しても、同等の内容とレベルで学ばせることができたと思う。

＜授業内容＞

- 図書館ツアーの翌週には、実際にパソコンを使って、本学ＯＰＡＣによる文献検索、CiNii などによる論文検索の練習を行った。ほとんどの学生は書籍や文献の探し方を理解できたと思う。
- 最終課題として、学生が自分で決めたテーマについて研究調査を行い、データを入力し、エクセルによりグラフを作成、パワーポイントでスライドとレジュメを作り、１人ずつプレゼンテーションを行った。高校生の時にパワーポイントを使用した経験がある学生は半数程度いたが、エクセルの経験者は少なかった。このように、１年次の早い時期からプレゼンテーションの練習をすることで、社会人に必要なプレゼン能力を向上させることが期待できる。

＜キャリプラとの連動＞

- 初年次セミナーでレポートの書き方の章に入るのが、図書館ツアーと連休の後になってしまうため、キャリプラのレポート課題の前に指導を終えておくことが難しい。そこで、第２回の初年次セミナーの時間に、レポートの書き方とコツをまとめた資料を配布し、説明をすることで対処している。

＜授業効果＞
今年度「初年次セミナー」の授業評価アンケートより、学生の自由記述欄の一例を以下に示す。
「パワーポイントがんばった」
「もう少し早くからレポートの書き方を学べたらよかったと思う。」
「この授業があったおかげで、入学後の不安がなくなりました。」
「最後のプレゼンテーションが大変だったがいい経験になった。」
「パワーポイントに触れる機会ができてよかった」
「基礎的なことを知ることができました」
「レポートの書き方など丁寧に教わり、わかりやすかった」
以上概ね高評価であった。特に、パワーポイントで発表をさせることや、エクセルによる統計とグラフ作成は、１年生には難度が高く苦労も多かったが、最終的には学生の技能と自信の向上に役だったと考える。
（＊１件のみ批判的な意見があった。ab２クラス合同で授業を行う事への疑問についてであったが、これは学生の誤解と考える。ab 両クラスとも同じ日程と内容で授業行っているので、合同で行う授業があっても学生に不都合や不利益は生じていない）

/学科持ち帰り検討事項について

―幼児教育心理学科―

（文責：田中）

○キャリプラの運用や教育内容について

もう少し学生の活動を増やし、ポスター発表などを取り入れるなどしながらアクティブラーニングを行ってはどうか。410ｏｌｋｏｋｌｋｌ

学科ごとによってキャリア形成に必要な知識や技能も異なるため、全学共通の内容でなく学科ごとに、それぞれのキャリアを形成するための授業内容を考案してはどうか。

○初年次セミナーの教科書について

現教科書は、まず全教員に配布してはどうか。現教科書を見たことがないので意見が出しにくい。

女学院オリジナルにこだわることはないのではないか。

現教科書だけでは内容量が少なく、十分に単元で知っておくべきことを伝えることが難しい場合があった。

知へのステップについては内容量が多く難しいと感じることが多かった。

しかし、副教材については使い勝手が良いので、副教材があり、どの教員に教えてもらっても同じことが同じレベルで学べるようなテキストを採用してほしい。

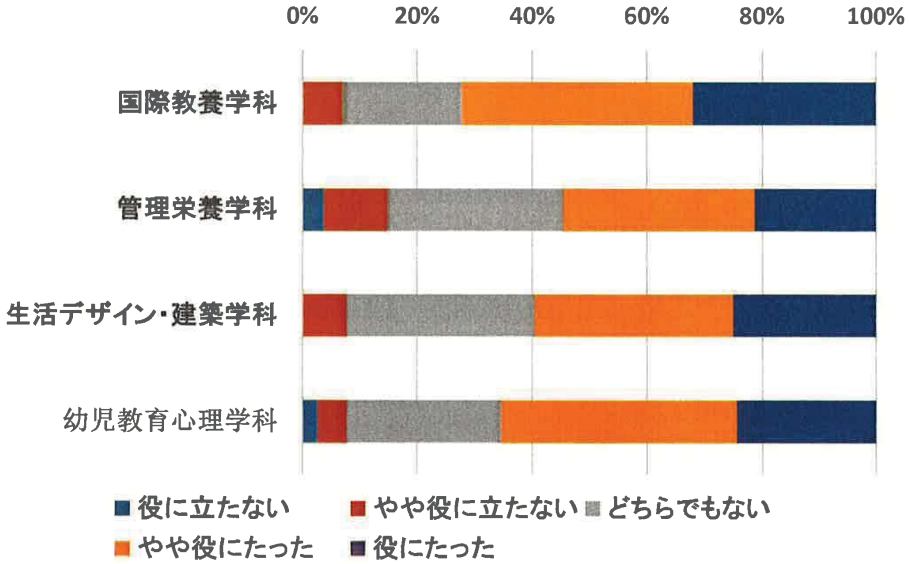
初年次セミナー講義の目的

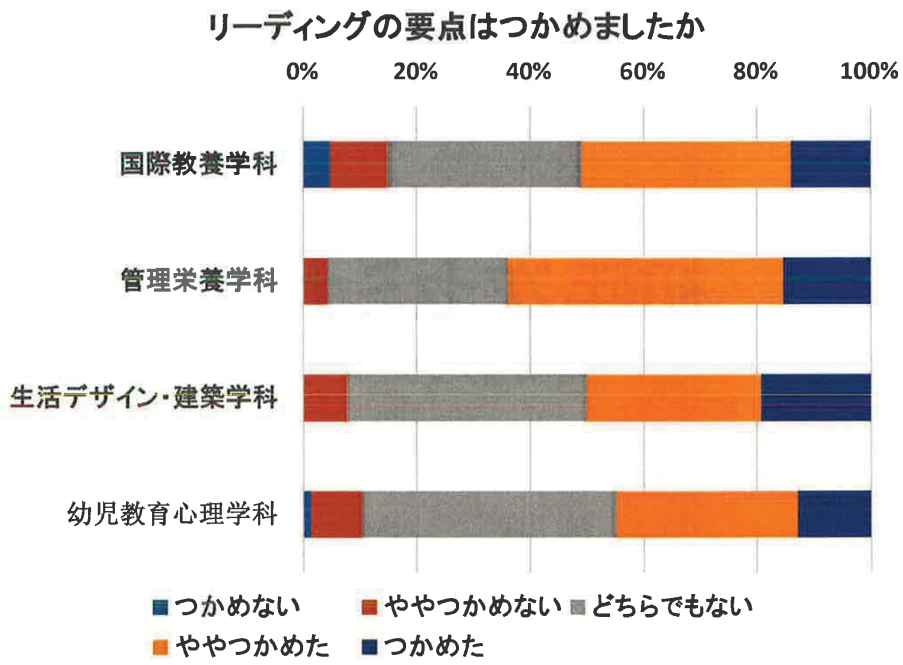
本セミナーの受講生の皆さんは、これから4年間の学び(あるいは良き意味での遊び)の時間を過ごす出発点に立っています。大学に入学して、これからの学習や他の仲間との人間関係に不安を感じ、とまどい、悩み、これからの方向性を定めかねているのではないでしょうか。そのような地点にいる皆さんが、大学において主体的・積極的に学ぶ態度や方法を獲得するとともに学習・研究の基礎を形成するための力や幅広い視野、柔軟かつ総合的な判断力を身につけることを手助けすることが、本セミナーの目的です。その第一歩を力強く歩み出しましょう。

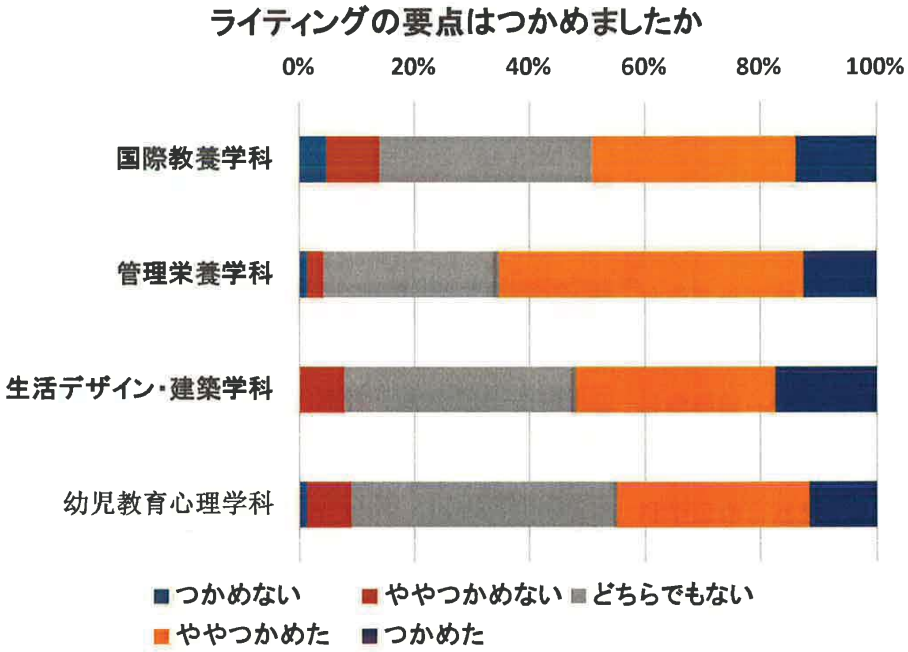
	初年次セミナー		教員の作 業	日本語表現技法	キャリプラ		情報リテラシ I	基礎英語 I シラバス 例	キリスト教学入門 I シラバス 例
1	全体オリエンテーション	(ア)授 業のスケジュール及びすすめかたについての説明 (イ)テキスト配布 教員紹介 学科について説明 (ウ)履修方法について説明 教職について 司書について 日本語教員について (エ)次回 自己紹介提出 自己紹介のプレゼンの準備について予告する	教科書配布	オリエンテーション／ 漢字① ・本授 業の目的及び進め方、小テストの実施、提出物(レポート等)、評価方法等について説明する。 ・漢字(特質、伝来の歴史、漢字の分類、部首、字形)について理解する。	ようこそ、女学院へ		設定と利用方法 ログインとキーボード説明 学内ネットワークおよびドライブ説明 学内PC教室の利用方法	Greetings/Introductions Vocabulary and Comprehension Role play and conversation	はじめに ・授 業上の注意など。 ・本授業の視点についての説明。
2	初年次セミナーの内容と目的	初年次セミナーの目的と内容について説明する。 (ア) 学科ごとの説明とタイム・マネジメント (イ) 自己紹介	規則正しい生活指導 作成を確認 返却	・漢字(同音異義語・同訓異義語、対義語)について理解する。	さあ始めよう！ 大学生活を		コンピュータ操作の基本 タイプ練習ソフトの設定と練習 コ ンピュータの操作 基本 フォルとファイル ワープロの基本 各種機能 情報倫理 第1章 ログインの重要性 第2章 視聴解説 レポートとしてまとめる	Greetings/Introductions Reading comprehension Game and review	広島女学院とキリスト教 ・広島女学院の歴史と建学の精神 ・"CUM DEO LABORAMUS"
3	ノート・テイキング	(ア) ノートをとることとメモをとること (イ) 講義の違いによるノート・テイキング (ウ) 講義ノートのとり方	講義内容音読 回収 添削 返却	・漢字(熟語、音訓、送り仮名、筆順)について理解する。	自己発見レポート(就職課)		ワープロの基本 タイプ練習(予習課題 時間内課題) ワープロの基礎 レポート作成 ダウンロード レポートのレイアウト 情報倫理 第3章 電子掲示板 第4章 第5章 視聴解説	Math and Numbers Vocabulary and Comprehension Role play and conversation	旧約聖書(1) 旧約聖書概説 ・旧約聖書の構造、内容について
4	リーディングの基本スキル	学術書(テキスト等)の読み方について、そのポイントを解説する。 (ア) テキストを読むとは (イ) 二度読みの方法	回収・添削・返却	文のしくみ ・文のしくみ(文節、文の成分、文の適切さ、句読点の打ち方)について理する。	女学院のあゆみ ー人・歴史・ヒロシマー(理事長)	HW1 感想文	ワープロの基本 タイプ練習(予習課題 時間内課題) レポート作成 1段と2段組み レイアウト 印刷練習 情報倫理 第6章 社会人としての情報通信 視聴解説	Math and Numbers Reading comprehension Game and review	旧約聖書(2) 創造物語 ・旧約聖書の世界観 ・旧約聖書の人間理解
5	より深いリーディングのために	文章の要約のし方、意見の述べ方について解説する。 (ア) 要約する (イ) 感想・意見をもつ	回収・添削・返却	レトリック ・代表的なレトリック(比喩、擬人法、倒置法、反復法、擬態語・擬音語、省略法、反語法、皮肉、ねじれ表現、押韻、対句、掛詞、パロディー)について理解する。	広島女学院大学がめざすもの ー女性大学・キリスト教主義・国際平和ー(学長)	HW2 感想文	ワープロの応用 タイプ練習(予習課題 時間内課題) 文書作成 ツアーの案内文書 レイアウト 情報倫理 デジタル小品集 2 1章 視聴解説	Dates and Times Special Project(1) Assigned Role play and conversation	旧約聖書(3) バベルの塔の物語 ・「一致」と「多様性」
6	レポート(論文)作成のための資料検索について	図書館の使い方(文献の所在、文献検索)について学ぶ ～図書館において～ 実施日程は学科学部によって異なる	配布資料にもとづいて説明	待遇表現(1)-1 ・待遇表現のうち、敬語表現(尊敬語、謙譲語Ⅰ)について理解する。	自己発見レポート(解説) 第三回に実施したレポートの内容解説		ワープロ応用 タイプ練習(予習課題 時間内課題) 文書作成 ツアーの案内文書 レイアウト 文書の印刷 情報倫理 デジタル小品集 2 1章 視聴解説(復習視聴あり)	Dates and Times Reading comprehension Game and review	旧約聖書(4) 族長時代 ・アブラハム、 サク、ヤコブ、ヨセフ
7	収集情報の整理のし方について	収集した情報をどのように整理するのかについて学ぶ。		待遇表現(1)-2 ・待遇表現のうち、敬語表現(謙譲語Ⅱ、丁寧語、美化語)について理解する。	学科ごとのプログラム		ワープロ文書作成 タイプ練習(予習課題 時間内課題) ワープロ復習問題 作成・印刷 情報倫理 デジタル小品集 2 1章 視聴解説(復習視聴あり)	Project Presentations	旧約聖書(5) 出エジプトと十戒 ・宗教とアイデンティティ ・旧約聖書の掟と「自由」の問題
8	ライティングの基本的技法について	レポートの作成の基本的技法について学ぶ。 (ア)内容を把握するためにメモを取る (イ)レポートは丁寧な字で書く (ウ)誤字脱字のないように辞書などで漢字を調べて書く	書き方説明・指導	待遇表現(2) ・待遇表現のうち、婉曲的な表現について解説し、実際の場面を想定しながら、待遇表現を使えるようにする。	学科ごとのプログラム		表計算の考え方 タイプ練習(予習課題 時間内課題) 表計算の利用方法 オートフィルと コピー 計算式とオートサム 情報倫理	Midterm Test Family Vocabulary and Comprehension	旧約聖書(6) 旧約聖書についてのまとめ
9	アカデミック ライティング	文章作成の技法について学ぶ。 (ア) わかりやすさとは (イ) わかりやすい文と表現方法	論文の書き方説明	手紙とはがき(1) ・手紙とはがきの書き方の基本について理解する。	自分探しをしてみよう		プレゼンテーションの基本 タイプ練習 プレゼンテーションソフトの基本操作 情報倫理	Family Role play and conversation Reading comprehension	新約聖書(1) ・新約聖書概説 ・イエス・キリストについて
10	プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションの基礎的技法について学ぶ。 (ア) プレゼンテーションとは (イ) プレゼンテーションの種類と特徴 (ウ) プレゼンテーションツール	情報リテラシと連携	手紙とはがき(2) ・手紙とはがきの書き方の留意点を踏まえて、 実際手紙文を書く。	それぞれの生き方ー〇〇との出会い、そして今ー	HW4 手紙	プレゼンテーションの作成 タイプ練習(予習課題 時間内課題) プレゼンテーションの作成と実施 情報倫理	Family Game and review Music Vocabulary and Comprehension	新約聖書(2) イエスの生涯・教え・行い その1(たとえ話、奇跡物語、隣人愛について、十字架とその他)
11	プレゼンテーションの準備のし方	プレゼンテーションを行うに当たっての準備について学ぶ。 (ア) 発表の仕方 (イ) リハーサル(練習) (ウ) 本番	ほめてあげてください	ビジネス文書(1) ・ビジネスの現場で使用されている基本的な文書の書き方について理解する。	働くということ1 (卒業生)	授 業中まとめ	表の作成 タイプ練習(予習課題 時間内課題) 表の作成 データ入力 計算式の入力 情報倫理	Music Role play and conversation Reading comprehension	新約聖書(3) イエスの生涯・教え・行い その2(たとえ話、奇跡物語、隣人愛について、十字架、その他)
12	実際のプレゼンテーション	ワークショップ形式でプレゼンテーションを実際に行う。 (ア) 発表の仕方 (イ) リハーサル(練習)	ほめてあげてください	ビジネス文書(2) ・書式を守り、さまざまな種類のビジネス文書を書く。	働くということ (2) (卒 業生	授業中まとめ	ワープロ応用 タイプ練習(予習課題 時間内課題) ワープロ復習問題 公文書 ビジネス文書他 知識確認試験およびタイプ達成度試 験 または 読解力・英語力測定	Music Final Project Assigned School Vocabulary and Comprehension	新約聖書(4) イエスの生涯・教え・行い その3(たとえ話、奇跡物語、隣人愛について、十字架と復活、その他)
13	実際のプレゼンテーション	ワークショップ形式でプレゼンテーションを実際に行う。 (ア) 発表の仕方 (イ) リハーサル(練習) (ウ) 本番	ほめてあげてください	慣用表現と原稿用紙の使い方 ・いくつかの種類の慣用表現を学び、それらを正しく使って文を書く。 ・原稿用紙の使い方について理解する。	大学生活をプランニングする	授 業中まとめ	関数の利用 タイプ練習 表の作成 関数の利用 表の作成 罫線 情報倫理	School Role play and conversation Reading comprehension	新約聖書(5) 使徒パウロとキリスト教
14	実際のプレゼンテーション	ワークショップ形式でプレゼンテーションを実際に行う。 (ア) 発表の仕方 (イ) リハーサル(練習) (ウ) 本番	ほめてあげてください	ネチケット、来客応対、電話応対 ・メール等を利用してコ ミュケーションを交わす場合のエチケットについて理解する。 ・来客応対の際の基本的なことば遣いについて理解する。 ・電話で応対する際の基本的なことば遣いについて理解する。	夢の実現に向けて ー学びのプランニングー 全体のふりかえり。		表計算復習 タイプ練習(予習課題 時間内課題) 表計算復習問題 情報倫理	School Game and review Final Project Presentations	新約聖書(6) 新約聖書についてのまとめ
15	全体のまとめと振り返り	これまで学んできたことをまとめるとともに、これから大学で学修ということの意味を再確認する。 感想を発表など	ほめてあげてください	まとめ ・期末試 験実施する。 ・既習事項を振り返りながら、目的意識・相手意識を大切にした日本語表現の重要性を考える。	予備		表計算復習 タイプ練習(予習課題 時間内課題) タイプ成績提出 ワープロ復習問題 公文書 ビジネス文書他 知識確認試 験およびタイプ達成度試 験 または 読解力・英語力測定	Special Project(2) Presentations iterview tests Final Day Review	まとめ 今学期のまとめを行う。

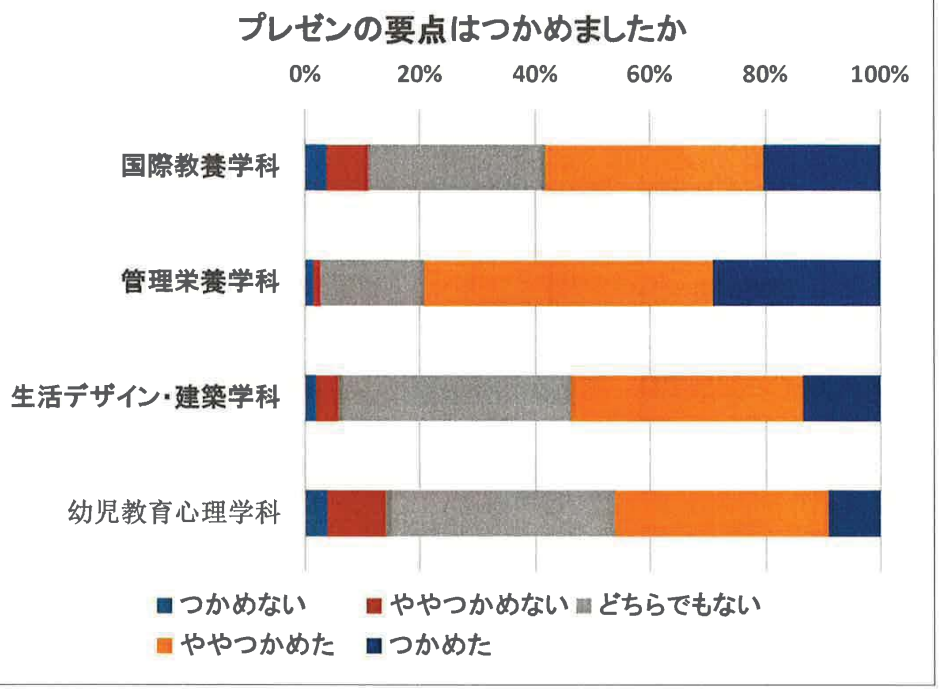
初年次セミナー

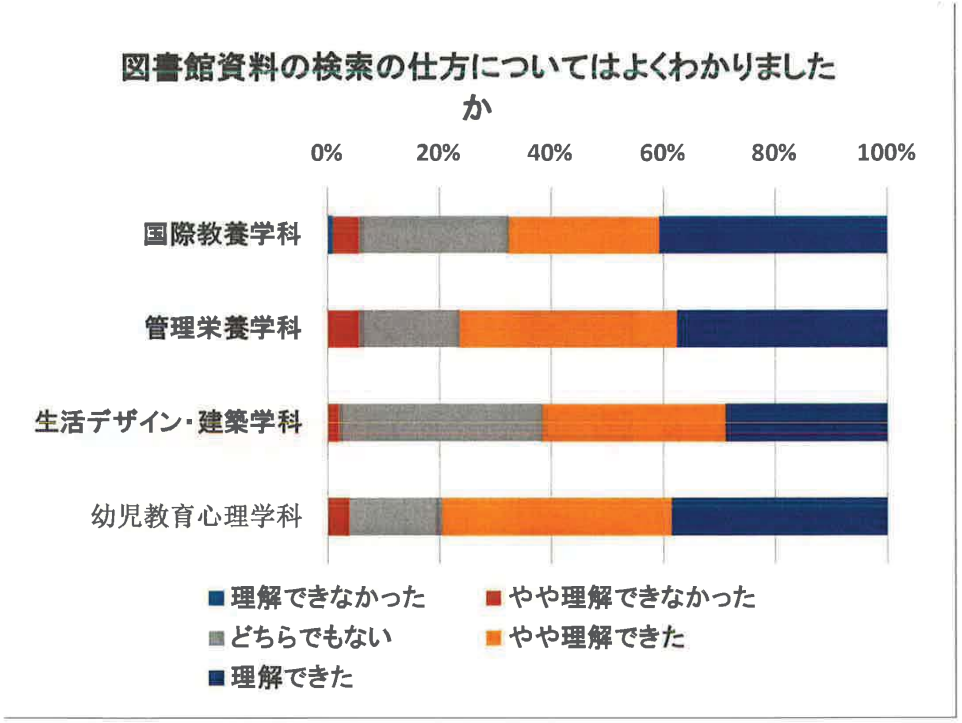
学科別アンケート

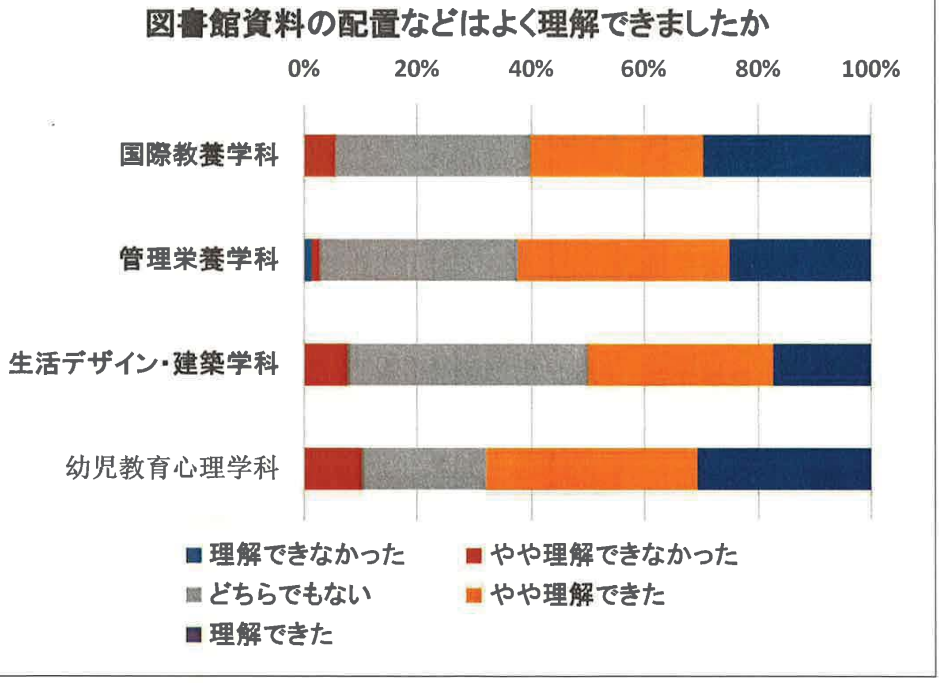


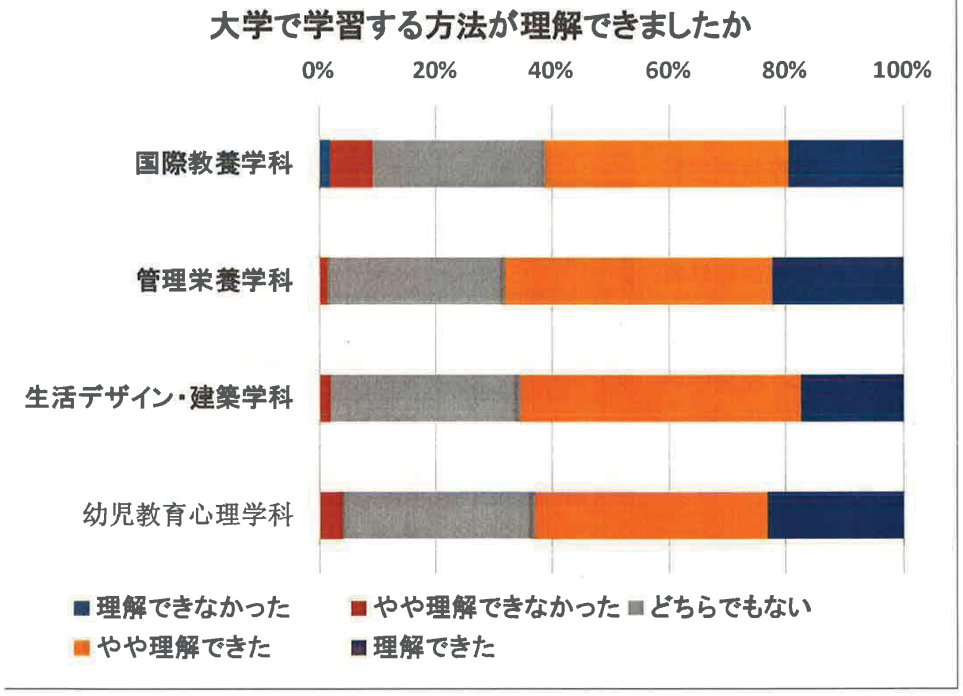


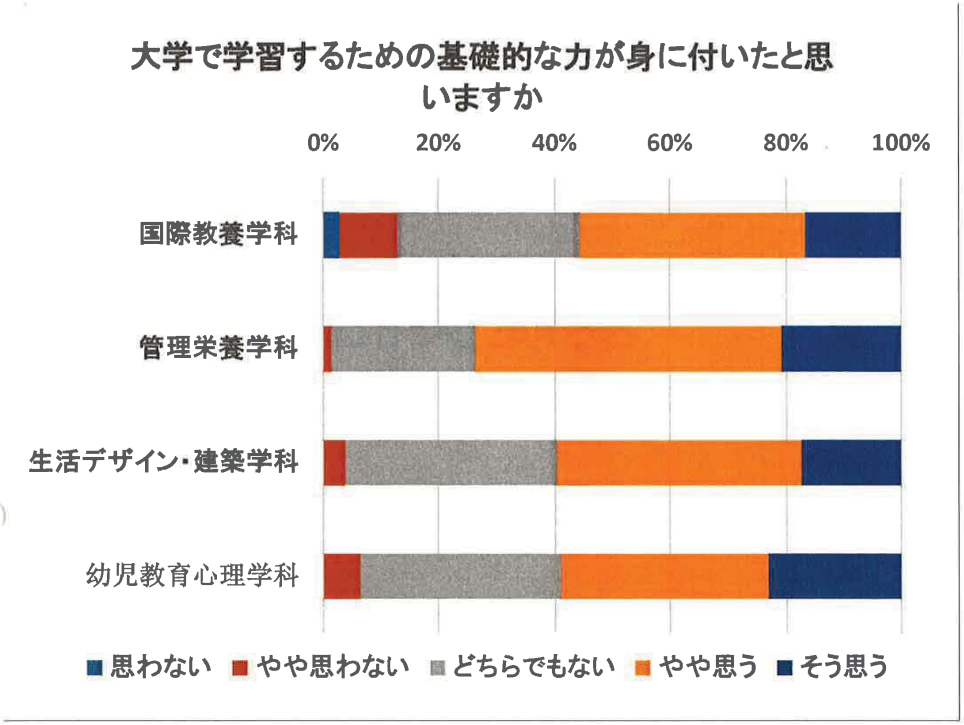



プレゼンの要点はつかめましたか
0%
20%
40%
60%
80%
100%
国際教養学科
管理栄養学科
生活デザイン・建築学科
幼児教育心理学科
つかめない
ややつかめない
どちらでもない
ややつかめた
つかめた


図書館資料の検索の仕方についてはよくわかりましたか
0%
20%
40%
60%
80%
100%
国際教養学科
管理栄養学科
生活デザイン・建築学科
幼児教育心理学科
理解できなかった
やや理解できなかった
どちらでもない
やや理解できた
理解できた

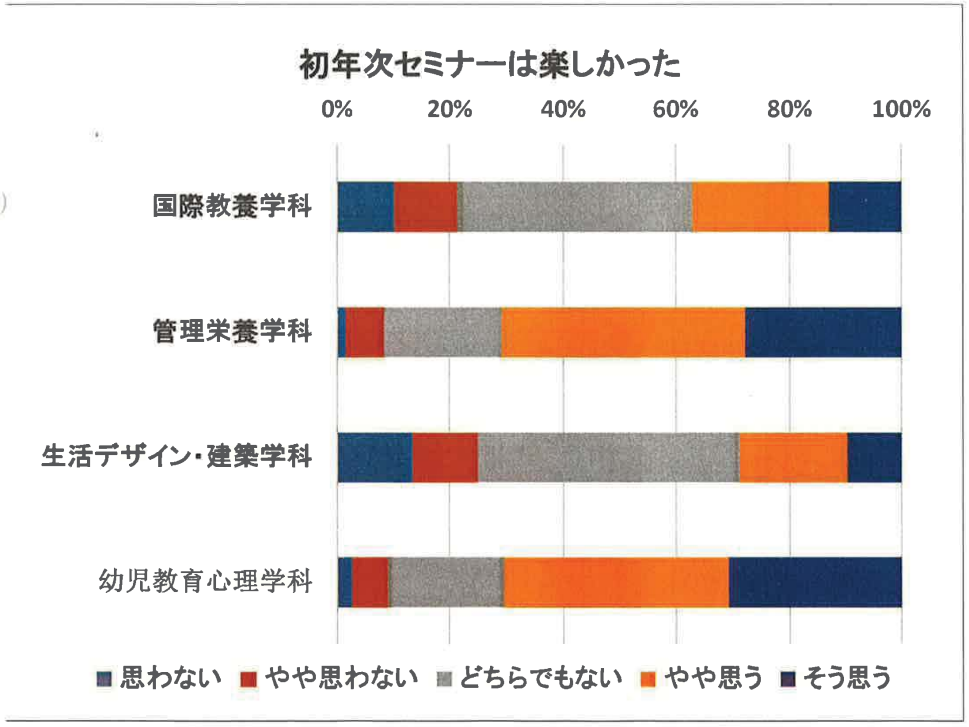

図書館資料の配置などはよく理解できましたか
0%
20%
40%
60%
80%
100%
国際教養学科
管理栄養学科
生活デザイン・建築学科
幼児教育心理学科
理解できなかった
やや理解できなかった
どちらでもない
やや理解できた
理解できた

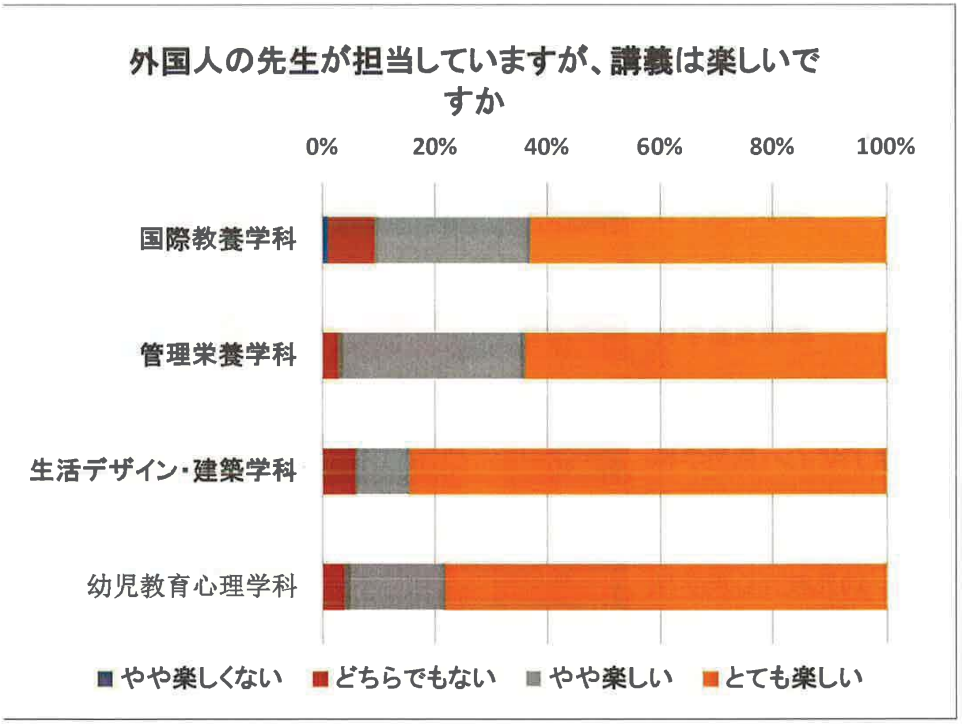

大学で学習する方法が理解できましたか
0%
20%
40%
60%
80%
100%
国際教養学科
管理栄養学科
生活デザイン・建築学科
幼児教育心理学科
理解できなかった
やや理解できなかった
どちらでもない
やや理解できた
理解できた

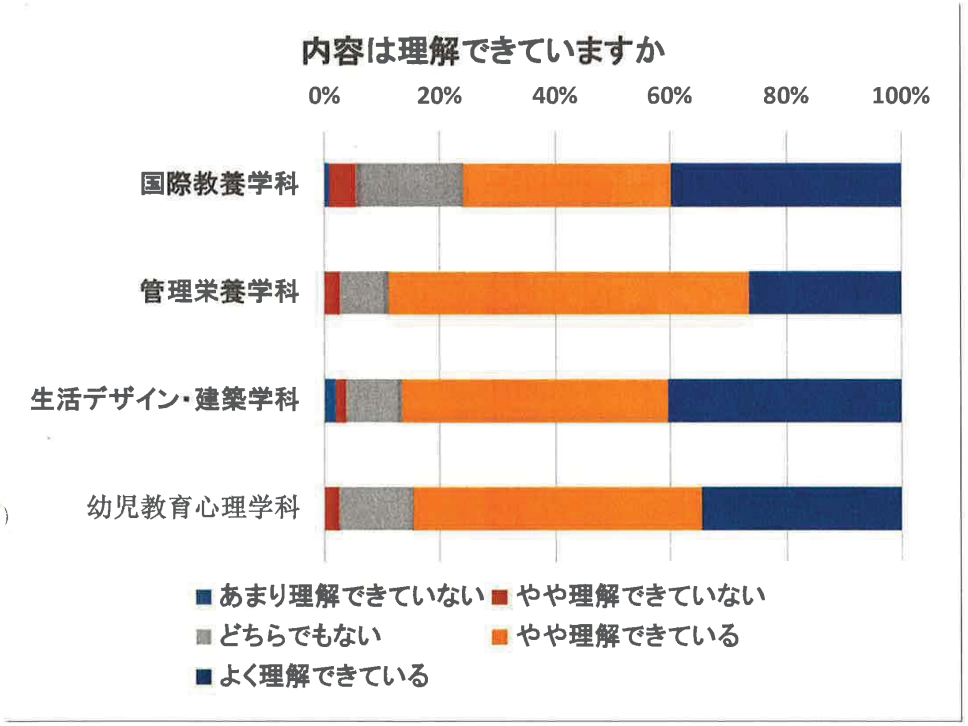


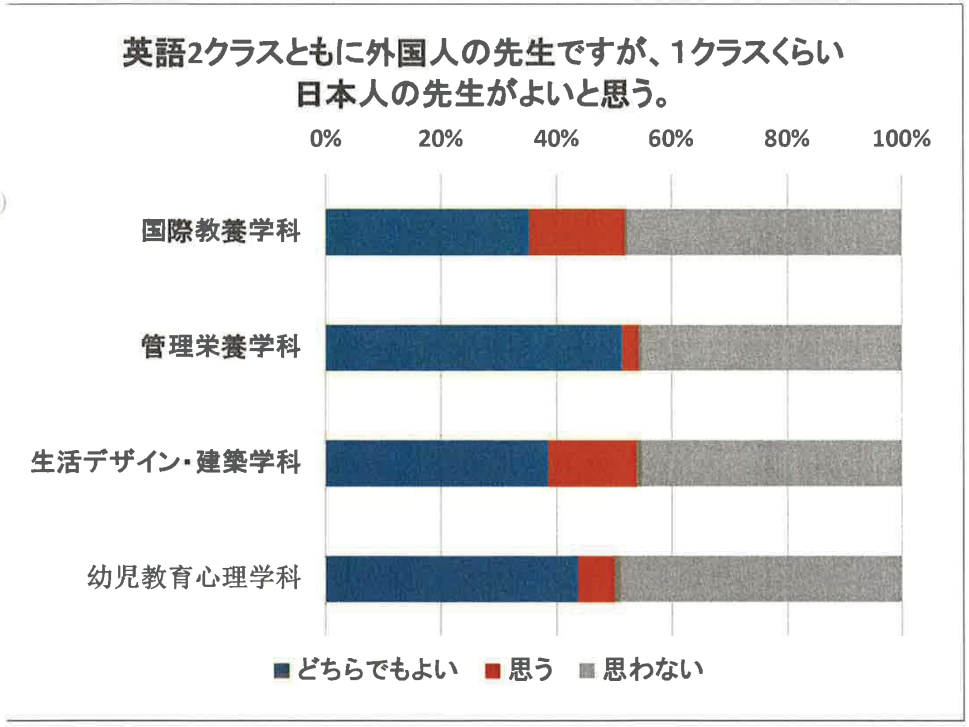
基礎英語

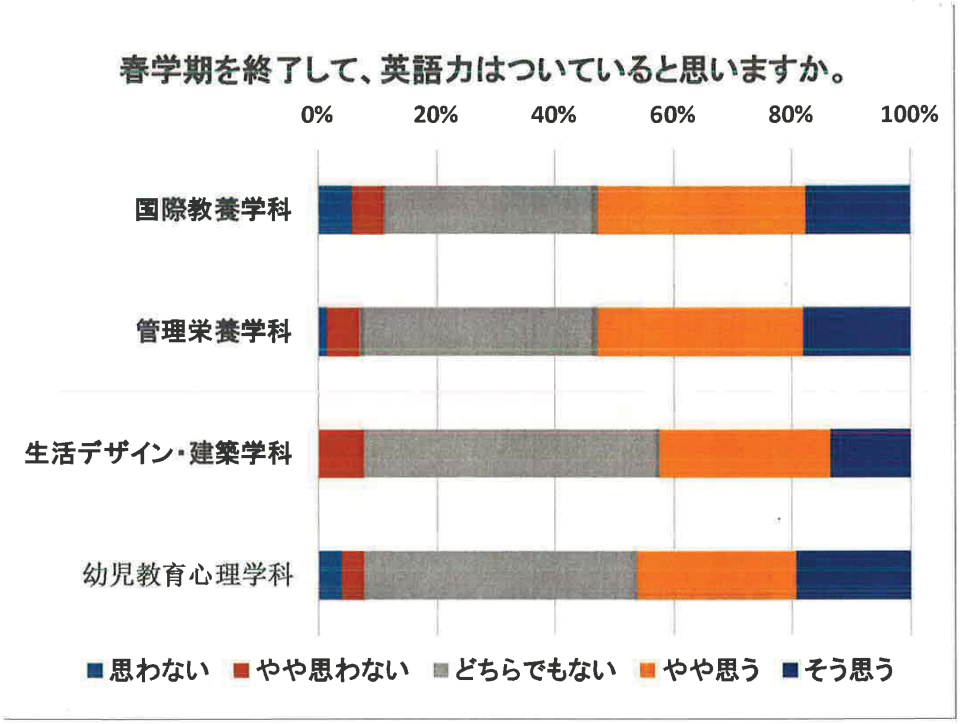
学科別アンケート集計






内容は理解できていますか
0%
20%
40%
60%
80%
100%
国際教養学科
管理栄養学科
生活デザイン・建築学科
幼児教育心理学科
あまり理解できていない
やや理解できていない
どちらでもない
やや理解できている
よく理解できている


英語2クラスともに外国人の先生ですが、1クラスくらい
日本人の先生がよいと思う。
0%
20%
40%
60%
80%
100%
国際教養学科
管理栄養学科
生活デザイン・建築学科
幼児教育心理学科
どちらでもよい
思う
思わない


春学期を終了して、英語力はついていると思いますか。
0%
20%
40%
60%
80%
100%
国際教養学科
管理栄養学科
生活デザイン・建築学科
幼児教育心理学科
思わない
やや思わない
どちらでもない
やや思う
そう思う

国際教養学科
ありがとうございました。
お忙しいなかでも丁寧な授業、対応をしていただきとても嬉しかったです。まだまだ未熟な点が目立つとは思いますが、精進していこうと思いますのでよろしくお願いします。厚誼ありがとうございました。
とても楽しく授業を受けることができました。
パワーポイントを使った発表は大変でしたが楽しかったです。
プリントなどが使われていたのでわかりやすかった
プレゼンの改善点などを教えてもらえたので、これからプレゼンに生かしていきたいです。
プレゼンの発表などは将来役に立つと思うのでできてよかったと思いました。
プレゼンをやったりして自分に力がついたと思いました。 楽しかったです。
プレゼン能力は必要と思った。
もう少しレーポートの書き方やどのような点がいけないかなどを言ってほしかった。
レポートの書き方がよく理解でき、大学で必要な力がよく身につきました。
レポートの書き方など、勉強になりました。
レポートの書き方やプレゼン、レジュメの作成の仕方など、とてもわかりやすくて学べてよかったです。有り難うございました。
レポートの書き方やプレゼン、レジュメの作成の仕方を学ぶことができてよかったです。
レポートの書き方をマスターできた。
レポートの練習が楽しかったです。
レポートは書き方は、とても勉強になった。 プレゼンも高校等でやってきたものとは違って難しいところもあったが。これからに生かしていけたらと思う。
レポートやプレゼンなど、大学でよく行われることについて知ることができ、身につけることができてよかった。
レポートやプレゼンの仕方について学ぶことができ、前より少しできるようになりスムーズに進めることができました。
課題が多くて大変だった。
緊張することが時々あったがこれからの大学生活で役立つことだと思った。
最後のレポートの枚数が４枚で多くて大変だった。他のクラスの人は少なかったので、もう少し少なくしてほしいと思った。
自分が疑問に思っていたことを授業で教えてもらえたので勉強になりました。
自分は、自分から発言するのが苦手でプレゼンは緊張したけど、いい授業でした。
少しレポートの課題が多かったような気がしました。
少人数なので先生とのかかわりが多く楽しい。
先生が一人一人親身になって接していたため、授業についていけなかった人はいないと思う。
先生が熱心でした。
卒業してからの先輩方のお話を聞けたのはよかったと思います。
大学での授業の受け方や、レポートの書き方などわかりやすく教えていただきました。とても勉強になりました。
大学で生活していくうえで大切なこととかを学べてよかった
大学のことが知れる授業があって助かった。
大学生活を始まるにあたってとても良い授業だった。
担当の先生にもよると思うのですが、話すペースが速いのでもう少しゆっくりにしてほしいです。 楽しいキャンパスライフを送る基礎知識が会得出来たと思います。
専門的な説明を教えてもらうとき、言うスペードが早く複雑なことを説明されても追いつけないので、先生の専門的な授業はやめてほしい。
課題についてもっと詳しく説明していただきたかった。
もう少し丁寧に親身になってやってほしいと思った。
もっと活動的な授業をしたいです。
クラスによってすることが違うらしいので平等にしてほしいと思う。
９０分間もっと充実した授業であってほしい。
あまりよくわからない勉強だった。

管理栄養
大学になれるための学習がしっかりできました。
PowerPointを使ってのプレゼンテーションは、資料をつくるのも、発表も難しかったですが、反省点・改善点が見つかったのでよかったと思います。これからもっとよいプレゼンテーションができるようにしていきたいです。
いろいろなことを初年次セミナーで学ぶことができたのでよかったし、楽しく授業を受けることができました。 ありがとうございました。
クラスの子の名前や先生とクラスの雰囲気が分かったのでよかったです。まだ話したことのない子もいるので、もう少し生徒同士が関われればもっと仲が深まるかな、と思います。
すごく勉強になりました。
なによりプレゼンが成功したことが嬉しかったです。 人前で話す力を身に付けることができました。
プレゼンテーションの発表によって自分で一から作る経験ができたので よかった。
プレゼンんをすることが多くて、もっとうまくできるようになりたいとおもいました。
レポートの書き方など学べて、とても助かった。少人数のクラスなので、一人一人と接する機会が多くよかった。
学校生活に必要な情報を教えてもらったおかげで、楽しい学校生活をおくれそうです。
楽しく講義を受けることができた。また、クラスの仲も良くなった。
管理栄養士っぽいことをしたりして将来の少し近づいたと思う。 もっと管理栄養士になりたいという気持ちが大きくなった。
句読点を意識して文章読め、1日のバランスを考えて献立を作成し、プレゼンに取り組めたのでこの授業でたくさんの力がついたと思う。
高校と違うことが多すぎてまだなれていないことがあるけど、早くなれていきたいと思った。これからの生活などで必要になってくることばかりなのでしっかり覚えておきたい。
最後にやった献立を立てるのが一番大変だった。まだ慣れてないからというのもあると思うが、栄養バランスを良くするのはしっかり考えないといけないんだなと思った。
自分たちで調べたことを発表したことで、とてもいい練習になった。
少人数クラスだから、わからないことがあると聞きやすく良かった
少人数ということもあり、授業もわかりやすくてよかったと思います。
人前でプレゼンをする大変さをすごく感じました。 パワーポイントを作るのにもすごく時間がかかったけど、自分なりに工夫して作ったり、楽しかったです。
図書館について詳しく知れたのはよかったと思う。
石長先生がチューターでよかったです！
説明が具体例を入れて説明していたのでとてもわかりやすかった。
先生が優しくてよかった。
卒業生がきてくださったり、企業の方がきてお話をしてくださりとても自分のためになりました。
大学での過ごし方やレポートの書き方が学べて良かった。
大学で学ぶ上での大切なことを、身につけることができました。
大学で必要なことが学べてよかったです。
大学について、基礎的なことを学ぶことができたと思う。
大学について詳しく知ることができてよかった。 この授業のおかげでみんなとも仲良くなれた気がする。
大学に入って色々な環境が変わり、不安なことも多かったけれど初年次セミナーで大学で活動していくための初歩的な力が身についたので、とてもよかったと思います。
大学に入学して分からないことばかりでしたが、初年次セミナーの授業のおかげで大学について知ることができ、とても役に立っている。
大学のレポートの書き方などが学べたので良かったです。
大学生活、何をしていいのかわからなかったのでこの授業を受けることができてよかったと思います。
特になし
特に献立作成が楽しかったです。献立を考えるのは難しかったし、苦労したけど、みんなの献立を発表しあうことで自分になかった発想などを知ることができたのでよかったです。
難しいこともありましたが、楽しかったです。 これからも頑張りたいです。
入学してから、何もわからなかったけど、初年次セミナーの授業を受けて学校の仕組みなどを知ることができた。
必要な知識や技術が身についたと思う。
普段聞けない人の話を聞けたので貴重な体験になりました。
約４ヶ月の間ありがとうございました。

生活D建築
ありがとうございました。
これから必要なことを学べたので良かったと思う。
ためになることが多いなと授業を受けながら思うことがたくさんありました。
とても楽しく授業を受けられました。
パワーポイントの作り方がよくわかった。
パワーポイントやワード、エクセルなどすべての使い方がわかった。
よかったです。
レポートの書き方など詳しく聞くことができて役にたちました。 プレゼンのおかげでパワーポイントの作り方が分かりました。
レポートの書き方を教えていただいたので、レポートを書くときに役立った。これからもレポートを書く機会が多くあると思うので活用していきたい。
最後にパワーポイントをつくることができて、パワーポイントを使うことに慣れることができた。
三木先生のお話がよく耳に入りました。
授業自体は難しかったけど、勉強にはなりました。
大学での学び方からパソコンソフトの使い方まで、とてもわかりやすかった。
大学ならではの授業でとても役にたったと思います。
大学に入学して勉強についていけるのかとか、レポートわどうやったらいいのかなど不安があったけど、初年次セミナーの授業を受けて不安が解消しました。ありがとうございました。
大学のことがわかってよかった。
大学生活が始まったばかりの私たちに、講義ではたくさんのアドバイスや言葉をもらいました。感じることや考えることがたくさんあり、さまざまなことが身につきました。
大学生活を始めるにあたってパワーポイントを使って講義してくださりわかりやすかったです。ノートテイクを重点に授業を受けたかなと思います。
特になし
特になし
特に無し。
役に立ったと思う。

幼児教育心理
いろいろな方のお話が聞けてよかったです。
いろんな職種の先生からお話を聞くことができて、とてもためになりました。
グループワークが多くて大変だったが楽しかった。 プレゼンテーション能力も身に着けていきたい。
ゲーンス幼稚園に観察実習にいけたり、賛美歌をしたのは楽しかったです。 あまり教科書を使った授業がなかったのと、すごく当たり前のようなことしかしないこともあったので、あまりためになった気はしませんでした。
こどもさんびかの発表に向けてみんなでがんばって練習できたのでよかったですし、人前で発表する練習ができてよかったです。
こども賛美歌の日程をテスト週間にかぶらないようにしてほしい。
こども賛美歌発表でクラスの団結力がついたと思う。 積極性を磨く一歩になったのではないかと思った。 しかし、テスト前にこども賛美歌をするのは少し大変だから、テストが終わってからなど、もう少し配慮してもらいたかった。
セミナーの人と協力して賛美歌などができて楽しかった。
とてもためになる授業でした。
ノートテイキングが難しかったけどためになることが多かったのでよかったと思います。
ノートテイキングの仕方をもっと詳しくやりたかった。
ノートの書き方や論文の書き方がわかってよかった。
みんなで劇をやるのがとても達成感があってとても楽しかったです。
もう少し時間をとって詳しくしたかったです。
よかった
レポートなどでとても忙しかったが いろいろな方のお話をきけたので ためになったと思います。
レポートなにを書いているのかわからないように書いているので、文章をきちんと書けるようにしたいです。
レポートの書き方について詳しく教えてもらったのは本当にありがたかったです。
レポートの書き方の授業が今後のためになるのですごく助かった。 図書館についても見学できてよかった。
レポートの書き方を説明してくれてよかった。
楽しかったです。 不安なことだらけだったけど、この授業で 不安は少し解消されました。
楽しく学ぶことができたと思う
観察実習があり、将来のことを考えられる機会があったので、よかったです。
観察実習が楽しかった。
賛美歌の発表がとても達成感があった。
子どもさんびかはクラスの人と協力して作り上げていくので達成感があった。
子ども賛美歌は本当に感動しました。
実習がよかった。
初めてのことが多すぎて自分の中ではいろいろと勉強になりました。レポート提出などいろいろと頑張りました。秋学期も頑張ります。
初年次セミナーでは大学での学び方やレポートの書き方、メモのとり方など多くのことを学びました。とてもためになることばかりでした。讃美歌の劇では、みんなと最初から構成を考えていき良い劇ができて本当によかったし、達成感がとても大きかったです。
初年次セミナーは、子ども讃美歌の劇が一番楽しかったです。同じセミナーの子たちとも、この練習などを通して仲良くなれました。秋にある、園児たちの前での発表は、一番良いものを見せれるようがんばりたいです。
将来の仕事についてとてもよくわかりました。
図書館の使い方がわかったので、入学当初より、利用しやすくなりました。
先生がよかった
大学では、レポートの書き方など高校まで、やったことがない事がたくさんあり不安だったけど、初年次セミナーで説明があったので、スムーズに挑戦することができたのが、良かったです。
大学の不安がとけたのでよかったです。
大学生活がはじめ不安だったけど、初年次セミナーの授業のおかげで楽しくなっていった。
大学生活を送る上で必要なことを教えてくれるので、非常にありがたい科目だった。
特にないです。
分かりやすくて楽しかった。 ノートのとり方や、レポートの書き方などとてもためになりました。
レポートの書き方をもう少し詳しく知りたかったです。
・毎回の授業目標が明確ではない。 ・補助資料がいまいちわかりにくい。

広島女学院大学　2015年度入試結果データ（入試形態別）

入試形態	学科・方式		募集人員	志願者数	受験者数[A]	合格者数[B]	入学者数	倍率[A/B]
オープンセミナー入試※	国際教養学科		80	45	45	45	45	※
	生活デザイン・建築学科		18	31	31	31	31	※
	幼児教育心理学科		20	35	35	35	35	※
		計	118	111	111	111	111	1.0
管理栄養学科AO入試	管理栄養学科		5	10	10	10	10	※
		計	5	10	10	10	10	1.0
指定校制推薦入試	国際教養学科		24	8	8	8	8	1.0
	生活デザイン・建築学科		7	4	4	4	4	1.0
	管理栄養学科		10	8	8	8	8	1.0
	幼児教育心理学科		10	3	3	3	3	1.0
		計	51	23	23	23	23	1.0
広島女学院高等学校推薦入試	国際教養学科		若干名	1	1	1	1	1.0
	生活デザイン・建築学科		若干名	0	—	—	—	—
	管理栄養学科		若干名	1	1	1	1	1.0
	幼児教育心理学科		若干名	1	1	1	1	1.0
		計		3	3	3	3	1.0
公募制推薦入試	国際教養学科	（第1回・A方式）	14	0	—	—	—	—
		（第2回・A方式）		2	2	2	2	1.0
		（第1回・B方式）		0	—	—	—	—
		（第2回・B方式）		0	—	—	—	—
		（第1回・C方式）	8	6	6	6	4	1.0
		（第2回・C方式）		1	1	1	1	1.0
	国際教養学科 GSE入試	（第1回・A方式）	(4)	1	1	1	1	1.0
		（第2回・A方式）		1	1	1	1	1.0
		（第1回・B方式）		0	—	—	—	—
		（第2回・B方式）		0	—	—	—	—
		（第1回・C方式）	(3)	0	—	—	—	—
		（第2回・C方式）		0	—	—	—	—
	生活デザイン・建築学科	（第1回・A方式）	6	3	3	3	3	1.0
		（第2回・A方式）		0	—	—	—	—
		（第1回・B方式）		0	—	—	—	—
		（第2回・B方式）		0	—	—	—	—
		（第1回・C方式）	2	0	—	—	—	—
		（第2回・C方式）		0	—	—	—	—
	管理栄養学科	（第1回・A方式）	5	6	6	6	6	1.0
		（第1回・B方式）		2	2	2	2	1.0
		（第1回・C方式）	5	16	16	11	10	1.5
	幼児教育心理学科	（第1回・A方式）	12	5	5	5	5	1.0
		（第2回・A方式）		0	—	—	—	—
		（第1回・B方式）		2	2	2	2	1.0
		（第2回・B方式）		0	—	—	—	—
		（第1回・特芸方式）	2	1	1	1	1	1.0
		（第1回・C方式）	4	5	5	5	4	1.0
		（第2回・C方式）		4	3	3	2	1.0
		計	58	55	54	49	44	1.1
特待生入試	国際教養学科		4	2	2	0	—	—
	生活デザイン・建築学科		2	0	—	—	—	—
	管理栄養学科		2	5	5	2	2	2.5
	幼児教育心理学科		2	3	3	0	—	—
		計	10	10	10	2	2	5.0
一般入試前期日程	国際教養学科	A日程	58	96(2)	94(2)	92(2)	21(1)	1.0
		B日程		44	44	43	13	1.0
		C日程	8	8	7	5	0	1.4
	国際教養学科 GSE入試	A日程	(3)	0	—	—	—	—
		B日程		1	1	1	1	1.0
		C日程	(1)	0	—	—	—	—
	生活デザイン・建築学科	A日程	20	33〔3〕	33〔3〕	33〔3〕	5〔1〕	1.0
		B日程		14〔1〕	14〔1〕	11〔1〕	2	1.3
		C日程	5	3	3	1	0	3.0
	管理栄養学科	A日程	28	83(3)	83(3)	71(1)	21(1)	1.2
		B日程		49	49	47	15	1.0
		C日程	2	3	3	2	0	1.5
	幼児教育心理学科	A日程	28	58(3)	57(3)	56(3)	20(2)	1.0
		B日程		37	37	32	7	1.2
		C日程	2	3	3	2	0	1.5
		計	151	432(8)[4]	428(8)[4]	396(6)[4]	105(4)[1]	1.1
一般入試後期日程	国際教養学科		16	12	11	11	6	1.0
	国際教養学科・GSE入試		(1)	0	—	—	—	—
	生活デザイン・建築学科		2	3	3	3	2	1.0
	管理栄養学科		2	4	4	2	2	2.0
	幼児教育心理学科		4	7	6	6	2	1.0
		計	24	26	24	22	12	1.1
大学入試センター試験利用入試A日程	国際教養学科		18	156	156	142	17	1.1
	国際教養学科・GSE入試		(1)	5	5	3	0	1.7
	生活デザイン・建築学科		4	33	33	29	5	1.1
	管理栄養学科〔3科目型〕		5	34	34	16	1	2.1
	管理栄養学科〔1科目型〕		2	9	9	4		2.3
	幼児教育心理学科		2	16	16	10	0	1.6
		計	31	253	253	204	23	1.2

広島女学院大学　2015年度入試結果データ（入試形態別）

入試形態	学科・方式	募集人員	志願者数	受験者数[A]	合格者数[B]	入学者数	倍率[A/B]
大学入試センター試験利用入試B日程	国際教養学科	6	11	11	10	4	1.1
	国際教養学科・GSE入試	(1)	1	1	1	0	1.0
	生活デザイン・建築学科	2	2	2	2	1	1.0
	管理栄養学科	2	3	3	2	0	1.5
	幼児教育心理学科	2	0	—	—	—	—
計		12	17	17	15	5	1.1
大学入試センター試験利用入試C日程	国際教養学科	4	2	2	2	1	1.0
	国際教養学科・GSE入試	(1)	1	1	1	0	1.0
	生活デザイン・建築学科	2	2	2	2	1	1.0
	管理栄養学科	2	0	—	—	—	—
	幼児教育心理学科	2	0	—	—	—	—
計		10	5	5	5	2	1.0
合 計		470	945(8)[4]	938(8)[4]	840(6)[4]	340(4)[1]	1.1

(　)は、内数で特待生入試不合格者でA日程判定者を表す。

[　]は、内数で第2・3志望合格者を表す。

※オープンセミナー入試はオープンセミナーを受講し、A評価がついた者が出願可能

	受講者数[A]	A評価者数[B]	倍率[A/B]
国際教養学科	50	50	1.0
生活デザイン・建築学科	38	38	1.0
幼児教育心理学科	40	39	1.0

※管理栄養学科AO入試は一次選考および二次選考を通過した者が出願可能

	エントリー[A]	一次選考通過者	二次選考通過者[B]	倍率[A/B]
管理栄養学科	16	11	10	1.6

入試形態	学科・方式	募集人員	志願者数	受験者数[A]	合格者数[B]	入学者数	倍率[A/B]
2年次転入試（第1回）	国際教養学科	若干名	1	1	1	1	1.0
3年次編入試（第1回）	国際教養学科	若干名	1	1	1	1	1.0
2年次転入試（第2回）	国際教養学科	若干名	1	1	1	1	1.0
2年次転入試（第2回）	管理栄養学科	若干名	1	1	1	0	1.0

広島女学院大学　2015年度入試結果データ(学科別)

■国際教養学部

学科	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数[A]	合格者数[B]	入学者数	倍率[A/B]
国際教養学科	オープンセミナー入試※	80	45	45	45	45	※
	広島女学院高等学校推薦入試	若干名	1	1	1	1	1.0
	指定校制推薦入試	24	8	8	8	8	1.0
	公募制推薦入試(第1回・A方式)	14	0	—	—	—	—
	公募制推薦入試(第2回・A方式)		2	2	2	2	1.0
	公募制推薦入試(第1回・B方式)		0	—	—	—	—
	公募制推薦入試(第2回・B方式)		0	—	—	—	—
	公募制推薦入試(第1回・C方式)	8	6	6	6	4	1.0
	公募制推薦入試(第2回・C方式)		1	1	1	1	1.0
	特待生入試	4	2	2	0	—	—
	一般入試前期A日程	58	96(2)	94(2)	92(2)	21(1)	1.0
	一般入試前期B日程		44	44	43	13	1.0
	一般入試前期C日程	8	8	7	5	0	1.4
	一般入試後期日程	16	12	11	11	6	1.0
	大学入試センター試験利用入試A日程	18	156	156	142	17	1.1
	大学入試センター試験利用入試B日程	6	11	11	10	4	1.1
	大学入試センター試験利用入試C日程	4	2	2	2	1	1.0
国際教養学科・GSE入試	指定校制推薦入試		0	—	—	—	—
	公募制推薦入試(第1回・A方式)	(4)	1	1	1	1	1.0
	公募制推薦入試(第2回・A方式)		1	1	1	1	1.0
	公募制推薦入試(第1回・B方式)		0	—	—	—	—
	公募制推薦入試(第2回・B方式)		0	—	—	—	—
	公募制推薦入試(第1回・C方式)	(3)	0	—	—	—	—
	公募制推薦入試(第2回・C方式)		0	—	—	—	—
	一般入試前期A日程	(3)	0	—	—	—	—
	一般入試前期B日程		1	1	1	1	1.0
	一般入試前期C日程	(1)	0	—	—	—	—
	一般入試後期日程	(1)	0	—	—	—	—
	大学入試センター試験利用入試A日程	(1)	5	5	3	0	1.7
	大学入試センター試験利用入試B日程	(1)	1	1	1	0	1.0
	大学入試センター試験利用入試C日程	(1)	1	1	1	0	1.0
計		240	404(2)	400(2)	376(2)	126(1)	1.1

■人間生活学部

学科	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数[A]	合格者数[B]	入学者数	倍率[A/B]
生活デザイン・建築学科	オープンセミナー入試※	18	31	31	31	31	※
	広島女学院高等学校推薦入試	若干名	0	—	—	—	—
	指定校制推薦入試	7	4	4	4	4	1.0
	公募制推薦入試(第1回・A方式)	6	3	3	3	3	1.0
	公募制推薦入試(第2回・A方式)		0	—	—	—	—
	公募制推薦入試(第1回・B方式)		0	—	—	—	—
	公募制推薦入試(第2回・B方式)		0	—	—	—	—
	公募制推薦入試(第1回・C方式)	2	0	—	—	—	—
	公募制推薦入試(第2回・C方式)		0	—	—	—	—
	特待生入試	2	0	—	—	—	—
	一般入試前期A日程	20	33〔3〕	33〔3〕	33〔3〕	5〔1〕	1.0
	一般入試前期B日程		14〔1〕	14〔1〕	11〔1〕	2	1.3
	一般入試前期C日程	5	3	3	1	0	3.0
	一般入試後期日程	2	3	3	3	2	1.0
	大学入試センター試験利用入試A日程	4	33	33	29	5	1.1
	大学入試センター試験利用入試B日程	2	2	2	2	1	1.0
	大学入試センター試験利用入試C日程	2	2	2	2	1	1.0
計		70	128〔4〕	128〔4〕	119〔4〕	54〔1〕	1.1

学科	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数[A]	合格者数[B]	入学者数	倍率[A/B]
管理栄養学科	管理栄養学科AO入試	5	10	10	10	10	※
	広島女学院高等学校推薦入試	若干名	1	1	1	1	1.0
	指定校制推薦入試	10	8	8	8	8	1.0
	公募制推薦入試(第1回・A方式)	5	6	6	6	6	1.0
	公募制推薦入試(第1回・B方式)		2	2	2	2	1.0
	公募制推薦入試(第1回・C方式)	5	16	16	11	10	1.5
	特待生入試	2	5	5	2	2	2.5
	一般入試前期A日程	28	83(3)	83(3)	71(1)	21(1)	1.2
	一般入試前期B日程		49	49	47	15	1.0
	一般入試前期C日程	2	3	3	2	0	1.5
	一般入試後期日程	2	4	4	2	2	2.0
	大学入試センター試験利用入試A日程【3科目型】	5	34	34	16	1	2.1
	大学入試センター試験利用入試A日程【1科目型】	2	9	9	4		2.3
	大学入試センター試験利用入試B日程	2	3	3	2	0	1.5
	大学入試センター試験利用入試C日程	2	0	—	—	—	—
計		70	233(3)	233(3)	184(1)	78(1)	1.3

広島女学院大学　2015年度入試結果データ（学科別）

学科	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数[A]	合格者数[B]	入学者数	倍率[A/B]
幼児教育心理学科	オープンセミナー入試※	20	35	35	35	35	※
	広島女学院高等学校推薦入試	若干名	1	1	1	1	1.0
	指定校制推薦入試	10	3	3	3	3	1.0
	公募制推薦入試（第1回・A方式）	12	5	5	5	5	1.0
	公募制推薦入試（第2回・A方式）		0	—	—	—	—
	公募制推薦入試（第1回・B方式）		2	2	2	2	1.0
	公募制推薦入試（第2回・B方式）		0	—	—	—	—
	公募制推薦入試（第1回・特芸方式）	2	1	1	1	1	1.0
	公募制推薦入試（第1回・C方式）	4	5	5	5	4	1.0
	公募制推薦入試（第2回・C方式）		4	3	3	2	1.0
	特待生入試	2	3	3	0	—	—
	一般入試前期A日程	28	58（3）	57（3）	56（3）	20（2）	1.0
	一般入試前期B日程		37	37	32	7	1.2
	一般入試前期C日程	2	3	3	2	0	1.5
	一般入試後期日程	4	7	6	6	2	1.0
	大学入試センター試験利用入試A日程	2	16	16	10	0	1.6
	大学入試センター試験利用入試B日程	2	0	—	—	—	—
	大学入試センター試験利用入試C日程	2	0	—	—	—	—
計		90	180（3）	177（3）	161（3）	82（2）	1.1

（　）は、内数で特待生入試不合格者でA日程判定者を表す。
[　]は、内数で第2・3志望合格者を表す。

※オープンセミナー入試はオープンセミナーを受講し、A評価がついた者が出願可能

	受講者数[A]	A評価者数[B	倍率[A/B]
国際教養学科	50	50	1.0
生活デザイン・建築学科	38	38	1.0
幼児教育心理学科	40	39	1.0

※管理栄養学科AO入試は一次選考および二次選考を通過した者が出願可能

	エントリー[A]	一次選考通過者	二次選考通過者[B	倍率[A/B]
管理栄養学科	16	11	10	1.6

国際教養学科

入試形態	募集人員	志願者数	受験者数[A]	合格者数[B]	入学者数	倍率[A/B]
2年次転入試（第1回）	若干名	1	1	1	1	1.0
3年次編入試（第1回）	若干名	1	1	1	1	1.0
2年次転入試（第2回）	若干名	1	1	1	1	1.0

管理栄養学科

入試形態	募集人員	志願者数	受験者数[A]	合格者数[B]	入学者数	倍率[A/B]
2年次転入試（第2回）	若干名	1	1	1	0	1.0

◆ **オープンキャンパス来場者数推移** （リピーターも含む）

2013年

			高校生 内訳（新規・リピーター）		学年別		
春のOC 3月24日（日）【 くもり・晴れ 】	高校生	121 名			高3	0	
	同伴者（親など）	42 名			高2	104	
	計	163 名			高1	14	不明3名
第1回 6月23日（日）【くもり時々雨】	高校生	164 名	新規	164	高3	152	高3新規152名
	同伴者（親など）	73 名			高2	11	
	計	237 名			高1	0	既卒1名
第2回 7月14日（日）【晴れのち雨】	高校生	266 名	新規	237	高3	159	高3新規131名
	同伴者（親など）	117 名	リピーター	29	高2	18	
	計	383 名			高1	84	不明5名
第3回 7月27日（土）【くもり時々晴れ】	高校生	241 名	新規	184	高3	159	高3新規105名
	同伴者（親など）	79 名	リピーター	57	高2	65	
	計	320 名			高1	8	不明9名
第4回 8月18日（日）【晴れ】	高校生	230 名	新規	193	高3	101	高3新規72名
	同伴者（親など）	105 名	リピーター	37	高2	76	
	計	335 名			高1	48	不明5名
第5回 9月8日（日）【晴れ】	高校生	156 名	新規	110	高3	91	高3新規55名
	同伴者（親など）	78 名	リピーター	46	高2	47	
	計	234 名			高1	15	不明名3名
前半合計	高校生	1178 名	新規	888	高3	662	高3新規515名
	同伴者（親など）	494 名	リピーター	169	高2	217	
	計	1,672 名	(3月含まず)	1,057	高1	155	
大学祭・OC 10月14日（月）11時～16時【晴れ】	高校生	51 名	新規	25	高3	36	
	同伴者（親など）	29 名	リピーター	26	高2	11	
	計	80 名			高1	4	不明0名
クリスマスOC 12月21日（土）14時～16時【】	高校生	32 名	新規	32	高3	2	
	同伴者（親など）	14 名	リピーター		高2	13	
	計	46			高1	15	不明名
	高校生	1,261 名	新規	945	高3	700	
	同伴者（親など）	537 名	リピーター	195	高2	241	
	総合計来場者数	1,798 名			高1	174	

＊海田高校から高校1年生集団参加（7/14日　約80名）
＊無料送迎バス・・・全ての回で福山、尾道、三原から1便、新山口、徳山、岩国から1便
＊無料送迎バス・・・7/14と27は松山・今治より1便、松江・三刀屋・三次より1便、浜田・江津より1便

志願者数（全入試累計） 1,109 名
入学者数 355 名

2014年

			高校生 内訳（新規・リピーター）		学年別		
春のOC 3月23日（日）【 くもり・晴れ 】	高校生	74 名			高3	3	←入学確定者
	同伴者（親など）	33 名			高2	67	
	計	107 名			高1	2	不明2名
第1回 6月22日（日）【 雨のち曇り 】	高校生	188 名	新規	188	高3	167	高3新規 160名
	同伴者（親など）	102 名			高2	10	
	計	290 名			高1	5	不明 6名
第2回 7月13日（日）【 雨 】	高校生	174 名	新規	135	高3	147	高3新規 110名
	同伴者（親など）	71 名	リピーター	39	高2	21	
	計	245 名			高1	3	不明 3名
第3回 7月26日（土）【 晴れ 】	高校生	228 名	新規	136	高3	151	高3新規 101名
	同伴者（親など）	110 名	リピーター	92	高2	66	
	計	338 名			高1	4	不明 7名
~~第4回 8月10日（日）【 台風により中止 】~~	高校生	名	新規		高3		高3新規 名
	同伴者（親など）	名	リピーター		高2		
	計	0 名			高1		不明 名
第5回 9月7日（日）【 晴れ 】	高校生	223 名	新規	186	高3	130	高3新規 90名
	同伴者（親など）	109 名	リピーター	37	高2	65	
	計	332 名			高1	12	不明名 16名
前半合計	高校生	887 名	新規	645	高3	595	高3新規 461名
	同伴者（親など）	425 名	リピーター	168	高2	162	
	計	1,312 名	(3月含まず	813	高1	24	
~~大学祭・OC 10月13日（月・祝）10時～12時【 台風により中止 】~~	高校生	名	新規		高3		
	同伴者（親など）	名	リピーター		高2		
	計	0 名			高1		不明0名
クリスマスOC 12月20日（土）14時半～16時半【 雨のち曇り 】	高校生	58 名	新規	46	高3	35	
	同伴者（親など）	23 名	リピーター	12	高2	18	
	計	81			高1	2	不明3名
	高校生	945 名	新規	691	高3	630	
	同伴者（親など）	448 名	リピーター	180	高2	180	
	総合計来場者数	1,393 名			高1	26	

＊海田高校から高校1年生集団参加（7/14日　約80名）
＊無料送迎バス・・・全ての回で福山、尾道、三原から1便、新山口、徳山、岩国から1便
＊無料送迎バス・・・7/14と27は松山・今治より1便、松江・三刀屋・三次より1便、浜田・江津より1便

志願者数（全入試累計） 945 名
入学者数 340 名

2015年

			高校生 内訳（新規・リピーター）		学年別		
春のOC 3月21日（土・祝）【 晴れ 】	高校生	135 名			高3	1	←入学確定者
	同伴者（親など）	50 名			高2	114	
	計	185 名			高1	18	不明 2名
第1回 6月21日（日）【 晴れ 】	高校生	161 名	新規	161	高3	152	高3新規151名
	同伴者（親など）	79 名			高2	7	
	計	240 名			高1	1	不明 1名
第2回 7月12日（日）【 くもり時々雨 】	高校生	166 名	新規	116	高3	137	高3新規94名
	同伴者（親など）	72 名	リピーター	50	高2	20	※広島県新聞交流会参加者あり
	計	238 名			高1	2	不明 7名
第3回 7月25日（土）【 晴れ 】	高校生	227 名	新規	161	高3	161	高3新規100名
	同伴者（親など）	79 名	リピーター	66	高2	44	
	計	306 名			高1	15	不明 7名
第4回 8月9日（日）【 晴れ 】	高校生	235 名	新規	184	高3	125	高3新規 83名
	同伴者（親など）	82 名	リピーター	51	高2	83	
	計	317 名			高1	24	不明 3名
第5回 9月6日（日）【 雨 】	高校生	133 名	新規	87	高3	84	高3新規44名
	同伴者（親など）	54 名	リピーター	46	高2	35	
	計	187 名			高1	6	不明名8名
前半合計	高校生	1057 名	新規	709	高3	659	高3新規472名
	同伴者（親など）	416 名	リピーター	213	高2	189	
	計	1,473 名	(3月含まず)	922	高1	48	
大学祭・OC 11月8日（日）10時～12時【 雨 】	高校生	46 名	新規	26	高3	37	
	同伴者（親など）	17 名	リピーター	20	高2	7	
	計	63 名			高1	0	不明 2名
クリスマスOC 12月19日（土）14時半～16時半【 晴れ 】	高校生	22 名	新規	17	高3	7	
	同伴者（親など）	10 名	リピーター	5	高2	11	社会人1名
	計	32			高1	3	不明1名
	高校生	1,125 名	新規	752	高3	703	
	同伴者（親など）	443 名	リピーター	238	高2	207	
	総合計来場者数	1,568 名			高1	51	

＊無料送迎バス・・・全ての回で福山、尾道、三原から1便、新山口、徳山、岩国から1便
＊無料送迎バス・・・7/25は松山・今治より1便、松江・三刀屋・三次より1便、浜田・江津より1便

志願者数（全入試累計） 956 名
入学者数 326 名

2015年度退学者数等

学部名	学科名	留年	休学	除籍	退学
文学部	日本語日本文学科	20	3	0	5
	英米言語文化学科	6	1	0	0
	幼児教育心理学科	3	0	0	0
生活科学部	生活デザイン・情報学科	8	0	0	0
	管理栄養学科	0	0	0	0
大学院	人間生活学研究科	1	0	0	0
	言語文化研究科	0	1	0	1
国際教養学部	国際教養学科	0	8	1	8
人間生活学部	生活デザイン・建築学科	0	7	0	5
	管理栄養学科	0	1	0	1 (転学科)
	幼児教育心理学科	0	0	0	1

2016 年 6 月 20 日

2015 年度　アカデミック・サポート・センター　年次報告（抜粋）

1. 講習会・セミナー

本年度実施した講習会・セミナーの実施状況は、下記のとおりです。

行事名	実施日	講師	参加者数
英検・TOEIC の違いとその対策講習会	4 月 15 日（水）	久保田　眞吾先生 （本学語学センター・准教授） 佐伯　一行先生 （日本英語検定協会）	49 名
料理教室　事前お茶会	4 月 22 日（水）	管理栄養学科市川研究室 2015 年度ゼミ生 藤井　美紀（N12002）、児玉　優衣（N12025）、國原　尚子（N12028）、南部　萌衣（N12038）、高見　知晶（N12055）、岳野　彩美（N12056）、安永　愛（N12073）	18 名
会計管理講習会	5 月 27 日（水）	松田　俊治 本学財務・会計課課長 清尾　奈津美 本学財務・会計課主任	43 名
料理教室	5 月 27 日（水）	管理栄養学科市川研究室 2015 年度ゼミ生 藤井　美紀（N12002）、児玉　優衣（N12025）、國原　尚子（N12028）、南部　萌衣（N12038）、高見　知晶（N12055）、岳野　彩美（N12056）、安永　愛（N12073）	9 名
SPI（非言語）チャレンジ・セミナー（全 10 回）	6 月 15 日（月）～7 月 17 日（金）の毎週月・金曜日	松村　愛子ラーニング・アドバイザー（本学アカデミック・サポート・センター）	77 名 （延べ）
マナー講座	6 月 17 日（水）	吉田　順子先生 （本学国際教養学科・准教授）	26 名
	7 月 22 日（水）		27 名
SPI（非言語）チャレンジ・セミナー（全 14 回）	10 月 5 日（月）～12 月 4 日（金）の毎週月・金曜日	松村　愛子ラーニング・アドバイザー（本学アカデミック・サポート・センター）	94 名 （延べ）

行事名	実施日	講師	参加者数
PC テイク連係入力 セミナー	10 月 21 日（水）	松村　愛子ラーニング･アドバイザー （本学アカデミック・サポート・ センター）	8 名
はじめての手話 de LUNCH	10 月 26 日（月）	大上　早希子さん （本学国際教養学科　3 年）	25 名 （延べ）
	11 月 9 日（月）		
	11 月 23 日（月）		
	12 月 14 日（月）		
	1 月 25 日（月）		積雪による講師 都合により中止
メンタルヘルス講座	11 月 18 日（水）	落合　いずみ先生 （本学学生課カウンセラー）	5 名
計：10 講座		総参加者数計	381 名

2. ラーニング・アドバイザーによる個別学修相談

個別学修相談を利用した学生は、2015 年度 512 名（延べ人数）となりました。利用理由は、授業準備（予習・復習）、レポート・論文作成、資格・検定試験、文書添削、プレゼン指導、パソコン等使用方法についてなどでした。

なお、2015 年 10 月からは図書館のラーニング・アドバイザーをアカデミック・サポート・センターに統合し、個別学修相談員の名称を『ラーニング・アドバイザー（L.A.）』と統一し、4 名のラーニング・アドバイザーによる学修支援を実施しました。ラーニング・アドバイザーの個別学修相談対応スケジュールは以下の表のとおりです。

＜2015 年度個別学修相談対応スケジュール＞

曜日	担当者・時間	
月	牛首（日文系）：10:00～13:00	松村（理数系）：10:00～16:30
	久村（日文系）：12:00～17:00	
火	中田（英文系）：10:00～14:00	
水	久村（日文系）：9:00～15:00	松村（理数系）：10:00～16:30
	中田（英文系）：10:00～13:00	
木	牛首（日文系）：10:00～13:00	
金	中田（英文系）：10:00～15:30	松村（理数系）：10:00～16:30
	久村（日文系）：12:00～17:00	

また、ラーニング・アドバイザー個別学修相談の利用学生を学科・学年別（表 1）、内容別（表 2、グラフ）のとおりです。

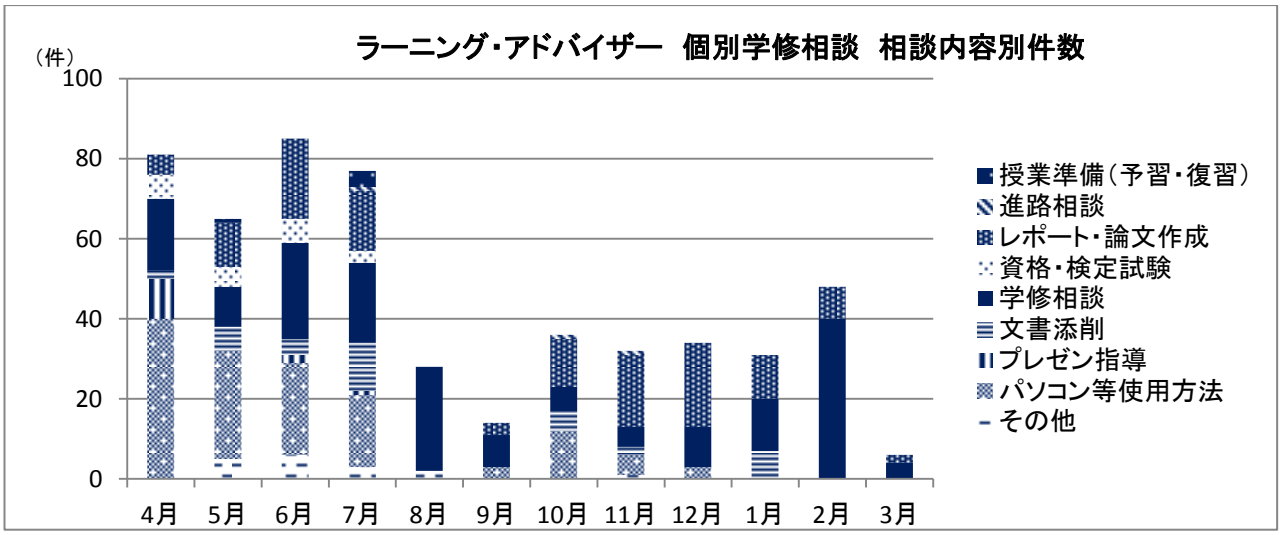
表１：ラーニング・アドバイザー個別学修相談利用学生内訳（学科・学年別）　（名）

学科	学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
国際教養学科	1	13	10	3	6	0	2	1	2	0	0	0	0	37
	2	10	2	4	7	0	0	7	6	5	5	0	0	46
	3	5	3	12	13	0	4	5	1	0	8	0	0	51
	4	7	1	2	1	0	2	3	9	12	5	3	0	45
	小計	35	16	21	27	0	8	16	18	17	18	3	0	179
生活デザイン・建築学科	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	4
	4	1	0	0	1	0	2	1	1	0	0	0	0	6
	小計	1	0	0	2	0	3	2	2	1	0	0	0	11
管理栄養学科	1	3	0	5	1	0	0	1	0	0	0	0	0	10
	2	6	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	8
	3	16	10	18	18	26	3	3	4	9	13	44	6	170
	4	3	4	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	11
	不明	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	小計	28	14	24	20	28	3	6	5	9	13	44	6	200
幼児教育心理学科	1	1	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	5
	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	4	4	6	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	19
	小計	5	7	4	7	0	0	2	2	0	0	0	0	27
英米言語文化学科	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	小計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
大学院（前期・日文）	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	小計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
大学院（人間）	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	小計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
不明	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	5
	不明	16	24	28	17	0	0	1	0	0	0	0	0	86
	小計	16	24	28	17	0	0	1	1	4	0	1	0	92
総計		86	61	77	74	28	14	28	28	31	31	48	6	512

表２：ラーニング・アドバイザー個別学修相談　内容別内訳　（件）

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
授業準備（予習・復習）	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	5
レポート・論文作成	5	11	20	15	0	3	12	18	21	11	8	2	126
資格・検定試験	6	5	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	20
学修相談（国家試験対策等）	18	10	24	20	26	8	6	5	10	13	40	4	184
文書添削	2	6	4	12	0	0	5	2	0	7	0	0	38
プレゼン指導	10	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	13
パソコン等使用方法	40	27	23	18	0	3	12	5	3	0	0	0	131
進路相談	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	3
その他	0	5	6	3	2	0	0	1	0	0	0	0	17
総計	**81**	**60**	**79**	**74**	**26**	**14**	**36**	**31**	**34**	**31**	**48**	**6**	**520**

※同一時間に同一学生が複数の相談をした場合、各相談内容別に集計



3. 特別なニーズを持つ学生への学修支援

ノートテイクが困難な特別なニーズを持つ学生を支援するための、学生ノートテイカーによる授業支援を実施しました（延べ 325 回）。2015 年度利用学生は 1 名、ノートテイカー登録学生は 13 名でした。ノートテイカーは毎月 1 回のミーティングを通して、ノートテイクやパソコンテイクにおける実施状況報告、情報交換を行いました。

実施回	実施日	参加者数	内容
第 1 回	4 月 8 日（水）	5 名	・時間割調整 ・注意事項確認
第 2 回	5 月 27 日（水）	5 名	・ノートテイク・パソコンテイク実施における問題点とその解決について。 ・パソコンテイク終了時における、更新プログラム・インストールの対応について ・6 月期間中時間割調整
第 3 回	6 月 24 日（水）	6 名	・学期末の補講・試験等における諸連絡
第 4 回	7 月 29 日（水）	3 名	・春学期総括 （欠席者からの総括はメールにて受理）
第 5 回	9 月 28 日（月）	9 名	・秋学期時間割調整
第 6 回	10 月 28 日（水）	8 名	・連係入力導入状況確認
第 7 回	11 月 25 日（水）	5 名	・連係入力実施状況確認 ・パソコンテイク用資材について
第 8 回	12 月 16 日（水）	6 名	・連係入力実施状況確認 ・パソコンテイク実施時に生じる、更新プログラム自動開始についての報告 →手動更新に切り替え
第 9 回	1 月 27 日（水）	6 名	・秋学期総括

広島女学院大学

2. 支援体制

(1) 障害学生支援に関する専門委員会等

障害学生支援について協議・検討する専門委員会について、該当する欄に「1」を記入し、下欄に代表者について記入してください。

1	①専門委員会がある(障害学生委員会、バリアフリー委員会、支援担当者会議等)
委員会名	障がい学生高等教育支援室運営委員会
代表者(委員長等)の役職等(副学長、学部長等)	総合学生支援センター長
	②専門委員会はないが、他の委員会で対応している(学生委員会等)
委員会名	
代表者(委員長等)の役職等(副学長、学部長等)	
	③障害学生支援に関して検討・協議する委員会はない
	④合理的配慮の内容の決定が困難な場合に第三者的視点に立ち調整を行なう組織がある
組織名	
構成員	

(2) 障害学生支援担当部署(者)

1)障害学生支援業務を行なう部署、機関について、該当する欄に「1」を記入してください。

1	①専門部署・機関がある(障害学生支援センター、バリアフリー支援室等)
部署・機関名	障がい学生高等教育支援室
	②専門の部署・機関はないが他の部署・機関が対応している(学生課、保健室等)
部署・機関名	
	③障害学生支援業務を行なう部署・機関はない

広島女学院大学

2)障害学生支援業務を行なう担当者の有無と人数を記入してください。

①専任スタッフ
(担当者がいる場合、左の欄に1を記入し、右の欄に人数を記入してください)

		人数
	ア. 障害学生支援を専門に担当するコーディネーター	
	イ. 障害学生を専門に担当するカウンセラー	
	ウ. 障害学生を専門に担当する医師	
	エ. 専門の支援技術(手話通訳、点訳等)を持つ教職員	
1	オ. 障害学生支援を専門に担当する職員	2
	カ. 障害学生支援を専門に担当する教員	
	キ. その他	

②兼任スタッフ
(障害学生支援担当者が決まっている場合のみ人数を計上してください。決まった担当者がなく、部署・機関の全員が随時対応する場合は左の欄のみ1を記入し、人数は記入不要です)

		人数
1	ア. 他の業務と兼任で障害学生支援を担当するコーディネーター	1
1	イ. 他の業務と兼任で障害学生を担当するカウンセラー	1
	ウ. 他の業務と兼任で障害学生を担当する医師	
	エ. 専門の支援技術(手話通訳、点訳等)を持ち他の業務と兼任で支援を行なう教職員	
1	オ. 他の業務と兼任で障害学生支援を担当する職員	2
	カ. 他の業務と兼任で障害学生支援を担当する教員	
	キその他	

③外部スタッフ

		人数
1	ア. 嘱託等の契約に基づき、外部から招いている医師、カウンセラー等	2
	イ. 必要に応じて定期的に業務を委託している専門技能者(手話通訳、ノートテイカー等)	
	ウ. その他	

広島女学院大学

(3) 障害学生の相談受付窓口

障害学生が支援の申し出等をしたいときに、学生にとってわかりやすい窓口がありますか。窓口の有無及びその周知について、該当する欄に「1」を記入してください。

1	①支援の申し出等の相談に対応する窓口がある。	
	ア. 窓口について、要覧、パンフレット、ホームページ等で学生に周知している。	1
	イ. 窓口は設けているが、特に周知はしていない。	
	②支援の申し出等の相談に対応する窓口はない。	
	ア. 特に窓口は設けず、各部署で相談に対応していることを周知している。	
	イ. 窓口はなく、相談対応について特に周知はしていない。	

(4) 障害学生支援に関する規程等

障害学生支援に関する規程等(例:入学者選抜、修学支援に関わる委員会、部署、担当者等に関する規程、規定等)について、該当する欄に「1」を記入してください。なお、学生全般に関する規程等のうち、障害学生に関する具体的な表記がないものは、下記①に該当しません。

1	①障害学生支援に関する規程等がある。	
	ア. 規程等に支援の申し出への対応手順が明記されている。	1
	イ. 規程等に支援の申し出への対応手順について特に記載はない。	
	②障害学生支援に関する規程等はない。	
	③規程等以外に、支援の申し出への対応手順を明記した文書がある。	

広島女学院大学

（5）障害のある学生を受け入れるための施設・設備の整備状況

学生生活において必要となる施設、設備の整備状況について、該当する欄に「1」を記入してください。

		学内全体に整備	現在必要な箇所に整備	部分的に整備しているが不十分	整備中または年度内に整備予定	未整備
①屋外	ア. 道路の舗装、段差の解消等			1		
	イ. 手すり、スロープ、階段昇降機等			1		
	ウ. 点字ブロック、標識シール等		1			
	エ. 専用駐車場		1			
②屋内	ア. 自動扉等出入り口の整備		1			
	イ. エレベーター		1			
	ウ. 手すり、スロープ、階段昇降機等			1		
	エ. 車椅子移動等に必要なスペース確保			1		
	オ. 点字プレート等教室表示		1			
	カ. 聴覚障害者用屋内信号装置					1
	キ. 障害者用トイレ		1			
	ク. 自習室、独習室		1			
	ケ. 磁気誘導ループ					1

		学内全体に整備	現在必要な箇所に整備	部分的に整備しているが不十分	整備中または年度内に整備予定	未整備
③支援機器	ア. 点字プリンタ		1			
	イ. 立体コピー機					1
	ウ. 拡大読書機		1			
	エ. 点字携帯端末		1			
	オ. 筆談器等					1
	カ. 車椅子、簡易ベッド等		1			
その他			1			

※以下に、その他の具体的な内容を記入してください。

点図ディスプレイ

広島女学院大学

3. 活動や取組

障害学生支援に関して、以下の活動や取組を実施している場合は、実施の欄に「1」を記入してください。また、⑥以降については、名称・内容、参加人数、実施時期も記入してください。（平成27年度の実施（予定含む）についてご回答ください）

1	①相談対応・懇談会等（障害学生・支援スタッフ向け）
1	②支援マニュアル・パンフレットの配布
1	③支援情報の公開（ホームページ）
	ア. 相談窓口について: 1
	イ. 具体的な授業支援等の支援内容の説明: 1
	ウ. 在籍障害学生数:
	エ. キャンパスのバリアフリーマップ等の掲示: 1
	オ. その他:
	④学内イベント（入学式等）での支援についての情報提供
1	⑤障害学生に対する就職支援やキャリア教育支援
	ア. 学外機関との連携、支援情報の提供: 1
	イ. 一般就職ガイダンス、セミナー等における配慮の実施:
	ウ. 障害学生向け就職ガイダンス、セミナー等の実施:
	エ. インターンシップ先、就職先の開拓、企業との連携:
	オ. その他:

広島女学院大学

⑥障害学生支援に関連する講義（ボランティア論等）

	名称/内容	実施時期	参加人数

1 ⑦障害学生支援に関する学生向け研修（ノートテイカー養成等）

	名称/内容	実施時期	参加人数
	ノートテイカー養成講座/PCテイク講習	9月	3
	ノートテイカー連携入力講座/PCテイク連携入力講習	10月	10
	はじめての手話 de Lunch/手話講習会	10月	10

⑧障害学生支援に関する講座・講演等イベント

	名称/内容	実施時期	参加人数

3. 活動や取組

広島女学院大学

⑨障害学生支援に関する(学内)教員研修(FD等)

	名称/内容	実施時期	参加人数

⑩障害学生支援に関する(学内)職員研修(SD等)

	名称/内容	実施時期	参加人数

1 ⑪障害学生支援に関する学外研修への教職員派遣

	名称/内容	実施時期	参加人数
	全国高等教育障害学生支援協議会第1回大会	6月	1
	日本聴覚障害高等教育支援ネットワークFD/SDセミナー	8月	2
	日本学生支援機構平成27年度障害学生支援ワークショップ	9月	1
	日本学生支援機構/全国障害学生支援セミナー「体制整備支援セミナー」	10月	1

広島女学院大学

1 ⑫学外機関との連携

⑤のアで回答した場合も含め、連携機関の名称を(名称のみではどのような団体かわからない場合は、業務内容についても)記入してください。

名称/内容	筑波技術大学・PEP Net Japan/聴覚障害のある学生のための遠隔情報保障
名称/内容	
名称/内容	
名称/内容	
名称/内容	
名称/内容	

広島女学院大学

4. 受入に関する配慮

(1) 入学者選抜における受験上の配慮の周知

入学者選抜における受験上の配慮の周知について、①～③のうち該当する欄に「1」を記入してください。なお、①②については、具体的な内容についても、該当する欄に「1」を記入してください。また、「その他」を選択した場合は、その具体的な内容を記載してください。

	①入試要項(募集要項)に、受験上の配慮に関する記載がある。	
	ア. 「障害のある方は事前にご相談ください」等の文言を記載している	
	イ. 個々の困難の程度に応じた配慮内容を記載している。	
	ウ. その他	
1	②ホームページに、受験上の配慮に関する記載がある。または、記載のある入試要項を掲載している	
	ア. 「障害のある方は事前にご相談ください」等の文言を記載している	1
	イ. 個々の困難の程度に応じた配慮内容を記載している。	
	ウ. その他	
	③入試要項にも、ホームページにも記載していない。	

(2) 入学者選抜における受験上の配慮についての事前相談の受付方法

入学者選抜における受験上の配慮についての事前相談の受付方法について、①～④のうち該当する欄に「1」を記入してください。なお、②については、具体的な内容についても、該当する欄に「1」を記入してください。また、「その他」を選択した場合には、その具体的な内容を記載してください。

1	①随時、受け付けている。	
	②全学共通のルールで期間を設けている。	
	※ルールは同じだが試験日が違うので実際の期日は違うという場合もこちらを選択してください。	
	ア. 出願受付締切まで	イ. 試験前日まで
	ウ. その他	
	③学部、学科等や入試形態によって違う。	
	④特に告知はしていないが、相談があれば対応する。	

広島女学院大学

（3）入学者選抜において実施可能な受験上の配慮

平成27年度大学入学者選抜において、もし受験者から申請があったら対応が可能だった受験上の配慮を、該当する欄に「1」を記入してください。

[1] ①配慮の準備がある、または申し出があれば対応可能だった配慮がある。

1	A. 点字問題を点字で解答	1	L. 車椅子等の持参使用
1	B. 拡大文字問題の準備	1	M. 松葉杖の持参使用
1	C. 拡大解答用紙の準備		N. パソコン等の持参使用
	D. 音声で出題し音声で解答		O. 手話通訳者の付与
	E. マークシートに替えて文字で解答	1	P. 文書による伝達
	F. チェック解答	1	Q. 窓側の明るい席の指定
1	G. 試験時間の延長	1	R. トイレに近接する試験室に指定
	H. 照明器具の準備	1	S. 別室を設定
	I. 特製机の使用	1	T. 試験室を一階に設定
1	J. 拡大鏡等の持参使用		U. 介助者の付与
1	K. 補聴器の持参使用	1	V. 試験場への車での入構許可
	W. その他		

具体的な内容

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

[ ] ②申し出がなかったため検討しておらず、回答できない。

【平成28年度入学者向け掲載情報_学校用回答用紙】
各大学の奨学金制度（学内奨学金・授業料等減免制度・徴収猶予制度に関する調査）

※ 外国人留学生のみを対象とした制度は

※ 平成27年11月現在の情報で記載ください。記載内容は記入例をご参照ください。
※ JASSOホームページに掲載して良い情報のみ記載してください。
※ 制度、対象の課程、その他内容毎に記載してください。
※ セルの結合・削除は行わないでください。
※ 行が足りない場合は、コピーにより入力欄を増やしてください。
※ 「同上」「〃」は使用せず、上段と同じ場合も同じ情報を記載してください。

※ 必須

		学校番号（6桁）	307005
実施団体の種類	私立大学	学校名	広島女学院大学
本部所在地（都道府県）	広島県	ホームページ（URL）	http://www.hju.ac.jp/

No.	ア. 制度の名前（必須）	ウ. 制度の種類（必須）	エ. 給付・貸与の種類	カ. 対象の課程（必須）	キ. 対象の専攻分野（必須）	ク. 対象詳細	ケ. 支給額	コ. 支給期間	サ. 人数	シ. 申込時期（必須）	ス. 申込時期詳細	ソ. 資格・条件	タ. 担当部署（必須）	チ. 問い合わせ先電話番号（必須）	ツ. 備考	テ. 東日本大震災対応
1	広島女学院大学貸与奨学金	学内奨学金	貸与（無利子）	大学	専攻分野の限定なし	全学年	入学年度授業料相当額	修業年限以内	各学年5名	入学後	9月	1. 学業・人物とも優秀であること2. 経済上、学資補助を要すること3. 健康であること	学生課	082-228-0407	他奨学金と併用不可	
2	広島女学院大学貸与特別奨学金	学内奨学金	貸与（無利子）	大学	専攻分野の限定なし	全学年	諸納付金相当額	出願した当該年度（延長可。4年以内）	若干名	入学後	随時	家計支持者の死亡・疾病、家業倒産、事故、火災・災害などにより家計が急変し、学業継続が困難な者	学生課	082-228-0407	他奨学金と併用可	
3	ゲーンス奨学金	学内奨学金	給付	大学	専攻分野の限定なし	3・4年生	20万円	1回限り	4名	入学後	4月	経済的事由から学業継続が著しく困難となった者で成業の見込みのある者	学生課	082-228-0407	他奨学金と併用可、出願は在学中1回限り	
4	特待生入試	授業料減免		大学	専攻分野の限定なし	新入生	1年次授業料免除	1回限り		学校出願時		特待生入試に合格した者	入試課	082-228-8365		
5	大学入試センター試験利用入試A日程	授業料減免		大学	専攻分野の限定なし	新入生	授業料20%減免	4年間		学校出願時		合格者のうち、成績優秀者（GSEメジャー除く）	入試課	082-228-8365	・1年次のみ施設維持資金も免除・2年時以降は成績等により継続可否の審査	
6	GSEメジャー特待生	授業料減免		大学	教養・学際・その他	新入生	授業料20%減免	4年間		学校出願時		GSE入試合格者	入試課	082-228-8365	・前年度成績、検定スコアによって継続可否の審査	
7	沖縄県出身者対象納入金減免	授業料減免		大学	専攻分野の限定なし	沖縄県内の高校を卒業した新入生	授業料20%減免	4年間		学校出願時		沖縄県内の高校を卒業し本学に入学する者	入試課	082-228-8365	・1年次のみ施設維持資金も免除・2年時以降は成績等により継続可否の審査	
8	大学協力会修学援助費	学内奨学金	給付	大学	専攻分野の限定なし	最終学年（4年生）で卒業見込みのある学生	秋学期授業料相当額	1回限り		入学後	最終学年で随時	①学資を負担する保証人の死亡により学業の継続が困難となったもの②不慮の災害等により学業の継続が困難となったもの	庶務課	082-228-0386	・支給は秋学期のみ	
9	授業料納入延期	授業料徴収猶予		大学	専攻分野の限定なし	全学年				入学後		経済的事情により期限までに納入が困難な場合	学生課	082-228-0407		
10	広島女学院大学院貸与奨学金	学内奨学金	貸与（無利子）	大学院	専攻分野の限定なし	全学年	入学年度授業料相当額	修業年限以内	各学年5名	入学後	9月	1. 学業・人物とも優秀であること2. 経済上、学資補助を要すること3. 健康であること	学生課	082-228-0407	他奨学金と併用不可	

日本人学生が関係する奨学金(留学関係)

	対象	奨学金名	金額	2015年度人数
本学	大学院	私費外国人留学生授業料減	授業料相当額又は授業料半期相当額	国際2年1名(半期分390,000円)
(独)日本学生支援機構	大学院・学部	海外留学推進制度(提携派	月額80,000円／70,000円／60,000円	国際2年8名、3年1名　(8万が5名、7万が3名、6万が1名)

留学生が関係する学内・学外奨学金一覧

	対象	奨学金名	金額	2015年度人数
本学	大学院	私費外国人留学生授業料減免	授業料の50%	言語(博士後期)3年2名、言語文化(博士前期)2年1名、1年4名 (各150,000)
本学	大学院	外国人留学生特別奨学金	納入すべき学費の年額相当額など3種(交換留学生含む)	言語(博士前期)1年4名 (3名各510,000、1名300,000)
本学	大学院	外国人留学生住居費補助	月額15000円を上限	2015年度はなし
本学	大学院	大学院特別推薦奨学金(学費減免)	授業料の50%(本学の修士を終了して博士に進む者用)	言語(博士後期)3年1名(150,000)
本学	学部	私費外国人留学生授業料減免	授業料の30%または50%	国際4年生3名、3年生1名、2年生1名(各390,000)
本学	学部	外国人留学生奨学金	納入すべき学費の年額相当額など6種(2年以上3種、1年生2種、交換留学生1種)	国際4年生3名、3年生1名、2年生1名、交換留学生10名 (2名各234,000、3名各670,000、交換留学生月額30,000x50)
文部科学省外国人留学生学習奨励費	大学院・学部	私費外国人留学生学習奨励費	月額48,000円	言語(博士前期)1年1名、国際4年1名(半期)
(公財)熊平奨学文化財団	大学院・学部	熊平奨学金	月額70,000円	国際3年1名、言語(博士前期)2年1名
(公財)八幡記念育英奨学会	大学院・学部	八幡記念育英奨学金	月額大学院100,000円、学部80,000円	国際4年1名、2年1名、言語(博士後期)3年1名
(公財)広島平和文化センター	大学院・学部	ひろしま奨学金	月額30,000円	国際4年1名
(公財)ひろしま国際センター	大学院・学部	ひろしま国際センター奨学金	月額30,000円	国際研究生2名
(独)日本学生支援機構	大学院・学部	海外留学推進制度(提携受入れ)	月額80,000円	交換留学生4名

日本人学生が関係する奨学金(留学関係)

	対象	奨学金名	金額	2015年度人数
本学	大学院	私費外国人留学生授業料減免	授業料相当額又は授業料半期相当額	国際2年1名(半期分390,000円)
(独)日本学生支援機構	大学院・学部	海外留学推進制度(提携派遣)	月額80,000円／70,000円／60,000円	国際2年8名、3年1名 (8万が5名、7万が3名、6万が1名)

2016 年 6 月 20 日

学生支援センター長
山下京子先生

広島女学院大学
学生課長　宇根　治

2015 年度通学支援状況
(シャトルバス、通学タクシー)

標記の状況は下記の通りとなっております。

記

	通学バス(広島駅⇔大学)				通学タクシー(アストラムライン牛田駅⇔大学)			
経路/本数・人数	広島駅⇒大学(午前)		大学⇒広島駅(午後)		牛田駅⇒大学(午前)		大学⇒牛田駅(午後)	
	運行本数	利用人数	運行本数	利用人数	運行本数	利用人数	運行本数	利用人数
4 月	329	8,600	233	5,998	55	154	27	38
5 月	302	7,817	233	5,927	54	217	33	59
6 月	345	8,790	285	7,285	73	219	42	84
7 月	317	8,026	250	6,308	67	220	45	98
8 月	6	128	2	26	6	16	4	6
9 月	78	1,965	41	1,063	15	40	5	11
10 月	268	7,021	218	5,555	59	162	36	64
11 月	232	6,069	195	5,063	49	139	34	60
12 月	207	5,361	175	4,391	46	137	168	55
1 月	149	3,922	126	3,310	36	103	26	55
2 月	21	553	13	302	7	12	3	4
3 月	6	128	2	26	6	16	4	6
合計	2,260	58,380	1,773	45,254	473	1,435	427	540

【備考】

1)利用料金:　1 人 1 回 180 円(学生ホールの自動販売機でチケットを事前購入)
2)利用時間帯①(行き):シャトルバス・・・月～金の　7:50～8:30、10:00～10:20 の間随時運行
タクシー・・・8:30、10:10 を目安に 2～3 人集まり次第出発。
3)利用時間帯②(帰り):シャトルバス・・・月・水・金　14:30～15:00、16:10～16:40、17:50～18:30
火　15:30～15:50、17:10～17:30、18:45～19:10
水　12:10～12:30、14:30～15:00
タクシー・・・　月・水・金　14:40、16:20、18:00
火　15:30、17:10、18:45
水　12:10、14:40
4)使用車両:　26 人乗りのマイクロバス(全員着席)
5)運行業者:つばめ交通株式会社

以上

心身健康調査（GHQ）結果報告

2015.7
カウンセリング・ルーム
健康管理センター

カウンセリング・ルームと健康管理センターとで、新入学生を対象に実施した心身健康調査 GHQ （The General Health Questionnaire）の結果を報告する。

１．実施月日……4 月 6 日（月）
２．対象者……新入学生全員
３．結果……表 1～4 に示す。

表１． GHQ 要素別分布状況（全体） 2015.4

	A	B	C	D
問題なし	240 人	216 人	310 人	306 人
	70.6%	63.5%	91.2%	90.0%
軽度の症状	76 人	77 人	24 人	21 人
	22.4%	22.6%	7.1%	6.2%
中等度以上の症状	24 人	47 人	6 人	13 人
	7.1%	13.8%	1.8%	3.8%
計	340 人	340 人	340 人	340 人

＊A＝身体的症状 B=不安と不眠 C=社会的活動障害 D＝うつ傾向
＊ 点数が高くなるほど「症状」は重症化の傾向がある

４．結果の活用・目的
（１）新入生の心身の健康状態について集団としての傾向を把握する。
（２）要素点５（中等度）以上、およびそれに準ずる学生に来室を促し、個人面接を実施する。面接の結果、必要があれば継続面接へ導入する。
（３）希望した学生にはフィードバック面接を実施する。自己理解を促したりカウンセリング・ルームの周知を図る。

５．今年度の GHQ の結果の特徴
（１）A（身体的症状）の「問題なし」は 70.6%
「軽度の症状」があるのは 22.4%
「中等度以上の症状」があるのは 7.1%
B（不安と不眠）の「問題なし」は 63.5%
「軽度の症状」があるのは 22.6%
「中等度以上の症状」があるのは 13.8%

C（社会的活動障害）の「問題なし」は 91.2%
「軽度の症状」があるのは 7.1%
「中等度以上の症状」があるのは 1.8%
D（うつ傾向）の「問題なし」は 90.0%
「軽度の症状」があるのは 6.2%
「中等度以上の症状」があるのは 3.8%

新入生は大学に入学することによって、これまでとは違った新しい環境の中に身を置くことになり、そこで様々なストレスにさらされることになる。強いストレスにより生じやすい症状として、「ＧＨＱ」では症状を A「身体的症状」B「不安と不眠」C「社会的活動障害」D「うつ傾向」に分類している。また、その段階は「問題なし」「軽度の症状」「中等度以上の症状」の３段階で示されている。

（２）今年度の全体的傾向は、例年に準ずるものであった。昨年度との比較では B（不安と不眠）で中等度以上の症状を示す者が増加し、D(うつ傾向)では中等度以上の症状を示す者が減少しているのが特徴的だった。例年どおり、新しい環境でのストレスに対し B（不安と不眠）の症状を呈しやすい傾向が見られたがこの傾向に一層の拍車がかかる結果となった。重症ではないが何らかの不調・不安を抱える学生が増加しているものと思われる。また、深刻な心理的問題を抱える学生も一部含まれており、今後も継続した心理的援助が必要であることが推測される。

（３）学部間の比較では、昨年同様、国際教養学部の学生の方が人間生活学部の学生より症状を抱えている傾向が見られた。特にＢ（不安と不眠）について差が見られ、中等度以上の症状においてその傾向は顕著になっている。

（４）専攻別では、分布状況にかなりの分散や特徴が見られる。

＊数年前より発達障害傾向を調べるための検査も実施している。
各心理検査の結果、何らかの問題があると思われた学生の呼び出し面接を行い、学生のより良い自己理解への一助のなるよう努めている（呼び出し面接対象者 63 名。フィードバックとして扱える学生は除く）。中には入学以前に診断を受けている者、グレーゾーン（「疑いがある」程度）の者が含まれており、今後学習面生活面で特別な対応が必要なケースも見られた。

２０１５年度健康管理センター利用状況（学生・教職員）

１　学生の利用状況

①　学生来室状況（月別）

学生の来室状況は表１の通りである。

表1　学生月別来室数　（人）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
‘15	217	191	164	150	9	47	128	126	114	88	29	22	1285

②　学生来室内訳

学生の来室内訳は表2の通りである。

表 2　学生来室内訳　（人）

年度	応急手当	健康相談	居場所	計
2015	626	326	333	1285
	48.7%	25.4%	25.9%	100%

③　学生応急手当内訳

来室学生の応急手当の内訳と件数は表3の通りである。

表3　応急手当　（人）

年度	頭痛	胃痛	腹痛	月経痛	気分不良	感冒	発熱	睡眠不足	その他	擦過傷	切り傷	刺し傷	噛み傷・虫さされ	挫傷
2015	33	22	14	44	72	57	21	60	0	39	17	3	14	5
年度	打撲	突き指・捻挫	脱臼・骨折	神経痛	筋肉痛	熱傷	皮膚科症状	耳鼻科症状	眼科症状	歯科症状	測定	検尿・その他	計	
2015	16	16	0	8	5	4	31	3	4	1	105	21	626	

2　教職員の利用状況

①　教職員来室状況

ア　教職員月別来室数

教職員の月別来室数は表 4 の通りである

表 4 教職員月別来室数　（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2015	15	17	39	28	6	11	22	15	25	15	22	27	242

②　教職員症状別件数（来室）

応急手当の症状、健康相談の来室件数は表 5 の通りである。

表 5　症状別件数（健康相談を含む）　（人）

年度	頭痛	胃痛	腹痛	月経痛	気分不良	発熱・感冒	擦過傷	切り傷	噛み傷・虫さされ	挫傷	打撲	突き指・捻挫	脱臼・骨折	神経痛・筋肉痛	熱傷
2015	10	4	4	4	5	14	2	6	2	1	2	0	2	12	2

年度	皮膚科症状	耳鼻科症状	眼科症状	歯科症状	測定	健康相談	合計
2015	4	0	4	1	12	151	242

2016. 6. 19　健康管理センター　小橋

2015年度就職ガイダンス

日付	内容
4月13日	就職活動について
4月20日	就職活動スケジュール
5月11日	情報サイトについて
5月25日	自己分析について
6月22日	エントリーシートについて
6月29日	筆記対策について
9月28日	就職ノートと進路登録票
10月19日	業界研究について
11月2日	面接対策①
11月16日	面接対策②
11月30日	グループディスカッション対策
12月2日	求人票の見方と履歴書の書き方
1月20日	学長メッセージ

（2015 年度）

専任教員の教育研究業績・学会活動

広島女学院大学

専任教員の教育研究業績・学会活動

＜国際教養学部＞

【国際教養学科】

1. 橋本　一夫　教授　・・・ 138
2. John Herbert　教授　・・・ 138
3. 河内　清志　教授　・・・ 139
4. 宮本　陽子　教授　・・・ 139
5. 中田　美喜子　教授　・・・ 139
6. 西口　理恵子　教授　・・・ 140
7. 佐藤　茂樹　教授　・・・ 140
8. 篠原　收　教授　・・・ 140
9. 渡邊　ゆかり　教授　・・・ 141
10. 柚木　靖史　教授　・・・ 142
11. 足立　直子　准教授　・・・ 142
12. 福田　道宏　准教授　・・・ 143
13. 西河内　靖泰　特任准教授・・・ 143
14. 澤村　雅史　准教授　・・・ 144
15. 田頭　紀和　准教授　・・・ 144
16. 植西　浩一　准教授　・・・ 145
17. 吉田　順子　准教授　・・・ 145
18. 伊藤　千尋　専任講師　・・・ 145
19. 勝井　慧　専任講師　・・・ 146
20. 永野　晴康　専任講師　・・・ 146
21. 関谷　弘毅　専任講師　・・・ 147
22. Ashley Hollenbeck 助教　・・・ 147
23. Paul Spicer　助教　・・・ 148
24. Timothy Wilson　助教　・・・ 149

＜人間生活学部＞

【生活デザイン・建築学科】

1. 細田　みぎわ　教授　・・・ 150
2. 三木　幹子　教授　・・・ 150
3. 小野　育雄　教授　・・・ 151
4. 小林　文香　准教授　・・・ 151
5. 真木　利江　准教授　・・・ 152
6. 楢﨑　久美子　准教授　・・・ 152

【管理栄養学科】

1. 石村　和敬　特任教授　・・・ 153
2. 村上　和保　教授　・・・ 153
3. 坂井　堅太郎　教授　・・・ 153
4. 石長　孝二郎　教授　・・・ 154
5. 下岡　里英　教授　・・・ 155
6. 渡部　佳美　教授　・・・ 156
7. 市川　知美　准教授　・・・ 156
8. 妻木　陽子　准教授　・・・ 157
9. 野村　希代子　専任講師　・・・ 158
10. 野村　知未　専任講師　・・・ 158

【幼児教育心理学科】

1. 三桝　正典　教授　・・・ 160
2. 中村　勝美　教授　・・・ 160
3. 鈴木　道子　特任教授　・・・ 161
4. 山下　京子　教授　・・・ 161
5. 神野　正喜　准教授　・・・ 161
6. 加藤　美帆　准教授　・・・ 162
7. 森保　尚美　准教授　・・・ 162
8. 田中　沙織　准教授　・・・ 164
9. 戸田　浩暢　准教授　・・・ 165
10. 前田　美和子　専任講師　・・・ 165

【国際教養学科】　2015 年度　教育研究業績・学会活動　　広島女学院大学

氏　名	著書・学術論文等の名称 （単著・共著／単独・共同　の別）	発表雑誌，発行所 または発表学会	発表年月
橋本　一夫	（学術論文） 1.「Gen Nakamura and Kazuo Hashimoto, On the essential bounded Riesz Φ-variation」（共著）	Revista Matemática Complutense (Springer Verlag, Berlin) に投稿中（査読中）	
	（発表・その他） 1. 「局所可積分関数の変動量について」（共同）	ポテンシャル論セミナー（名城大学理学部数学教室）	2015 年 10 月
John Herbert	（学術論文） 1.Teaching World Englishes in a Global Studies Program.（単著）	In G. Brooks (Ed.). *The 2015 Pan-SIG Conference Proceedings* (pp. XX-XX). Kobe: JALT.	2015 年 (forthcoming)
	（発表・その他） 1. Teaching World Englishes in a Global Studies Program: Some Reflections.（単独）	Tottori JALT Educational Methods Exchange, Tottori University, Tottori Prefecture, Japan.	2015 年 10 月
	2. Teaching World Englishes in a Global Studies Program.　（単独）	2015 JALT Pansig Conference, Kobe, Hyogo Prefecture, Japan.	2015 年 5 月

河内　清志	教材（授業科目基礎英語用） 1.*Minimal Essentials 1*　（校閲） 2.*Minimal Essentials 2*	 広島女学院大学教学課 広島女学院大学教学課	 2015 年度
宮本　陽子	（学術論文） 1.「肝心なことは語らない Ⅰ,『グレート・ギャツビー』」（単著） 2.書評：サドを読む（単著） Onfray, La passion de la mechanceté 2014 Annie Le Brun, Sade Attaquer le soleil, 2014 Michel Delon, Les vies de Sade, 2007 （発表・その他） 1.「反―革命史　　サド主要小説作品解題　自然と歴史への反抗の軌跡」、『ユリイカ』 9 月号「パンフレットを書くサド」百科全書』・啓蒙研究論集第 3 号、「坊っちゃんは笑わない―英・仏訳と比較しながら―」広島女学院大学国語国文学誌　第 42 号、の論評会	 『言語文化論叢』, 広島女学院大学大学院，第 19 号, pp.49-121 立教大学　桑瀬章二郎 18 世紀研究(ホームページ) 中山研究会、早稲田大学	 2016 年 3 月 2016 年 3 月 2015 年 12 月
中田　美喜子	（学術論文） 1.「SNS による大学生のコミュニケーションについて―自己開示度および自己隠蔽度が人間関係に及ぼす影響―」（単著） 2. 「「図書館情報技術論」におけるアクティブラーニング―SNS とグループ学習を利用した学習効果について―」	 『電気通信普及財団研究調査報告書』，2014 年度助成金，Pp1-8 『広島女学院大学国際教養学部紀要』第 3 号、Pp.27-33	 2015 年 5 月 2016 年 3 月

中田　美喜子	（発表・その他） 1.「「博物館情報メディア論」における SNS を利用した講義について」（単独） 2.「IoT 時代におけるスマートフォン・携帯電話の安全な使い方」（単独） 3.「SNS による大学生のコミュニケーションについて―自己隠蔽度および自己開示度が人間関係に及ぼす影響―」、（単独） 4. 教育システム情報学会（JSiSE）学生研究発表会　審査委員、（共同）	大学教育学会第 37 回大会、Pp156-167 2015 年度広島女学院大学公開セミナー 第 71 回中国四国心理学会 2015 年度教育システム情報学会（JSiSE）学生研究発表会	2015 年 6 月 2015 年 10 月 2015 年 11 月 2016 年 2 月
西口　理恵子	（学術論文） 1.「Study of Four Basic Color Terms (Red, White, Blue, Black): A Survey at Hiroshima Jogakuin University」（共著） （発表・その他） 1. 「色彩の情報力」（単独）	『広島女学院大学国際教養学部紀要』，第 3 号，pp.47-54 2015 年度広島女学院大学公開セミナー	2016 年 3 月 2015 年 10 月
佐藤　茂樹	（学術論文） 1.「新古今歌人による『伊勢物語』歌『宇津の山』の享受について」（単著）	『広島女学院大学国際教養学部紀要』，第 3 集，pp.114-106	2016 年 3 月
篠原　收	（著書） 1. 『ベトナム平和学修報告書（2014 年度平和学フィールド・ワーク報告書）』（編著）	広島女学院大学国際教養学部国際教養学科平和学メジャー	2015 年 2 月

篠原　收	（学術論文） 1. 「グローバル人財・グローカル人財の育成に向けた教養教育Ⅱ―平和学メジャー海外フィールド・ワークの授業開発・実践・課題―」（単著）	『広島女学院大学国際教養学部紀要』，第 2 号，pp. 41～45	2015 年 3 月
	（発表・その他） 1. 「女性の貧困・子どもの貧困」講演（単独）	広島市男女共同参画推進員研修（広島市男女共同参画センター）	2015 年 5 月
	2. 「ベトナム平和学修―枯葉剤の被害者との交流―」発表（単独）	第 42 回全国平和教育シンポジュウム（広島女学院大学）	2015 年 9 月
	3. 「IoT 革命がもたらすもの―自動運転技術の実用化に向けて―」講演（単独）	広島女学院大学公開セミナー	2015 年 10 月
	4. 「平和を創りだす人は幸いである― 私たち一人ひとりにできること ―」講演（単独）	キリスト教週間講演会（沖縄キリスト教学院大学・短期大学）	2015 年 10 月
渡邊　ゆかり	（著書） 1.『文章と文体』（共著）	pp.9－33	2015 年 5 月
	（学術論文） 1.「教育政策に揺れる日本語，「学習」vs.「学修」1」（単著）	『広島女学院大学論集』63、広島女学院大学、pp.23－39	2016 年 2 月
	2.「教育政策に揺れる日本語，「学習」vs.「学修」2」（単著）	『広島女学院大学言語文化論叢』19、広島女学院大学大学院言語文化研究科 pp.1－16	2016 年 3 月

柚木　靖史	（学術論文） 1　「朝鮮半島の角筆文献―架蔵『小学』について―」（単著） 2　「上代・中古における動詞を表す『屈』字の意味―中国古典文献の『屈』字の意味と比較して―」（単著） 3.　「北九州市立中央図書館蔵の角筆文献―近世から明治初期にかけての豊前筑前境界域の口頭語の特徴を探る―」（単著）	『広島女学院大学論集』　第 63 集　広島女学院大学総合研究所 pp.1-7 『広島女学院大学大学院　言語文化論叢』第 19 号　広島女学院大学大学院言語文化研究科 pp.138(1)-113(26) 『広島女学院大学国際教養学部紀要』第 3 号　広島女学院大学国際教養学部 pp.31 - 45	2016 年 2 月 2016 年 3 月 2016 年 3 月
足立　直子	（学術論文） 1.「〈救済〉のヴィジョンの探求―『新しい人よ眼ざめよ』におけるブレイク引用―」（単著） （発表・その他） 【学会発表】 1.「作家のイエス像をめぐって――芥川龍之介・太宰治・遠藤周作――」（単独） 2.「三浦綾子と曽野綾子におけるキリスト教―『塩狩峠』と『落葉の声』に描かれた〈犠牲〉をめぐって―」 （共同、コーディネーター・司会） 【講演】 1.「詩を楽しむ～『ポケット詩集』	『キリスト教文藝』第 31 輯, pp.85-102 日本キリスト教文学会中国支部大会（於 ノートルダム清心女子大学） 日本キリスト教文学会関西支部大会（於　関西学院大学）	2015 年 7 月 2015 年 11 月 2016 年 1 月 2016 年 3 月

足立　直子	の朗読と解説～」（単独） 【項目執筆】 1. 庄司達也編『芥川龍之介ハンドブック』 担当項目：「お富の貞操」，「開化の殺人」，「開化の良人」，「雛」（単著）	（公財）広島市文化財団 広島市立中央図書館 鼎書房、p.105, pp.105～106, pp.106～107, pp.148～149	 2015 年 4 月
福田　道宏	（学術論文） 1.「中村大三郎画塾『塾誌』について ―翻刻と解題― 二」（共著） （発表・その他） 1. 「広島に息づく近世の名品 6 加藤信清―死後たちかえっても描きたい、「文字絵」という煩悩―「孔子像」」（単著） 2. 「広島に息づく近世の名品 9 近世の文化財調査 『福山志料』挿絵と法橋片山守規」（単著）	 『広島女学院大学国際教養学部紀要』，第 3 号，pp.134-115 『GRANDE ひろしま』, 第 9 号, pp.4-5 『GRANDE ひろしま』，第 12 号，pp.4-5	 2016 年 3 月 2015 年 6 月 2016 年 3 月
西河内　靖泰	（論文・報告・評論・書評等） 1. 「こんなことでいいのかな～ある図書館関係本への反論と疑問」（単著） 2. 「(ほん・本・Book)子ども NPO 白書 2015」(書評)(単著) （発表・その他） 1. 「学校図書館と公共図書館について」（講話）（単独）	 『桃山学院大学司書課程年報』第 10 号（2014 年度）pp9－15 『みんなの図書館』2016 年 1 月号：通巻 465 号、pp70-71 滋賀県甲良町立図書館協議会定例協議会	 2015 年 3 月 2015 年 12 月 2015 年 3 月

西河内　靖泰	2.「患者当事者の利用に耐えられる健康・医療情報サービス構築への提言：公共図書館を例として」（発表）（共同）	第 32 回医療情報サービス研究大会	2015 年 7 月
	3.「情報の非対称性の解消に向けた公共図書館の医療情報サービスの取り組み」（発表）（共同）	第 56 回日本社会医学会総会	2015 年 7 月
	4.「図書館の自由について、最近の事例をとおして考える～『絶歌』問題を中心として」（講演）（単独）	岡山市立図書館職員研修会	2015 年 10 月
	5.「図書館の自由この 1 年：日本図書館協会図書館の自由委員会から」、（基調報告）（単独）	第 101 回全国図書館大会第 11 分科会	2015 年 10 月
	6.「電子出版時代の言論・表現の自由」、（パネルディスカッション・パネリスト）（共同）	第 2 回日本ペンクラブ・立命館大学文学部共催セミナー	2015 年 11 月
	7.「最近の事例から考える図書館の自由～『絶歌』問題を中心として」（講演）（単独）	平成成 27 年度公立図書館職員等専門講習会	2015 年 11 月
澤村　雅史	（学術論文） 1.「マタイによる福音書における『異邦人』」（単著）	『新約学研究』, 日本新約学会, 7-21 頁。	2015 年 7 月
	（論評） 1. 小河陽著『新約聖書における弟子――その在り方と振る舞い――』（聖書セミナーNo.18）（単著）	『新約学研究』, 日本新約学会, 72-76 頁。	2015 年 7 月
	（発表・その他） 1.「マタイの執筆動機について」（単独）	日本新約学会第 55 回学術大会（於青山学院大学）	2015 年 9 月
田頭　紀和	（論文） 1.「A cytogenetic and molecular	Chromosome	2015 年 10 月

田頭　紀和	cytogenetic comparison among six wild individuals and four cultivars of *Iris ensata* Thunb.」（共同）	Botany Vol. 10, No 4,138-144 国際染色体植物学会	
植西　浩一	（学術論文） 1.「『対話』の概念規定をめぐって」（単著） （発表・その他） 1.「共創的な対話活動と授業改善について」（単独） 2.「きくことと対話の学習指導を考える」（共同・シンポジウム） 3.「共創的な対話を拓く」 4.「聴くことになぜ焦点化するのか」 5.「対話力を培う国語教室」 6.「主体的に課題解決学習をする生徒の育成～思考力・判断力・表現力を育成する『すべ』の指導を通して～」	『国語教育実践理論研究会研究紀要』, 第 23 集, pp. 19－26 世羅町立世羅西中学校校内研修会 国語教育実践理論研究会第 24 回研究大会 世羅町立世羅西中学校校内研修会 授業づくりネットワーク理事長訪問 IN 広島 第 39 回授業のネタ研究会 尾道市立栗原中学校校内研修会	2015 年 5 月 2015 年 5 月 2015 年 8 月 2015 年 10 月 2015 年 10 月 2015 年 12 月 2016 年 2 月
吉田　順子	（発表・その他） 1.「ビジネスデザイン・メジャーにおける地域連携」 2.「PBL 型授業における社会人基礎力の向上について」	日本ビジネス実務学会全国大会 日本ビジネス実務学会中国四国ブロック研究会	2015 年 6 月 2015 年 8 月
伊藤　千尋	（学術論文） 1.「滋賀県高島市朽木における行商利用の変遷と現代的意義」（単著，査読あり）	『地理学評論』, 第 88 巻 5 号，pp. 451-472	2015 年 9 月

伊藤　千尋	2. 「フィールドにおける「ノート」の多機能性（特集：私のフィールドノート）」（単著）	『地理』9 月号, pp42-46.	2015 年 9 月
	（発表・その他） 1. 「変わりゆくアフリカの都市と農村：ザンビア農村社会の変容と人びとの流動性」（単独, 招待講演）	京都大学アフリカ地域研究資料センター・第 212 回アフリカ地域研究会（平成 26 年度京都大学アフリカ研究出版助成記念講演）	2015 年 7 月
	2.「現代アフリカにおける都市－農村関係：ザンビア農村部における生計変容と中小都市との相互作用」（単独, 招待講演）	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「アフリカ文化研究に基づく多元的世界像の構築」2015 年度第 2 回公開セミナー	2015 年 7 月
	3.「南部アフリカ・カリバ湖の商業漁業における漁法の成立とその背景」（単独）	日本地理学会 2016 年春期学術大会	2016 年 3 月
勝井　慧	（学術論文） 1.「ライオンの食卓―Ernest Hemingway の “The Good Lion” における「食」」（単著）	『英米文学』（関西学院大学英米文学会）第 59 巻, pp. 63-78	2015 年 3 月
永野　晴康	（学術論文） 1.「フランスにおける文書保存の人材養成　－国立古文書学校―」	『広島女学院大学国際教養学部紀要第 3 号』pp.19-26	2016 年 3 月

永野　晴康	（発表・その他） 1. 『「時の経過」を踏まえた判断の事例について　諸外国における運用例　③フランス』（単独） 2. 「公文書管理法施行５年後見直しに関する検討報告書（案）」（フランス部分・単独） 3.「平成 27 年度　公文書管理に係る現地調査　概要」（フランス部分・単独）	「内閣府第 47 回公文書管理委員会配布資料」7～10 頁 「内閣府第 50 回公文書管理委員会配布資料 1-2」参考資料 14～16 頁, 36～40 頁 「内閣府第 50 回公文書管理委員会配布資料 1-3」1～9 頁	2015 年 12 月 2016 年 3 月 2016 年 3 月
関谷　弘毅	（発表） 1. 「上海日本人学校高等部における英語表現Ⅰ・Ⅱの実践報告―映画の制作活動を通じて―」（単独） （競争的資金） 1. 「在外教育施設における高校生の特異性の解明とそれに基づく指導法の開発」（研究代表）	第 46 回中国地区英語教育学会・研究発表会 科学研究費補助金・研究活動スタート支援	2015 年 6 月 2015～2016 年度
Ashley Hollenbeck	（学術論文） 1. ‘An Alternative Framework to Determine ‘Resilience’ in the Vu-Gia Thu-Bon Basin in Central Vietnam.’（共著）	Proceedings of the International Conference on Livelihood Development and Sustainable Environmental Management in the Context of Climate Change, Agriculture Publishing	2015 年 11 月

Ashley Hollenbeck		House. Hanoi, 2015. No. 1 pp. 5-14	
	2. 'Localizing Concepts of Globalization: Using Asset-Based Community Development to Promote Multicultural Learning in Central Vietnam.' （共著）	Bulletin of the Faculty of Liberal Arts. Hiroshima Jogakuin University. No.3 pp.1-9	2016 年 3 月
	（発表・その他）		
	1. 'The Impending Water Wars.' Rotary Peace Symposium: Partnering for Peace: Today's Challenges - Tomorrow Success (Conference - Lead Panelist).（共同）	Rotary International. Sao Paulo, Brazil.	2015 年 6 月
	2. International Law Workshop.（共同）	Hiroshima Jogakuin University.	2015 年 7 月
Paul Spicer	（学術論文）		
	1.「Bōsōzoku」（単著）	『*iafor - The Eye*』, 第 7 集, pp.20-22	2015 年夏
	（発表・その他）		
	1. 「Gangsters, Gamblers and Schoolgirl Retribution: Politics, Protest and Society through Norifumi Suzuki's 1973 'Revenge' Trilogy (Spotlight Presentation)」（単独）	Film Asia 2015 – Kobe, Japan	2015 年 11 月
	2. 「And What You Give is What You Get': Discourses of the Spiritual and Religious in the Lyrics of Paul Weller」（単独）	バーミンガム大学 (Centre for Media and Culture),	2016 年 3 月

Paul Spicer		Birmingham, United Kingdom	
Timothy Wilson	（学術論文） 1.The Differences in the Concept of Self and the Use of Apology Between British and Japanese Cultures（単著）	In The Bulletin of Hiroshima Jogakuin University 63; (pp. 75-101), Hiroshima, Japan.	2016 年 2 月
	2. The Use of Apology Strategies in English by Japanese University EFL learners.　（単著）	In, The Bulletin of The Faculty of Liberal Arts 3, (pp. 75-82) Hiroshima Jogakuin University, Japan.	2016 年 3 月
	（発表） 1. The Concept of Self and the use of Apology between British and Japanese Cultures.（単独）	2015 British Association of Applied Linguistics (BAAL) Conference, Aston University, Birmingham, UK.	2015 年 9 月
	2. The Concept of Self and the use of Apology between British and Japanese Cultures.　（単独）	2015 Japanese Association of Language Teachers (JALT) National Conference, Shizuoka, Japan.	2015 年 11 月

【生活デザイン・建築学科】　2015 年度　教育研究業績・学会活動　広島女学院大学

氏　名	著書・学術論文等の名称 （単著・共著／単独・共同　の別）	発表雑誌，発行所 または発表学会	発表年月
細田　みぎわ	（その他_住宅・建築作品） 1.「東日本大震災における復興住宅のあり方―宮城県東松島市災害公営住宅の提案―」（単独設計） 2.まちづくり活動パネル展「東日本大震災の復興住宅のあり方」に出展 （共同展/単独設計） （その他） 1. 日本インテリアプランナー更新講習講師	『広島女学院大学人間生活学部紀要』広島女学院大学人間生活学部, pp125～134 『文化の遺伝子』まちづくり活動パネル展，A1_2 枚 主催：中四国ブロック青年建築士協議会・中四国ブロック女性建築士協議会 会場：広島県尾道市しまなみ交流館 主催：公益財団建築技術教育普及センター	2016 年 3 月 2015 年 6 月 2014 年 5 月
三木　幹子	（学術論文） 1.「女子大生の恋愛と結婚に対する意識調査　―理想の男性像と、男性への許容意識との関係―」（単著） 2.「高校生の家庭科教育に対する意識調査　―女子生徒と男子生徒の比較―」（共著：三木幹子、岡本亜弓（府中緑が丘中学校教諭）） （発表・その他）	『広島女学院大学論集』，第 63 集，pp.103-117 『広島女学院大学人間生活学部紀要』，第 3 号，pp.1-10	2016 年 2 月 2016 年 3 月

三木　幹子	1. 「ＳＫＯＯＬ　ＡＣＴＩＶ！ ～女子高生最高の 7 千 時間を過ごす制服～」（共同：　久保球児（児島株式会社企画部課長），三木幹子）	2015 年度第 6 回公益財団法人ちゅうごく産業創造センター研究会（国立研究開発法人産業技術総合研究所中国センター共催）	2015 年 10 月於；広島ガーデンパレス
小野　育雄	（著書） 1.『建築制作論の研究』（共著） （発表・その他） 1.　建築家 増田友也生誕 100 周年記念建築作品展における展示模型「遺作　鳴門市文化会館 を含む 1/100 の 3 模型　」制作指導	中央公論美術出版 pp.413-429 （建築作品展会場）京都工芸繊維大学美術工芸資料館	2016 年 2 月 （作品展期間）2015 年 10 月－12 月
小林　文香	（学術論文） 1. 住民団体活動により転入した子育て世帯の生活実態と学校･地域からの支援:小学校存続活動を契機とした持続的居住支援システムに関する研究その 2（共著） 2.「住まいづくりにおけるコミュニケーションの問題」（単著） （発表・その他） 1. 「住まいづくりにおけるコミュニケーションの問題」（単独）	日本建築学会計画系論文集，715 号, pp.2033-2042 2015 年度日本建築学会大会（関東）研究協議会資料『専門家と一般市民のコミュニケーション体系の構築』, pp.12-17 2015 年度日本建築学会大会（関東）研究協議会	2015 年 9 月 2015 年 9 月

真木　利江	（発表・その他） 1. 「ナショナル・トラストによる庭園保存活動の変遷」（単独）	2015 年度日本建築学会大会（関東）学術講演会	2015 年 9 月
楢﨑　久美子	（著書） 1.「19　衣服の歴史　2-1 日本古代の服飾」（分担共著）	『衣服の百科事典』, 丸善出版, pp.470-472	2015 年 4 月
	（学術論文） 1.「和服に対する女子大生の意識と実態 - 新学習指導要領との関わり - 」（単著）	『人間生活学部紀要』, 第 3 号, pp.89-95	2016 年 3 月
	（発表・その他） 1.「和服に対する女子大生の意識と実態 - 新学習指導要領との関わり - 」（単独）	第 62 回日本家政学会中国・四国支部大会	2015 年 9 月

【管理栄養学科】　2015 年度　教育研究業績・学会活動　　広島女学院大学

氏　名	著書・学術論文等の名称 （単著・共著／単独・共同　の別）	発表雑誌，発行所 または発表学会	発表年月
石村　和敬	（学術論文） 1.「高尿酸血症予防への食品選択による尿 pH のアルカリ化の影響」（共著） （発表・その他） 1. 「就実大学薬学部生 6 名の解剖実習」（共同）	『広島女学院大学論集』，第 63 集、pp119-128，広島女学院大学 第 70 回日本解剖学会中国四国地方会、松山市	2016 年 2 月 2015 年 10 月
村上　和保	（発表・その他） 1. 「凍結含浸法による調理品の官能面の改善及び調理工程の標準化」（共同）	第 11 回日本給食経営管理学会	2015 年 11 月
坂井　堅太郎	（著書） 1.「エキスパート管理栄養士養成シリーズ　基礎栄養学　第 4 版」（編者） 2.「栄養」（共著） 3.「エネルギー代謝」（共著）	『エキスパート管理栄養士養成シリーズ　基礎栄養学　第 4 版』（株）化学同人，pp.1-210 『エキスパート管理栄養士養成シリーズ　基礎栄養学　第 4 版』（株）化学同人，pp.1-6 『エキスパート管理栄養士養成シリーズ　基礎栄養学　第 4 版』（株）化学同人，pp.163-188	2016 年 3 月 2016 年 3 月 2016 年 3 月

坂井　堅太郎	（学術論文） 1.「小児食物アレルギーデイキャンプ開催への取り組み（第 4 報）食物アレルギー児の保護者の栄養管理に対する認識」（共著） （発表・その他） 1.「Effect of L-Histidine and L-Carnosine on Gene Expression of Histidine Decarboxylase and Allergy Related Cytokines in Mast Cell Line RBL-2H3」（共同） 2.「小児食物アレルギーデイキャンプにおける自己管理能力を形成するための食育について」（共同） 3. 「小児食物アレルギーデイキャンプにおける自己管理能力形成のための食育について」（共同）	『広島女学院大学人間生活学部紀要』第 3 号, pp.19-26 12th Asian Congress of Nutriotion 2015 年日本栄養改善学会（特定非営利活動法人）第 11 回中国支部学術総会 第 16 回食物アレルギー研究会	2016 年 3 月 2015 年 5 月 2015 年 7 月 2016 年 2 月
石長 孝二郎	（学術論文） 1.「がん化学療法中患者における味覚障害の検証」（共著） 2. 「肺がん患者への抗がん剤カルボプラチン投与による味覚変化の検討」（共著） （発表・その他） 1. 国立病院機構中国四国グループ栄養管理室長・副栄養管理室長・主任栄養士マネジメント研修講演「栄養ケアプロセス:栄養診断の活用方法」（単独） 2. 栄養ケアプロセス全国研修会「栄養ケアプロセス：栄養診断の活用方	『医療の広場』, 第 55 巻 第 7 号 pp.22-26 『日本病態栄養学会誌』, Vol.18 No.2 pp.223-234 国立病院機構中国四国グループ 公益社会法人日本栄養士会	2015 年 7 月 2015 年 6 月 2016 年 2 月 2015 年 12 月

石長 孝二郎	法」（単独）		
	3. 生涯教育研修会講演「栄養診断-具体的な記載例」（単独）	公益社会法人 高知県栄養士会	2015 年 9 月
	4. 生涯教育研修会講演「栄養診断-具体的な記載例」（単独）	公益社会法人 福岡県栄養士会	2015 年 8 月
	5. 第 10 回がん化学療法看護セミナー特別講演「抗がん剤治療中の味覚・嗅覚変化-なぜ食事の味が変わるのか?」（単独）	広島県がん化学療法看護研究会	2015 年 8 月
	6. 生涯教育研修会講演「消化と吸収」（単独）	公益社会法人 広島県栄養士会	2015 年 8 月
	7. JA 広島総合病院 膵がん・胆道がん教室 2 周年記念講演会「抗がん剤治療中の食事対策」（単独）	JA 広島総合病院膵がん・胆道がん教室	2015 年 8 月
	8. 生涯教育研修会講演「栄養評価～栄養士が理解できる輸液･酸塩基の考え方～」	公益社会法人 山口県栄養士会	2015 年 8 月
	9. 生涯教育研修会講演「栄養診断-具体的な記載例」（単独）	公益社会法人 広島県栄養士会	2015 年 8 月
	10. 生涯教育研修会講演「栄養診断-具体的な記載例」（単独）	公益社会法人 鳥取県栄養士会	2015 年 7 月
	11. 生涯教育研修会講演「栄養ケアプロセス，栄養診断の演習含む」（単独）	公益社会法人 山口県栄養士会	2015 年 7 月
	12. 学術集会特別講演「栄養ケアプロセス -栄養診断 PES 報告の具多恵的な記載方法と注意点について-」（単独）	第 2 回日本栄養改善学会四国支部学術総会	2015 年 4 月
	13. 生涯教育研修会講演「栄養診断-具体的な記載例」（単独）	公益社会法人 大阪府栄養士会	2015 年 4 月
下岡　里英	（学術論文）		
	1.「高尿酸血症予防への食品選択に夜尿ｐＨのアルカリ化の影響」（共著）	『広島女学院大学論集』，第 63 集，pp.119-128	2016 年 2 月
	（発表・その他）		
	1.「幼児の体力向上をめざした食教育	第 62 回日本栄養	2015 年 9 月

下岡　里英	に関する研究」（共同） 2.「水中競技選手における栄養管理」（共同） 3.「思春期の中長距離陸上選手における栄養管理」（共同）	改善学会 第 27 回スポーツ医学研究会 第 27 回スポーツ医学研究会	 2015 年 2 月 2015 年 2 月
渡部　佳美	（学術論文） 1. 運動部に所属する中学生の食生活課題に対する食に関する指導の効果（共著） （発表・その他） 【学会発表】 1. 凍結含浸法による調理品の官能面の改善及び調理工程の標準化（共同） 2. 安全でおいしい学校給食の提供を目指して（単独） 3. 事例研究からみた広島県の伝承料理（第 8 報）備北山間部（共同） 【報告書】 1. 平成 26 年度『次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理』聞き書き報告（備北山間地域）（共著）	 『広島女学院大学人間生活学部紀要』第 3 号 pp.11-18 日本給食経営管理学会 第 11 回日本給食経営管理学会学術総会 p.37 日本学校保健学会 日本学校保健学会第 62 回学術大会講演集 p.64 日本調理科学会 平成 27 年度大会研究発表要旨集 p.96 日本調理科学会 平成 26 年度『次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理』聞き書き報告書 pp.166-167	2016 年 3 月 2015 年 11 月 2015 年 11 月 2015 年 8 月 2015 年 7 月
市川　知美	（学術論文） 1.「食事がヒトの腸内細菌叢組成と生	『広島女学院大	2016 年 3 月

市川　知美	活習慣病に及ぼす影響」（共著）	学人間生活学部紀要』, 第 3 号, pp.105-109	
	（発表・その他） 1. 「健康な女性への腸内環境に着目した食事指導による排便への影響」（共同）	2015 年日本栄養改善学会 第 11 回中国四国支部学術総会	2015 年 7 月
	2.「母親の食に対する意識や態度が母乳哺育ならびに児の吸啜行動と口腔状態に及ぼす影響」（共同）	第 23 回広島県栄養改善学会	2016 年 2 月
妻木　陽子	（著書） 1.「幼児期の栄養ケア・マネジメント実習」（共著）	『応用栄養学実習ワークブック第 2 版』（株）みらい, pp.105-124	2015 年 4 月
	2.「免疫・アレルギー疾患、皮膚系疾患」（共著）	『栄養科学シリーズ NEXT 新・臨床栄養学』, （株）講談社, pp.258-267	2016 年 1 月
	3.「栄養」（共著）	『エキスパート管理栄養士養成シリーズ　基礎栄養学　第 4 版』（株）化学同人, pp.1-6	2016 年 3 月
	4.「エネルギー代謝」（共著）	『エキスパート管理栄養士養成シリーズ　基礎栄養学　第 4 版』（株）化学同人, pp.163-188	2016 年 3 月
	（学術論文）		

妻木　陽子	1.「小児食物アレルギーデイキャンプ開催への取り組み（第 4 報）食物アレルギー児の保護者の栄養管理に対する認識」（共著） （発表・その他） 1.「Effect of L-Histidine and L-Carnosine on Gene Expression of Histidine Decarboxylase and Allergy Related Cytokines in Mast Cell Line RBL-2H3」（共同） 2.「小児食物アレルギーデイキャンプにおける自己管理能力を形成するための食育について」（共同） 3. 「小児食物アレルギーデイキャンプにおける自己管理能力形成のための食育について」（共同）	『広島女学院大学人間生活学部紀要』第 3 号, pp.19-26 12th Asian Congress of Nutriotion 2015 年日本栄養改善学会（特定非営利活動法人）第 11 回中国支部学術総会 第 16 回食物アレルギー研究会	2016 年 3 月 2015 年 5 月 2015 年 7 月 2016 年 2 月
野村　希代子	（学術論文） 1.「高尿酸血症予防への食品選択による尿 pH のアルカリ化の影響」（共著） （発表・その他） 1. 「主菜、副菜の種類と塩分濃度が汁の塩味の感じ方に及ぼす影響」（共同）	『広島女学院大学論集』, 第 63 集, pp.119-128 第 23 回広島県栄養改善学会	2016 年 2 月 2016 年 2 月
野村　知未	（著書） 1. 『動的粘弾性チャートの解釈事例集』第 7 章食品の動的粘弾性測定とそのデータ解析事例, 野村知未, 杉山寿美（共著） （発表） 1. 「小豆煮熟後の品種による香りの	技術情報協会, pp .287-295 日本調理科学会	2016 年 1 月 2015 年 8 月

野村　知未	違いについて」, 野村知未，古谷規行（共同） 2.「丹波大納言アズキの加工適性評価の検討」, 古谷規行，野村知未，松井元子，大谷貴美子（共同） （民間助成 採択課題） 1. 雑豆の調理後の芳香が料理の嗜好に及ぼす影響，研究代表者：野村知未，研究分担者：古谷規行（共同） 2. 鶏肉フライの加熱・保存過程におけるテクスチャーの決定要因と変化機構の解明，研究代表者：杉山寿美，研究分担者：野村知未（共同）	平成 27 年度大会（静岡），要旨集 p.53 日本調理科学会平成 27 年度大会（静岡），要旨集 p.54 公益財団法人日本豆類協会 公益財団法人伊藤記念財団	 2015 年 8 月 2015 年 4 月～2016 年 3 月 2015 年 4 月～2016 年 3 月

【幼児教育心理学科】2015 年度　教育研究業績・学会活動　広島女学院大学

氏　名	著書・学術論文等の名称 （単著・共著／単独・共同　の別）	発表雑誌，発行所 または発表学会	発表年月
三桝　正典	（著書） 1.「日本の伝統文化と現代アートの融合～ジャパニーズ・モダンの創造～」（単著）	三晃書房	2016 年 2 月
	（学術論文） 1.「大学授業での臨床美術アートプログラム実践の成果」（単著）	『臨床美術ジャーナル』，第 4 号，pp.25-31	2015 年 9 月
	（発表・その他） 1.「個展」	専立寺（吉和）	2015 年 4 月
	2.「個展」	妙正寺（三原）	2015 年 7 月
	3.「個展」	ギャラリーK（三原）	2015 年 8 月
	4.「個展」	ギャラリー白川（京都）	2015 年 10 月
	5.「個展」	ひろしま美術館	2015 年 1 月
	6.「子どもと楽しむ絵本の見方」講演（単独）	みみょう幼稚園	2015 年 7 月
	7.「南区ステップアップ研修会」講師（単独）	仁保保育園 楠那保育園 南区地域福祉センター	2015 年 6 月 2015 年 9 月 2015 年 10 月
中村　勝美	（学術論文） 1.「イギリスにおける市民大学の誕生と学士課程教育の理念」（単著）	『広島女学院大学人間生活学部紀要』，第 3 号，pp.39-47.	2016 年 3 月
	2.「幼児の読書活動支援と保育者養成教育に関する研究―「よるのとしょかん」の実践を中心に―	『広島女学院大学幼児教育心理学科研究紀要』第 2 号、pp.1-8.	2016 年 3 月

中村　勝美	（発表・その他） 1. 「イギリス中等教育における学外試験の成立過程―大学による試験機能拡張の視点から―」（単独） 2. 「イギリスにおける市民大学の誕生と学士課程教育の質保証―1900 年バーミンガム大学成立過程を中心に」（単独）	日本高等教育学会第 18 回大会（早稲田大学）『日本高等教育学会第 18 回大会発表要旨収録』110-111 頁 教育史学会第 59 回大会（宮城教育大学）『教育史学会第 59 回大会発表要綱集録』72-73 頁	2015 年 6 月 2015 年 9 月
鈴木　道子	（発表・その他） 主題『子どもと共に歩むキリスト教保育』～主イエスの姿に倣う保育者の生き方～（研修会講師）	キリスト教保育連盟北海道部会道東地区研修会	2015 年 10 月
山下　京子	（学術論文） 1.「大学における発達障害のある学生の支援体制について」（単著） 2.「発達障害学生の修学支援への基礎心理学的アプローチ」（単著） 3.「発達障害のある大学生への合理的配慮の提供とアクティブ・ラーニング」（単著）	『広島女学院大学論集』第６３集（電子版第３号）pp.129-143. 『広島女学院大学人間生活学部紀要』第 3 号 pp.27-37. 『広島女学院大学幼児教育心理学科研究紀要』第 2 号、pp.1-7.	2016 年 2 月 2016 年 3 月 2016 年 3 月
神野　正喜	（学術論文） 1.「成蹊小学校における『自由研究』の取り組みに関する研究」（単著）	『広島女学院大学人間生活学部紀要』第３号, pp.97-104	2016 年 3 月

神野　正喜	2. 「書く活動を取り入れた読むことの学習指導―書くことによって〈読み〉を深める―」（単著）	『広島女学院大学幼児教育心理学科研究紀要』第２号，pp.17-24	2016 年 3 月
	（雑文） 1. 「『自己学習力を育てる教育課程』編成の頃」（単著）	広島大学附属小学校学校教育研究会『学校教育』第 1183 号，pp.62-63	2016 年 3 月
加藤　美帆	（著書） 1.『幼稚園・保育所・認定こども園への教育・保育実習の手引き』（共著）［第 1 章保育をめぐる社会事情第 1 節保育制度改革と子育て支援を分担執筆］	溪水社	2016 年 2 月
	（学術論文） 1.「実習中のつまずきと実践力を高める効果的な実習指導に関する一考察―保育実習Ⅱの振り返りから―」（単著）	広島女学院大学，『幼児教育心理学科研究紀要』，第 2 号，pp.31-36	2016 年 3 月
	（発表・その他） 1.「大学間連携における保育実習に関する研究 その２―保育実習先・保育所による保育実習に関する要望と現状―」（共同）	第 54 回研究大会，全国保育士養成協議会	2015 年 9 月
森保　尚美	（著書） 1.「すぐに表現するオペレッタ『てぶくろ』の実践―登場する動物になって共通事項を実感する」（単著）	『小学校音楽通信 Spire_M2015 年秋号』，教育出版社，pp.2-7	2015 年 8 月
	2.「すぐに表現するオペレッタ」（単著）	『小学校音楽科教授資料』，教育	2015 年 9 月

森保　尚美		出版社，pp.1-6	
	3.「楽曲の特徴や演奏のよさを感じ取るための対話を取り入れた音楽鑑賞授業の工夫　森保尚美・瀬良みづほ・富樫真紀（共著）	『音楽教育研究報告 29 号』,（財）音楽鑑賞教育振興会，pp.1-76	2015 年 9 月
	（学術論文）		
	1.「表現遊びにおけるイメージの取り扱いに関する一考察」（単著）	『学校音楽教育研究』Vol.20，日本学校音楽教育学会紀要，印刷中	2016 年 3 月
	2.「遊び歌からみた子どもの想像力」（単著）	『広島女学院大学人間生活学部紀要』第 3 号，pp.59-68	2016 年 3 月
	3..「知覚・感受の発達に応じて対話を取り入れた音楽鑑賞授業の包括的検討」（単著）	『広島大学大学院研究科音楽文化教育学修士論文』，pp.1-105	2016 年 3 月
	（発表）		
	1.「小学校音楽鑑賞授業におけるイメージの取り扱いに関する一考察」（単独）	第 20 回日本学校音楽教育実践学会	2015 年 8 月
	2.「指導方法に着目したオノマトペの働き」(単独)	第 46 回日本音楽教育学会	2015 年 10 月
	3.「楽曲の特徴や演奏のよさを感じ取るための対話を取り入れた音楽鑑賞授業の工夫」（単独）	（財）音楽鑑賞教育財団 冬の勉強会 2015	2015 年 12 月
	4.「知覚・感受の発達に応じて対話を取り入れた音楽鑑賞授業の包括的検討」（単独）	広島大学大学院研究科音楽文化教育学修士論文発表会	2016 年 2 月
	（地域貢献）		

森保　尚美	1.　第 46 回中国四国音楽教育研究大会公開授業研究校（広島市立中筋小学校）指導講話 2.　広島大学教育学研究科「平成 27 年春季教育実践特別講座」講話 3.　広島ストリングプレイヤーズ第 9 回定期演奏会出演（Vla） 4. 広島市立中筋小学校校内研究会講話「低学年における音楽科授業の基礎知識」 5. 鳥取県小学校音楽部夏季研修会講話・演習「鑑賞の授業でできること」 6. 東広島市学校教育研究会小学校音楽部会講話「心に響く音楽活動の実践」 7.広島市小学校教育研究会音楽部会夏季研修会講話 「音楽の要素を感じ取って価値を共有する授業づくり」		2015 年 5 月 2015 年 5 月 2015 年 5 月 2015 年 7 月 2015 年 8 月 2015 年 8 月 2015 年 8 月
田中　沙織	（学術論文） 1. 「初歩的運動の段階における幼児の身体活動について」（単著） 2. 「４・５歳児の身体活動と運動能力差との関連」（単著） 3.「キリスト教主義大学に在籍する学生のキリスト教保育に対する意識調査」（単著） （発表・その他） 1. 「幼児の身体活動量に影響を及ぼす要因に関する研究」（単独） 2. 「幼児期における保育中の身体活動の現状と課題」（単独）	 『広島女学院大学論集』，第 63 集，pp. 145-155 『人間生活学部紀要』，第 3 号，pp. 69-75 『幼児教育心理学科研究紀要』，第 2 号，pp.37-44 第 68 回保育学会 第 66 回日本体育学会	 2016 年 2 月 2016 年 3 月 2016 年 3 月 2015 年 5 月 2015 年 8 月

田中　沙織	3.「身体活動を中心に見た幼児期の生活･運動と保育現場における今後の課題」（単独）	第 64 回九州体育・スポーツ学会	2015 年 9 月
戸田　浩暢	（著書） 1.「板書構成は授業の流れを反映させる？授業の構造を反映させる？」（単著） （学術論文） 1.「小学校教育実習における生徒指導の実際」（単著） 2.「大学生が振り返る中学校時代のキャリア教育」（単著） 3.「介護等体験の在り方について」（単著）	 『新社会科授業づくりハンドブック』, 明治図書, p.196 『広島女学院大学論集』, 第 63 集, pp.157-170 『広島女学院大学人間生活学部紀要』, 第 3 号, pp.49-57 『広島女学院大学幼児教育心理学科研究紀要』, 第 2 号, pp.25-30	 2015 年 10 月 2016 年 2 月 2016 年 3 月 2016 年 3 月
前田　美和子	（学術論文） 1.「キリスト教保育養成校における課題と展望についての一考察」（単著） 2.「キリスト教主義大学に在籍する学生のキリスト教保育に対する意識調査」（共著） （発表・その他） 1. 「キリスト教主義学校におけるスピリチュアルケアについての一考察」（単独） 2.「教育現場におけるスピリチュアルペインの課題と展望」（単独）	 『広島女学院大学人間生活学部紀要』, 第 3 号, pp.77 - 88 『広島女学院大学幼児教育心理学科研究紀要』, 第 2 号, pp.37-44 第 27 回キリスト教教育学会 第 4 回関西パストラスケア研究会	 2016 年 3 月 2016 年 3 月 2015 年 7 月 2015 年 8 月